

もりまち
森町

もり かわ
森川 3 遺跡

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—

平成 17 年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



森川 3 遺跡周辺 (平成16年度撮影)



基本土層



畑跡検出



畑跡完掘



畑跡断面 (V-29区)



畑跡断面 (S-34区)



畑跡断面 (U-29区)



畑跡面の炭化物 (S-47区)



耕作具痕が顕著な畝間 (火山灰が入っている明るい色のところ)



耕作具痕 (S-36区)



耕作具痕 (U-32区)



交叉する畝 (S-28区)



太い畝間と交叉する畝 (Q~V 43~48区)

口絵 6



H-1



H-2



H-3



H-4



H-5



P-1



P-2



P-9



P-10

口絵 8



P-12



P-13



P-16



P-17



P-19



P-20



P-24



P-25



P-26



P-30



P-31



P-36



P-37



P-38



P-40



P-42

口絵10



SP-1



SP-2 (左)、3



SP-9



F-1



F-4



F-6



F-7



S-1

例 言

1. 本書は北海道縦貫自動車道(七飯～長万部)建設工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成14・15年度に実施した森町森川3遺跡の調査報告書である。
2. 本書の編集は、第2調査部第3調査課が行った。執筆は、熊谷仁志、谷島由貴、中山昭大、袖岡淳子が担当し、各項目の文末に括弧で文責を示した。
3. 遺構については、現地調査においては調査員各自が実測、素図作成、事実記載を行った。
4. 遺物については土器を袖岡、石器・鉄製品を谷島が担当した。
5. 調査写真および室内撮影は、中山昭大が担当した。
6. 遺物・記録類は整理及び報告書作成後、森町教育委員会が保管する。
7. 調査に当たっては下記の諸機関、各氏から御指導、協力をいただいた。

北海道教育庁文化課、森町教育委員会、八雲町教育委員会、長万部町教育委員会、森町教育委員会：藤田 登・荻野幸男・横山英介・佐藤 稔・原 靖寿・八重樫 誠・山田あや子・渡辺明美、森町：田中 淳、八雲町郷土資料館：三浦孝一・柴田信一、八雲町教育委員会：吉田 力、札幌国際大学：椿坂恭代、北海道北方博物館交流協会：野村 崇、北海道開拓記念館：平川善祥・山田悟郎・右代啓視、七飯町教育委員会：山田 央、函館市教育委員会：長谷部一弘・田原良信・阿部千春・福田祐二・野村祐一・小林 賢、函館市立博物館：中村公宣、函館市立博物館五稜郭分館：佐藤智雄、特定非営利活動法人函館市文化財事業団：輪島慎二・坪井睦美、上ノ国町教育委員会：松崎水徳・斎藤邦典、今金町教育委員会：寺崎康史、上磯町教育委員会：森 靖裕・野辺地初雄・三上英則・大谷内愛史・安西雅希、木古内町教育委員会：木本 豊・知内町教育委員会：高橋豊彦、松前町教育委員会：久保 泰・前田正憲、乙部町教育委員会：森 広樹、厚沢部町教育委員会：石井淳平、虻田町教育委員会：角田隆志、伊達市教育委員会：大島直行・青野友哉、千歳市埋蔵文化財調査センター：大谷敏三・田村俊之、豊田宏良・松田淳子、千歳サケのふるさと館：高橋 理、恵庭市教育委員会：上屋真一・松谷純一・森 秀之、札幌市教育委員会：上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・秋山洋司・石井 淳、石狩市教育委員会：石橋孝夫・工藤義衛、平取町教育委員会：森岡健治・長田佳宏、苫小牧市博物館：赤石慎三、富良野市教育委員会：杉浦重信、澤田 健、釧路市埋蔵文化財調査センター：石川 朗、青森県埋蔵文化財センター：成田滋彦・平山明寿、青森県教育委員会：神 康夫、青森市教育委員会：遠藤正夫・児玉大成・木村淳一・小野貴之、八戸市教育委員会：村木 淳・小保内裕之、野辺地町教育委員会：瀬川 滋・田中寿明、東北町教育委員会：古屋敷剛雄、天間林村教育委員会：上野 司、階上町教育委員会：森 淳、岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター：赤石 登・杉山昭太郎・高木 晃・本多準一郎・丸山浩治・丸山直美、岩手県一戸町教育委員会：高田和徳、群馬県立歴史博物館：能登 健・伊藤 良・松村和男・古澤勝幸、群馬県埋蔵文化財調査事業団：右島和男・小島敦子・杉山秀宏

記号等の説明

1. 本文中および図、表中では以下の記号を用い、原則として確認順に番号を付した。

H：竪穴状遺構 P：土坑 SP：小土坑 F：焼土 S：集石

2. 掲載した実測図等の縮尺は原則として以下のとおりである。

遺構	1：40	遺物出土状況	1：20
復原土器	1：3	土器拓影	1：3
剥片石器	1：2	礫石器	1：3
石斧	1：2	石皿・台石	1：4
鉄製品	1：2		

細跡についてはそれぞれ貼付のスケールを参照のこと。

3. 挿図中の遺物のシンボルマークは以下のとおりである。

	覆土出土 床面・坑底出土			覆土出土 床面・坑底出土	
土器	○	●	剥片	△	▲
剥片石器	◇	◆	礫	▽	▼
礫石器	□	■	土・石製品	☆	★

4. 遺構図中の方位は真北を指し、細数字は標高(単位m)を表している。原則としてグリッドの基準線Mラインを横方向とし、図の上方がグリッドライン(A・B・C…)の若いものとしている。文中で方向を示す場合は、図の右側、北西方向を「八雲」側とし、図の左側、南東方向を「函館」側としている。また、図の上側、南西方向を「山」側、図の下側、北東方向を「海」側と称している。

5. 遺構の規模については以下の要領で示した。一部破壊されているものは現存の長さを()で示した。深さは最も高い部分と最も低い部分で計測している。

確認面の長軸/下場の長軸×確認面の短軸/下場の短軸×最大の深さ(単位m)

6. 土層の標記は、基本土層についてはローマ数字、遺構の覆土についてはアラビア数字で表した。土層説明には「新版標準土色帖1997年版」と「土壌調査ハンドブック 改訂版」(1997 日本ペドロギー学会編 博友社)を参考に、土色、土性(砂土、砂壤土、壤土、シルト質壤土、埴壤土、埴土の6種)、粘性性(なし、弱、中、強の4種)、堅密度(すこぶるしょう、しょう、軟、堅、すこぶる堅、固結の6種)、及び、層界の区分、礫の混入%(礫の大きさ、形状、風化の度合い)、その他に分けた。

7. 石器・土製品・石製品の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」で記している。

剥片石器、礫石器は機能部にこだわらず、長軸を長さ、短軸を幅、厚さは最大値を採用した。破損しているものについては、その値を()で括ってある。

目 次

口絵	
例言	
記号等の説明	
目次	
挿図目次・表目次・図版目次	
I 調査の概要	1
1 調査要項	1
2 調査体制	1
3 調査に至る経緯	1
4 調査概要	4
(1) 調査区の設定	4
(2) 基本土層	5
(3) 調査の方法	8
(4) 整理の方法	9
(5) 遺物の分類	10
(6) 調査結果の概要	12
II 遺跡の位置と環境	15
III 遺構と遺構出土の遺物	19
概要	19
竪穴状遺構	19
土坑	29
小土坑	66
焼土	72
集石	80
畑跡	80
IV 包含層の出土遺物	91
1 土器等	91
2 石器	122
一覧表	
V 自然科学的手法による分析	167
1 放射性炭素年代測定	167
2 畑遺構の土壌理化学性	171
VI まとめ	177
1 畑跡について	177
2 石器	184
引用・参考文献	
写真図版	193
報告書抄録	

挿図目次

図I-1	遺跡の位置	2	SP-8	69	
図I-2	遺跡の周辺の地形	2	図III-38	SP-9	70
図I-3	調査区の設定	3	図III-39	SP-10・11・SP-12・SP-13・SP-14・SP-15	73
図I-4	基本層序とU29区土層断面	6	図III-40	F-1・F-2・F-3	74
図I-5	年度別調査範囲	7	図III-41	F-4	75
図I-6	発掘調査の方法別範囲	8	図III-42	F-5・F-6(1)	76
図I-7	遺構位置と最終面地形	13	図III-43	F-6(2)・F-7	78
図II-1	東西観夷山川取調図四 松浦竹四郎著	18	図III-44	S-1	79
図III-1	遺構位置	19	図III-45	烟跡	82
図III-2	H-1(1)	20	図III-46	烟跡土層断面(1)	83
図III-3	H-1(2)	21	図III-47	烟跡土層断面(2)	84
図III-4	H-1(3)	22	図III-48	S-35~37区・U・V-45~47区烟跡	85
図III-5	H-2(1)	24	図III-49	烟跡確認面の土壌(1)	86
図III-6	H-2(2)	25	図III-50	烟跡確認面の土壌(2)	87
図III-7	H-2(3)	26	図IV-1	包含層出土の土器(1)	94
図III-8	H-3(1)	27	図IV-2	包含層出土の土器(2)	95
図III-9	H-3(2)	28	図IV-3	包含層出土の土器(3)	96
図III-10	H-4(1)	30	図IV-4	包含層出土の土器(4)	97
図III-11	H-4(2)	31	図IV-5	包含層出土の土器(5)	98
図III-12	H-4(3)・H-5	32	図IV-6	包含層出土の土器(6)	99
図III-13	P-1	43	図IV-7	包含層出土の土器(7)	100
図III-14	P-2・P-3(1)	44	図IV-8	包含層出土の土器(8)	101
図III-15	P-3(2)・P-4	45	図IV-9	包含層出土の土器(9)	102
図III-16	P-5・P-6・P-7・P-8	46	図IV-10	包含層出土の土器00	103
図III-17	P-9	47	図IV-11	包含層出土の土器01	104
図III-18	P-10・P-11・P-12(1)	48	図IV-12	包含層出土の土器02	105
図III-19	P-12(2)	49	図IV-13	包含層出土の土器03	106
図III-20	P-13(1)	50	図IV-14	包含層出土の土器04	107
図III-21	P-13(2)	51	図IV-15	包含層出土の土器05	108
図III-22	P-13(3)	52	図IV-16	包含層出土の土器06	109
図III-23	P-14・P-15	53	図IV-17	包含層出土の土器07	110
図III-24	P-16・P-17	54	図IV-18	包含層出土の土器08	111
図III-25	P-18・19・20・21・22・33(1)	55	図IV-19	包含層出土の土器09	112
図III-26	P-19・20・21(2)	56	図IV-20	包含層出土の土器09	113
図III-27	P-23	57	図IV-21	包含層出土の土器09	114
図III-28	P-24・P-25	58	図IV-22	包含層出土の土器09	115
図III-29	P-26	59	図IV-23	包含層出土の土器09	116
図III-30	P-27・28・29・31・32・36(1)	60	図IV-24	包含層出土の土器09	117
図III-31	P-30・P-31・32・36(2)	61	図IV-25	包含層出土の土器09	118
図III-32	P-34・35・37	62	図IV-26	包含層出土の土製品	119
図III-33	P-38・P-39	63	図IV-27	包含層出土土器の分布(1)	120
図III-34	P-40	64	図IV-28	包含層出土土器の分布(2)	121
図III-35	P-41	67	図IV-29	包含層出土の石器(1)	126
図III-36	P-42・SP-1・SP-16	68	図IV-30	包含層出土の石器(2)	127
図III-37	SP-2・3・4・5・SP-6・7・				

図Ⅳ-31 包含層出土の石器(3)	128	図Ⅳ-44 包含層出土の石器00	141
図Ⅳ-32 包含層出土の石器(4)	129	図Ⅳ-45 包含層出土の石器01	142
図Ⅳ-33 包含層出土の石器(5)	130	図Ⅳ-46 包含層出土石器の分布(1)	143
図Ⅳ-34 包含層出土の石器(6)	131	図Ⅳ-47 包含層出土石器の分布(2)	144
図Ⅳ-35 包含層出土の石器(7)	132	図Ⅳ-48 包含層出土石器の分布(3)	145
図Ⅳ-36 包含層出土の石器(8)	133	図Ⅳ-49 包含層出土石器の分布(4)	146
図Ⅳ-37 包含層出土の石器(9)	134	図Ⅴ-1 炭化物サンプル採取位置	170
図Ⅳ-38 包含層出土の石器00	135	図Ⅵ-1 烟跡の規模(1)	180
図Ⅳ-39 包含層出土の石器01	136	図Ⅵ-2 烟跡の規模(2)	181
図Ⅳ-40 包含層出土の石器02	137	図Ⅵ-3 周辺の地形と烟跡	182
図Ⅳ-41 包含層出土の石器03	138	図Ⅵ-4 断面三角形のすり石	185
図Ⅳ-42 包含層出土の石器04	139	図Ⅵ-5 森川3遺跡出土の北海道式石冠	190
図Ⅳ-43 包含層出土の石器05	140		

表 目 次

表Ⅰ-1 遺構出土遺物	14	表4 遺構出土遺物一覧	152
表Ⅰ-2 包含層出土遺物	14	表5 包含層掲載復元土器一覧	154
表1 遺構規模一覧	147	表6 包含層掲載拓本土器一覧	160
表2 遺構掲載土器一覧	148	表7 包含層掲載石器一覧	163
表3 遺構掲載遺物一覧 (石器・鉄製品)	151		

図 版 目 次

口絵1 森川3遺跡周辺(平成16年度撮影) ・基本土層	図版5 H-3
口絵2 烟跡検出	図版6 H-4 セクション・完掘
口絵3 烟跡完掘	図版7 H-5 セクション・完掘
口絵4 烟跡断面・烟跡面の炭化物 ・耕作具痕が顕著な畝間	図版8 P-1・P-2・P-3・P-4
口絵5 耕作具痕・交叉する畝・太い畝間と交叉する畝	図版9 P-4・P-5・P-6・P-7
口絵6 H-1・H-2・H-3	図版10 P-7・P-8・P-9
口絵7 H-4・H-5・P-1・P-2・P-9・P-10	図版11 P-10・P-11・P-12
口絵8 P-12・P-13・P-16・P-17・P-19・P-20・P-24・P-25	図版12 P-13・P-14・P-15
口絵9 P-26・P-30・P-31・P-36・P-37・P-38・P-40・P-42	図版13 P-16・P-17・P-18・P-19
口絵10 SP-1・SP-2・3・SP-9・F-1・F-4・F-6・F-7・S-1	図版14 P-19・P-20・P-21・P-22・P-23
中原 烟跡調査状況	図版15 P-23・P-24・P-25・P-26
図版1 III層面	図版16 P-27・P-28・P-29・P-30
図版2 H-1 セクション・HP-1 断面・トレンチ	図版17 P-30・P-31・P-32・P-33
図版3 H-1 完掘・H-2 セクション	図版18 P-34・P-35・P-36・P-37
図版4 H-2 遺物出土状況・H-3 セクション	図版19 P-37・P-38・P-39・P-40
	図版20 P-41・P-42・烟跡
	図版21 SP-2~5・SP-6、7・SP-8・SP-10・SP-11・SP-12
	図版22 SP-13・SP-14・SP-15・SP-16・F-4・遺物出土状況
	図版23 V層遺物・斜面V層遺物・最終面
	図版24 最終面・平成15年度 烟跡範囲確認調査

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査

委託者：日本道路公団 北海道支社

受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名：森川3遺跡（北海道教育委員会登録番号 B-15-26）

所在地：茅部郡森町字森川町317-18ほか

受託期間：平成14年4月2日～平成15年3月31日

：平成15年4月1日～平成16年3月31日

：平成16年4月1日～平成17年3月31日

調査面積 平成14年度 2,200m²

平成15年度 60m²

整理期間：平成14年11月4日～平成15年3月31日（一次整理）

平成16年4月1日～平成17年3月31日（二次整理）

2 調査体制

平成14年度

理事長 大澤 満（6月30日退任）	第3調査課課長 熊谷 仁志
理事長 森重 橋一（7月1日就任）	主査 谷島 由貴（発掘担当者）
総務部長 下村 一久	主任 中山 昭大（発掘担当者）
第2調査部部長 西田 茂	主任 袖岡 淳子（発掘担当者）
	文化財保護主事 大森司 統

平成15年度

理事長 森重 橋一	第2調査課課長 種市 幸生（発掘担当者）
総務部長 下村 一久	主査 谷島 由貴（発掘担当者）
第1調査部部長 畑 宏明	

3 調査に至る経緯

北海道縦貫自動車道は七飯町を基点に室蘭・札幌市を經由し名寄市へ至る総延長488kmの自動車専用道路である。道南における建設計画は昭和47年に基本計画決定、平成元年に七飯町～長万部間の整備計画決定、平成5年に七飯町～長万部間の工事施工命令が出された。

このうち七飯～長万部間の路線内の埋蔵文化財について、日本道路公団札幌建設局（当時）から北海道教育委員会（以下、道教委と略）に事前協議がなされた。事前協議を受けた道教委は平成2年4月から所在確認調査を実施している。

北海道縦貫自動車道にかかわる森町内の埋蔵文化財発掘調査は平成13年度から始まり、日本道路公

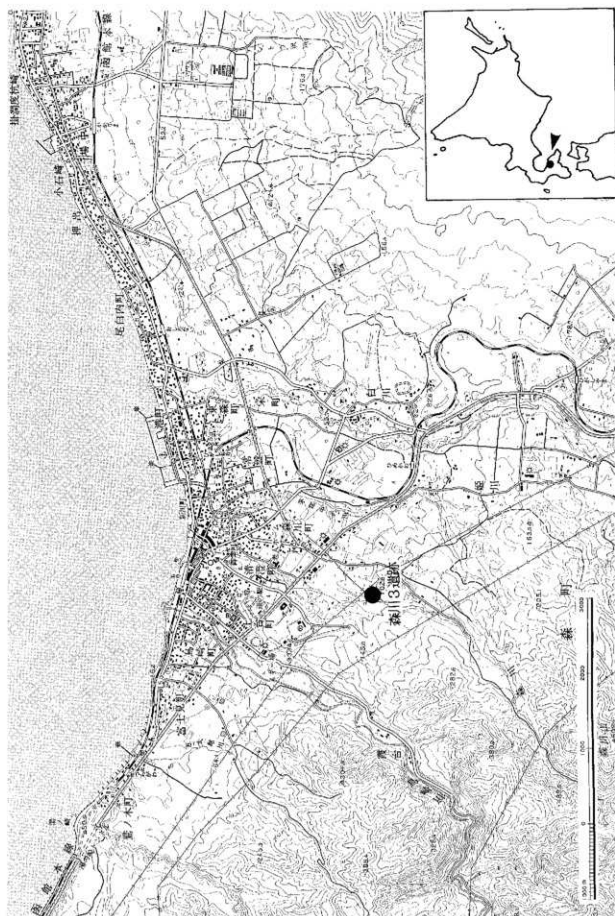


図1-1 遺跡の位置

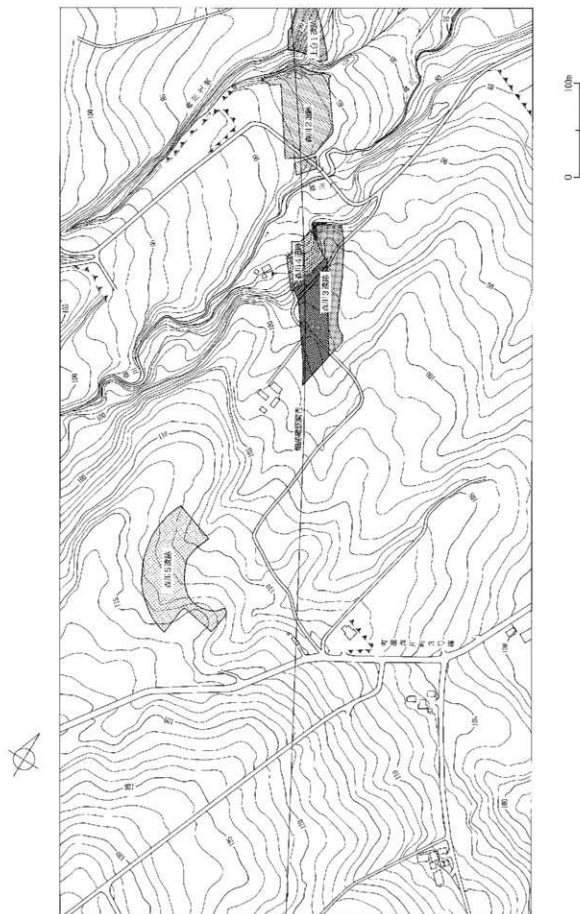


図 1-2 遺跡の周辺の地形

团北海道支社（以下、道路公団と略）から当センターと森町が各々受託している。

森川3遺跡は道教委により平成2年4月に所在確認調査が行われ、新たに発見された遺跡である。平成7年11月、平成9年4月、平成13年11月と3回の範囲確認調査が行われ、発掘調査が必要とされた。平成14年8月・10月には隣接するインターチェンジ部分の範囲確認調査を実施し、遺跡が広がることが確認された。平成16年12月に一部、森川5遺跡と命名され分離されている。

範囲確認調査の結果から道路公団と道教委の協議が行われ、工事計画の変更が不可能なため発掘調査を行うことになった。

平成14年度当初計画では、森川3遺跡の北側約200mに位置する上台1遺跡を行う計画であった。しかし、上台1遺跡の調査を実施するにあたり進入路・工事用道路の確保、排土捨て場確保等について環境整備が整わないため、急遽、道教委の指導で道路公団・森町教育委員会・当センター三者の調整が行われた。その結果、上台1遺跡の調査を先送りし、森町教育委員会が調査を予定していた森川3遺跡を当センターが調査することとし、調査面積は上台1遺跡の調査見合い分である2,200㎡を調査することとなった。

調査は、平成14年7月に開始し、10月24日に終了した。しかし、調査は予想されていなかった近世の畑跡が検出され、現地作業優先として作業を実施したため、現地での一次整理を実施することができなかった。このため、予定していた11月からの二次整理を分類・台帳作成・注記の一次整理に変更して実施し、二次整理については次年度以降に先送りすることとなった。

検出された畑跡については、次年度の調査方法・調査対象範囲外に広がる事が確認されていることからその取り扱いについて、道教委と当センターは協議を実施した。畑の調査方法については、調査範囲の限定、写真・測量等の外注を多用し調査の効率化を図ること、畑跡が調査対象範囲外に拡大することについては平成15年度に範囲確認のためのトレンチ調査を実施する等が打ち合わされた。

平成15年度の森川3遺跡は当初計画では4,277㎡調査予定であった。しかし、同年5月に実施された道教委による上台1遺跡の範囲確認調査の結果、同遺跡の大幅な面積増が必要と判断された。橋脚工事・工事用道路の確保・排土置き場等の工事工程から上台1遺跡・上台2遺跡・森川2遺跡・森川4遺跡の調査が優先された。森川3遺跡については大幅な調査計画の変更がなされ、橋脚工事の関連で調査を急ぐ森川4遺跡に隣接する斜面部分とそれに続く平坦面の60㎡を調査した。

平成14年度の調査で検出された畑跡の広がり予想される当遺跡南側の工事予定地内を道教委の指導により畑跡範囲確認のための試掘調査が行われている。

平成16年度は、平成14年度調査地の西側の隣接した2,780㎡を行い、現地での調査を終了した。

平成14・15年度の二次整理を実施し、平成17年度に報告書を刊行した。

なお、平成16年度の発掘調査分については平成17年度以降に一次整理及び二次整理を実施し報告書刊行予定である。

4 調査概要

(1) 調査区の設定

調査区の設定にあたって、北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）森川地区道路詳細設計（日本道路公団北海道支社函館工事事務所）縮尺1000分の1を使用した。調査に用いるグリッド設定杭の測量及び杭の打設は以下のように行った。

2級基準点から3級基準点を設置した上で道路公団森川地区道路詳細設計のSTA341+00と

STA342+00を基準とした。工事予定中央線上の中心杭測量成果から、STA341+00とSTA342+00を結び、これを延長して基準のMライン(図I-3)とした。Mラインから平行に南西へ向かって4m毎にL、K……とアルファベットを廻り、同様にMラインの北東へN、O……とした。STA341+00を基準としMラインと直行する線を0ラインとし4m毎に南西へ向かって-1、-2……減じ、北東へ1、2……と増え、それぞれ交差する地点に杭を打設した。調査区はこの4m方眼を基本とし、その南側の交点のアルファベットと数字の組み合わせで呼称される。例として図I-3左の方眼図中のT15区を表示した。

Mラインは真北に対し $N-30^{\circ}36'-E$ である。

基準杭の座標は平面直角座標系第X系、緯度・経度は以下のとおりである。

STA341+00 (調査区杭番号 M-0)

日本測地系 (旧座標) $X = -212,992.559$ $Y = 26,870.290$

世界測地系 (測地成果2000) $X = -212,736.076$ $Y = 26,576.902$

北緯 $42^{\circ} 05' 03.9549$ 東経 $140^{\circ} 34' 16.4544$

STA342+00 (調査区杭番号 M-25)

日本測地系 (旧座標) $X = -212,906.493$ $Y = 26,819.378$

世界測地系 (測地成果2000) $X = -212,650.009$ $Y = 26,525.990$

北緯 $42^{\circ} 05' 06.7508$ 東経 $140^{\circ} 34' 14.2531$

水準測量は3級基準点を仮BMに用いて、各測量に使用した。

3級基準点仮BM H=99.904

(谷島)

(2) 基本土層

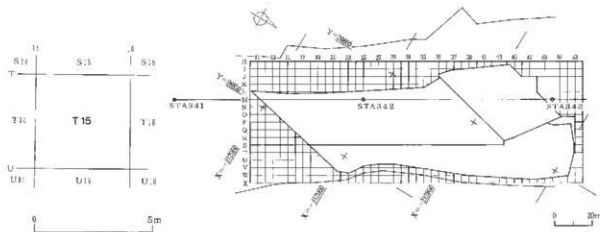
基本土層は以下のとおりである。基本土層の柱状図とU29区土層断面を図I-4に示した。U29区はⅢ層～Ⅴ層上位に烟跡のみられる部分である。烟跡の土層はⅢ章烟跡で土層断面を別に示している(図Ⅲ-46・47)。

I層：表土。層厚0.2m。

Ⅱ層：にぶい黄橙色火山礫。駒ヶ岳火山灰d層(Ko-d)、層厚約1.8mの良く発泡した火山礫。1640年の駒ヶ岳起源の降下火山灰である。

Ⅲ層：黒褐色土。層厚2～5cmの粘質土。

Ⅳ層：褐色シルト。白頭山苫小牧火山灰(B-Tm)。層厚1～3cmの細粒。約1,000年前の朝鮮半



図I-3 調査区の設定

島北部白頭山起源の降下火山灰。

V層：黒色土。層厚0.4～0.5mの腐植土。黒色土に下位のバミスが混じる。バミスの分量により部分的に上下に分層している。これらは、V上層はバミスが少なく、V下層はバミスが多い。さらに、部分的に下位のVI層と漸移的に混合しているところをV'層としている。

VI層：暗褐色砂。駒ヶ岳火山灰g層(Ko-g)。層厚0.25～0.3mの粗粒。約6,000年前の駒ヶ岳起源の降下火山灰で砂粒状である。

VII層：暗褐色土。漸移層。層厚3～5cmの粘土。

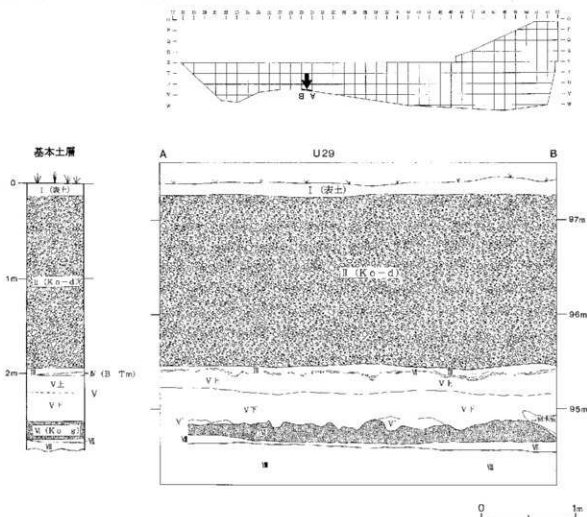
VIII層：褐～ぶい黄褐色ローム。層厚0.3～0.5mの粘土。

IX層：ぶい黄褐色～明黄褐色、層厚2m以上の粗粒。約12,000年前の濁川カルデラ(Ng)起源の火砕流堆積物で上部に細礫が多い。

遺物の包含層はIII・IV・V層・VII層である。III・IV層は耕作による攪乱で遺物が出土している。

III層は先述したようにIV層のB-Tm降下(10世紀初頭)以後に堆積した層である。近世の畑跡の耕作がIII層中からV層上部まで及んでいる。畑跡は調査途中で確認・認知されたため調査面積の半分ほどで確認されているが、ほぼ全面にあったものと考えられる。III層中からは鉄製品が出土している。

IV層は無遺物層であるが層自体が薄い。V層上部は縄文時代後期恵山式のみとみられ、同期の焼土が検出されている。下位は縄文時代後期から前期後半の遺構・遺物が出土・出土している。V層下位に含まれるバミスは風成によるものと思われる。



図I-4 基本層序とU29区土層断面

Ⅶ層は周辺の遺跡では早期の包含層と考えられている。25%調査・包含層調査の結果、遺構・遺物が出土しなかったため一部重機による遺構確認調査に変更して調査を実施している。

Ⅸ層の濁川カルデラ起源のテフラ (Ng) を総称して「石倉層」と呼称されている。本遺跡では下底まで確かめることが出来ず層厚は不明である。

発掘調査の最終面はⅦ層の上面または上位である。

なお、近世の畑跡の耕作によりⅤ層の上部が掘り起こされ上がってしまったもの、Ⅴ層中でも風倒木などにより遺物が本来の層位より上位で出土しているようである。(谷島)

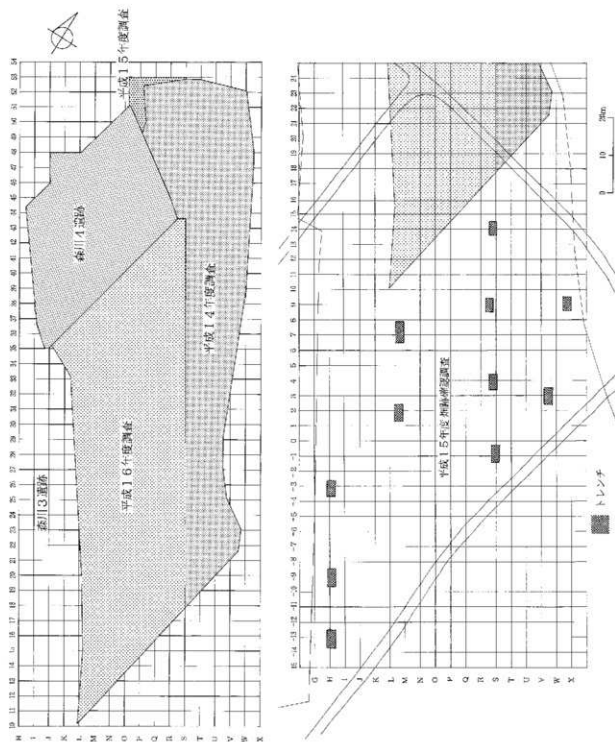


図1-5 年度別調査範囲

(3) 調査の方法

平成14年度の調査

平成14年度の調査は表土とII層(Ko-d)を重機で除去した後、包含層の調査を実施した。II層の駒ヶ岳火山灰d層(Ko-d)は層厚約1.8mあり西暦1640年以前の地表を覆っていた。

III層上面の地形測量後、25%調査を人力で行い遺構・遺物の分布状況の把握に努めた。III・IV・V層については移植ゴテを使用した。VI・VII層についてはスコップ、ジョレン、移植ゴテを併用し、遺構・遺物確認の調査を行った。

その結果、V層の遺構は森川側に多く、函館側に少ないことが判明した。遺物は調査区中央部のV層上部に恵山式や同期の焼土等が分布、V層下位では遺構の分布と同様に遺物が森川側に多く出土する傾向が認められた。

調査は、遺構・遺物が多い森川側の道路の切り替え部分とV層上部の恵山式土器の範囲を確定するため調査区中央部のV層上部の調査を先行して実施した。

S37区のV層上位を調査中に約1mの間を開け並行するB-Tm混じりの溝を検出した。溝跡は八雲町教育委員会が前年度に調査を実施した栄浜2遺跡・栄浜3遺跡で検出され畑跡に類似し、同遺跡の調査担当者の横山英介氏に現地で見聞していただき、「畑跡」であるとの確認を得た。それ以後、III層～V層上位が残っている所について畑跡の検出のための積査を実施した。その結果、畑跡は、ほぼ全面に広がることを確認し、25%調査を終えた部分でも土層断面に畑跡が認められた。調査区全面で

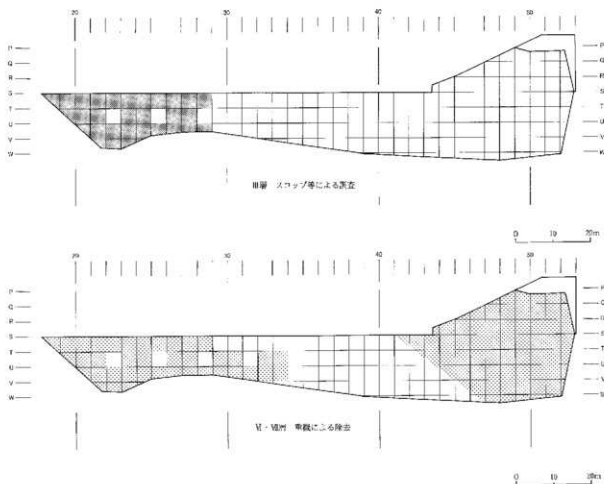


図1-6 発掘調査の方法別範囲

畑跡を検出した後、畑跡の平面・土層断面を実測、耕作痕を完掘した。また、北海道開拓記念館の山田哲郎氏にも実見していただき、併せて花粉分析を依頼したが、明瞭な栽培植物は検出されなかった。

調査は予想していなかった畑跡の検出のため、25%調査の結果を元に調査方法の一部変更によって対応した。遺構・遺物の分布が薄いと判断できる函館側の29ラインより南側のV層はスコップ、ジョレンを使用した調査に、34ラインより南側とS41区とW47区を結ぶ線より北側は、VI・VII層で遺物が出土していないことから重機による遺構確認調査に切り替えた(図I-6)。

一次整理についても一部の遺物について水洗まで止め、分類・台帳作成・注記等の作業は先送りとし、現地調査を優先して行った。

V層の調査は、森川側の道路の切り替え部分を優先して調査を実施した。遺構の調査は、確認された時点で半載ないし平面形の中央に土層観察用の土手を設定し、掘り下げた。掘り下げに伴い、遺構の形態や特徴・遺物の出土状況などを記録した。

調査は人力または重機を用いVII層上部まで掘り下げ、最終面とし地形測量を実施した。

平成15年度の調査

平成15年度は工事工程から平成14年度調査範囲に隣接する60m²の調査を実施した。調査は重機を用いたVII層上面での遺構確認調査である。遺構・遺物は検出・出土しなかった。

群馬県歴史博物館の能登健氏に畑跡についての現地指導を受けると共に国立科学博物館の須永薫子氏には畑土壌成分の分析を依頼した。

平成14年度に検出された畑跡について道教委とセンターとの協議結果を受け、7月に道教委による畑跡の範囲確認のためのトレンチ調査が実施された。その結果、畑跡はさらに南側に広がる事が確認された(図I-5)。

(4) 整理の方法

遺物の取り上げは、III層からVI層の包含層については調査区、層位、日付をビニール袋に明記して取り上げた。遺構の遺物は基本的に図に位置を記録しながら取り上げている。

平成14年度は、現地調査を優先して行ったため、一次整理は遺物について水洗まで止め、分類・台帳作成・注記等の作業は先送りとし、乾燥させた後、再度、現場から上がってきた袋に戻した。

江別市のセンターで、11月から分類・台帳作成・注記作業を開始し、平成15年3月中旬に、平成14年度出土物の一次整理が終了した。

遺物は、水洗・乾燥後、分類作業を行って遺物台帳に登録した。その後、注記作業を行った。

注記は遺跡名の森川3遺跡を「MK3」と略記し、遺構出土のものは遺構名、包含層出土のものはグリッド名を記入し、続けて遺物番号、出土層位の順で、それぞれ簡略化して記入した。遺構、グリッド毎に仮収納した。

平成15年度の調査で、遺構・遺物が検出・出土しなかったこと、本体部分の調査が次年度に見込にまれること、森町濁川左岸遺跡・同倉知川右岸遺跡等の報告が優先されたこと等から二次整理については着手されなかった。

平成16年度から平成14・15年度分について二次整理を着手した。

(a) 土器

遺物台帳と遺物の照合、台帳の補正、土器の接合・復原、実測・トレース、集計を行った。最初に土器分類の見直しを行い、その後接合・復原作業を行った。復原できた土器は、実測図の作成を行った。破片資料は時期等の特徴が判別しやすい器形、文様構成の分かる、口縁部及び底部破片を中心に

拓影図を作成した。

整理作業の終了した資料は報告書掲載資料、地区・遺構・グリッド別に収納した。

(b) 石器

遺物台帳と遺物の照合・補正、器種ごとの台帳の作成、分類の再検討・細分類、石材の観察、接合、実測・トレース、集計などを行った。実測・トレースは遺構に伴うものを最優先し、包含層出土のものは完形品を中心に、出土傾向を反映するよう選別して行った。掲載した遺物の一覧表・写真撮影・集計・分布図作成・収納等は土器と同様に行った。

なお、現地の発掘作業中には石器との判別が困難な自然礫もみられた。そのため現地では、大きさ・形態から石器の可能性のあるものは一旦取り上げることとし、水洗後、使用痕・加工痕が認められない礫のうち、自然礫と判断したものについては、おおよその点数を把握するために台帳に記載した後、廃棄した。

剥片石器・礫石器の実測についてはこれまでの方法を踏襲したが北海道式石冠とすり石の正面位置については独自に決定した。

北海道式石冠については実際出土した完形品をすべて持ってみた。その際、「しっくりした握り」の方を「握り位置」と想定し、「握り位置」を正面右側にして実測を行っている。

すり石についても実際出土した完形品をすべて持ってみた。その際、「しっくりした握り」の方を「握り位置」と想定し、「握り位置」を正面右側にして実測を行っている。

(c) 鉄製品

鉄製品が1点烟跡から出土している。

現地では、出土位置を記録した後に取り上げ、シリカゲルと併に密閉容器に封入した。

保存処理にあたっては第1調査部第1調査課 田口 尚を中心に復元・保存処理を行った。保存処理の開始にあたり、処理前の状態をX線写真撮影した。保存処理はパラロイドB72で仮強化した後、エアブラシ等で錆を除去、アルコール洗浄、高温高压の脱塩処理を行い、NAD-10を3回に分けて減圧含浸した。その後、実測図の作成と写真撮影を行った。保管は脱酸素剤(RPシステム)を封入する。(谷島)

(5) 遺物の分類

(a) 土器

分類基準は、当センター通有の大別(縄文時代五大別と統縄文・擦文時代にそれぞれⅠ～Ⅶ群を付す)を踏襲し、主体時期は細分した。

Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器群。

Ⅰ群 a 類 貝殻文、条痕文、沈線文の施された土器。(出土していない)

Ⅰ群 b 類 縄文、燃糸文、絡条体圧痕文、貼付文の施されたもの。(出土していない)

Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器群。

Ⅱ群 a 類 縄文の施された丸底・尖底を特色とするもの。春日町式など。(出土していない)

Ⅱ群 b 類 円筒土器下層式直前のもので円筒土器下層式に属するもの。

Ⅱ群 b-1 類 円筒土器下層式直前のもので。

Ⅱ群 b-2 類 円筒土器下層式に相当するもの。

【Ⅲ群】 縄文時代中期に属する土器群。

Ⅲ群 a 類 円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式、見晴町式に相当するもの。

- Ⅲ群 b 類 榎林式、大安在B式、ノダツプII式、煉瓦台式に相当するもの。
- Ⅳ群 縄文時代後期に属する土器群。
- Ⅳ群 a 類 天祐寺式、トリサキ式、大津式、白坂3式に相当するもの。
- Ⅳ群 b 類 ウサクマイC式、手稲式に相当するもの。
- Ⅳ群 c 式 堂林式・三ツ谷式、御殿山式・湯の里3式に相当するもの。
- Ⅴ群 縄文時代晩期に属する土器群。
- Ⅵ群 統縄文時代に属する土器群。
恵山式に相当するもの。
- Ⅶ群 擦文時代に属する土器群。(出土していない) (袖岡)

(b) 石器

石器は、剥片石器類、礫石器類、その他剥片等に大別し、器種ごとに分類した。

剥片石器類

石鏃：三角形のもの、木葉形や菱形のもの、有茎のもの、分類の困難な破片・未成品などに分け、さらに三角形と有茎のものは凹基、平基、凸基に分けている。

石槍またはナイフ：有茎のもの、茎が明瞭にみられないもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

石錐：素材の一部に刺突部を作り出したもの、棒状のもの、棒状のものにつまみ部をもつもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

つまみ付ナイフ：片面全面加工のもの、周縁加工のもの、両面加工のもの、横型のもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

スクレイパー：石べらと称されるもの、縦長剥片の下端部に刃部をもつもの、縦長剥片の側縁に刃部をもつもの、側縁に抉り入りがあり刃部とするもの、横長剥片の側縁に刃部をもつもの、素材の形状を大きく変えていないもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

両面調整石器：両面が加工された剥片石器のうち、上記の分類に当てはまらないもの。

礫石器類

石斧：擦り切り手法によるもの、敲打により整形されたもの、打ち欠きにより整形されたもの、部分的に磨かれたもの、全面磨製のもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

たたき石：棒状礫を素材としたもの、扁平礫を素材としたもの、円礫を素材としたもの、くぼみ石と称されるもの、分類の困難な破片・未成品などに分けている。

すり石：擦痕があるもので手にもてる大きさの礫。断面が三角形の礫の稜を磨ったもの、円礫を素材としたもの、扁平な礫や礫を扁平に打ち削ぎ周辺を半円状に打ち欠いたり両端を打ち欠き弦を擦ったりした扁平打製石器と称されるもの、北海道式石冠称されるもの、分類の困難な破片などに分けられる。

石鏟：扁平礫の2カ所または4カ所を打ち欠き紐・縄など掛ける用としたもの。

砥石：研磨面に溝があるもの、研磨面が平滑かやや凹状で板状のもの、角柱状のものに分けている。

石鋸：薄い礫を素材とし、機能部の断面形がU字またはV字状で長軸方向に擦痕のあるもの。

台石・石皿：敲打痕もしくは擦痕のある大形礫。

その他剥片等

Uフレイク：使用痕のみられる剥片。

Rフレイク：調整痕のみられる剥片。

ビエス・エス・キユ：両極打法による剥片

フレイク：石核・石器から剥離されたもので、二次的な剥離を受けていないもの。

石核：剥片を剥離した痕跡が複数あるもの。

加工痕跡：加工痕・使用痕のみられる礫。

礫・礫片：加工痕・使用痕はみられない礫・礫片のうち被熱など有意と思われるもの。

石製品：異型石器、玉類に分けている。

(c) 鉄製品

鉄製品が1点畑跡から出土している。和釘と考えられる。

(谷島)

(6) 調査結果の概要

森川3遺跡は海岸線から約2.5km内陸の森町市街地南側に位置する。標高90～100mの緩やかな斜面で、内浦湾に流れ込む流長約10kmの森川に面した河岸段丘上に立地する。森川3遺跡の北側に隣接して、河岸段丘崖から森川に挟まれた低地に森川4遺跡が立地し、森川対岸の低地に森川2遺跡がある。更に森川3遺跡の北側は森川の支流を挟み河岸段丘上に上台1遺跡がある。また、森川3遺跡の南側に森川5遺跡がある。

平成14年度は2,200m²、平成15年度60m²の調査を実施した。

遺構はⅢ層中から掘り込まれた近世の畑跡が調査区のほぼ全面で確認された。縄文時代の竪穴状遺構が5軒、土坑42基、小ピット16ヵ所、焼土7ヵ所、S1ヵ所が検出された。

畑跡は西暦1640年に噴火した際降下した駒ヶ岳火山灰d層(Ⅱ層：Ko-d)に覆われてⅢ層から掘り込まれⅣ層の約1,000年前の白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)を切って確認された。間隔は約80～100cm、耕作痕は20～30cmである。耕作痕には切りあい関係・方向の違いが認められることから時期差があったことが確認されている。Ⅲ層中からは鉄製品が1点出土しているが他に時代を特定できる遺物は出土していない。須永薫子氏による畑土壌成分の分析(第Ⅴ-2章参照)と、炭素年代測定を実施している(第Ⅴ-1章参照)。

V層は統縄文時代～縄文時代前期の包含層で、V層上部では統縄文時代の恵山式石器の集中や同期の土坑・焼土等が検出された。

V層下位から検出された竪穴状遺構は、円筒土器下層a式直前から円筒土器下層a式期3軒、中期前半の円筒土器上層式期1軒、中期末葉～後期前葉1軒である。土坑は前期～後期前半期のものが検出された。

縄文時代前期・中期の遺構・遺物が森川側の段丘崖付近から多く出土した。

円筒土器下層a式直前のものが多く出土し、ついで後期初頭のⅣ群a類、中期前半のⅢ群a類、円筒土器下層式のⅡ群b類がこれに続く。円筒土器下層a式直前期の資料は、隣接する森川によって形成された河岸段丘下の森川4遺跡からも多量に出土し、報告者は段丘上の森川3遺跡から崖下へ捨てられたものと考えている。森川3遺跡・森川4遺跡の同期の資料は噴火湾沿岸では類例が少なく今後同期を考える上で貴重な資料となる。

平成15年度には、道教委によって畑跡の範囲を確認のためのトレンチ調査が実施された。その結果、畑跡は南側に連続することが確認された。

森川3遺跡は、平成16年度に平成14年度調査範囲山側の2,780m²を調査した。その結果、調査区全面



図1-7 連綿位置と最終地形

表 I-1 遺構出土遺物

遺物名	点数	遺物名	点数	遺物名	点数
II b-1	546	石鏃	7	石鋸	2
II b-2	10	石錐	2	台石	2
III a	164	つまみ付きナイフ	3	石皿	5
III b	25	スクレイパー	8	Rフレイク	2
IV a	470	両面調整石器	2	Uフレイク	3
VI	106	石斧	2	石核	2
土製品	1	たたき石	3	フレイク	234
不明土器	3	すり石	18	加工痕礫	1
		扁平打製石器	8	礫・礫片	314
		北海道式石冠	6	鉄製品	1
土器類合計	1325	石器類小計	625	遺物合計	1950

表 I-2 包含層出土遺物

遺物名	点数	遺物名	点数	遺物名	点数
II b-1	8664	石鏃	114	砥石	4
II b-2	986	石槍またはナイフ	24	台石	89
III a	1290	石錐	24	石皿	19
III b	57	つまみ付きナイフ	73	Rフレイク	47
IV	2	スクレイパー	236	Uフレイク	15
IV a	1729	両面調整石器	18	ピエス・エス・キーク	1
IV b	66	石斧	62	石核	27
IV c	19	たたき石	147	フレイク	3814
V	6	すり石	372	加工痕礫	11
VI	898	扁平打製石器	60	礫・礫片	1
土製品	16	北海道式石冠	48	石製品	11
焼成粘土塊	9	石鏃	6	高師小僧	1
不明土器	13	石鋸	15	炭化物	
土器類合計	13755	石器類小計	5239	遺物合計	18994

から畑跡、縄文時代前期末葉の円筒土器下層 d 式期の葺き土構造をもつ大形竪穴住居跡 3 軒をはじめ縄文時代前期後半から中期前半の住居跡 11 軒、土坑 43 基、Tピット 1 基、焼土 10 ヲ所等が検出された。遺物も縄文時代前期後半～後期初頭のものが出土した。また、森川 3 遺跡南側約 100m の森川 5 遺跡の調査が森町教育委員会にて実施され、畑跡が調査区全面から検出された。

なお、森川 3 遺跡の平成 16 年度調査分については平成 17 年度に二次整理を実施し、平成 18 年度以降に報告書を刊行する予定である。(谷島)

- 図版25 遺構出土遺物(1)
 図版26 遺構出土遺物(2)
 図版27 遺構出土遺物(3)
 図版28 遺構出土遺物(4)
 図版29 遺構出土遺物(5)
 図版30 遺構出土遺物(6)
 図版31 遺構出土遺物(7)
 図版32 遺構出土遺物(8)
 図版33 遺構出土遺物(9)
 図版34 遺構出土遺物00
 図版35 包含層出土土器(1)
 図版36 包含層出土土器(2)
 図版37 包含層出土土器(3)
 図版38 包含層出土土器(4)
 図版39 包含層出土土器(5)
 図版40 包含層出土土器(6)
 図版41 包含層出土土器(7)
 図版42 包含層出土土器(8)
 図版43 包含層出土土器(9)
 図版44 包含層出土土器00
 図版45 包含層出土土器01
 図版46 包含層出土土器02
 図版47 包含層出土土器03
 図版48 包含層出土土器04
 図版49 包含層出土土器05
 図版50 包含層出土土器06
 図版51 包含層出土土器07
 図版52 包含層出土土器08
 図版53 包含層出土土器09
 図版54 包含層出土土器00
 図版55 包含層出土土器01・土製品
 図版56 包含層出土土器02
 図版57 包含層出土土器(1)
 図版58 包含層出土土器(2)
 図版59 包含層出土土器(3)
 図版60 包含層出土土器(4)
 図版61 包含層出土土器(5)
 図版62 包含層出土土器(6)
 図版63 包含層出土土器(7)
 図版64 包含層出土土器(8)
 図版65 包含層出土土器(9)
 図版66 包含層出土土器00・石製品・烟跡出土鉄製品

II 遺跡の位置と環境

位置

森町は北海道の西南、渡島半島の中央に位置し、東西25.3km、南北24.7kmで、北東側は内浦湾に面し海岸線は17.3kmである。東は押出沢から駒ヶ岳山頂、大沼を結ぶ線を境に砂原町と、鹿部町に接している。南は渡島山脈から宿野辺川を隔て大沼に至る境界で大野町と七飯町に接し、南西は渡島山脈を境に厚沢部町に接している。西から北西側は渡島山脈から茂無部川を挟んで八雲町に接している。

森川3遺跡は森町市街地の南の山側で海岸線から約2.5km内陸に位置する。内浦湾に流れ込む流長約10kmの森川に面した河岸段丘上で標高90～100mの緩やかな斜面に立地する。

地形・地質・自然環境

森町の地形は一般に丘陵性で渡島山脈より北東に向かって傾斜し、海岸段丘を経て、内浦湾に面している。内浦湾は直径約50kmで南東側の開いた馬蹄形を呈し、湾口は27km程に狭まり、最大水深は107mである。内浦湾は一般的に「噴火湾」と呼称され、駒ヶ岳の他、有珠山、羊蹄山などに囲まれ、1796年来訪したイギリス海軍スループ艦艦長のプロトンは円形の湾形と周囲の山から噴煙を吹く景色を見て「噴火湾」と呼んだことに由来するとされる。

陸側は、南東に駒ヶ岳(1,131m)の山麓が北西方に緩やかな傾斜をなし、西側は渡島山脈の連峰で600～800mの山が連なり日本海側と境している。所々に台地と開析された小谷と平地をつくっている。また、北西には濁川カルデラ盆地がある。

独立峰である駒ヶ岳はコニーデ型(成層火山)の活火山で、山頂部の東側は馬蹄形に火口が崩壊して開いている。1640年の噴火は山体崩壊を伴う激しい噴火で町内に約2mの火山灰(Ko-d)を堆積したほか山体崩壊に伴う津波を引き起こしている。また、包含層を近世以後の攪乱から保護していた。それ以前の噴火では折戸川を堰き止め大沼などの湖沼を残すなど噴火を幾度も繰り返し、これらに起因する火山灰は道南の発掘調査において時期を知る「鍵層」として用いられている。

濁川カルデラは約20,000年～12,000年前に噴火し、火砕流台地と呼ばれる平坦な地形を作った後、火口を陥没させカルデラを生成した。その火砕流堆積物が森川3遺跡の基層を形成している。

森町内の最下位の地層は訓練層(凝灰角礫岩層、約1,500万年前)で、その上位に新第三紀の八雲層(硬質頁岩層、約1,000万年前)と黒松内層(泥岩層、約300万年前)がある。さらに上位には約150万年前と推定される毛無山溶岩層が鳥崎川中流に発達し、第四紀岩層として森層(火山砕屑物で溶結凝灰岩の薄層)、濁川カルデラ起源の石倉層、段丘堆積物、崖堆積物、駒ヶ岳火山噴出物が覆っている。

河川は後背の渡島山脈を源にした小規模なものが多く最も大きな鳥崎川で20.8km、他は標高200～300m付近に源流を持ち、流長10km未満の急流が多い。川のほとんどが北東に流れて内浦湾に注いでいるが、大野・七飯町との町境である宿野辺川(19.1km)は南東に流れて大沼に注いでいる。

森町の気候は北海道の中で温暖な地帯に属し、夏は30℃を超えることが少なく、冬は-15℃まで下がるのが少ない。8月の平均気温は20.2℃、1月の平均気温は-4.9℃で、夏季は北東風、冬季は北西風が多く、風は、5月と、12月にやや強い程度である。降水量はやや少ない。積雪量は山脈側で130cmに達するところもある。4月頃から8月に霧の発生することがある。

地名

『森町史』(1980)では、森町の地名は、アイヌ語で「オニウシ」(O-ni-ushi)で「オ」生えている「ニ」

木「ウシ」所（樹木の多くある所）からの意識で付けられたとされている。この他、永田方正『北海道蝦夷語地名解』「Oni ushi オニウシ 大森 森村の元名」、山田秀三『アイヌ語地名の研究』第二巻、第三巻「オ・ニ・ウシ・ベツ 川尻に・樹が・多くある（群生する）・川」の意識された地名と考えている。文化初年（1804）の『東蝦夷地屏風』に「オ・ニ・ウシベツ 一に曰く鳥崎河」とあることや、松浦武四郎は『初航蝦夷日記』（1845、弘化2年）に「鬼ウシベツ一名烏サキ川」と記されているを紹介している。

菅江真澄は「えぞのでぶり」寛政3年（1791）の中で「森という村で、シャモと住居がいろいろまじっているアキノが……」と記している。松前藩士高橋社四郎寛光ら4名『蝦夷巡覧筆記』寛政9年（1797）「モリ 此所山遠ク木アリ、内浦山右ニ附、当処ヨリ野道少シ行、夫ヨリ砂浜行キ川アリ、幅六七間川越へ砂浜行。」、津軽藩士山崎半蔵『松前下蝦夷地記行』文化3年（1806）「森村より石川原まで半里ばかり、……」等の記載があり19世紀に入ると地理的要因からさらに多く記録が残っている。

18世紀末から19世紀初頭前後には既に地名は意識され「もり」と称されている。「森川」については村垣範正『村垣淡路守公務日記』の中に嘉永7年（1854）蝦夷地巡検の記録として「森川巾三間程、板はし、急流。」と扱われている。

歴史

森町内の考古学的な調査で、人間の痕跡が検出されたのは縄文時代早期からである。出土した遺構・遺物から縄文時代以来、続縄文時代、擦文時代、アイヌ文化期から現代に至るまでほぼ途切れずに人が住み続けていた事がわかる。東蝦夷地と称され記録に残されているものは、江戸時代の津軽藩史『津軽一統志』や寛永17年（1640）の駒ヶ岳の噴火を記録した松前藩の『新羅之記録』、『松前年々記』が噴火の様子や被害などを伝えている。これらの記録以前にも和人が漁期の入り稼地（出稼地）として漁業を中心に住み着くようになったと思われるが、アイヌ支配地が元禄8年（1695）茅部場所まで続き、どの程度のアイヌと和人が混住していたのかは19世紀の記録まで判然としない。

約1.8mの火山灰で遺跡を保護する形となった駒ヶ岳の1640年の噴火について後世の記録が残されている。以下、噴火や「森」の様子を伝える文書を抜き出している。

『松前年々記』、「七百餘死同時内浦嶽崩内浦ヨリ松前上ノ國夷地迄焼灰降クラヤミ同十四日ヨリ十五日迄辰ノ時少宛晴レ十五日十六日迄少々宛降右ノ降灰松前ニテ見候、… 夷ノ國ニテハ津波前殊ノ外山鳴無程津浪打毛虫ナドモ降ル。」

『津軽一統志』……「寛永十七年庚申年松前上ノ國津浪アリ江刺岳焼ケ出シ六月十三日（1640.7.31）ヨリ同十六日マデ同地暗夜ノ如ク晝モ燈火ヲ用ユ其燃當地及ビ越後地マデモ降りシガ當地モ三日間日光ヲ見ズ、灰降リテ六七寸ニ積レリ、……」

寛永17年（1640）の駒ヶ岳の噴火では、「クルミ坂岩屑なだれ」により、内浦湾から太平洋沿岸に津波が起き、700人以上の死者を出し、昆布取りの磯舟百余艘が巻きこまれている。この様に、内浦湾の沿岸ではすでに昆布漁等、漁業によって人が多く集まり住んでいることが知られる。また、和人地外であっても津波の被害が松前藩に伝えられる状態になっていたことも知ることができる。

寛文9年（1669）～同12年に起こったジャクシャインの蜂起を記録した『津軽一統志』では、以下のように記している。

「一、糸きしない 小船調有 狄おとなアイツライ持分 家三軒（中略）
一、もり 小川有
一、とち崎 狄おとなアイツライ持分 家四、五軒」

とあり、アイヌ民族の支配地域であったことが知られる。

和人支配となる「茅部場所」は元禄8年(1695)の「ノクオイ場所」との境界論争で、その存在が知られる。その後、『蝦夷商売開書』元文4年(1739)など記録に表れる。函館付近の小安から野田追までを函館六ヶ場所(商業知行制)と称し、そのうち現在の森町・砂原町一帯「松屋川(砂原町砂崎付近)～茂無部川(森町と八雲町の境界)に至る沿岸」が、「茅部場所」と呼ばれていた。知行主は松前藩家臣北見助右衛門で1688年から代々北見家に受け継がれている。請負人は函館の間屋、門屋太郎右衛門らである。労働力は土着の漁師、出稼ぎの漁師、及び、アイヌ民族である。漁獲されたのは「ニシン・タラ・マス・イワシ・コンブ・ナマコ・ホタテガイ・オットセイ」などである。

寛政12年(1800年)、東蝦夷地が幕府直轄地となり、函館六ヶ場所一円の和人の人口が次第に増加したため幕府はここを和人地と定め、場所制度を廃止して、各村落の独立を認めた。

当時、このあたりの中心地は鷲の木で、他はその支村であった。内浦湾を廻る、または、対岸への上下船地という交通路であったため幕府直轄以後は往来が多くなり、それらの人による記録・紀行文などが多くなる。当時の様子を記録類の中から記すと以下のようである。

松浦武四郎は「初航蝦夷日誌」(1845、弘化2年)「森村 従大野八里といへり。人家三十軒計、夷人六七軒計入接。此処往還にては初而夷人小屋を見る。然し此処の夷人金銭通用、言語皆人間語(和語)をしりて通用よろし。……小商人三軒、農作人、旅籠屋、漁者のミ也。」

南部藩士長沢盛至「東蝦夷地海岸図台帳」安政2年(1855)

「森 村入口より村外迄十一丁、家数三十武軒、人数百八十一人、蝦夷屋十八軒、碇舟六艘あり、村中稲荷社有、小川あり、馬四十武疋の内駒六疋有。寅年出産物躰三千八百八十疋、丑年出産物夏いわしの舶百四十本、秋味千本、鮮甘束、和人作り取納の出ものは、そば三十五俵、粟三十俵、大豆十五俵、小豆二俵位也。其の作る所は粟十八俵、そば十五俵位也。」

周辺の遺跡

森町の遺跡は駒ヶ岳や濁川の噴火によるテフラが厚く堆積し、特に1640年噴火に起因する Ko-d 火山灰は2m程堆積している所もあり、遺跡の所在確認を難しくしている。

遺跡の立地は海岸段丘上に多く、川に沿った内陸部は5ヶ所である。時代別に立地と遺跡数を概観する。旧石器時代の遺跡は未発見である。縄文時代に到ると、海岸に近い低位海岸段丘上から中位段丘に集落が出来始め、中期に至って中位段丘又は丘陵上に遺跡数は多くなり更に内陸に進出する。後期は中小規模の集落がやや奥まった段丘又は丘陵上に散在する。晩期から遺跡数は減少し、統縄文時代以降は海岸近くに拠点に移して貝塚などを残して、さらに、本遺跡のように焼土など活動の痕跡を内陸に残している。

周辺の遺跡(図1-2)は森川3遺跡の北側に隣接して、河岸段丘崖から森川に挟まれた低地に森川4遺跡が立地し、森川対岸の低地に森川2遺跡がある。更に森川4遺跡の北側は森川の支流を挟み河岸段丘上に上台1遺跡がある。また、森川3遺跡の南側に森川5遺跡がある。

森川2遺跡は縄文時代前期から晩期、擦文時代の遺跡で石組み炉、集石などが検出されている。森川が氾濫・安定を繰り返した後が窺える。縄文時代晩期と擦文時代の文化層の間に土石流の層を挟む。2002・2003年森町教委によって発掘調査が実施された。

森川4遺跡は縄文時代前期から晩期の遺物が出土している。土壇8基のほか石組み炉、焼土などが検出されている。低地は森川の氾濫に晒されている。2003年当センターによって発掘調査が実施された。

森川5遺跡は縄文時代早期から中期と統縄文時代の遺跡で中期末～後期初頭の竪穴1軒、土壇2基などが検出されている。また、近世の畑跡がほぼ全面に広がっている。2004年森町教委によって発掘

調査が実施された。

上台1遺跡は縄文時代前期から晩期の遺跡で後期の竪穴住居1軒や土壇59基などが検出されている。遺物は後期前葉のものが主体である。2003年当センターによって発掘調査が実施された。

本遺跡周辺は、温暖な気候に恵まれ海産物や山林の食料が多く取れるなど、当地は恵まれた環境にあったものと考えられる。
(谷島)



図II-1 東西磐夷山川取調図四 松浦竹四郎著

III 遺構と遺構出土の遺物

概要

平成14年度に検出した遺構は竪穴状とした遺構が5ヵ所、土坑42基、小土坑16基、焼土7ヵ所、集石1基である。遺跡は森川の右岸段丘上にあり、段丘縁辺部に縄文時代前期～後期の遺構、遺物が多い。なかでも、円筒土器下層式直前に位置づけられる土器が多く出土した。竪穴状の遺構としたH-2～4は概時期の遺構である。この他、土坑、小土坑を検出したが、概ね縄文時代前期～後期に属する。このことから、長い間この段丘は利用され続けたことが伺える。ここから外れた、調査区の東側では統縄文時代、恵山式期の焼土(F-4)、土坑(P-15)、土器が多く出土した。

森川4遺跡が立地する、内湾した段丘崖を境に南東側は平成16年度の調査区となり、ここでは縄文時代前期、円筒土器下層d式期の遺構、遺物を多く検出している。(袖岡)

竪穴状遺構

H-1 (図III-2～4 図版2、3、25)

位置・立地：V、W-44、45区 森川を臨む右岸の段丘北端、標高92.5～93.0m

規模：3.90/3.10×3.26/2.56×0.78m

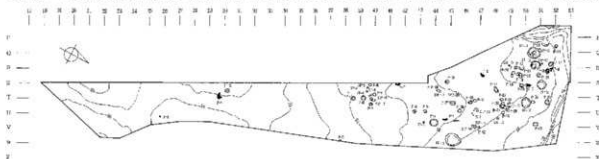
確認・調査：V層上面で黒褐色土の落ち込みとして検出した。土層観察のベルトを残し、黒褐色土を掘り下げたところ平坦な床面と明瞭な壁の立ち上がりを検出し住居跡と認定した。掘り込み面はV層上からである。

覆土：自然埋没によるものでV層を主体とする黒色土に、掘り上げ土によるものと考えられるVI層火山灰、VII層粘土などが少量混じってくる土である。1～6層に分けた。

形態：不整な卵形である。長軸は南北方向を向く。床面はVIII層のローム上面に構築している。南側の一部に古い風倒木痕がありVI層火山灰がVIII層上面で露出しているところがある。この部分にVI、VII層土を含む土で一部貼り床をして平坦な床面を構築している。

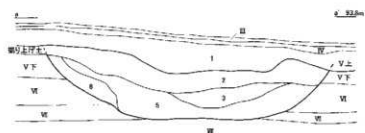
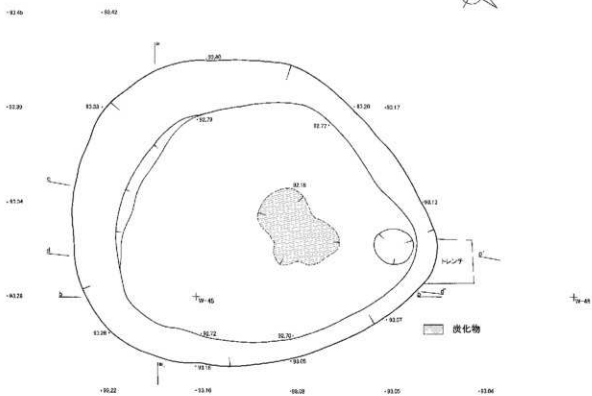
付属遺構：長軸方向の先端に浅い皿状のくぼみを確認した。また床面中央よりやや北側に炭化物粒を僅かに含む不定形な掘り込みを検出した。焼成を受けた面は無く、地床炉であれば掻き出された跡であることが考えられる。柱穴等は遺構の内、外共に検出されなかった。

遺物出土状況：覆土中の遺物は自然埋没の過程で流れ込んだものである。土器ではII群b-1類6点、II群b-2類2点、III群a類3点、石器では石鏃2点、石錐1点、両面調整石器1点、すり石3点、北



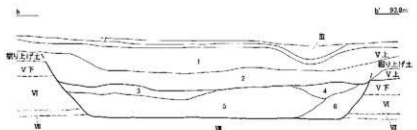
図III-1 遺構位置

H-1



※土質注記

層別	土質	土質2	厚	層	縦断面	大凡	説明	注記	発掘者	採入(%)	その他採入層別	その他
1	黄砂	TS100-1	薄	砂	L-1	100%	黄砂	層状	平田	100%		黄
2	黄砂	TS100-2	薄	砂	L-2	100%	黄砂	層状	平田	100%		黄
3	黄砂	TS100-3	薄	砂	L-3	100%	黄砂	層状	平田	100%		黄
4	黄砂	TS100-4	薄	砂	L-4	100%	黄砂	層状	平田	100%		黄
5	黄砂	TS100-5	薄	砂	L-5	100%	黄砂	層状	平田	100%		黄
6	黄砂	TS100-6	薄	砂	L-6	100%	黄砂	層状	平田	100%		黄



0 1m

図III-2 H-1(I)

III 遺構と遺構出土の遺物



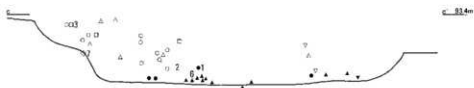
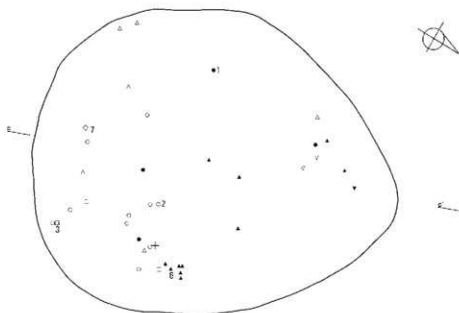
1) 検出の遺物

層	遺物	出	所	遺物	出	所	層	出	所
1	土師	1	1	土師	1	1	土師	1	1
2	土師	1	1	土師	1	1	土師	1	1
3	土師	1	1	土師	1	1	土師	1	1



2) 検出の遺物

層	遺物	出	所	遺物	出	所	層	出	所
1	土師	1	1	土師	1	1	土師	1	1
2	土師	1	1	土師	1	1	土師	1	1
3	土師	1	1	土師	1	1	土師	1	1



0 1m

図III-3 H-1(2)

海道式石冠1点、Rフレイク1点、フレイク23点、礫8点、の計50点が出土している。床面からの出土は、土器でⅡ群b-2類が2点、Ⅳ群a類とした土器が8点、石器等ではフレイクが12点、礫が1点の計23点出土、合計74点出土した。

時期：床面出土の遺物から縄文時中期末もしくは後期前葉の遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1は床面出土のⅣ群a類もしくはⅢ群b類のもの。砂礫を含むが焼成は良く硬い。2は覆土下のⅡ群b-2類。口縁部に燃糸文と縄端による刺突が施されている。3は覆土から出土したⅣ群a類土器の底部。

(袖岡)

石器 4は有茎平基の石鏃で尖頭部への加撃により尖頭部から茎部にかけて右側は欠損している。5は剝片に周辺に両面調整を加え一端に機能部を作出した石鏃。6は両面調整石器で上部は折れている。

7はRフレイクで上半の両側縁に調整がみられる。

(谷島)

H-2 (図Ⅲ-5~7 図版3、4、25、26)

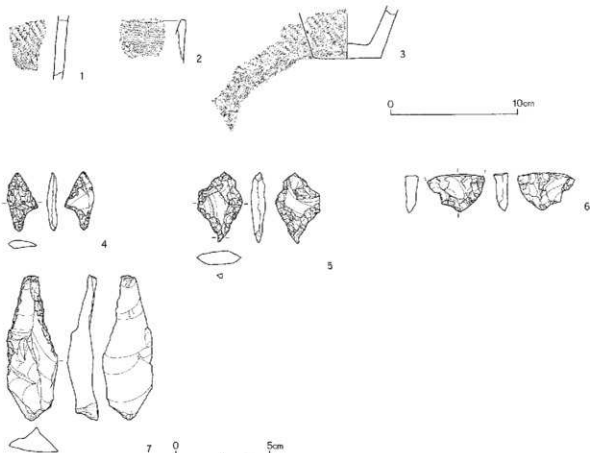
位置・立地：T-49、50区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近、標高92~92.5m

規模：2.50/2.00×2.38/1.98×0.50m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒褐色の落ち込みとして確認した。土層観察用のベルトを設定し掘り下げたところ平坦な床と壁の急な立ち上がりを確認し遺構であると判断した。掘り込みはⅤ層下である。

覆土：自然埋没によるものである。1~4層に分けた。覆土は1~3層までが自然埋没によるものである。4層は床面に相当するかと考えられる。

形態：平面は不整な円形である。床はⅥ層を掘り込んでいる。炉や柱穴などの付属遺構はH-2の内、



図Ⅲ-4 H-1(3)

外において検出しなかった。

付属遺構：遺構の内、外共に検出してない。

遺物出土状況：覆土中よりⅣ群 a 類土器が 1 個体分出土している。覆土中の遺物は全て自然埋没の過程で流れ込んだと判断する。覆土の遺物は、土器でⅡ群 b-1 類 68 点、Ⅲ群 a 類 5 点、Ⅲ群 b 類 1 点、Ⅳ群 a 類 142 点、不明土器 1 点。石器等で石鏃 2 点、スクレイパー 1 点、すり石 3 点、扁平打製石器 1 点、石鋸 2 点、台石 1 点、石核 1 点、フレイク 100 点、礫 56 点、計 384 点出土。覆土下からはⅡ群 b-1 類 247 点、礫 6 点出土、計 253 点出土。合計で 637 点出土した。

時期：周辺と覆土下よりⅡ群 b-1 類が多く出土する。縄文時代前期に属する遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1、2 はⅣ群 a 類土器。3 はⅡ群 b-1 類土器。1 は覆土中からまともに出て出土したもの。深鉢形土器で、全体に斜行縄文が施されている。口唇は平坦で、胴部は底部付近で張り出している。底面と胴部の境と内面は粗いナデ調整が施されている。胎土には粒径 0.5~2 mm の砂礫を多く含み、器表面から層状に剥落している。2 は深鉢形土器の口縁部破片。LR の縄を、施文方向を変えて文様が施されている。胎土には海綿骨針を含んでいる。3 は深鉢形土器の胴部。複節の斜行縄文に不整な綾格文が施されている。内面の調整は横位のナデによる。胎土には砂礫と繊維を含んでいるが、焼成が比較的良いためか硬い。

(袖岡)

石器 4・5 は木葉形の石鏃。4 は横長剥片の左方に両面加工を加え尖頭部を作り出している。5 は尖頭部が破損している。6 はスクレイパー、下辺から右側縁にかけ両面加工の刃部調整が施されている。7 は石核だが石質のためか大きな剥片は取られていない。8 は円礫を素材としたたき石。9 は小型の断面三角形礫を素材としたすり石。10 は上部角に打ち欠きのみられる扁平打製石器で右側は欠損している。11 は北海道式石冠で両端の破損後も使用している。12 は石鋸の機能部破片。13 は片面を使用した台石で中央部に橙色の物質が、その上側に黒色の物質が付着している。

(谷島)

H-3 (図Ⅲ-8、9 図版 4、5、26)

位置・立地：Q、R-50区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高 92.0~92.5m

規模：2.30/2.16×2.05/1.86m 1.55/1.32×1.39/1.23×0.97m

確認・調査：Ⅵ層上面において暗褐色の落ち込みとして確認した。土層観察用のベルトを残し掘り下げたところ平坦な床と急で明瞭な壁の立ち上がりを確認し遺構と認定した。

覆土：覆土は自然埋没によるものである。1~15層に分けた。

形態：平面は不整な円形である。断面形は漏斗状になる。壁は、坑底から 70cm ほど垂直に立ち上がり、遺構の開口部へ向け緩やかに立ち上がる。

付属遺構：遺構の周辺から外柱柱のような小ピットを検出した。深さは 30~40cm 前後である。

遺物出土状況：全て覆土中からのもので、自然埋没の過程で流れ込んだものである。土器はⅡ群 b-1 類 20 点、Ⅱ群 b-2 類 1 点、Ⅲ群 a 類 2 点、Ⅳ群 a 類 3 点出土。石器等はスクレイパー 1 点、すり石 1 点、台石 2 点、石皿 1 点、フレイク 10 点、礫 39 点の合計 80 点出土した。

時期：周辺からⅡ群 b-1 類が多く出土する。縄文時代前期に属する遺構と考えられる。

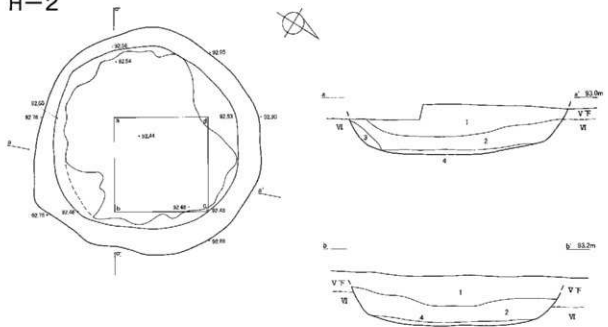
掲載遺物：土器 1、2 は覆土中からのもの。Ⅳ群 a 類土器。2 は深鉢形土器の口縁部破片。焼成は良く、硬い。

(袖岡)

石器 3 は切断したような痕跡のあるスクレイパーである。切断面には打点は認められない。4 は断面三角形のすり石で、右端にたき痕がありたき石の機能も併せもつ。すり面の中央部はくぼんでおり、局所的な使用の痕跡と考えられる。

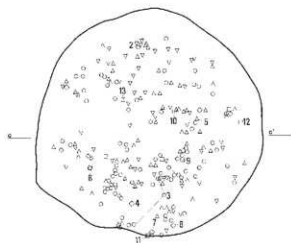
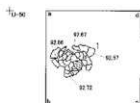
(谷島)

H-2

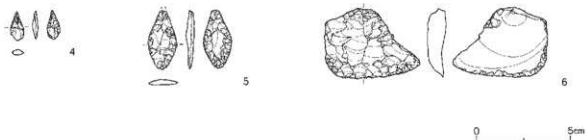
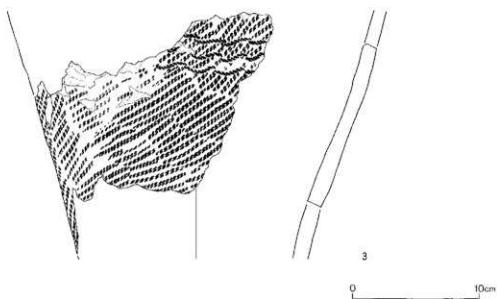
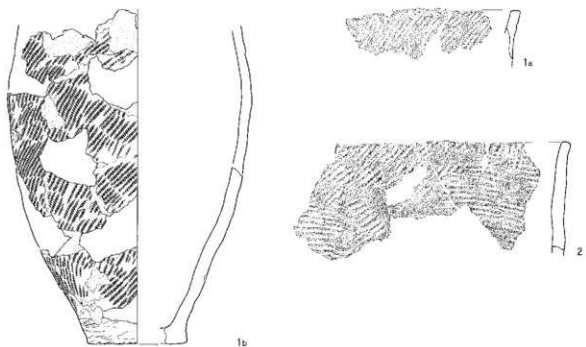


→土層位置

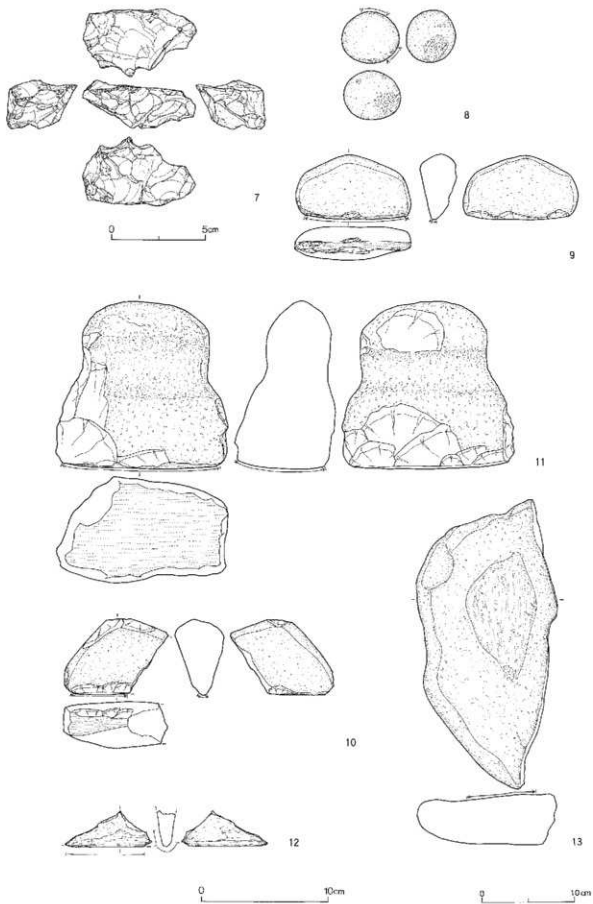
層別	土層1	土層2	土質	厚さ	厚さ(%)	土層3	土質	厚さ	厚さ(%)	土層4	土質	厚さ	厚さ(%)	年代
1	底	1,970.00	硬土	1.4	25	2	硬土	1.5	28	3	硬土	1.5	28	1,970.00
2	底	1,970.00	硬土	1.5	28	4	硬土	1.5	28					
3	底	1,970.00	硬土	1.5	28									
4	底	1,970.00	硬土	1.5	28									



図Ⅲ-5 H-2(1)

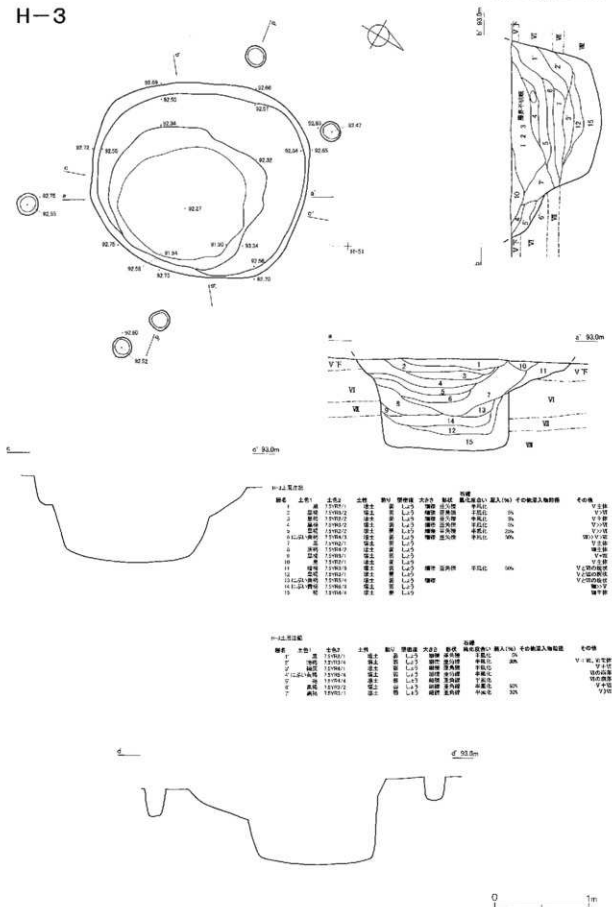


図III-6 H-2(2)



図III-7 H-2(3)

H-3



図III-8 H-3(1)

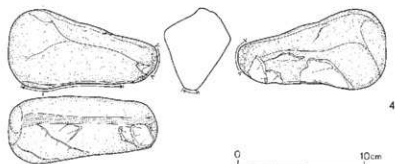
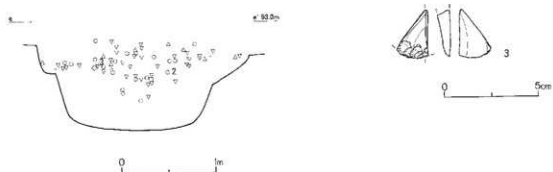
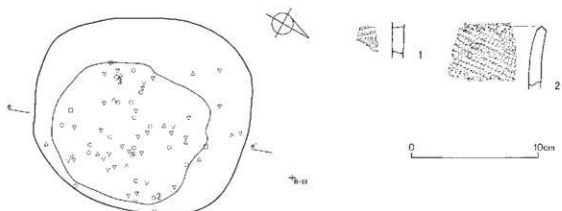
H-4 (図III-10~12 図版6、26)

位置・立地：P、Q-50区 森川右岸の段丘上、台地が張り出す先端のやや西側。標高92.0~92.5m

規模：3.19/2.89×3.05/2.34×0.88m

確認・調査：Ⅵ層上面で暗褐色の落ち込みとして確認した。土層観察用のベルトを残し掘り下げたところ平坦な床と急で明瞭な壁の立ち上がりを確認し遺構と認定した。

覆土：自然埋没によるものである。1~14層に分けた。土層断面記録時に床付近で掘り足りないところがあり一部未記録にしてしまった。



図III-9 H-3(2)

形態：平面は不整形である。断面形は歪な漏斗状になる。床面が一度改築されたものとする。

付属遺構：遺構の周辺から外柱穴のような小ピットを検出した。深さは20～30cm前後である。

遺物出土状況：全て覆土中からのもので、自然埋没の過程で流れ込んだものである。土器はⅡ群b-1類で26点、Ⅲ群a類1点、Ⅳ群a類28点、土製品1点、不明土器2点出土。石器等で石鎌1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー3点、たたき石1点、すり石2点、加工礫1点、Rフレイク1点、フレイク36点、礫116点、合計220点が出土した。

時期：周辺からⅡ群b-1類が多く出土する。縄文時代前期に属する遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1～3、10は覆土中からのもの。1はⅣ群a類土器。折り返し口縁のもので、口唇上に2条の縄線文が施されている。口縁から胴部にかけて単軸絡条体による回転文が斜め～縦方向に施されている。2はⅡ群b-1類土器。複節の斜行縄文が施されている。内面はナデ調整が施されている。胎土にはほとんど砂・礫を含まない。焼成は良く、硬い。3はⅢ群a類土器。縄文地に沈線が施されている。10は土製品。縦に孔があげられている。両端と中央に2条の縄線文と、その縄線間に斜めに縄線文が施されている。(袖岡)

石器 4は三角形凹基の石鎌で逆刺が特徴的に突き出ているもの。尖頭部と左逆刺が欠損している。5は横型つまみ付きナイフで被熱による弾けで刃部が欠損している。6は切断したような痕跡のあるスクレイパー。7は横長剥片を素材とするスクレイパーで、盤状剥片の表面下端部に刃部調整が施されている。8・9は扁平打製石器で両者とも右側が破損している。9は断面三角形のすり石、すり面は幅が広い。(谷島)

H-5 (図III-12 図版7、26)

位置・立地：R、S-50、51区 森川右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92.0～92.5m

規模：2.15/1.77×2.12/1.72×0.30m

確認・調査：Ⅵ層上面において黒褐色の落ち込みとして確認した。土層観察用のベルトを残し掘り下げたところ平坦な床と急で明瞭な壁の立ち上がりを確認し遺構と認定した。

覆土：覆土は自然埋没によるものである。1～7層に分けた。

形態：平面は円形である。

付属遺構：焼土や柱穴などの付属遺構は遺構の内、外において検出しなかった。

遺物出土状況：全て覆土中からのもので、自然埋没の過程で流れ込んだものである。土器はⅡ群b-1類2点、Ⅳ群a類1点、石器等では扁平打製石器1点、北海道式石冠2点、フレイク2点、礫6点、合計14点が出土している。

時期：周辺からⅢ群a類土器が出土していることから、縄文時代中期前半の遺構と考えられる。

(袖岡)

掲載遺物：石器 1は扁平打製石器で扁平礫の厚味を取るため粗い打ち剥ぎが行われている。右側が破損している。2は北海道式石冠で右側が破損している。裏面の下方に黒色物質が付着している。

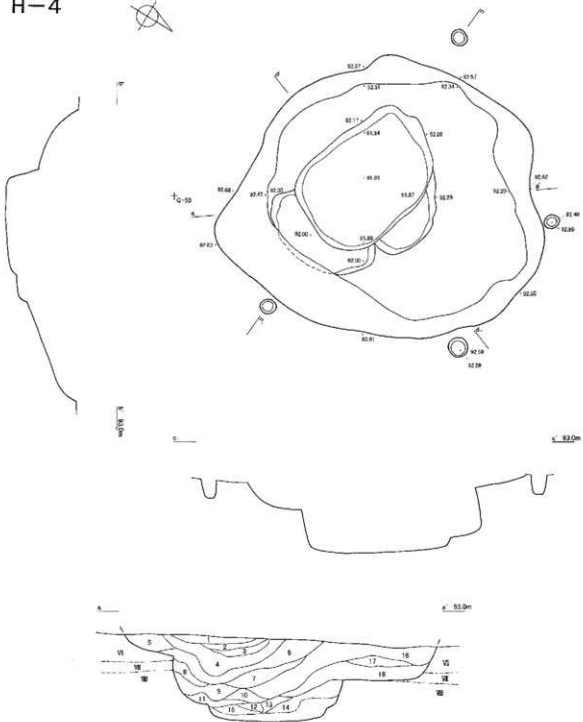
(谷島)

土坑

P-1 (図III-13 図版8、26)

位置・立地：S、T-38区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや南側の標高94m。

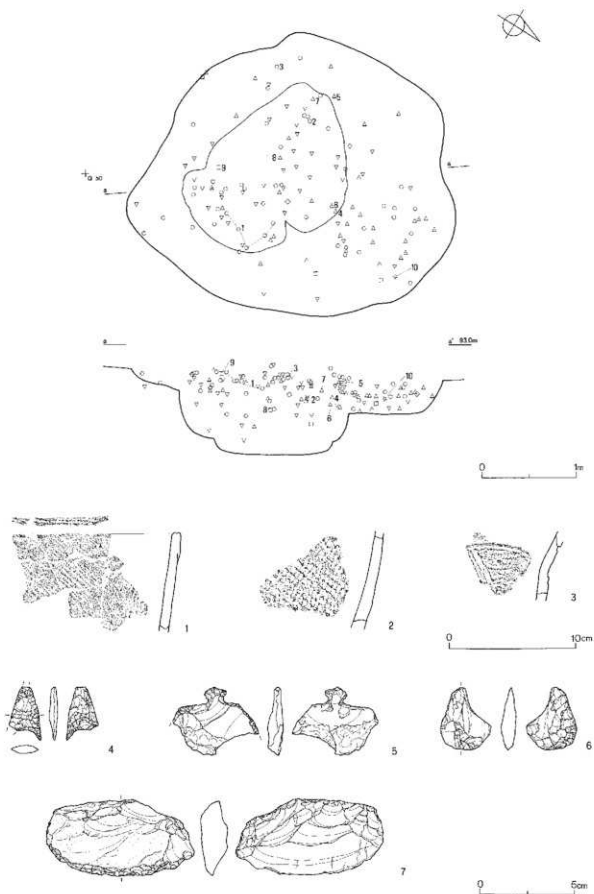
H-4



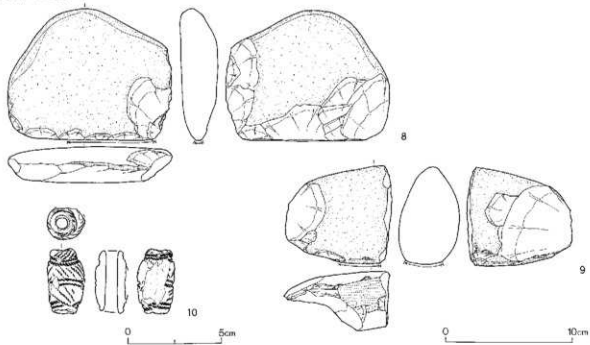
H-4遺跡断面

断面	土層1	土層2	土質	厚さ	傾斜	層位	出土品	状況	高さ(土面)	深さ(土面)	土質	
											層位	深さ
1	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	1	硬土	厚底	30%	0	V上層	
2	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	2	硬土	厚底	30%	0	V上層	
3	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	3	硬土	厚底	30%	0	V上層	
4	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	4	硬土	厚底	30%	0	V上層	
5	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	5	硬土	厚底	30%	0	V上層	
6	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	6	硬土	厚底	30%	0	V上層	
7	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	7	硬土	厚底	30%	0	V上層	
8	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	8	硬土	厚底	30%	0	V上層	
9	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	9	硬土	厚底	30%	0	V上層	
10	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	10	硬土	厚底	30%	0	V上層	
11	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	11	硬土	厚底	30%	0	V上層	
12	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	12	硬土	厚底	30%	0	V上層	
13	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	13	硬土	厚底	30%	0	V上層	
14	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	14	硬土	厚底	30%	0	V上層	
15	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	15	硬土	厚底	30%	0	V上層	
16	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	16	硬土	厚底	30%	0	V上層	
17	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	17	硬土	厚底	30%	0	V上層	
18	11000-1	11000-1	硬土	0.1	0°	18	硬土	厚底	30%	0	V上層	

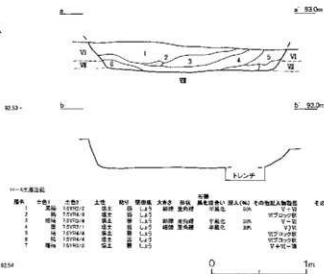
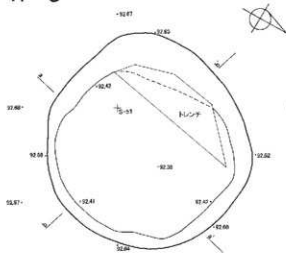
図III-10 H-4(1)



図III-11 H-4(2)

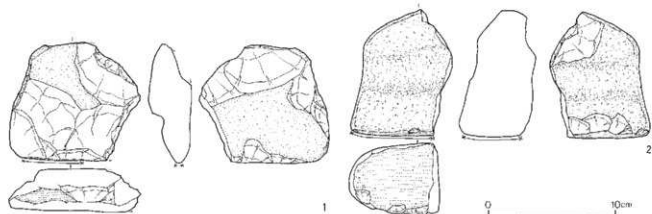


H-5



11-17.調査記録

層名	土色	土質	土性	砂付	厚層性	大気汚染	炭灰	黒電石含有(%)	鉄人(%)	その他鉄人含有	その他
1	15YR7/2	砂土	砂	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	砂質土
2	15YR7/4	砂土	砂	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	砂質土
3	15YR7/7	砂土	砂	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	砂質土
4	15YR7/4	砂土	砂	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	砂質土
5	15YR7/4	砂土	砂	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	砂質土
6	15YR7/4	砂土	砂	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	砂質土



図III-12 H-4(3)・H-5

規模：0.97/0.68×0.94/0.58×0.32m

確認・調査：VI層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦で壁の立ち上がりは開き気味に土坑の開口部へ向かう。平面は円形である。覆土は分層していない。埋め戻しによるものと考えられる。覆土中からは石皿2点、礫3点の合計5点が出土している。

時期：周辺の遺物と、土坑内から出土した礫石器から、縄文時代前期～中期前半の土坑と考えられる。

(袖岡)

掲載遺物：石器 1・2は石皿でいずれも片面を使用している。

(谷島)

P-2 (図III-14 図版8)

位置・立地：V、W-37区 標高95m程の調査区外に掛かる法面。

規模：0.76/0.64×-×0.50m

確認・調査：調査区の境を出す法切り作業中に確認。調査区外に掛かるためすべてを掘らず、主に断面のみを記録した。掘り込みはV層下面の上面で、覆土はV層下土とVI層土からなる2枚に大きく分けられる。遺物は出土していない。

時期：遺物が出土しておらず断定は出来ないが、掘り込み面付近の遺物から縄文時代後期前葉のものと考えられる。

(中山昭大)

P-3 (図III-14、15 図版8、27)

位置・立地：U-43、44区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや東側の標高93.0～93.5m。

規模：1.79/1.40×1.65/1.34×0.46m

確認・調査：V層下で黒褐色の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面形はやや不整な円である。覆土は自然埋没によるものである。1～3層に分けた。遺物は覆土中から北海道式石冠1点、石皿1点、フレイク1点、礫3点の合計6点が出土している。

時期：周辺の遺物と、土坑内から出土した礫石器から縄文時代前期～中期前半の土坑であると考えられる。

(袖岡)

掲載遺物：石器 1は北海道式石冠で左側欠損後も使用している。表割くびれ部の中央に黒色物質が付着している。2は石皿で片面が使用により大きくくぼんでいる。

(谷島)

P-4 (図III-15 図版8、9)

位置・立地：T-39区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや南側に外れたところ。標高94m

規模：0.69/0.45×0.60/0.52×0.40m

確認・調査：VI層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは垂直に近く立ち上がる。平面は円形である。覆土は1～3層に分けた。壁からの崩落が無いことや、覆土の堆積状況から埋め戻しであると判断する。遺物は覆土中よりIII群a類土器1点、礫1点で合計2点出土している。

時期：周辺からIII群a類土器が多く出土していることから、縄文時代中期前半の遺構と考えられる。

(袖岡)

P-5 (図III-16 図版9)

位置・立地：T-43区 森川を臨む右岸の段丘上、平坦な面。標高93～93.5m

規模：(0.73)／0.42×0.66／0.44×0.45m

確認・調査：Ⅵ層で黒褐色の落ち込みとして確認した。坑底はほぼ平坦で、壁の立ち上がりはやや開き気味に立ち上がる。平面は円に近い楕円形である。覆土は分層していない。埋め戻しによるものと判断する。遺物は覆土中よりⅢ群a類土器が1点出土している。

時期：周辺から出土している遺物から、縄文時代前期～後期前葉の遺構と考えられる。(袖岡)

P-6 (図Ⅲ-16 図版9)

位置・立地：T-42区 標高94m程の平坦面。

規模：(0.68)／(0.61)×(0.73)／0.56×0.36m

確認・調査：Ⅴ層下面を精査中に確認した。掘りこみ面もおそらく同層であろう。覆土はⅤ層下土による単層である。遺物は出土していない。

時期：遺物が出土しておらず断定は出来ないが、掘り込みがⅤ層下面と考えられることと周辺の同層の遺物から縄文時代中期～後期前葉のものであろう。(中山)

P-7 (図Ⅲ-16 図版9、10)

位置・立地：S-39、40区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや南側の標高93.5～94m。

規模：0.69／0.60×0.65／0.57×0.53m

確認・調査：Ⅴ層下位で黒色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦で壁の立ち上がりはほぼ垂直である。平面は円形である。覆土は1～3層に分けた。2、3層が埋め戻しと考えられる。遺物は出土していない。

時期：周辺からⅢ群a類土器が出土していることから、縄文時代中期前半に属する遺構と推測する。(袖岡)

P-8 (図Ⅲ-16 図版10)

位置・立地：S-39区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや南側の標高93.5～94m。

規模：(0.69)／0.57×0.54／0.48×0.40m

確認・調査：S-39区 Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦で壁の立ち上がりはほぼ垂直である。平面は楕円形である。覆土は分層していない。埋め戻しによるものと考えられる。遺物は出土していない。

時期：周辺からⅡ群b類土器が出土していることから縄文時代前期に属する遺構と推測する。

(袖岡)

P-9 (図Ⅲ-17 図版10、27)

位置・立地：S、T-39区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや南側の標高93.5～94m。

規模：0.93／0.65×0.86／0.60×0.55m

確認・調査：Ⅴ層下位～Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。壁の立ち上がりは一部漏斗状になっている。坑底は平坦である。平面は円形である。覆土は1～6層に分けた。埋め戻しによるものと考えられる。覆土中からの遺物はすり石1点、扁平打製石器1点、北海道式石冠1点、台石1点、石皿1点、礫4点の合計9点が出土した。

時期：遺構から出土した遺物から、縄文時代前期～中期前半に属する遺構と考えられる。(袖岡)

掲載遺物：石器 1・2は扁平打製石器で、1は自然礫の両端と上辺の左側に打ち欠けによる整形を加えている。2は打ち斜した礫を素材としたもので、左側が破損している。3は北海道式石冠の破片で、すり面は裏面側が磨り減り斜めになっている。4は台石、5は石皿で、ともに破損後も使用している。
(谷島)

P-10 (図III-18 図版11、27)

位置・立地：R、S-44区 森川を臨む右岸の段丘上。標高92～92.5m

規模：1.15/0.90×(0.40)/(0.30)×0.36m

確認・調査：包含層調査により、土坑の断面を検出して確認した。平面は楕円形である。坑底は平坦で壁の立ち上がりはやや開き気味である。掘り込み面はV層下位である。覆土は1層である。自然埋没と思われる。覆土中からはII群b-1類土器が8点、すり石1点、台石1点、合計10点が出土した。
時期：周辺からII群b-1類土器が多く出土していることから縄文時代前期に属する遺構と思われる。
掲載遺物：土器 1、2はII群b-1類土器。1は縄文地に不整な綾絡文が施されている。胎土には砂礫を含まず、繊維が含まれている。2は深鉢形土器の底部付近。複節の斜行縄文が施されている。胎土には砂礫を含まず、繊維が含まれている。
(袖岡)

P-11 (図III-18 図版11、27)

位置・立地：Q-51区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92.0m

規模：1.10/0.75×0.97/0.70×0.54m

確認・調査：V層下位で黒色土の落ち込みを確認した。平面は円形である。坑底は平坦で壁の立ち上がりは垂直に近い。覆土は自然埋没によるものと考えられる。1～3層に分けた。

遺物は覆土中からIV群a類土器が3点、つまみ付きナイフ1点、フレイク1点、合計5点出土している。

時期：周辺からII群b-1類、IV群a類土器が多く出土していることから縄文時代前期もしくは後期前葉に属する遺構と思われる。
(袖岡)

掲載遺物：石器 1はつまみ付きナイフ。左下が欠損している。
(谷島)

P-12 (図III-18、19 図版11、27)

位置・立地：T-48、49区 森川右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近のやや北側。標高92.0m

規模：(0.92)/(0.78)×(0.78)/(0.63)×0.45m

確認・調査：包含層調査により遺構の土層断面を検出して確認した。平面は楕円形である。坑底は丸に近い。覆土は1～4層に分けた。2～4層は埋め戻しによるものと考えられる。遺物は覆土中からIV群a類土器が1個体分出土した。これを含むIV群a類土器73点、扁平打製石器2点、Uフレイク1点、フレイク2点、合計78点出土した。

時期：埋め戻しによる覆土からIV群a類土器が出土したことから、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1はIV群a類の深鉢形土器。平縁と思われる。口唇は平坦である。地文はRLの斜行縄文で、胴部から底部にかけて、一部縄の回転方向を変えて施文されている。底面から胴部にかけての狭い範囲ではナデ調整が施されている。
(袖岡)

石器 2はUフレイクで下辺に使用痕がみられる。3・4は扁平打製石器。3は打ち斜した礫を素材

とし、周辺に主に裏面からの粗い剝離を加え整形を施している。4は扁平礫の周囲を打ち欠いて半円状に整形したものである。左半分は破損している。(谷島)

P-13 (図III-20~22 図版12、28、30)

位置・立地：U-50区 標高91.5~92m、台地が張り出す北側の斜面に面するところ。標高91.5~92m
規模：1.01/0.77×0.88/0.64×0.46m

確認・調査：VI層上面で黒~黒褐色の落ち込みとして確認した。平面は円形である。坑底は平坦で壁の立ち上がりは急で明瞭である。覆土は2層以下が埋め戻しによるものと思われる。1~5層まで分けた。遺物は覆土中からII群b-1類土器が104点、石鏃1点、スクレイパー1点、すり石1点、石核1点、フレイク5点、礫10点が出土した。坑底からはII群b-1類土器が13点、たたき石1点、すり石1点、礫2点出土。覆土、坑底で合計140点出土している。

時期：坑底からII群b-1類土器が出土したことから縄文時代前期の遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1、2は坑底出土のもの。3~10は覆土中からのもの。1は深鉢形土器。複節の斜行縄文地のもの。口径と底径の差が大きい。口唇部の調整は丁寧である。やや外側に反る。内面調整は横方向にミガキ、ナデが施されている。胎土には粒径1~3mmの細礫が多く含まれる。繊維の混入は多くないように見受けられる。2は底部。土器表面は磨耗が著しい。底面はやや上げ底気味となる。胎土には粒径1~3mmの細礫が多く含まれる。胎土には繊維の混入が観察できる。3、4は横位に1段Lの絡糸体による回転文が施されているもの。3は胎土には礫の混入はごくわずかで、繊維が多く混入されている。内面は縦方向にナデ調整が施されている。4は胎土に粒径0.5~2mm程度の細礫を含む。内面は横方向に磨かれている。5は地文が複節の斜行縄文のもの。内面には条痕文が施されている。胎土には粒径1~3mmの細礫が多く含まれている。6は複節の斜行縄文が施されている底部破片。胎土には粒径1~3mmの細礫が多く含まれている。7は胴部と底部に1段Rの単軸絡糸体による回転文が施されているもの。砂礫の混入はごくわずかで、繊維が多く混入されている。8、10は単節の斜行縄文のもの。8は内面の調整は雑で、不規則な条痕がみられる。10は上げ底気味のもの。底面にも縄文が施されている。8、10共に胎土には砂・細礫を殆ど含まず、繊維が多く混入されている。9は複節の斜行縄文が施されている底部。底面にも縄文が施される。わずかに上げ底気味となる。胎土には砂礫の混入はごくわずかで、繊維が多く混入されている。内面は剝落している。

(袖岡)

石器 11は三角形凹基の石鏃で基部の抉りが深く目立つもの。12はスクレイパーで左上部に刃部調整が加えられている。13はたたき石で上下両端に使用痕がみられ、左上端から裏面にかけ赤色物質がみられる。14は断面三角形の礫を素材としたすり石の破片である。(谷島)

P-14 (図III-23 図版12、30)

位置・立地：S-47、48区 森川を臨む右岸の段丘上。標高92~92.5m
規模：1.24/1.11×0.85/0.77×0.25m

確認・調査：VI層上面で暗褐色の落ち込みとして確認した。平面は角丸方形である。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。覆土は1~4層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中からフレイク1点、礫1点の合計2点が出土した。

時期：周辺の遺物等から縄文時代前期~後期前葉の遺構と考えられる。

(袖岡)

掲載遺物：石器 1はフレイクで加工痕及び使用痕は無い。

(谷島)

P-15 (図III-23 図版12、30)

位置・立地：S-30区 調査区中央部の標高96mの緩斜面に位置する。

規模：1.09/0.83×0.92/0.65×0.30m

確認・調査時期：畑跡の下、V層中程で検出した。平面形は卵形、坑底はやや丸みがあり、VI層上面まで掘り込んで構築されている。覆土は2層に分かれ上層は自然堆積、下層は埋め戻しと考えられる。

遺物出土状況：覆土上位からII群b類が2点、中位からVI群土器が17点、下位から礫が1点出土している。

時期：検出層位、出土遺物から縄文時代の遺構である。(谷島)

掲載遺物：土器 1はVI群土器。深鉢形土器の底部。(袖岡)

P-16 (図III-24 図版13、30)

位置・立地：P-51、52区 森川を臨む右岸の台地よりやや斜面より。標高91.5m

規模：1.03/1.04×0.87/0.82×0.59m

確認・調査：VI層で一部木根により攪乱された黒色土の落ち込みとして確認した。一部不明瞭な部分があったのでサブトレンチを入れながら半截していったところ平坦な墳底と一部オーバーハングしながら急に立ちあがる壁を確認し土坑と認定した。平面は丸に近い楕円形である。覆土は自然埋没によるものと考えられる。1～3層に分けた。遺物は覆土中より土器がII群b-1類1点、III群a類1点、石器等でスクレイパー1点、両面調整石器1点、扁平打製石器1点、Uフレイク1点、フレイク2点、礫6点出土した。坑底からの出土遺物は礫が1点出土。覆土、坑底あわせて15点出土した。

時期：周辺からII群b-1類、III群a類土器が多く出土していることから縄文時代前期～中期前半の遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1はII群b-1類土器。複筋の斜行縄文が施されている。胎土には粒径0.5～2mmの砂・細礫を多く含む。内面はナデ調整が施されている。(袖岡)

石器 2はスクレイパーで下の右下辺を刃部調整が加えられている。左下辺と右上辺には使用痕がみられる。尖頭部をもつスクレイパーの先端部破片の可能性がある。3は両面調整石器である。4はUフレイクで右上辺と下辺右側に使用痕がみられる。5は打ち割した礫を素材とした扁平打製石器で、被熱のため表面の左下半分は赤変し右辺側と裏面は黒く変色している。(谷島)

P-17 (図III-24 図版13、30)

位置・立地：Q、R-49区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模：(0.85)/(0.69)×(0.55)/(0.44)×0.46m

確認・調査：包含層調査により土坑の断面を確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは垂直に近い。平面は楕円形である。覆土は1～5層に分けた。埋め戻しによるものと考えられる。遺物は覆土中から土器がII群b-1類1点、IV群a類3点出土。石器等で石鏃1点、フレイク1点、合計6点の遺物が出土した。

時期：埋め戻しの覆土からIV群a類土器が出土していることから、縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1はIV群a類土器の口縁部破片。口唇の断面は平坦になっている。(袖岡)

石器 2は三角形凹基の石鏃で尖頭部は破損している。(谷島)

P-18 (図III-25 図版13、30)

位置・立地：R-49区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模：(0.53)/0.41×(0.43)/0.29×0.41m

確認・調査：木根によって攪乱を受けていたところを掘り下げたところ、平坦な床と急で明瞭な壁を検出し土坑を確認した。覆土下からはⅣ群 a 類土器が少量まとまった形で検出された。平面は一部木根による攪乱を受けているが円形である。覆土の堆積状況は木根により攪乱されていた。遺物は覆土下よりⅣ群 a 類土器が17点、礫1点の合計18点が出土した。

時期：覆土下位より出土したⅣ群 a 類土器から縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1は覆土下位より出土したⅣ群 a 類。P-19の掲載土器2と同一個体破片。深鉢形で地文は斜行縄文が施されている。(袖岡)

P-19 (図III-25、26 図版13、14、31)

位置・立地：R-49区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模：0.73/0.58×0.65/0.50×0.48m

確認・調査：Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦で、壁の立ち上がりは漏斗状になる。この土坑はP-33を切る形で構築している。平面は円形である。覆土は自然埋没によるものである。1～4層に分けた。遺物はP-18の覆土下から出土したⅣ群 a 類土器と同一個体の破片が覆土3層の上に流れ込んでいた状況で検出した。これを含む覆土からの遺物は、Ⅲ群 b 類土器17点、Ⅳ群 a 類土器165点、フレイク1点、礫片5点、合計188点出土した。

時期：坑底に近いところからⅢ群 b 類土器が出土したことから縄文時代中期後半の遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1はⅢ群 b 類土器。小形の深鉢形で、波頂部が1対の波状口縁。地文は縦に櫛歯状工具による条痕文が施される。内面の調整はナデ、ミガキによるもの。2はP-18の掲載土器1と同一個体のもの。口唇の断面は角となっている。(袖岡)

P-20 (図III-25、26 図版14、31)

位置・立地：R-49区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模：1.00/0.82×(0.78)/0.60×0.38m

確認・調査：Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。平面は楕円形である。覆土は1～4層に分けた。埋め戻しによるものと考えられる。遺物は覆土中からⅣ群 a 類土器1点、Uフレイク1点、フレイク1点出土している。坑底からは台石1点、合計4点出土した。

時期：埋め戻しである覆土中からⅣ群 a 類土器が出土したことから縄文時代後期前葉の遺構と考えられる。(袖岡)

掲載遺物：石器 1はUフレイクで左側辺に使用痕がみられる。2は台石で片面に使用痕がみられ、図の左側に黒色物質が付着している。(谷島)

P-21 (図III-25、26 図版14、31)

位置・立地：R-49区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模：0.71/0.56×0.58/0.42×0.29m

確認・調査:Ⅳ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面は楕円形である。覆土1～4層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中からⅡ群b-1類土器1点、Ⅲ群b類土器6点、石錐1点、礫16点、合計24点出土している。

時期:隣接するP-19と、覆土中のⅢ群b類土器から縄文時代中期後半の遺構と考えられる。

掲載遺物:土器 1、2はⅢ群b類。1は地文の燃糸圧痕文に沈線が施されている。2は節歯状工具による縦位の条痕文に沈線が施されている。(袖岡)

石器 3は縦長剝片を素材とした石錐で下端に機能部が作り出されている。石材はメノウである。(谷島)

P-22 (図Ⅲ-25 図版14)

位置・立地:R-49区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模:0.71/0.52×(0.42)/(0.34)×0.32m

確認・調査:P-21の調査で、重複する土坑を検出した。土層観察により、P-21より古い土坑であることを確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面は楕円形である。覆土は1～3層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中より礫片1点出土している。

時期:縄文時代中期後半と考えられる土坑に切られているので、縄文時代前期～中期の遺構と考えられる。(袖岡)

P-23 (図Ⅲ-27 図版14、15、31)

位置・立地:P-51区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模:1.76/1.60×(1.14)/(1.08)×0.35m

確認・調査:V層下位で黒色～暗褐色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦で南側が2段になる。壁の立ち上がりは急で明瞭である。覆土は1～5層に分けた。自然埋没によるものである。

遺物は覆土中よりⅡ群b-1類土器4点、Ⅲ群a類土器1点、扁平打製石器1点、礫6点の合計12点出土した。

時期:周辺から出土している遺物から縄文時代前期～後期前葉に属する遺構と考えられる。

掲載遺物:土器 1はⅡ群b-1類。地文は単節の斜行縄文。胎土に砂礫を殆ど含まず、繊維の混入が多い。内面は剥落している。(袖岡)

石器 2は扁平打製石器の未使用品である。両端に打ち欠きを加えられている。(谷島)

P-24 (図Ⅲ-28 図版15、31)

位置・立地:R-50区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模:1.05/0.54×0.96/0.57×0.38m

確認・調査:Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは開き気味になり、土坑の南側では断面が漏斗状になる。平面は円形である。覆土は黒色土1層のみである。埋め戻しの土であることが考えられる。遺物は覆土中からⅡ群b-1類土器8点、Ⅳ群a類土器1点、フレイク5点、礫1点、合計15点出土している。

時期:覆土中からの遺物と、周辺からⅡ群b-1類土器が多く出土していることから縄文時代前期に属する遺構と考えられる。

掲載遺物:土器 1はⅡ群b-1類。地文は1段Lの単軸絡条体による回転施文。胎土には砂が含まれ

ている。内面は磨かれている。

(袖岡)

P-25 (図III-28 図版15、31)

位置・立地：S-49区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92.5m

規模：0.93/0.65×0.72/0.46×0.27m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりはやや開き気味となる。平面は楕円形である。覆土は1～3層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。覆土中からはたたき石1点、すり石1点、北海道式石冠1点、礫片1点、合計4点出土している。

時期：周辺からⅡ群b-1類とⅣ群a類土器が多く出土していることから、縄文時代前期もしくは後期前葉に属する遺構と考えられる。

(袖岡)

掲載遺物：石器 1は卵形の礫を素材としたたたき石で、下端及び左側縁に使用痕がみられる。被熱のため表面下半に黒色物質が付着している。2は北海道式石冠でU50区Ⅴ層上出土の破片と接合した。正面先端部のくびれ部分へすり面に黒色物質が付着している。U50区Ⅴ層上出土の破片は接合部が被熱で変色している。被熱による破損と思われる。

(谷島)

P-26 (図III-29 図版15、31)

位置・立地：T-51区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92m

規模：1.23/0.88×1.10/0.76×0.66m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒～褐色の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは垂直に近い。平面は円形である。覆土は1～10層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中よりⅡ群b-1類土器12点、Ⅲ群b類土器1点、つまみ付きナイフ1点、フレイク1点、合計15点出土している。

時期：周辺からⅡ群b-1類が多く出土している。縄文時代前期に属する遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1～3はⅡ群b-1類。4はⅢ群b類。1は複節の斜行縄文が施されている。口唇はやや外反する。内面には横位に条痕文が施されている。胎土には粒径4mmほどの細礫と砂を多く含む。2は縄文地に不整な綾絡文が施されている。3は上げ底で底面に縄文が施されているもの。4は節歯状工具による条痕文が施されている。

(袖岡)

石器 5は模型のつまみ付きナイフで打点より下の左側辺につまみ部を作出している。正面左側が破損している。

(谷島)

P-27 (図III-30 図版16)

位置・立地：T-48区 森川を臨む右岸の段丘上、張り出す台地先端の北側。標高92.5m

規模：0.63/0.45×0.56/0.39×0.28m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面は円形である。覆土は1層のみである。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中から礫片1点出土した。

時期：周辺からⅡ群土器と、Ⅲ群a類土器が多く出土していることから縄文時代前期～中期前半の遺構と考えられる。

(袖岡)

P-28 (図III-30 図版16)

位置・立地：T-48区 森川を臨む右岸の段丘上、張り出す台地先端の北側。標高92.5m

規模：0.57/0.34×0.54/0.37×0.20m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面は円形である。覆土は分層していない。自然埋没によるものと考えられる。出土遺物はない。

時期：周辺からⅡ群土器と、Ⅲ群 a 類土器が多く出土していることから縄文時代前期～中期前半の遺構と考えられる。(袖岡)

P-29 (図Ⅲ-30 図版16)

位置・立地：T、U-48区 森川を臨む右岸の段丘上、張り出す台地先端の北側。標高92.5m

規模：0.63/0.47×0.56/0.40×0.25m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面は円形である。覆土は1～3層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。出土遺物はない。

時期：周辺からⅡ群土器と、Ⅲ群 a 類土器が多く出土していることから縄文時代前期～中期前半の遺構と考えられる。(袖岡)

P-30 (図Ⅲ-31 図版16、17、32)

位置・立地：T-46区 森川を臨む右岸の段丘上。標高92.5～93m

規模：0.83/0.71×0.69/0.58×0.36m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みとして検出した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面は楕円形である。覆土は分層していない。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中よりⅡ群 b-1 類土器が3点、Ⅱ群 b-2 類土器が3点、フレイク1点出土。覆土下より、Ⅱ群 b-2 類土器4点、合計11点が出土した。

時期：覆土下よりⅡ群 b-2 類土器が出土したことから縄文時代前期後半の遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1はⅡ群 b-2 類。地文は縦に単軸絡条体の回転文が施されている。(袖岡)

P-31 (図Ⅲ-30、31 図版17)

位置・立地：T-48区 森川を臨む右岸の段丘上、張り出す台地先端の北側。標高92.5m

規模：0.71/0.46×0.66/0.48×0.42m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みとして検出した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは垂直に近い。平面は円形である。覆土は1～2層に分けた。埋め戻しによるものと考えられる。覆土からはⅢ群 a 類土器が1点出土している。

時期：坑底からⅢ群 a 類土器が出土しているP-36を切っていることから、縄文時代中期後半～後期前葉の遺構と考えられる。(袖岡)

P-32 (図Ⅲ-30、31 図版17)

位置・立地：T-48区 森川を臨む右岸の段丘上、張り出す台地先端の北側。標高92.5m

規模：0.70/0.62×0.63/0.48×0.30m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明

跡である。平面は楕円形である。覆土は分層していない。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中からⅡ群b-1類土器2点、Ⅲ群a類土器2点、Ⅳ群a類土器2点、フレイク1点出土。覆土下からはⅣ群a類土器7点、合計14点が出土した。

時期：中期前半のP-36を切っており、覆土下よりⅣ群a類土器が出土したことから縄文時代後期前葉に属する遺構と考えられる。(袖岡)

P-33 (図Ⅲ-25 図版17)

位置・立地：R-49区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92～92.5m

規模：0.78/—×—/—×0.35m

確認・調査：P-19、21の調査で黒色～暗褐色土の落ち込みとして検出した。坑底は平坦で、壁の立ち上がりはやや開き気味となる。平面は円形だったと考えられる。覆土は1～5層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中よりⅣ群a類土器2点、すり石片1点、礫5点、炭化物25点、合計33点出土している。

時期：縄文時代中期後半に属するP-19、21に切られていることから、前期～中期に属する遺構と考えられる。(袖岡)

P-34 (図Ⅲ-32 図版18)

位置・立地：T-50区 標高92.7m程の平坦面に立地。

規模：0.70/0.56×0.68/0.48×0.20m

確認・調査：Ⅵ層面を精査中に確認。覆土はⅤ層下土とⅥ層土からなる3枚に分けられるが自然堆積のようで境界は判然としない。坑底面中央は若干の段が認められる。遺物は出土していない。

時期：遺物が出土しておらず断定は出来ないが、周辺の遺物より縄文時代前期～後期のものであろう。(中山)

P-35 (図Ⅲ-32 図版18)

位置・立地：R-51区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92.0～92.5m

規模：0.64/0.36×(0.45)/0.32×0.36m

確認・調査：Ⅵ層上面で黒褐色土の落ち込みとして検出した。坑底は平坦、壁の立ち上がりはやや開き気味となる。平面は楕円形である。覆土は1～5層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。遺物は出土していない。

時期：周辺からⅢ群a類土器が多く出土していることから、縄文時代中期前半に属する遺構と考えられる。(袖岡)

P-36 (図Ⅲ-30、31 図版18、32)

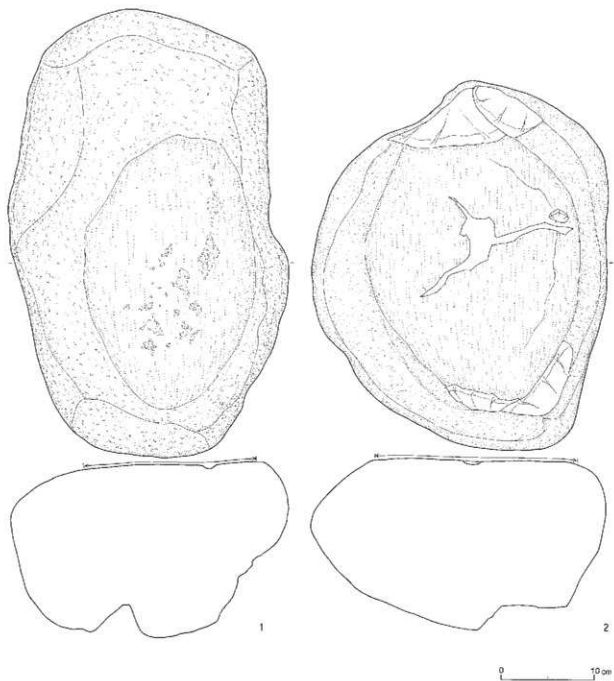
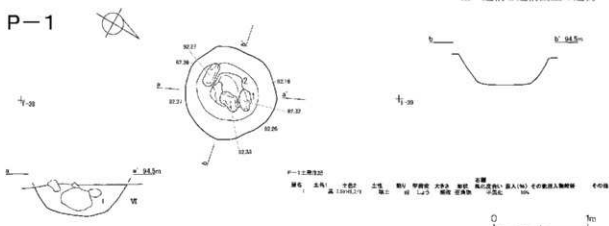
位置・立地：T-48区 標高92.5m、森川を臨む右岸の段丘上、張り出す台地先端の北側。92.5m

規模：1.24/0.99×1.22/0.86×0.40m

確認・調査：P-31、32の調査により黒色の落ち込みを確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりはやや開き気味となる。平面は円形である。覆土は1～2層に分けた。埋め戻しによるものと考えられる。遺物は覆土中よりⅡ群b-1類土器1点、Ⅱ群b-2類土器1点、Ⅲ群a類土器39点、Ⅳ群a類土器1点、礫6点出土。坑底からはⅢ群a類土器3点出土。合計51点出土した。

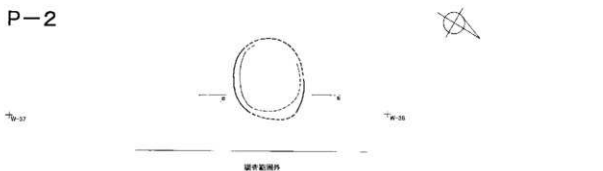
III 遺構と遺構出土の遺物

P-1



図III-13 P-1

P-2

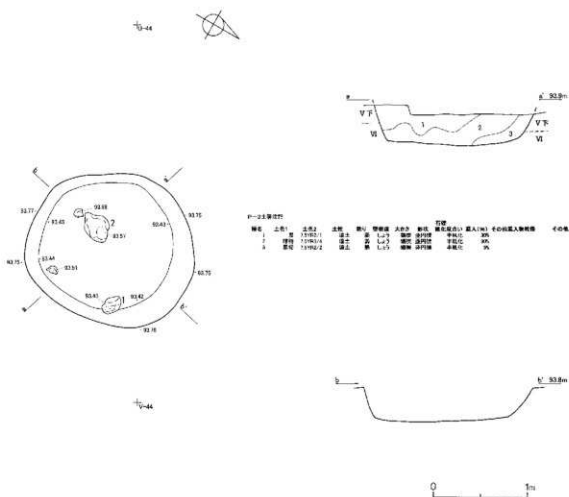


P-21 遺構表

層別	土色	土質	形状	厚さ	面積	用途	位置	調査者	調査日
1	黄褐色	砂質土	円形	0.15	0.5	基礎	森町森川3遺跡	森町	昭和25年
2	黄褐色	砂質土	円形	0.15	0.5	基礎	森町森川3遺跡	森町	昭和25年



P-3

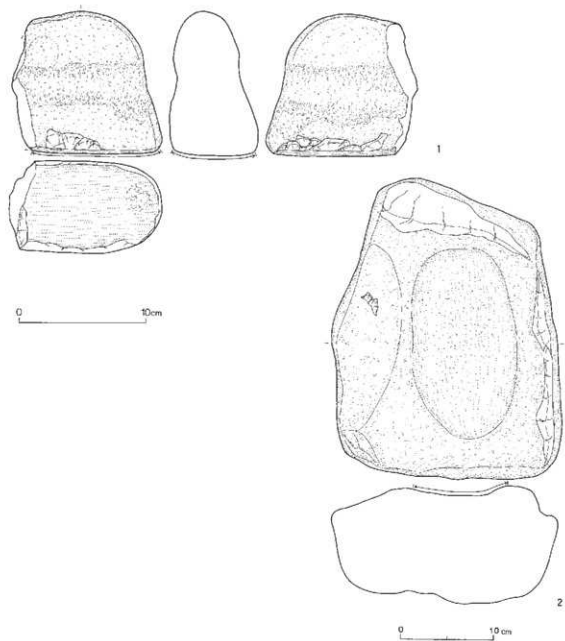


P-31 遺構表

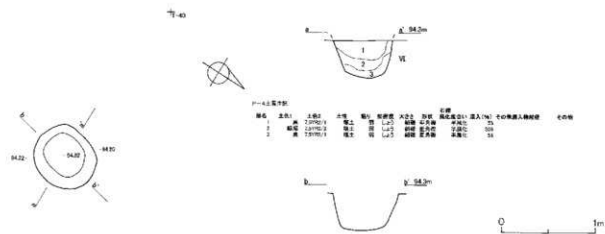
層別	土色	土質	形状	厚さ	面積	用途	位置	調査者	調査日
1	黄褐色	砂質土	円形	0.15	0.5	基礎	森町森川3遺跡	森町	昭和25年
2	黄褐色	砂質土	円形	0.15	0.5	基礎	森町森川3遺跡	森町	昭和25年
3	黄褐色	砂質土	円形	0.15	0.5	基礎	森町森川3遺跡	森町	昭和25年



図III-14 P-2・P-3(1)

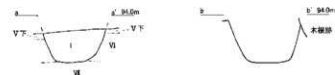
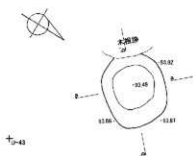


P-4



図III-15 P-3(2)・P-4

P-5

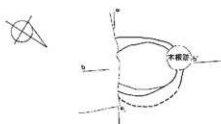


P-5土層断面

層別 土色① 土色② 土性 粘土 砂質 硬質 大砂② 砂② 砂質 腐植土① 腐土①(%) 中の埋入物種類 中心点

1 黄 12700/1 硬土 砂 L.25 砂質 腐植土 腐植土 34

P-6

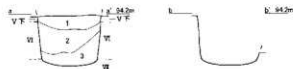
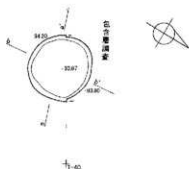


P-6土層断面

層別 土色① 土色② 土性 粘土 砂質 硬質 大砂② 砂② 砂質 腐植土① 腐土①(%) 中の埋入物種類 中心点

1 黄 12700/1 硬土 砂 L.25 砂質 腐植土 腐植土 36

P-7



P-7土層断面

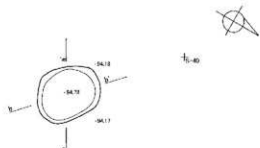
層別 土色① 土色② 土性 粘土 砂質 硬質 大砂② 砂② 砂質 腐植土① 腐土①(%) 中の埋入物種類 中心点

1 黄 12700/1 硬土 砂 L.25 砂質 腐植土 腐植土 34

2 黄 12700/1 硬土 砂 L.25 砂質 腐植土 腐植土 34

3 黄 12700/1 硬土 砂 L.25 砂質 腐植土 腐植土 34

P-8



P-8土層断面

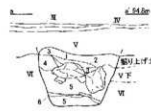
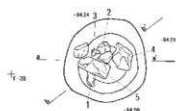
層別 土色① 土色② 土性 粘土 砂質 硬質 大砂② 砂② 砂質 腐植土① 腐土①(%) 中の埋入物種類 中心点

1 黄 12700/1 硬土 砂 L.25 砂質 腐植土 腐植土 35



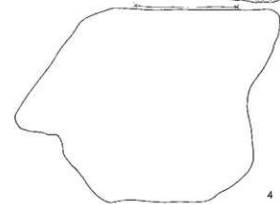
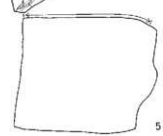
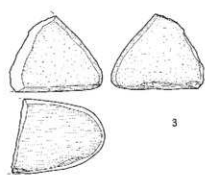
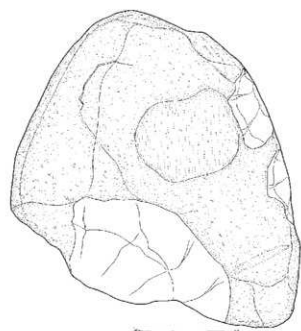
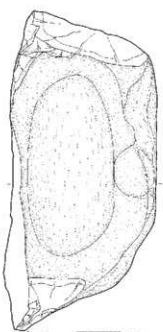
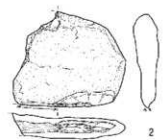
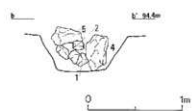
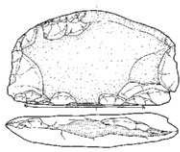
図III-16 P-5・P-6・P-7・P-8

P-9



P-9の遺物

層名	土層1	土層2	土層3	土層4	土層5	土層6	土層7	土層8	土層9	土層10	土層11	土層12	土層13	土層14	土層15	土層16	土層17	土層18	土層19	土層20	土層21	土層22	土層23	土層24	土層25	土層26	土層27	土層28	土層29	土層30	土層31	土層32	土層33	土層34	土層35	土層36	土層37	土層38	土層39	土層40	土層41	土層42	土層43	土層44	土層45	土層46	土層47	土層48	土層49	土層50	土層51	土層52	土層53	土層54	土層55	土層56	土層57	土層58	土層59	土層60	土層61	土層62	土層63	土層64	土層65	土層66	土層67	土層68	土層69	土層70	土層71	土層72	土層73	土層74	土層75	土層76	土層77	土層78	土層79	土層80	土層81	土層82	土層83	土層84	土層85	土層86	土層87	土層88	土層89	土層90	土層91	土層92	土層93	土層94	土層95	土層96	土層97	土層98	土層99	土層100	
1	10000	10001	10002	10003	10004	10005	10006	10007	10008	10009	10010	10011	10012	10013	10014	10015	10016	10017	10018	10019	10020	10021	10022	10023	10024	10025	10026	10027	10028	10029	10030	10031	10032	10033	10034	10035	10036	10037	10038	10039	10040	10041	10042	10043	10044	10045	10046	10047	10048	10049	10050	10051	10052	10053	10054	10055	10056	10057	10058	10059	10060	10061	10062	10063	10064	10065	10066	10067	10068	10069	10070	10071	10072	10073	10074	10075	10076	10077	10078	10079	10080	10081	10082	10083	10084	10085	10086	10087	10088	10089	10090	10091	10092	10093	10094	10095	10096	10097	10098	10099	10100



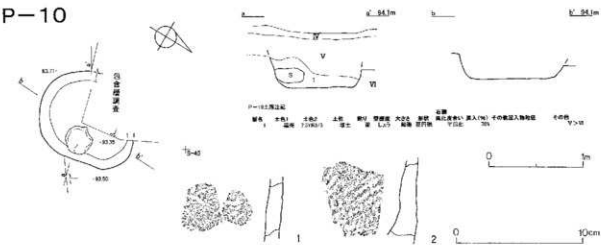
0 10cm

0 10cm

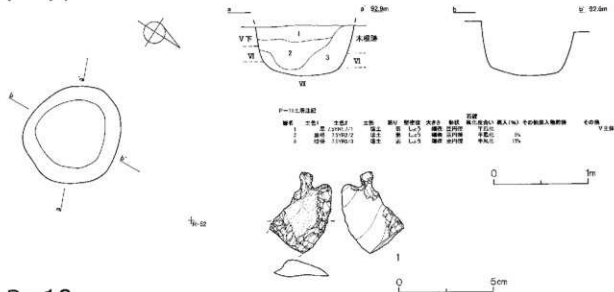
図III-17 P-9

森町森川3遺跡

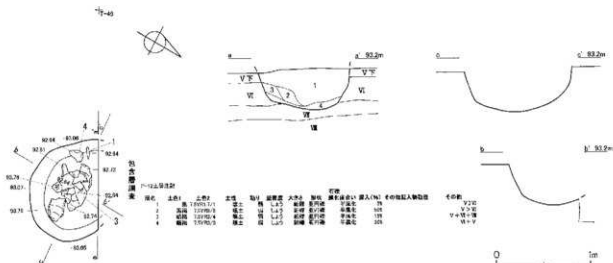
P-10



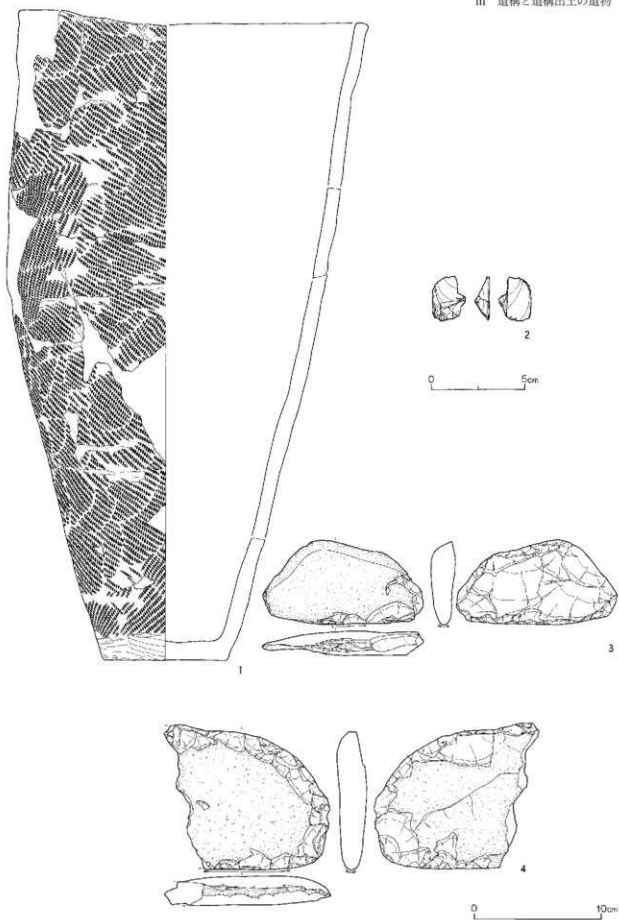
P-11



P-12

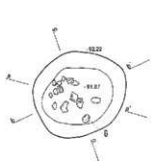


図III-18 P-10・P-11・P-12(1)

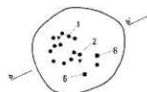


図III-19 P-12(2)

P-13

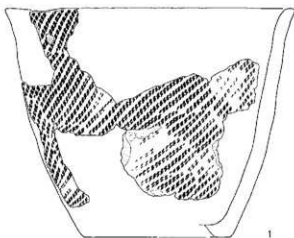


↑N



P-13(1)の縦切

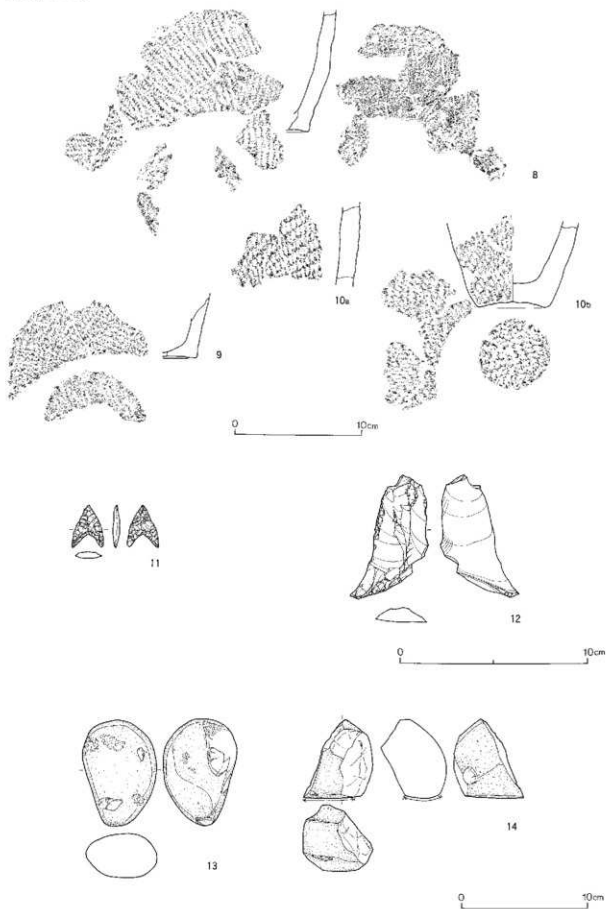
番号	土色	主成分	土質	磁石	磁石	人骨	骨灰	遺物	調査者(発掘・発見者)	中心部掘削人	その他
1	黒	2000/1/1	粘土	弱	L4.5			銅貨	中島茂		13号
2	黒	2000/2/2	粘土	弱	L4.5			銅貨	中島茂		13号
3	黒	2000/3/3	粘土	弱	L4.5			銅貨	中島茂	200	13号
4	黒	2000/4/4	粘土	弱	L4.5			銅貨	中島茂	200	13号
5	黒	2000/5/5	粘土	弱	L4.5			銅貨	中島茂	200	13号



図III-20 P-13(1)

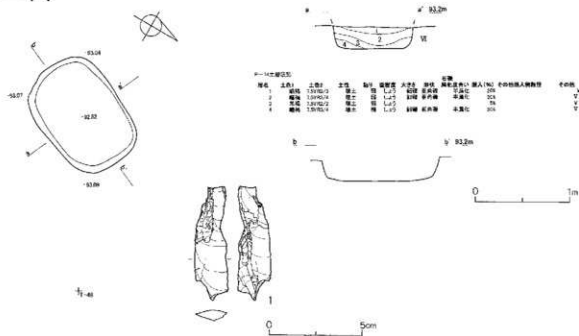


図III-21 P-13(2)

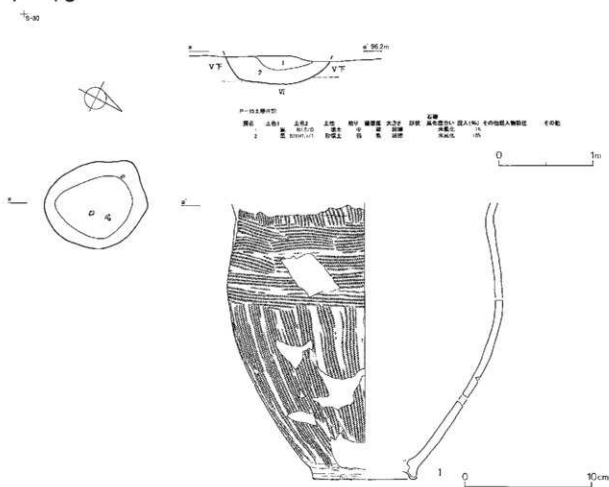


図III-22 P-13(3)

P-14

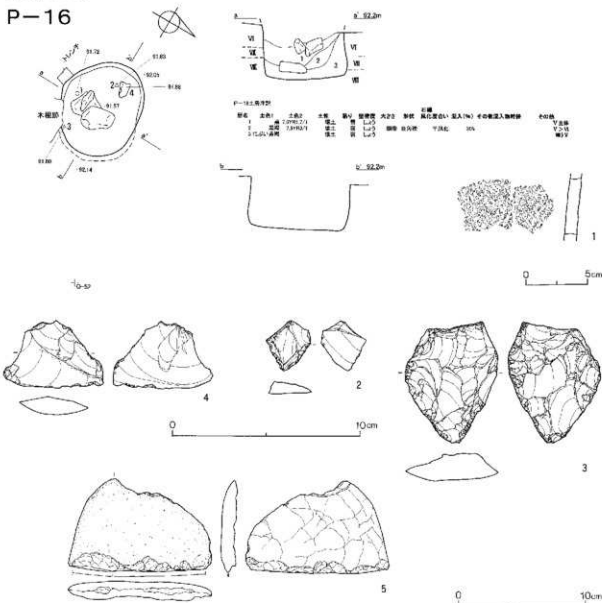


P-15

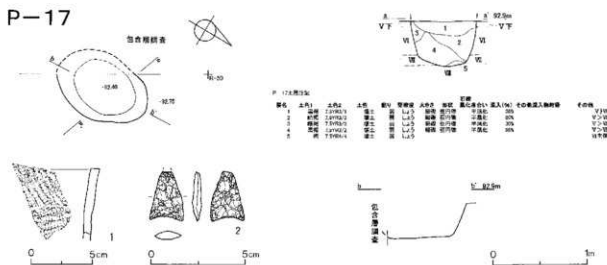


図III-23 P-14・P-15

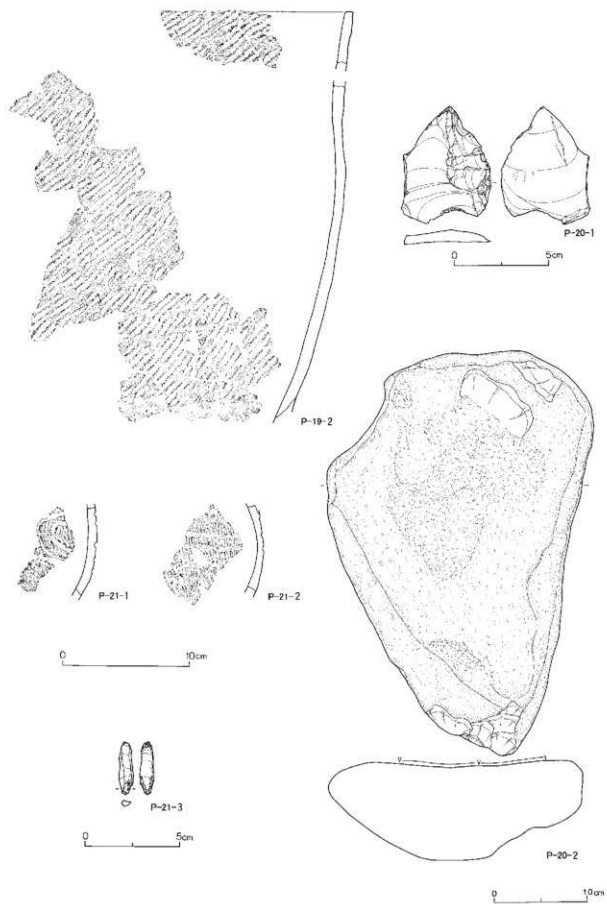
P-16



P-17



図III-24 P-16・P-17

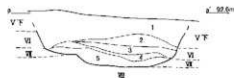


図III-26 P-19・20・21(2)

P-23

79-51

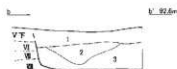
[総合図面]



包含層調査

P-23土層調査

層号	土層1	土層2	土層3	土層4	土層5	土層6	土層7	土層8	土層9	土層10	土層11	土層12	土層13	土層14	土層15
1	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂
2	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂
3	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂
4	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂
5	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂

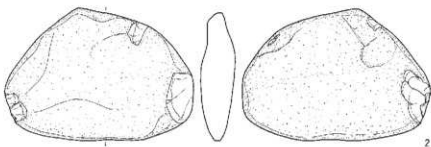


P-23土層調査

層号	土層1	土層2	土層3	土層4	土層5	土層6	土層7	土層8	土層9	土層10	土層11	土層12	土層13	土層14	土層15
1	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂
2	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂
3	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂	砂



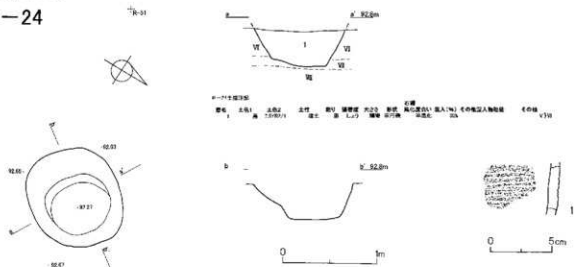
0 10cm



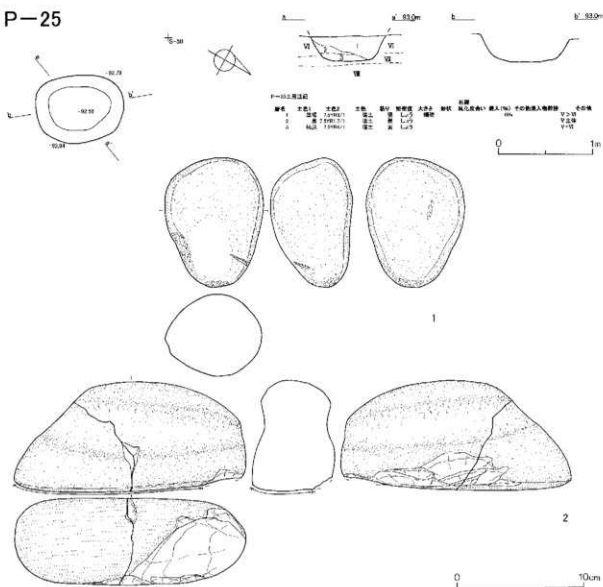
0 10cm

図III-27 P-23

P-24



P-25



図III-28 P-24・P-25

時期：坑底からⅢ群 a 類土器が出土したことから縄文時代中期前半に属する遺構と考えられる。

掲載遺物：土器 1 はⅡ群 b-1 類。2、3 はⅢ群 a 類。2 は縄文地に綾絡文が施されている。3 は斜行縄文地に綾絡文が施されている。2 本の粘土紐による小突起は剥落している。実測図正面の突起より左側の口唇部は縄による刻みが、右側には縄線が施されている。(袖岡)

P-37 (図Ⅲ-32 図版18、19、32)

位置・立地：T-45区 標高93.5m 程の平坦面。

規模：1.19/0.92×0.98/0.70×0.54m

確認・調査：Ⅵ層面を精査中に確認。覆土は9枚に分けられ、埋め戻しによる複雑な様相を呈している。断面形はちょうどお椀のように最下層が1段低くなっており、そこからⅡ群 b 類土器が1点出土した。その他覆土からⅣ群 a 類土器5点、フレイク1点が出土した。

時期：出土遺物から縄文時代前期Ⅱ群 b 類土器の時期のものと考えられる。(中山)

掲載遺物：土器 1、2 はⅣ群 a 類。2 は粘土帯の上から斜行縄文が施されているもの。(袖岡)

P-38 (図Ⅲ-33 図版19、32)

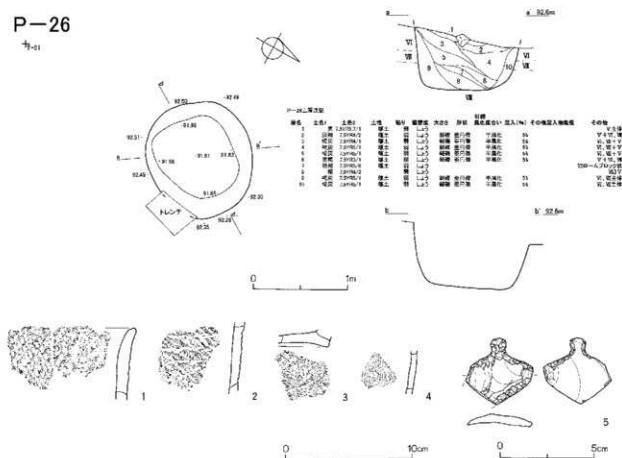
位置・立地：T-45区 標高93.4m 程の平坦面に立地する。

規模：0.85/0.72×0.72/0.68×0.42m

確認・調査：Ⅵ層面を精査中に確認した。覆土は6枚に分けられるが、大きくは2層になる。覆土上

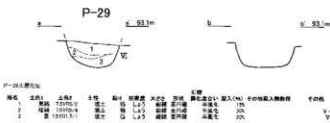
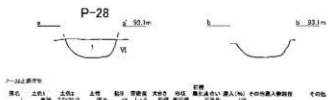
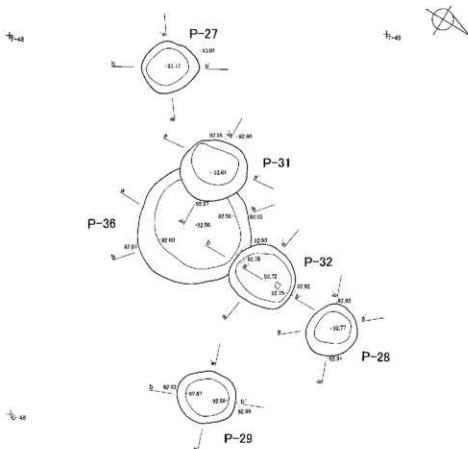
P-26

41

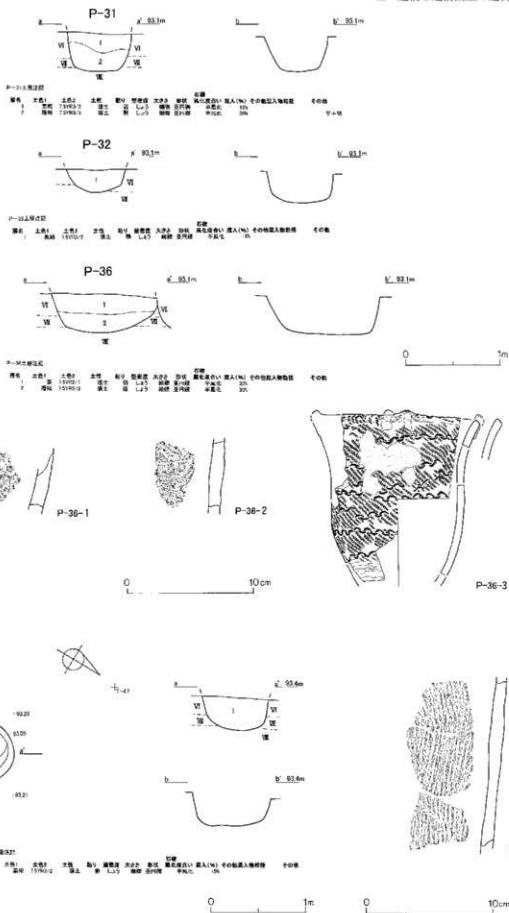


図Ⅲ-29 P-26

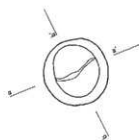
P-27・28・29・31・32・36



図III-30 P-27・28・29・31・32・36(1)



P-34



↑R-34



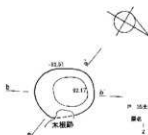
P-34 遺跡断面

断面	土層	土質	土色	厚	層厚	大中小	形状	高さ(約)	深さ(約)	中心部	内径(約)	外径(約)	その他
1	表層	13102-1	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V1
2	中層	13102-2	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V2
3	底層	13102-4	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V3



P-35

↑R-35



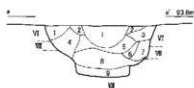
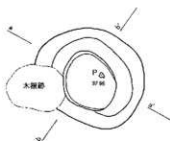
P-35 遺跡断面

断面	土層	土質	土色	厚	層厚	大中小	形状	高さ(約)	深さ(約)	中心部	内径(約)	外径(約)	その他
1	表層	13102-2	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V1
2	中層	13102-4	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V2
3	底層	13102-1	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V3
4	表層	13102-4	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V4



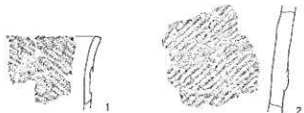
P-37

↑R-37



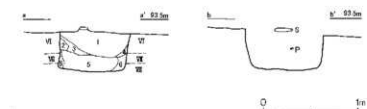
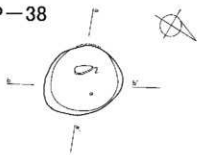
P-37 遺跡断面

断面	土層	土質	土色	厚	層厚	大中小	形状	高さ(約)	深さ(約)	中心部	内径(約)	外径(約)	その他
1	表層	13102-2	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V1-V2
2	中層	13102-4	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V3
3	底層	13102-1	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V4
4	表層	13102-4	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V5
5	中層	13102-2	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V6
6	底層	13102-1	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V7
7	表層	13102-4	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V8
8	中層	13102-2	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V9
9	底層	13102-1	赤土	約	約	約	約	約	約	約	約	約	V10



図III-32 P-34・35・37

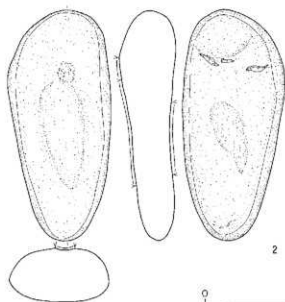
P-38



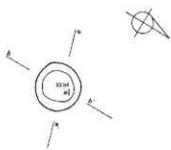
+D-46

P-38遺構

層	土質	土色	土厚	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層
1	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm
2	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm
3	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm
4	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm



P-39

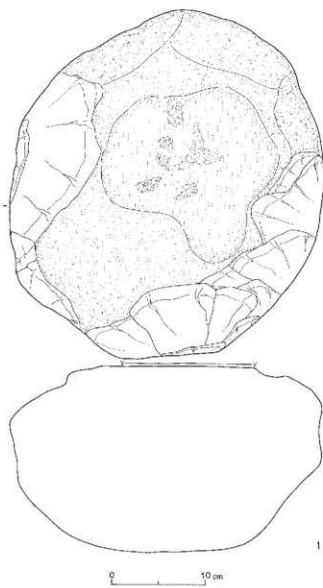
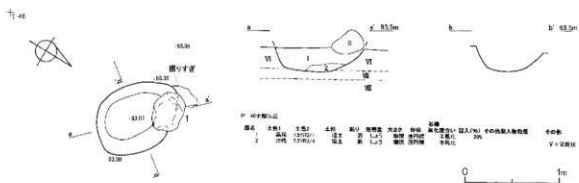


P-39遺構

層	土質	土色	土厚	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層	層
1	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm
2	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm
3	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm
4	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm	砂	黄褐色	約10cm

図III-33 P-38・P-39

P-40



図III-34 P-40

面からすり石が出土し、覆土中位からII群b類土器が1点、覆土からIV群a類土器5点が出土している。

時期：出土遺物から縄文時代前期II群b類土器の時期の可能性が高い。(中山)

掲載遺物：土器 1はII群b-1類。複節の斜行縄文が施されている。胎土には砂を多く含む。内面の調整は横位のナデによるものと見られる。(袖岡)

石器 2は扁平な礫を素材としたすり石で、両面にすり痕がみられる。(谷島)

P-39 (図III-33 図版19、32)

位置・立地：S-44、45区 標高93.6m程の平坦面。

規模：0.51/0.32×(0.73)/0.89×0.41m

確認・調査：VI層精査時に確認。覆土はV層下土からなる1枚で、その状態からV層下面からVI層上面で掘り込まれたものと考えられる。覆土上位から土器が1点出土している。

時期：出土遺物と掘り込み面周辺の遺物から縄文時代前期～後期前葉のものと考えられる。(中山)

掲載遺物：土器 1はIV群a類。斜行縄文が施されている。(袖岡)

P-40 (図III-34 図版19)

位置・立地：T-46区 森川を臨む右岸の段丘上。標高92.5～93m

規模：0.94/0.70×0.70/0.40×0.26m

確認・調査：VI層上面で黒褐色土の落ち込みとして確認した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは開き気味となる。覆土は1～2層に分けた。自然埋没によるものと考えられる。遺物は覆土中よりすり石1点、石皿1点、フレイク1点、合計3点出土している。

時期：周辺から出土しているII群土器、IV群a類土器から縄文時代前期～後期前葉に属すると考えられる。(袖岡)

掲載遺物：石器 1は石皿で、片面に擦り痕がみられる。(谷島)

P-41 (図III-35 図版20、32)

位置・立地：P-50、51区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高93m

規模：0.62/0.48×0.53/0.44×0.21m

確認・調査：VI層上面で木根跡と推定し黒色土を掘り下げているところ、2段になる坑底と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し土坑と認定した。平面は不整な円形である。覆土からは断面三角形のすり石2点が出土した。

時期：周辺から出土しているII群土器、IV群a類土器から縄文時代前期～後期前葉に属すると考えられる。(袖岡)

掲載遺物：石器 1・2は断面三角形の礫を素材としたすり石。1は風化によるヒビと剝落がみられる。(谷島)

P-42 (図III-36 図版20、32)

位置・立地：U-46区 標高93m程の平坦面。

規模：0.81/0.31×0.79/0.36×0.36m

確認・調査：VI層精査時に確認した。SP-16と接しているが、断面観察によりSP-16より新しいもの

と判断した。覆土はⅤ層土を主体とした3枚に分けられる。最下層はⅤ層土混じりのものなので遺構構築面はⅤ層上面の可能性が高い。覆土下部からⅡ群b類土器が3点出土している。

時期：出土遺物より縄文時代前期Ⅱ群b類土器の頃の遺構と考えられる。(中山)

掲載遺物：土器 1、2はⅡ群b-1類。1は1段Lの単軸絡条体による回転文。砂、細礫を多く含んでいる。2は複節の斜行縄文が施されているもの。砂、細礫を多く含んでいる。(袖岡)

小土坑

SP-1 (図Ⅲ-36 口絵10 図版33)

位置・立地：U-43区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや東側の標高93.0~93.5m。

規模：0.18/0.05×0.15/0.04×0.23m

確認・調査：Ⅴ層下で石斧の刃部が上を向き重なった状態で検出した。平面を精査するとこれらの石斧が収まる程度の落ち込みが確認できたので半裁を行ったところ柱穴様の小ピットに石斧が2個縦に取まっている様子が確認できた。平面は円形である。覆土は分層していない。

時期：周辺の遺物から縄文時代前期～後期前葉に属する遺構と考えられる。(袖岡)

掲載遺物：石器 1と2は石斧で、共に被熱している。1は表面上部と裏面下側に黒色物質が付着している。2は両面の上部と下側に黒色物質が付着している。(谷島)

SP-2・3・4・5 (図Ⅲ-37 図版21)

位置・立地：S-39区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや南側に外れたところ。標高94m

規模：SP-2 0.41/0.30×0.33/0.24×0.12m SP-3 0.42/0.30×0.37/0.30×0.18m

SP-4 0.43/0.33×0.34/0.24×0.16m SP-5 0.50/0.39×0.47/0.34×0.12m

確認・調査：Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面は円形～楕円形である。覆土は分層していない。

時期：周辺の遺物から縄文時代前期～後期前葉に属する遺構と考えられる。(袖岡)

SP-6・7 (図Ⅲ-37 図版21)

位置・立地：S-39、T-39、40区 森川を臨む右岸の段丘上、台地の先端よりやや南側の標高94m。

規模：SP-6 0.65/0.44×0.63/0.36×0.26m SP-7 (0.70)/0.51×0.45/0.28×0.21m

確認・調査：Ⅴ層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面はSP-6が円形、SP-7が楕円形である。覆土は分層していない。

時期：周辺の遺物から縄文時代前期～後期前葉に属する遺構と考えられる。(袖岡)

SP-8 (図Ⅲ-37 図版21、33)

位置・立地：Q-48区 河岸段丘崖に近い緩斜面で標高92.5mに位置する。

規模：0.54/0.22×(0.35)/0.30×0.40m

確認・調査：Ⅴ層下位を調査中にバミスの入らない黒色土のシミを検出した。平面形は円形で坑底は丸い。壁の立ち上がりはやや急である。覆土の中からⅡ群b類土器4点が出土している。

時期：検出した土器から縄文時代前期前半の遺構である。

掲載遺物：土器 1は複節の斜行縄文が施されている。胎土には砂の混入がごくわずかで、繊維が多く含まれている。内面は表面が風化しており、粗い。(袖岡)

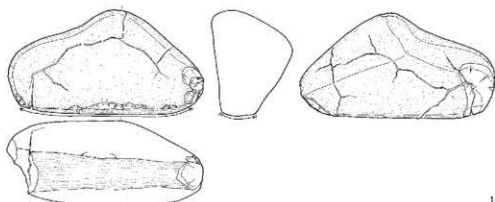
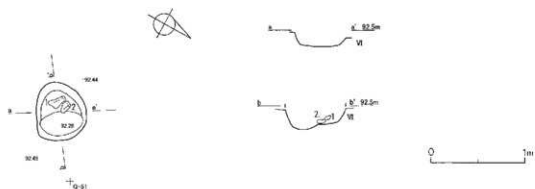
SP-9 (図III-38 口絵10 図版33)

位置・立地：Q-48区 森川を臨む右岸の段丘上、張り出す台地先端の北側。標高92.5m

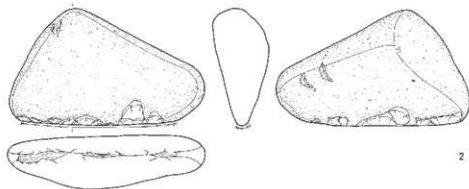
規模：0.19/—×0.16/—×0.23m

確認・調査：VI層上面で土器が小さな穴に埋められている様子が確認できた。半載したところ、土器の底部に黒色土が入っている状況で検出した。覆土は分層してない。遺物はIII群a類土器が11点出土

P-41



1

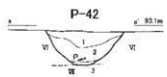
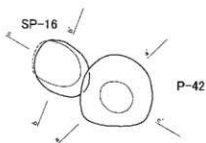


2

0 10cm

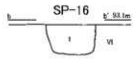
図III-35 P-41

P-42・SP-16



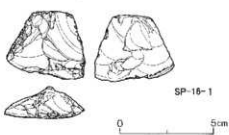
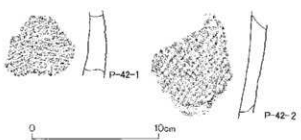
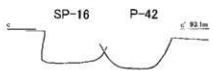
SP-16の構造

層	土色	土質	形状	厚さ	層厚	出土品	備考
1	黄褐色	粘土	平坦	10	10	縄文土器(土器)	中心部

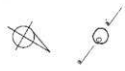


P-42の構造

層	土色	土質	形状	厚さ	層厚	出土品	備考
1	黄褐色	粘土	平坦	10	10	縄文土器(土器)	中心部
2	黄褐色	粘土	平坦	10	10	縄文土器(土器)	中心部
3	黄褐色	粘土	平坦	10	10	縄文土器(土器)	中心部

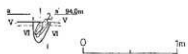


SP-1

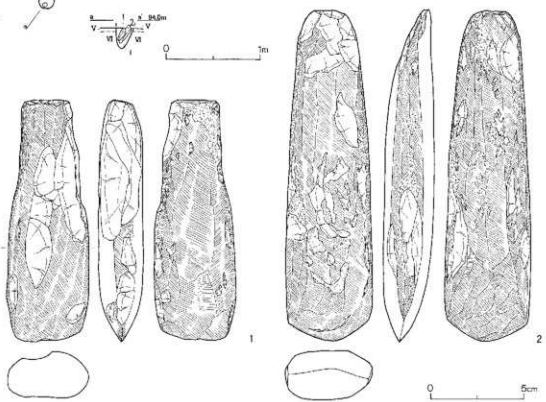


SP-1の構造

層	土色	土質	形状	厚さ	層厚	出土品	備考
1	黄褐色	粘土	平坦	10	10	縄文土器(土器)	中心部



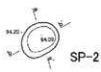
70-42



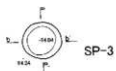
図III-36 P-42・SP-1・SP-16

III 遺構と遺構出土の遺物

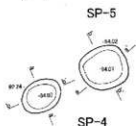
SP-2・3・4・5



SP-2



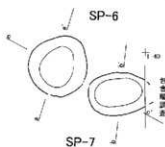
SP-3



SP-5

SP-4

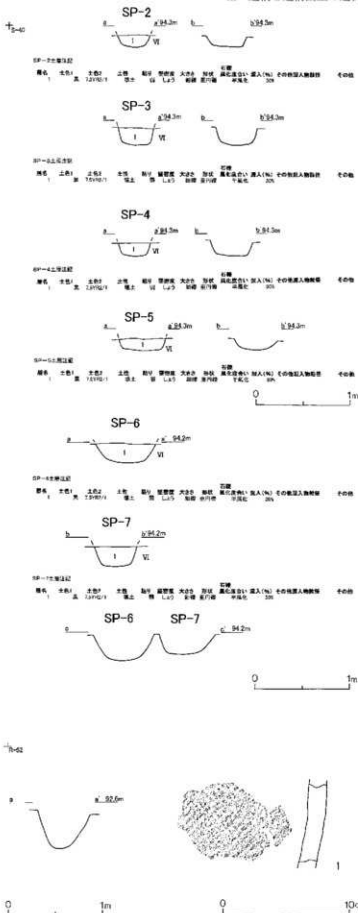
SP-6・7



SP-6

SP-7

SP-8



図III-37 SP-2・3・4・5・SP-6・7・SP-8

森町森川3遺跡

SP-9

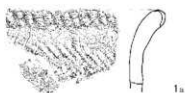


SP-040002

調査年度 1982 調査者 森町教育委員会 調査地 森町森川3遺跡 調査内容 土器・瓦片の調査



70-40



図III-38 SP-9

した。

時期：検出した土器から縄文時代中期前半の遺構である。

掲載遺物：土器 1はⅢ群a類の深鉢形土器。地文は羽状縄文が施されている。口唇部は外反し、縄による刻みが増えられている。
(袖岡)

SP-10 (図Ⅲ-39 図版21)

位置・立地：S-44区 標高93.5m程の平坦面。

規模：0.54/0.28×0.52/0.25×0.16m

確認・調査：Ⅵ層精査時に確認。SP-11と切りあっているが、断面観察によりSP-10が新しいものと判断した。しかし、覆土の土質、状態はよく似ており、時期差はごく僅かとする。遺物は出土していない。

時期：推定される遺構構築面付近の遺物から縄文時代前期～後期前葉のものと思われる。(中山)

SP-11 (図Ⅲ-39 図版21、33)

位置・立地：S-44区 標高93.5m程の平坦面。

規模：0.55/0.36×(0.45)/0.33×0.13m

確認・調査：Ⅵ層精査時に確認。SP-10とほぼ同じに作られた遺構と思われる。覆土は2層に分けられ、下層はⅥ層混じりなので遺構構築面は確認面とほぼ同じⅥ層上面かⅦ層下面と思われる。

覆土中位からⅣ群a類土器が2点出土した。

時期：出土遺物と構築面から縄文時代前期～後期前葉のものと思われる。(中山)

掲載遺物：土器 1はⅢ群b類。口唇は平坦で、斜行縄文地に口縁と平行し短刻線文が施されている。
(袖岡)

SP-12 (図Ⅲ-39 図版21)

位置・立地：U-48区 河岸段丘崖から約12m入った標高約93mの段丘緩斜面に位置する。

規模：0.49/0.28×0.45/0.38×0.26

確認・調査：Ⅴ層下位を調査中にバミスの入らない黒色土のシミを検出した。平面形は円形で底底は丸い。バミスの混ざり具合から覆土は4層に分けたが、全て流れ込みと考えられる。

遺物出土状況：覆土からⅡ群b類土器5点、礫2点が出土している。礫の石質が玉髄と凝灰岩であることから他から持ち込まれたものと思われる。これらの遺物は流れ込みの可能性がある。

時期：出土遺物から縄文時代前期またはそれ以後と考えられるが、検出層位から遺物の時期とは左層隔たりが無いものと思われる。(谷島)

SP-13 (図Ⅲ-39 図版22)

位置・立地：T-46区 標高93.1m程の平坦面。

規模：0.49/0.38×0.45/0.38×0.18m

確認・調査：Ⅵ層精査時に確認。覆土はⅤ層下土からなる1層である。硬いⅦ層上面で掘り込みが終わっている。覆土の状態からⅤ層下面で構築された可能性が高いと考えられる。

時期：確認層位の付近の遺物から縄文時代前期～後期前葉のものと思われる。(中山)

SP-14 (図III-39 図版22)

位置・立地：U、V-46区 標高93m程の平坦面に立地する。

規模：0.42/0.36 0.41/0.34 0.23m

確認・調査：VI層精査時に確認。覆土はV層下土からなる1層で、覆土の状態、遺構の形状などSP-13に良く似ている。V層下面かVI層面での構築と考えられる。遺物は出土していない。

時期：確認層位の付近の遺物から縄文時代前期～後期前葉のものと思われる。(中山)

SP-15 (図III-39 図版22)

位置・立地：Q-51区 森川を臨む右岸の段丘上、台地が張り出す先端付近。標高92.0～92.5m

規模：0.38/0.28×0.28/0.24×0.38m

確認・調査：VI層上面で黒色土の落ち込みとして検出した。坑底は平坦、壁の立ち上がりは急で明瞭である。平面は円形、坑底は平坦、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。覆土からは礫が1点出土した。

時期：周辺からII群b-1類土器が多く出土していることから、縄文時代前期に属する遺構と考えられる。(袖岡)

SP-16 (図III-36 図版22)

位置・立地：U-46区 標高93m程の平坦面に立地。

規模：(0.48)/0.55 0.52/0.43 0.32m

確認・調査：VI層精査時に確認した。P-42と接しているが、断面観察により、より古いものと判断した。ただし時期差はあまりないものとする。覆土はV層下土からなる1枚である。覆土からスクレイパー1点、フレイク2点が出土している。

時期：P-42及び、確認層位の付近の遺物から縄文時代前期のものと思われる。(中山)

掲載遺物：石器 1はスクレイパーで両側縁を刃部になっている。

焼土

F-1 (図III-40 口絵10)

位置・立地：U-45・46区 調査区北側の標高93.70～93.90mの緩斜面に位置する。

規模：0.7×0.35m

確認・調査：細跡の調査中に2ヵ所から炭化材を検出した。IV層(B-Tm)の残存が悪い部分であったためVa層まで掘り下げていた。炭化材は板状のもので直下は僅かに赤変していた。放射性炭素年代測定の結果、補正年代で1660±40yBPが得られている。

遺物出土状況：炭化材のほか遺物は出土していない。

時期：検出層位および放射性炭素年代測定の結果から統縄文時代と考えられる。(谷島)

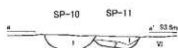
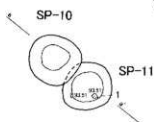
F-2 (図III-40)

位置・立地：U-25区 調査区南側の標高95.80mの緩斜面に位置する。

規模：0.55×0.39m

確認・調査：細跡の調査で下位の耕作痕を精査するためIV層(B-Tm)を除去しVa層まで掘り下げて検出している。平面形は不整で層厚は9cmの赤変した焼土である。層厚は南側が厚く北側は漸減す

SP-10·11



0 10cm

SP-10、11之剖面图

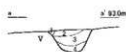
编号	土层	土层号	土层	层号	厚度	备注	说明	备注	备注
1	黄泥	100/0.1	黄泥	1	0.1		黄泥	黄泥	黄泥
2	黄泥	100/0.1	黄泥	2	0.1		黄泥	黄泥	黄泥

↑

0 1m

SP-12

↑



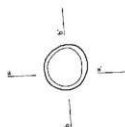
SP-12之剖面图

编号	土层	土层号	土层	层号	厚度	备注	说明	备注	备注
1	黄泥	100/0.1	黄泥	1	0.1		黄泥	黄泥	黄泥
2	黄泥	100/0.1	黄泥	2	0.1		黄泥	黄泥	黄泥



0 1m

SP-13



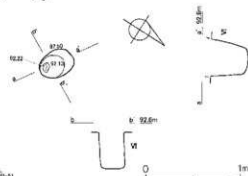
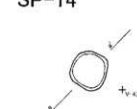
SP-13之剖面图

编号	土层	土层号	土层	层号	厚度	备注	说明	备注	备注
1	黄泥	100/0.1	黄泥	1	0.1		黄泥	黄泥	黄泥
2	黄泥	100/0.1	黄泥	2	0.1		黄泥	黄泥	黄泥

↑

SP-15

SP-14



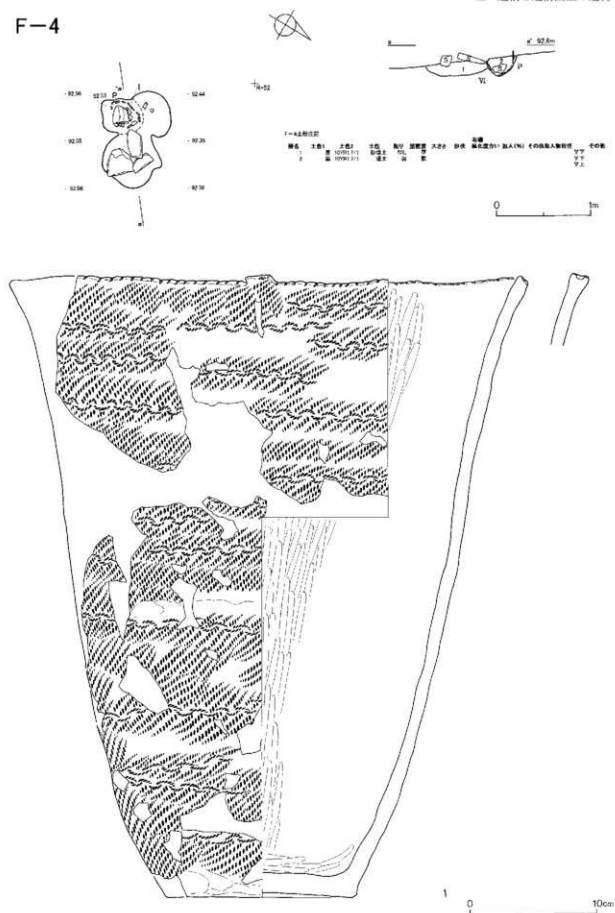
↑

SP-14之剖面图

编号	土层	土层号	土层	层号	厚度	备注	说明	备注	备注
1	黄泥	100/0.1	黄泥	1	0.1		黄泥	黄泥	黄泥
2	黄泥	100/0.1	黄泥	2	0.1		黄泥	黄泥	黄泥

图III-39 SP-10·11·SP-12·SP-13·SP-14·SP-15

F-4

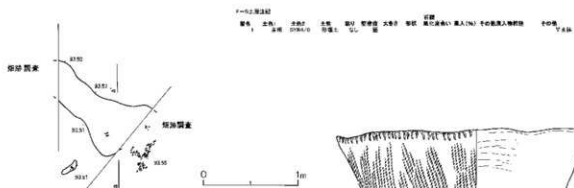


図III-41 F-4

森町森川3遺跡

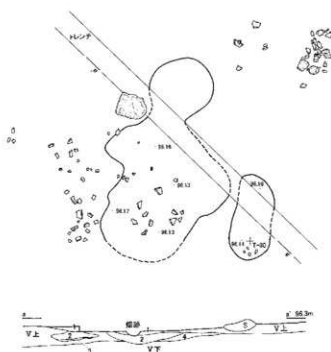
F-5

40-42



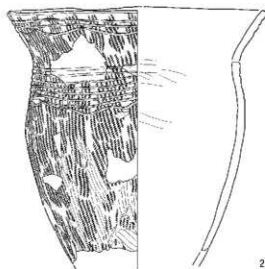
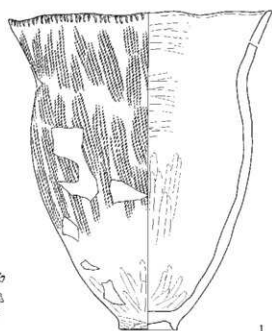
F-6

40-38



F-6(1)遺跡

層	土質	土色	土厚	形状	位置	用途	調査者	調査年	調査場所	調査者
1	黄砂	黄	0.5~1.0	不規則	森川	居住	森川	昭和21	森川	森川



図III-42 F-5・F-6(1)

る。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：検出層位から統縄文時代と考えられる。(谷島)

F-3 (図III-40)

位置・立地：S-50区 標高93.2m程の平坦面から川に向けて緩やかに傾斜していくところの平坦部の端に位置する。

規模：(1.25)×0.48×0.04m

確認・調査：Ⅲ層から畑面の調査時に確認。畑の畝間および畝と思われる場所にかけて広がっている。畑と同時期か、若干新しい時期のものと考えられる。炭化物が散見される。

時期：確認層位より近世のものと思われる。(中山)

F-4 (図III-41 口絵10 図版22、34)

位置・立地：R-51区 標高92.5m程の川に向けて緩やかに傾斜していく斜面に立地する。

規模：0.94×0.70×0.20m

確認・調査：Ⅵ層上面精査時に礫群として確認した。礫のそばを掘り下げると土器がほぼ1個体丁寧に埋められた状態のものも確認できた。斜面で礫が動きやすい立地面での礫のありようから石組み炉とその横に土器を埋めた複式炉の可能性が考えられる。明確な焼土面や灰、炭化物は検出できなかったが炉石は焼けており、屋外炉と認定した。周囲に柱穴等の付属遺構は見当たらず、住居の中の炉の可能性は低い。

時期：出土土器より縄文時代中期前半Ⅲ群a類時期のものである。(中山)

掲載遺物：土器 1はⅢ群b類。大型の深鉢形土器。地文はLRの縄による結節と綾紋が施されている。平縁に小突起が施されている。口唇には縄による刻みを加えられている。図に明示していないが、底面には網代痕があったとみられ、丁寧に磨いて消している痕跡がある。(袖岡)

F-5 (図III-42)

位置・立地：R-46、47区 標高93.5m程の平坦面に立地する。

規模：(0.96)×0.33×0.05m

確認・調査：Ⅲ層から畑面の調査時に確認。炭化物混じりの焼土が畝の上から畝間にかけて広がっている状態はF-3と非常に良く似ている。畑と同時期か、若干新しい時期のものと考えられる。遺物は出土していない。

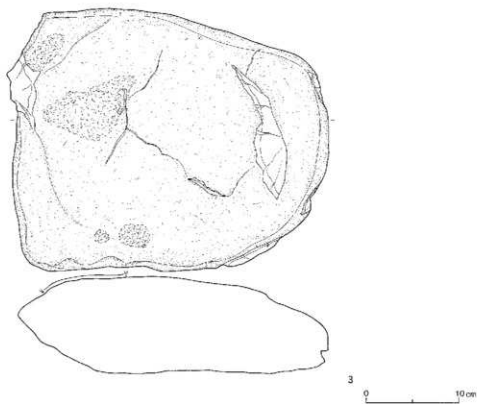
時期：F-3とはほぼ同時期の近世のものと考えられる。(中山)

F-6 (図III-42・43 口絵10 図版33、34)

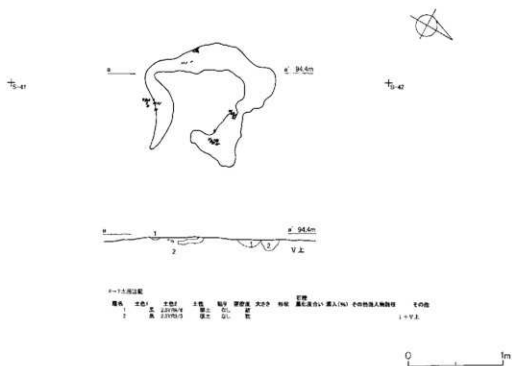
位置・立地：U-48区 河岸段丘崖から約12m南側の段丘緩斜面に位置する。

規模：(2.2)×1.4×0.15m

確認・調査：畑跡の調査中に耕作痕の下底から焼土が検出された。2ヵ所に分かれ北側が広い。平面形は北側が不整、南側は長円形で両者とも層厚は最大15cmを測る。焼土上面及び周囲から遺物が出土している。北側から出土した台石などからこの焼土は作業場として使われた可能性がある。放射性炭素年代測定の結果、補正年代で2060±40yBP が得られている。

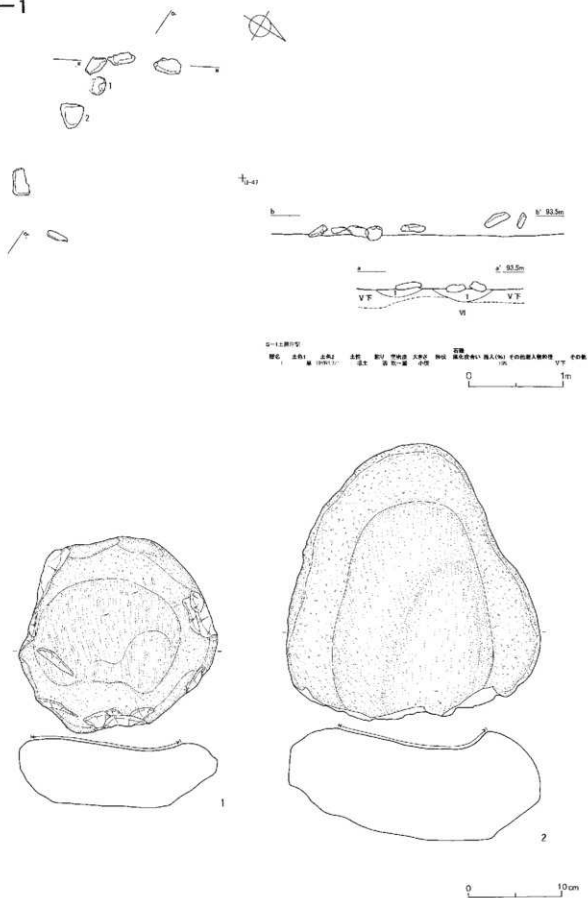


F-7



図III-43 F-6(2)・F-7

S-1



図III-44 S-1

遺物出土状況：Ⅵ群土器が89点出土し2個体が復元されている。台石1点、フレイク24点、礫2点が直上及び周囲から出土している。

時期：検出層位、出土遺物から統縄文時代の所産である。(谷島)

掲載遺物：土器 1、2はⅥ群の甕形のもの。1は口唇に棒状工具による刻みに加えられている。口縁から底部付近にかけ縄文文が施されている。2は縄文地に沈線が施されている。(袖岡)

石器 3は台石で硬い礫を素材とし、片面に使用痕がみられる。(谷島)

F-7 (図Ⅲ-43 口絵10)

位置・立地：R、S-41区 標高94.3m程の平坦面に立地する。

規模：1.4×1.3×0.08m

確認・調査：Ⅲ層から畑面の調査時に確認。炭化物混じりの焼土がドーナツ状に広がる。畝が途切れた部分での確認であるが、焼土の状態は先のF-3、5と似ており、確認層位からも畑と同時期か、若干新しい時期のもの可能性が高いと考えられる。遺物は出土していない。

時期：F-3、5とほぼ同時期の近世ものと考えられる。(中山)

集石

S-1 (図Ⅲ-44 口絵10)

位置・立地：T、U-46区 標高93.5m程の平坦面に立地する。

規模：2.22×0.68×m

確認・調査：V層下面を調査中に何となく丸い形に並んだ礫を確認した。礫は30cmほどの扁平なものを選別したようで、石組み炉の崩れたものの可能性を考え、焼土、炭化物等の検出に努めたがそれらの痕跡は見出せなかった。また、石に焼けた痕跡は見出されず、セクションa-a'方向で掘り込みが確認できたが、石組み炉の掘り方としては疑問が残るので焼土とはせず集石とした。

時期：確認層位等より縄文時代中期～後期のものと思われる。(中山)

掲載遺物：石器 1・2は石皿で、1は硬い素材を、2は柔らかい素材の礫を使用している。

畑跡 (図Ⅲ-45～50 口絵2～5、図版20・74)

25%調査が終了し、次に道路の付け替え部分の調査に取り掛かった。S37区の調査を行っていたときに、V層上位(黒色土)で帯状に平行した2条のIV層(B-Tm)と黒色土が混合した攪乱を検出した。この攪乱は人為的な遺構と思われたためこのグリッドの精査を行った。その結果、幅が最小で12cm、最大35cm、長さは3.5～4mのⅢ・Ⅳ・V層の混合土の帯が4条平行して検出した。各々の帯は黒色土との境が明瞭で、南側の3本と北側の1本の間隔が異なる。間隔は南側約70cm、北側の帯との間隔は30～40cmで西側がやや開いている。1列を仔細に観察すると「ト」字とそれを反転した模様が続いて交互に現れあたかも「棘のあるバラの枝」に見え、「棘」の部分は鋤・鍬などの農具による耕作痕と考え「畑」と判断した。

畑跡との確認を得るため、折り良く対岸の森川2遺跡で調査担当をされていた横山英介氏に見て頂いた。同氏は七飯町桜町7遺跡、八雲町栄浜2遺跡、栄浜3遺跡の調査で畑跡の調査を担当されている。その結果、他遺跡での検出状況及び堆積状態に類似しているとの助言を得、これらが「畑」であ

る確証を深めた。そして、検出の端緒となったS37区は畑跡の上部を掘り下げた中間位置の平面形を観察していたことになる。

平成14年度の調査では畑跡は前記の調査終了部分を除いた約990m²で確認された。土層断面の観察から既に掘り下げてしまった部分や調査範囲の外側に畑跡の拡がっていることが推定された。北側は森川に面した河岸段丘崖付近まで分布していた。

以上の調査結果を受け、畑跡がさらに拡がることを道教委に報告し、このことについて道教委と協議した。その結果、平成15年度に森川3遺跡の南側の道路公団用地内について道教委が試掘を行うこととなり、平成15年度7月に実施された。試掘調査の結果は全部のトレンチで畑跡が確認され、さらに南側に広がる事が判明した。

土層断面 この畑跡は西暦1640年に噴火した駒ヶ岳の火山灰(Ko-d)に覆われてⅢ層とⅤ層の間の約1000年前のⅣ層白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)を切って確認(図I-4)された。

畑跡の土層(図Ⅲ-47・48)は以下の通りであるが、Ⅲ層上位については既に掘り下げた状態の土層断面となっている。

Ⅱ層(Ko-d)と畑跡の間のⅢ層は上から数cmの黒色粘質土とその下に畑跡の間に1~2cmの層がある。これは乾燥すると銀灰色を呈する、黒色土にわずかなⅣ層(B-Tm)が均質に混合された風成層と思われる土が堆積している。最も新しい畑跡はこの風成層の下位で行われ、最も古い耕作時の地表面は1~数cmのⅢ層下位の黒色粘質土がⅣ層の上に認められる。

Ⅲ層上半は耕された部分が数cmくぼんでいるが、Ⅲ層中位からの畝の盛り上がりはほとんどみられない。わずかに北側の河岸段丘崖に近いところで畝間と見られるような溝が数条観察されている。Ⅳ層は均一な厚さで堆積しておらず、平面観は斑状に分布している。耕作された部分の土は黒色土のみの場合や周囲の状況により混合比を変えながらⅣ層を含む場合とあり、混合されたⅣ層B-Tmは角のあるブロック状で認められる。これらの混合された土は炭化物が他の層より多くみられる。

- | | | | |
|-----|------------|-------|--------------------------------|
| 1 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 粘性中 少量のB-Tmと良く混合し乾燥すると銀灰色を呈する。 |
| 2 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | φ0.1~0.5cmのB-Tmを20~25%含む。 |
| 2' | 10YR3/1 | 黒褐色土 | φ0.1~0.5cmのB-Tmを20%未満含む。 |
| 2'' | 10YR3/1 | 黒褐色土 | B-Tmを含まない。 |
| 3 | 10YR2/2.5 | 黒色土 | φ0.1~0.5cmのB-Tmを含む。 |
| 4 | 10YR2/1 | 黒色土 | 少量のB-Tmと良く混合し乾燥すると銀灰色を呈する。 |
| 5 | 10YR1.85/1 | 黒色土 | Ⅳ層直下の粘性中 |
| Ⅳ | 10YR4/6 | 褐色シルト | Ⅳ層、1白頭山苦小牧火山灰(B-Tm)で細粒火山灰。 |
| Ⅴ | 10YR1.7/1 | 黒色土 | ここではほとんどⅤ層が当てはまりバミスは少ない。 |

耕された痕は長さの最大が約10m、幅は15cm程から50cmに達するものまでであるが、平均30cm程である。長さについては調査範囲外に延びるものや既に掘り下げた部分があり確認できないが最大10m、最小1m程度までである。これらは最大で20条が平行するのが確認された。

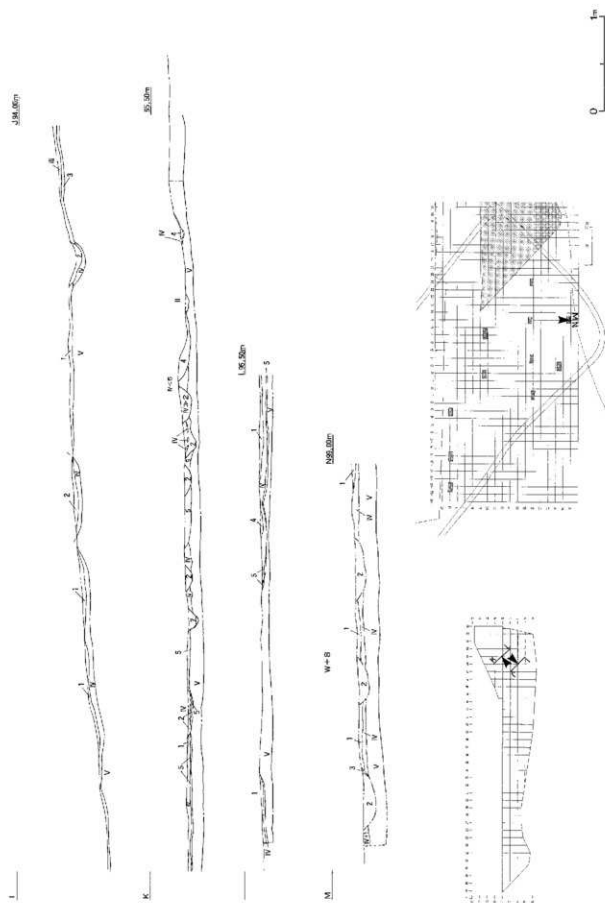
耕された痕の土を除去して観察すると横断面はU字状をなすものとL状のもの、I状が重なり段を有するものがある。縦断面は一定の深さのものや波打つように凹凸のみられるものがある。U字状の耕された痕は幅の広い例が多い。断面観察から一つの溝状の耕された痕も複数回の耕した痕と思える土層部分が多くある。詳細に観察すると一度の耕して生じたと考えられる同じような混合比やB-Tmブロックのに入った溝と期間を置いて耕されたものと考えられる異なる混合状態の溝の二種類が認められる。このように耕した跡のほとんどは混合した土が充填された状態であったが、河岸段丘崖に



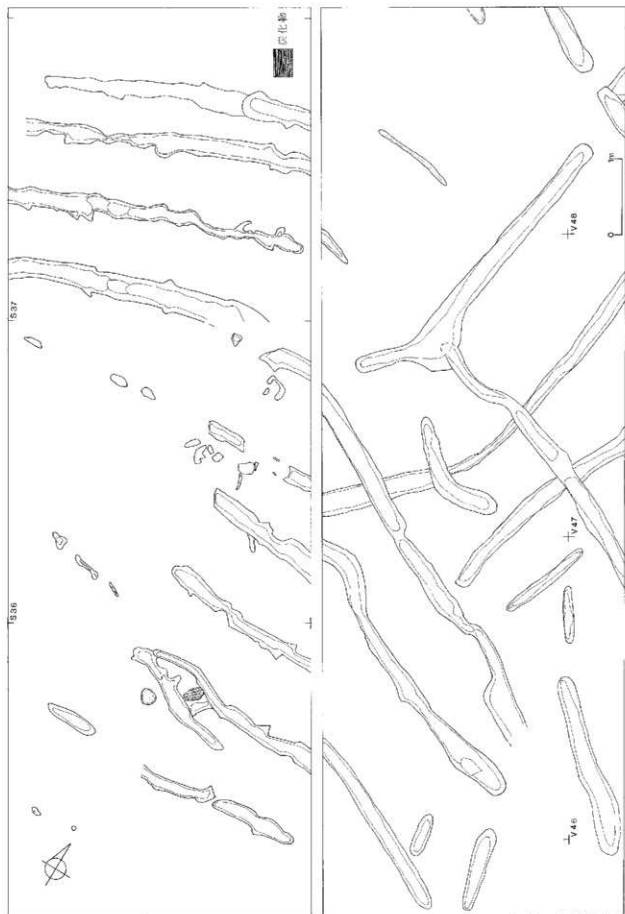
図III-45 畑跡



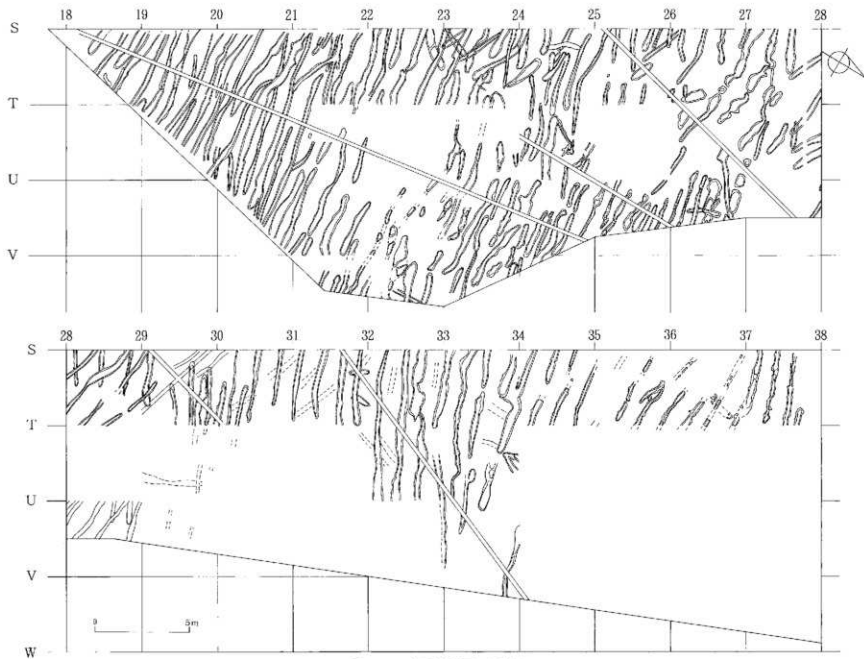
図III-46 畑跡土層断面1)



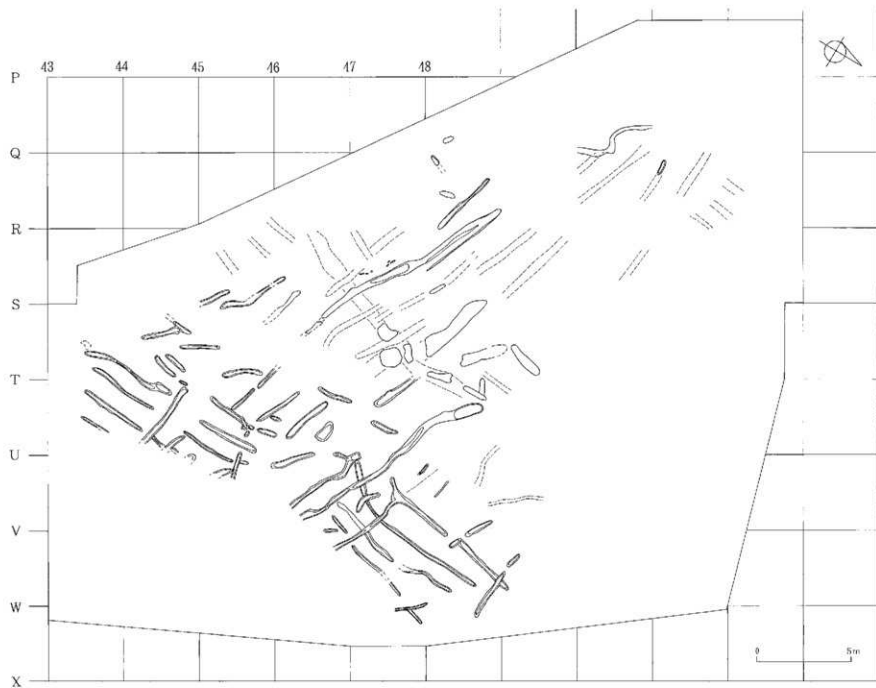
図III-47 抽跡土層断面2



図III-48 S-35~37区・U・V-45~47区抽跡

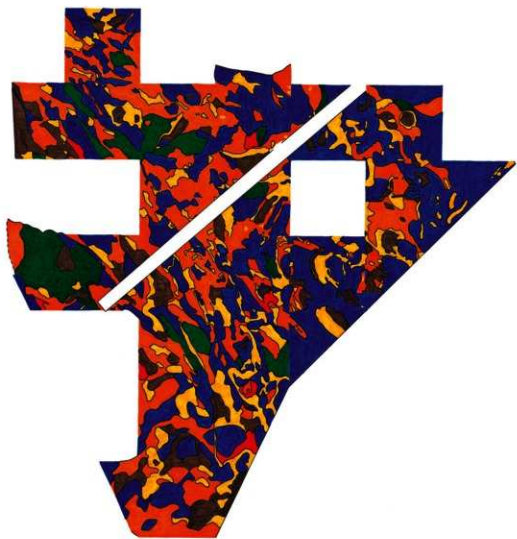


図III-49 畑跡確認面の土壌(1)



図III-50 畑跡確認面の土壤(2)





近いところでは幅の広いU字状で太い「溝」が検出されている。ただし畝のような土の盛り上げは認められない。このようなところは、堆積状況から畑跡の中では新しいものと考えられる。

平成16年度調査では、数cmの土の盛り上げが認められ、断面は上下5cm程度のウェーブした畝と畝間と考えられる部分が検出されている。

平面形 この耕された痕は重なっているものから1.3mまでバラツキがみられる。しかし、重なっていることや溝の方向が異なることなどから、同一時期に耕されたものではなく期間を置いて耕されたものと考えられる。重複の少ない部分で同一時期に耕された組み合わせは、溝の中心から中心の間隔で0.8～1.5mまであり、1～1.2m間隔が最も多い。また、耕された溝と溝の間には畝と考えられる土の盛り上げは認められなかった。わずかにB-Tmブロックを含む土が薄く堆積し薄くⅢ層を夾んでいるためB-Tmが2層みられる部分が認められる。このことから、耕された土は間にも薄く拡がっているが、溝状に掘り起こした土を畝状に間に積み上げた痕跡はないので、掘り返しただけと考えられる。掘り返して盛り上がった部分の混合土が周囲に広がり、更に時間の経過でわずかに溝状にくぼんだものと推定される。

土層断面で示したようにⅢ層からB-Tmを掘り込み更に下のⅤ層上部まで耕されている。そこで畑跡の検出面で土色を大まかに6段階に分けて混合状態を示したのが図Ⅲ-49・50である。この図は耕した当時の地表で捉えたものではなく、検出面である。混合の度合いの違いから、耕した部分とその両脇、反転した土の及ばなかった部分に違いが出ている。植え付けの痕跡かと思われる周囲と異なる小さな斑点状の部分や耕した部分の両脇の土が寄せて盛り上げられていないことなど、耕作の状況が幾らかでも読み取れる。以下は畑跡検出面の土色である。

黄=Ⅳ層(B-Tm)	赤=Ⅳ層(B-Tm) > 黒色土
橙=Ⅳ層(B-Tm) + 黒色土	緑=Ⅳ層(B-Tm) < 黒色土
青=Ⅳ層(B-Tm) < 黒色土	茶=黒色土

耕した方向は大まかに等高線に直交する方向が多く、等高線に沿った方向は少ない。条の向きはほぼ全方位を向いている。18～30ラインを例にあげると、上面では等高線に直交するように東から西側の傾斜に沿って耕されている。さらに掘り下げると等高線に並行して北から南に耕された所が部分にみられる。この様に重複するものがあり、時期差が有るとの見解に達した。以下に方向と検出位置を東向きから順に記載する。

75～85°E 25ラインより南側が最も多い。U25・26、29～31ラインの間、33～38ラインの間。

60～70°E 34ラインから南側とS37。25～33ライン間に多い。

5～25°E 22～25ライン、31～33ラインで疎らに分布する。43～52ラインで溝状である。

5～30°W S44・U26・44～50ライン。

40～55°W 44～50ライン。

65～75°W 20～32・44～51ライン。27～30では60～70°Eに切られている。44～51ラインでは溝状である。

80～90°W 18～29・44～52ライン。

上記の方向ではほぼ全ての耕した方向が表される。

北海道開拓記念館 山田悟郎氏に、耕した部分の土がどのような花粉を残しているか調べていただいた。その結果、花粉の検出できないことが判明した。

Ⅴ層まで耕されているので土器・石器がⅢ・Ⅳ層でも出土している。畑跡の時期に伴う遺物は鉄製品(図Ⅲ-45 図版74)がU36 Ⅲ層から1点出土しているが他に時代を特定できる遺物は出土して

いない。

時期：層位を検討した結果、B-Tmが降灰した後に黒色土が堆積していること、Ko-dが降灰する以前に黒色土が堆積していることから約1000年前より新しく西暦1640年より古いことになる。放射性炭素年代測定の結果、補正年代で 2390 ± 40 yBP、 990 ± 40 yBP、 610 ± 40 yBPが得られている。 2390 ± 40 yBPはB-Tmの効果年代より古いので、耕作により掘り揚げられた縄文時代の炭化物を測定したものと考えられる。 990 ± 40 yBPについても同様に耕作によるためと思われる。平成16年度調査の畑跡からキセルの雁首が出土していることから室町時代から江戸時代初頭に畑作を行っていたと考えられる。

掲載遺物：1は平打ちの釘で出土時は錆が厚く覆っていた。

IV 包含層の出土遺物

1 土器等 (図Ⅳ-1～27 図版34～56)

包含層から出土した土器は、13,755点出土している。縄文時代前期～統縄文時代の遺物を検出して
いる。縄文時代前期のものではⅡ群b-1類とした縄文時代前期、円筒土器下層式直前に位置づけられ
るものが8,664点、円筒土器下層式期のもので986点、縄文時代中期のⅢ群a類が1,290点、Ⅲ群b類で
57点出土。縄文時代後期のものでⅣ群a類が1,729点、Ⅳ群b類で66点、Ⅳ群c類で19点出土。縄文時代
晩期のものではⅤ群土器が6点出土している。統縄文時代のものではⅥ群土器が898点出土。土製品
は焼成粘土塊を含み25点出土。その他、不明で13点出土した。最も多く出土しているのは縄文時代前
期のものである。層位的には、中世後半から江戸時代初頭の畑による攪乱を受け、縄文時代の包含層
であるⅤ層からも上位、中位、下位で遺物の新旧を確認することが困難であった。

森川3遺跡は、平成16年度の調査では円筒土器下層d式期の大形竪穴住居の検出や、遺跡の西側に
位置する森川4遺跡の調査から、縄文時代前期後葉の遺構、遺物が目立つ。森川4遺跡の段丘崖を境
にし、北側になる平成14年度調査区では円筒土器下層式直前のものが多い。

縄文時代前期 (Ⅱ群b類) (図Ⅳ-1～14 図版35～46)

Ⅱ群b類土器は、円筒土器下層式直前のものをⅡ群b-1類とし、円筒土器下層式のものⅡ群b-
2類とした。

Ⅱ群b-1類 (図Ⅳ-1～12 図版35、36)

量的に最も多く、調査区西側～北側の段丘縁辺部に多く出土した。円筒土器下層式の直前、深溝田
式、松前町大津遺跡の2群、3群土器、戸井町(現在 函館市)の高屋敷川1遺跡のⅡ群B2類土器に
類例がある。器形は深鉢形土器が多く、波状のもの、尖底土器と考えられるものも出土した。深鉢形
土器では内面に条痕を有するものが出土している。尖底のもの、内面に条痕を有するもの、そのほか
の平底土器の胎土に混入されている砂、石礫、繊維に個体差があり、掲載表に肉眼による観察を付し
た。これらについては器形や文様からみた時期差として捉えることはできない。地文に単節の斜行縄
文を有する土器に関しては、砂、石礫の混入が少ない傾向がある。

尖底と考えられるもの、丸底に近い土器 (図Ⅳ-3-8～13 図版36)

全て突底部が欠損しているが図示した。8、9、11は複節の斜行縄文が施されている。8は胎土に
砂礫を殆ど含まれず、繊維の混入がみられる。9、11は砂、細礫を多く含んでいる。10、12、13は斜
行縄文のもの。10は胎土に砂礫を殆ど含まず、繊維の混入がみられる。12は砂、細礫を多く含んで
いる。13は丸に近い平底のもの。胎土には砂礫を殆ど含まず、繊維の混入がみられる。

土器の両面に条痕文が施されているもの (図Ⅳ-3-14、15 図版36)

14は小形のもの。波状口縁と思われる。内面の条痕は粗く、表面に比べ条痕が施されているところ
と施されていないところがある。15は表面に条痕文が縦に、内面は横に加えられている。両方共に胎
土に砂礫が殆ど含まず、繊維の混入がみられる。

内面に条痕文が施されているもの (図Ⅳ-1-1、Ⅳ-3-16、Ⅳ-4、5 図版36～39)

1は複節の斜行縄文と単節の斜行縄文が施されているもの。口唇の調整は丁寧である。内面は口縁
部付近では条痕が横位に、胴部では斜めに施されている。16は表面に1段Lの縄による絡条体瓦痕文
が施されている。図Ⅳ-4-17～Ⅳ-5-30は地文に複節の斜行縄文が施されているもの。17は口縁

がやや外反する。口縁部の内面には斜めに条痕文が施されている。21は地文に複節の斜行縄文と単節の羽状縄文が施されている。23、27、28の底部は上げ底となっている。29、30の土器表面の口縁部には、複節の斜行縄文地に条痕文が横方向に施文されている。

絡条体の回転による燃糸文が施されているもの (図Ⅳ-1-2、3、Ⅳ-6-31~37 図版35、40)

2は平縁と思われるが、粗雑な作りなためか、波状に見える。口縁はわずかに外反している。絡条体の軸に縄が用いられているもあり、横走する燃糸文の間に、軸となる縄の圧痕がみられる。3は平縁で円筒形の深鉢形のもの。縄1段Lの縄が軸に密に巻かれたものを回転し施文されている。口唇部は平坦に作られている。31、33は斜めに燃糸文が施されている。31の底面にも燃糸文が加えられている。僅かに上げ底気味となっている。34は燃糸文を交差させ、網目のように見える。35は縄文地に燃糸文が施されている。36は燃糸文を施した後に擦り糸間を磨き、器表面に光沢のある面を作り出しているもの。口唇は平坦で、縄の圧痕が加えられている。37は2段の縄による絡条体の圧痕文で、不整な綾絡文が施されている。

地文が羽状縄文のもの (図Ⅳ-6-39~42 図版40)

39、40は複節の羽状縄文が施されているもの。39の口唇はやや外反し、胴部が張り出すように見える。41は縄の回転方向を変えることにより羽状に見える文様が施されているもの。42は単節の羽状縄文。口唇部が薄くなり、外反している。

地文が複節の斜行縄文のもの (図Ⅳ-2-4~7、Ⅳ-7-43~51、Ⅳ-8、9 図版35、16、40~43)

4はやや上げ底気みのもの。5は小形の深鉢形土器。口唇の断面は丸い。底部は上げ底となっている。4、5ともに底面に縄文が施されている。7は底が平らになるもの。44、46、47、48、49、50は口唇部が薄くなり、外反する。51は内面と口唇上にも地文と同じ複節の斜行縄文が施されている。55、56は胴部下半の破片と考えられるもの。断面形は張り出す形となっている。58は平底のもの、57、59~61は上げ底になるもの。全て底面に縄文が施されている。57、58、60は胴部が張り出さないが、59、61は胴部が張り出す形となっている。

地文が単節の斜行縄文のもの (図Ⅳ-10 図版43、44)

62~64、67~70の口唇部は薄く、62~64、70は僅かに外反するもの。71は縄文を施文後、器表面をミガキにより平滑で光沢のある面になっている。74~77まで上げ底となるもの。75を除き、全て底面に縄文が施されている。

地文に竹管状工具による円形の刺突が施されているもの (図Ⅳ-11-78 図版44)

78は複節の斜行縄文地に、6列一組の刺突文が口縁部と胴部上半部、底部付近に3列施文されている。口唇の断面は平~丸であり、平縁と思われるが作りが粗雑なためか波状に見える。

沈線のような模様は施されているもの (図Ⅳ-11-79 図版44)

79は条痕文とは違い、棒状工具による深い擦痕が施されているもの。

不整な綾絡文が施されているもの (図Ⅳ-11-80、Ⅳ-12 図版44~46)

80は胴部下半と底部付近に3~4条一組の綾絡文が施されているもの。口唇部は外反し、胴部下半はやや張り出している。底は僅かに上げ底気味となる。表面の摩滅が著しい。81は縄文地に、口縁部と胴部に6~7条一組の綾絡文が等間隔に施されている。83、84は複節の斜行縄文地に等間隔で綾絡文が横走するもの。85は単節の斜行縄文地に斜めに綾絡文が施されている。87は単節の斜行縄文地に綾絡文が等間隔をあげ横走しているもの。82、88は複節の斜行縄文地に数条一組の横走する綾絡文が施されているもの。

II群b-2類 (図Ⅳ-13、14 図版46~48)

円筒土器下層 d 式については平成16年度の調査区に接するところに多く出土した。

円筒土器下層 b 式、c 式に相当するもの (図 4-13 図版 46、47)

89は隆帯に縄線文が施されている。90は口唇部直下に縄線文が2条施され、その下に1段Rの燃余文が施されている。91、94は網目状の燃余文が施されている。92は口唇部直下に2条の燃余文と、その下に縦に燃余文が施されている。93は口唇部直下に縄線文が施され、その下に条間を連ねる燃余文が施されている。95は木目状の燃余文が施されている。97は4ヵ所に頂部のある波状口縁のもの。器形はほぼ筒型である。頸部には隆帯が設けられており、口縁部の文様は網目状燃余文である。口唇直下と、隆帯を挟むように横走する縄線文が施されており、波状口縁の頂部から隆帯にかけ、縄線文が2条縦に施されている。胴部には燃余文が施されている。98は隆帯上に縄による刺突がある。胴部には燃余文が施されている。99は低い隆帯上に、竹管状の棒状工具による刺突があるもの。隆帯の上下に、数条の不整な綾絡文が施されている。胴部には縦に不整な燃余文と、底面にも燃余文が施されている。底部は上げ底気味になっている。

円筒土器下層 d 1 式に相当するもの (図 IV-14-100~106 図版 47)

100~102は口縁部に羽状の縄線文と、口唇部には縄による刻みが斜めに加えられている。105の底面には燃余文が施されている

円筒土器下層 d 2 式に相当するもの (図 IV-14-107~111 図版 47、48)

107は口縁部破片で、縄線文が施されているもの。口唇部に縄による刻みが加えられている。108は口縁部に1段RとLの縄を2条一組とし、縄線文を施しているもの。口縁は外反し、隆帯をもつ。胴部には多軸絡条体による回転文が施されている。109、110、111は多軸絡条体による回転文が施されている。

縄文時代中期

Ⅲ群 a 類土器 (図 IV-15~18 図版 48~50)

段丘縁辺部の先端付近に多く出土した。

円筒土器上層 a 式に相当するもの (図 IV-15-112 図版 48)

112は4つの頂部を持つ波状口縁のもの。口縁は弱く外反する。口唇には縄による刻みが加えられている。粘土紐により、胴部と口縁部文様帯とを区画し、波頂部間には粘土紐が縦に貼り付けられている。口縁部文様帯には口唇部直下に縄線文が3条、中央に2条、貼付帯の上に2条施されている。縄線間には屈曲させた縄による刺突文が施されている。貼付帯の上の縄線文は途中から燃余文にかえて施文されている。胴部と口縁部文様帯とを区画する貼付帯上には縄による刻みが加えられている。

胴部には羽状縄文と、0段多条の縄による結束のある斜行縄文が施されている。

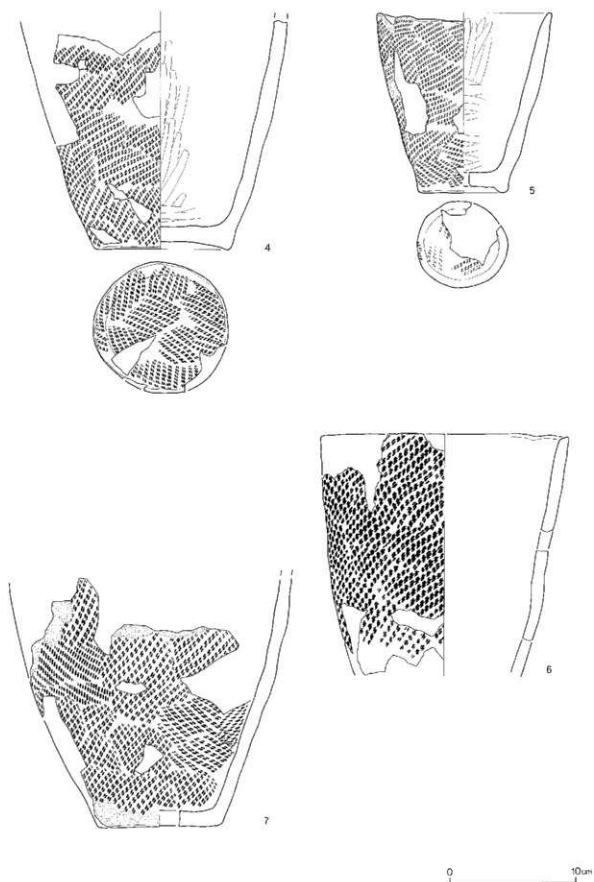
円筒土器上層 b 式に相当するもの (図 IV-15-113・IV-16 図版 48、49)

114は二股の突起を有するもの。貼付帯により口縁と胴部を区画する。口縁は外反する。突起からYの字状の貼付帯が付けられている。口縁と貼付帯上には縄による刻みが密に付けられている。文様帯内には3本一組による縄線文と篋状工具による刺突文が、胴部には羽状縄文が施されている。113、115、116は縄による馬蹄形疔痕文が施されているもの。113、115は縄をコイル状に巻きつけたものによる馬蹄形疔痕文で、116は燃り糸を馬蹄形にしたものによって施文されている。113は突起部を欠損する。116は平縁のもの。いずれも文様帯内には貼付帯と3本一組の縄線による文様が施され、貼付帯上には燃余による密な刻みが加えられている。117は無文地に貼付帯が付けられているもの。貼付帯上には縄による刻みが加えられている。胴部には羽状縄文が施されている。

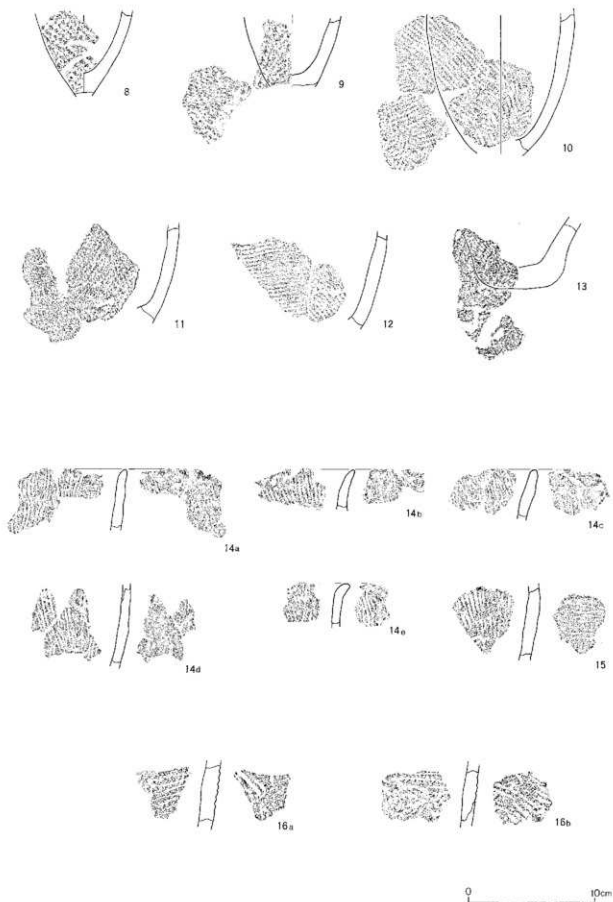
サイベ沢Ⅶ式に相当するもの (図 IV-17~IV-18-126~128、133 図版 49、50)



図IV-1 包含層出土の土器(1)



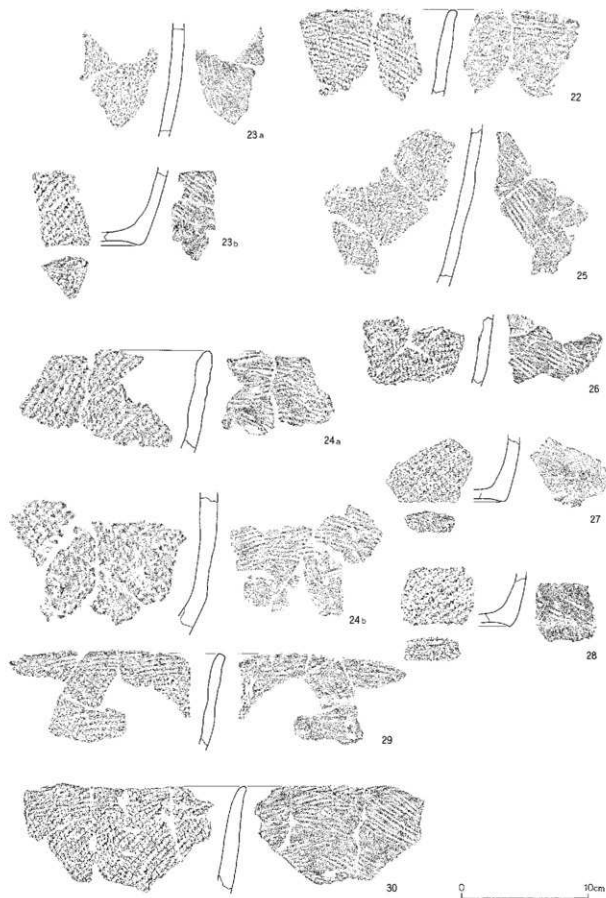
図IV-2 包含層出土の土器(2)



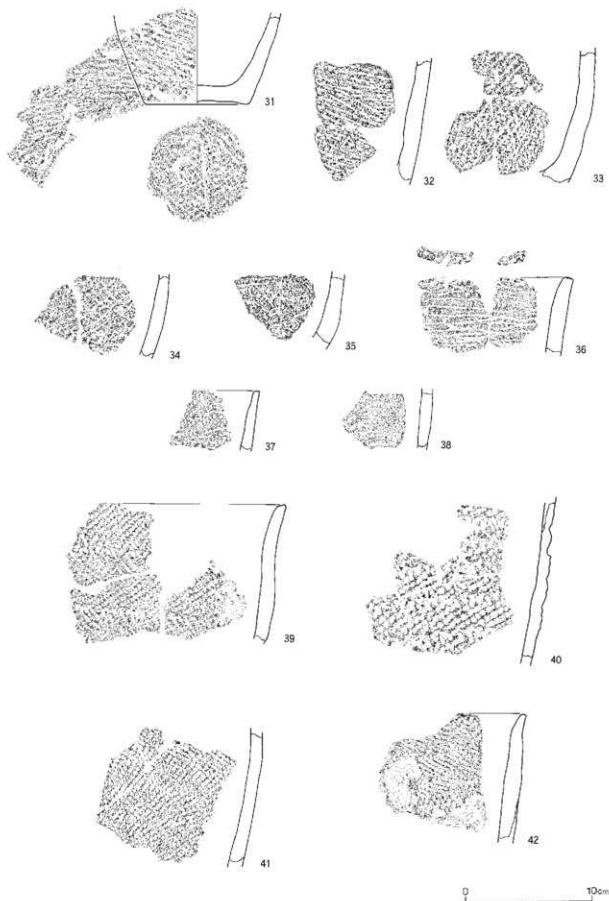
図IV-3 包含層出土の土器(3)



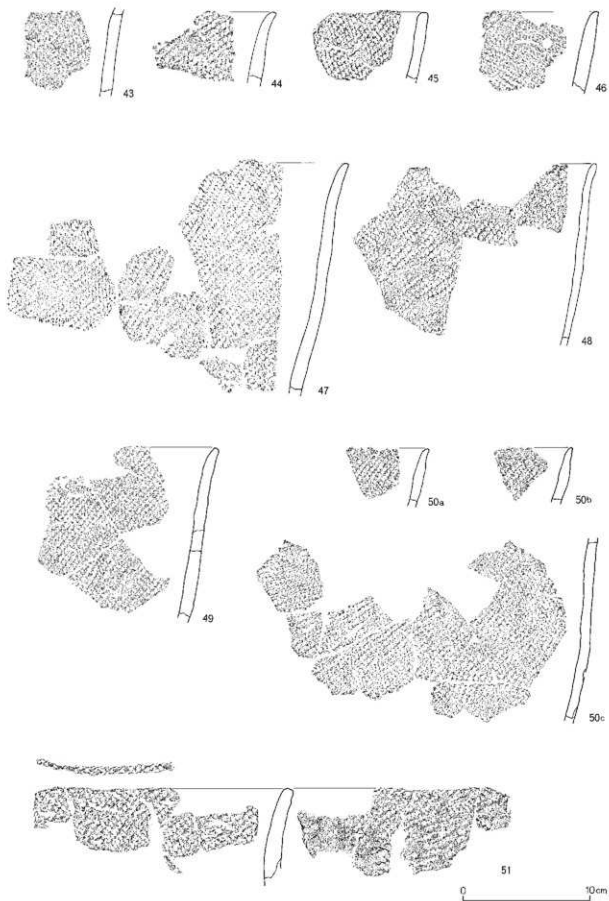
図IV-4 包含層出土の土器(4)



図IV-5 包含層出土の土器(5)



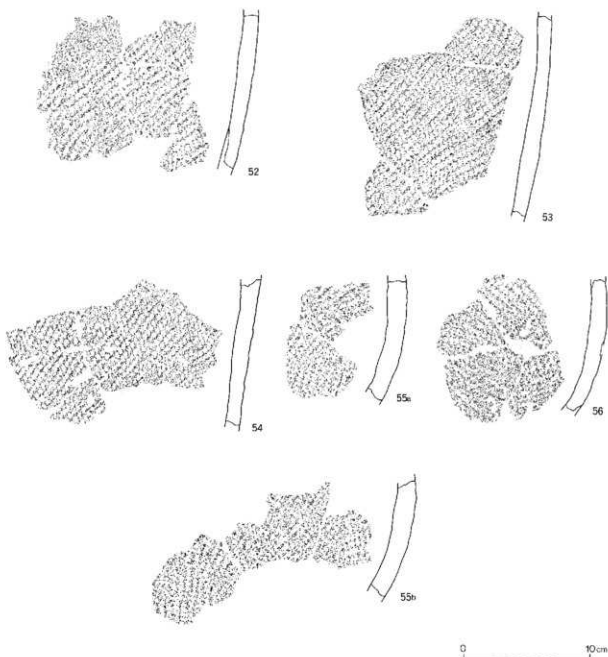
図IV-6 包含層出土の土器(6)



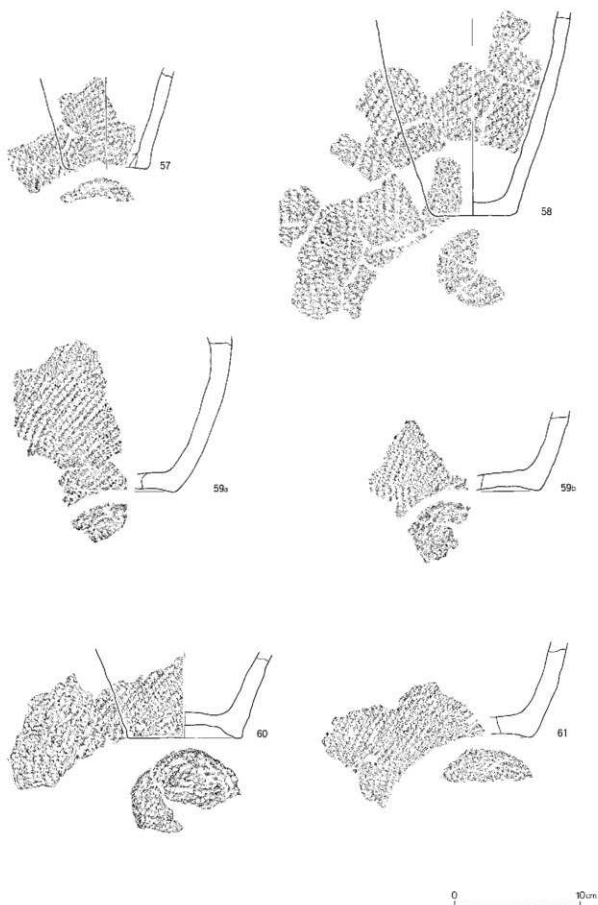
図IV-7 包含層出土の土器(7)

118～121は縄文地に貼付によって文様が施されているもの。122は地文が羽状縄文のもの。口縁部に擦糸による馬蹄形瓦痕文が施されている。123は4つの突起を持つ波状口縁のもの。突起には粘土塊による貼り付けがある。胴部はあまり張り出さず、底部ですぼまる。口唇には縄による刻みが増えられ、地文は斜行縄文地に綾絡文が施されている。124は無文のもの。磨かれたものとみられ、光沢がある。125、126は沈線が施されているもの。125は大形の深鉢形土器の破片。口唇を粘土紐により肥厚させ、口唇上に縄による刻み目が増えられている。棒状工具による沈線が口縁と突起に沿うよう、弧状に施文されている。胴部には斜行縄文、綾絡文が施されている。126は斜行縄文地に沈線文が施されているもの。128、133は突起下に粘土紐による貼り付けが施されているもの。

見晴町式に相当するもの(図IV-18-129~132 図版50)

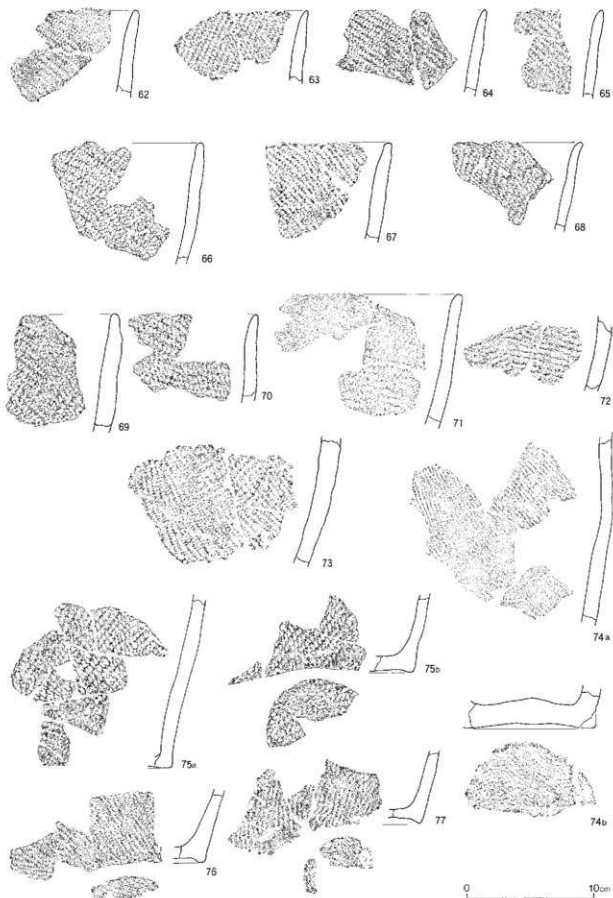


図IV-8 包含層出土の土器(8)



図IV-9 包含層出土の土器(9)

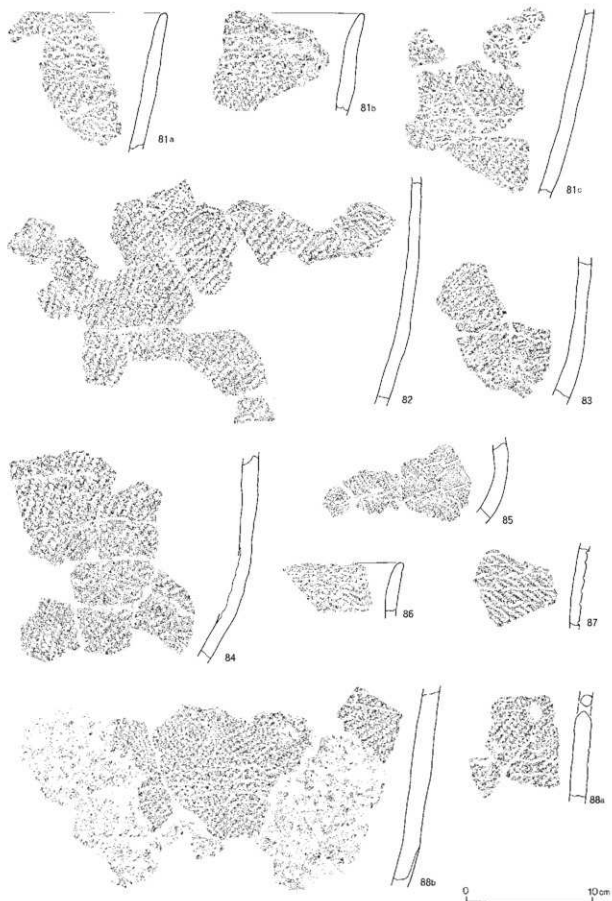
IV 包含層の出土遺物



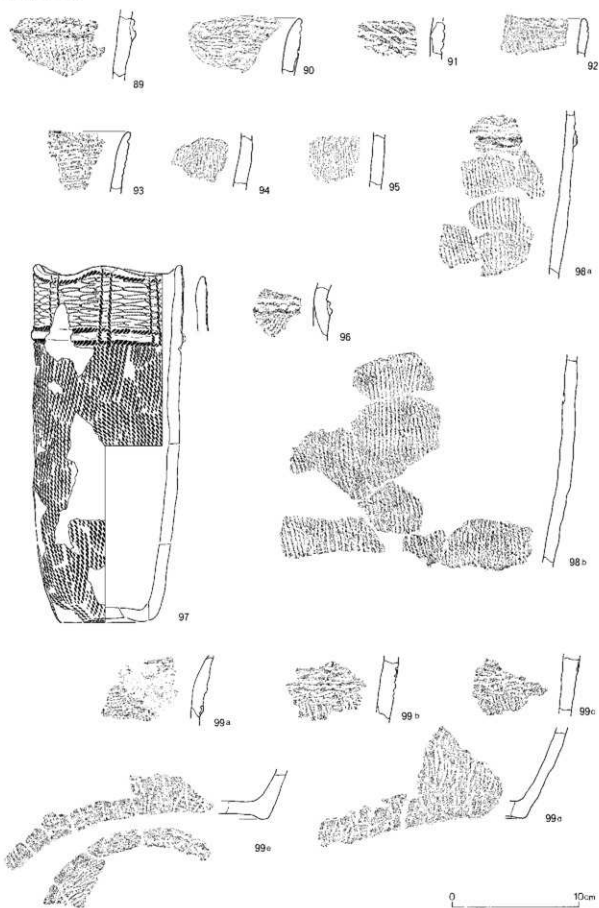
図IV-10 包含層出土の土器⑩



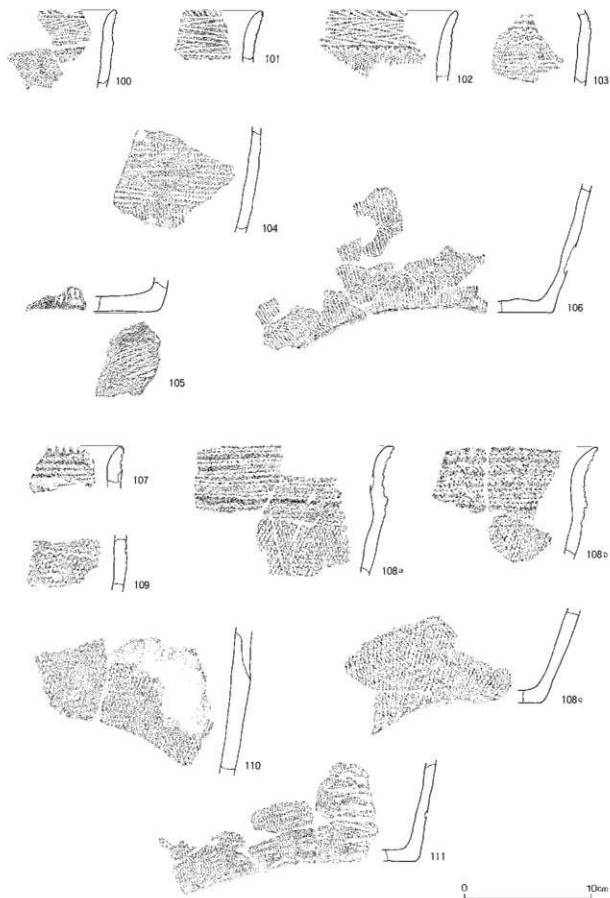
図IV-11 包含層出土の土器①



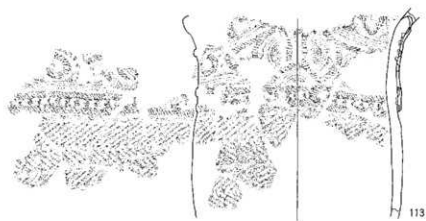
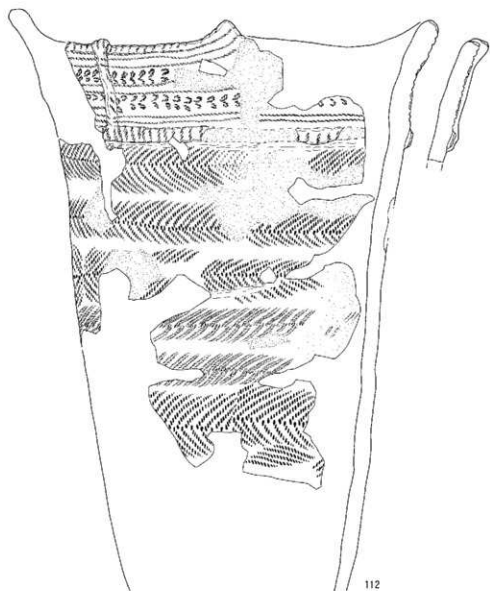
図IV-12 包含層出土の土器⑫



図IV-13 包含層出土の土器⑬



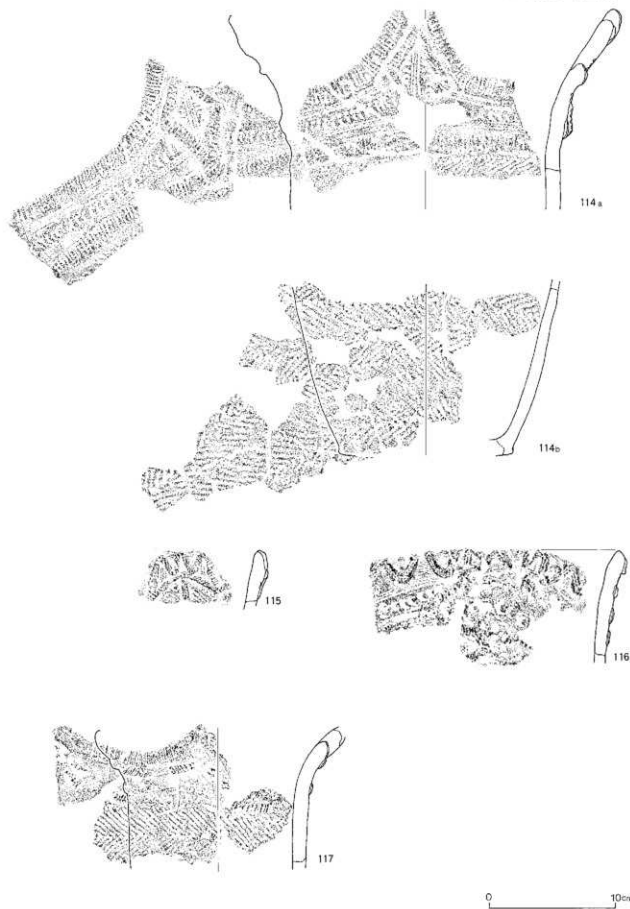
図IV-14 包含層出土の土器⑭



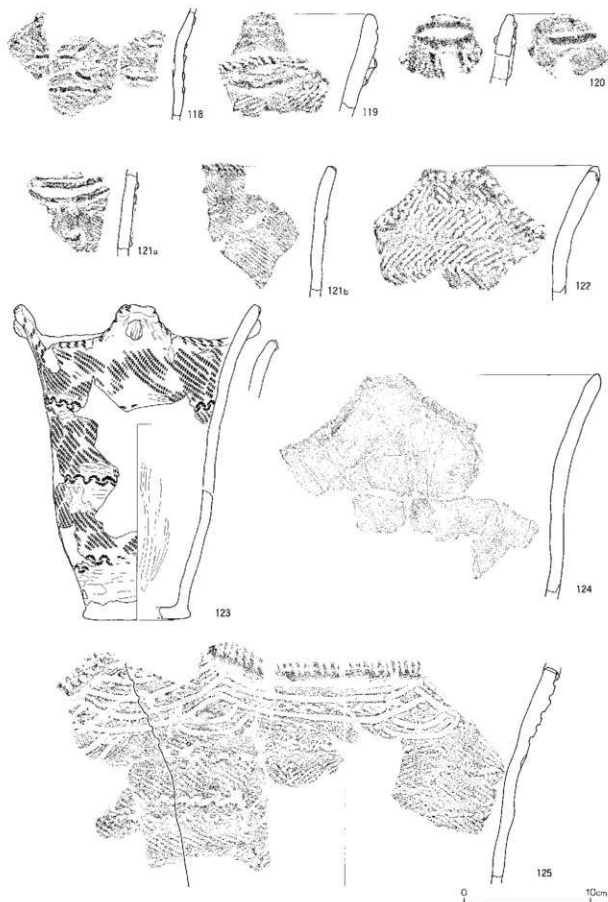
0 10cm

図Ⅳ-15 包含層出土の土器05

IV 包含層の出土遺物



図IV-16 包含層出土の土器⑩



図Ⅳ-17 包含層出土の土器⑦

129、130は斜行縄文で口唇の断面が切り出し状となる。131は沈線が施されており、132は突起の頂部に縄線が施されている。

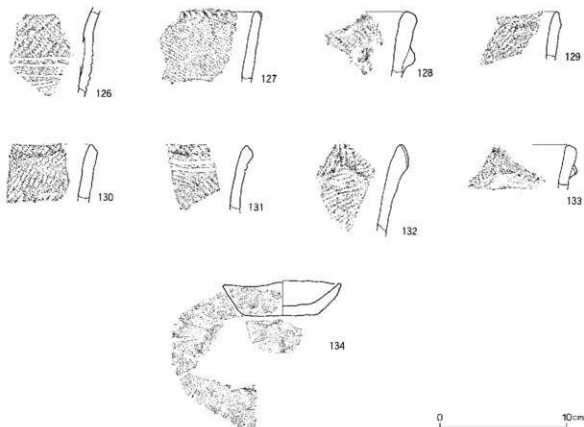
その他のもの(図IV-18-134 図版50)

134は小形で皿型のもの。無文である。

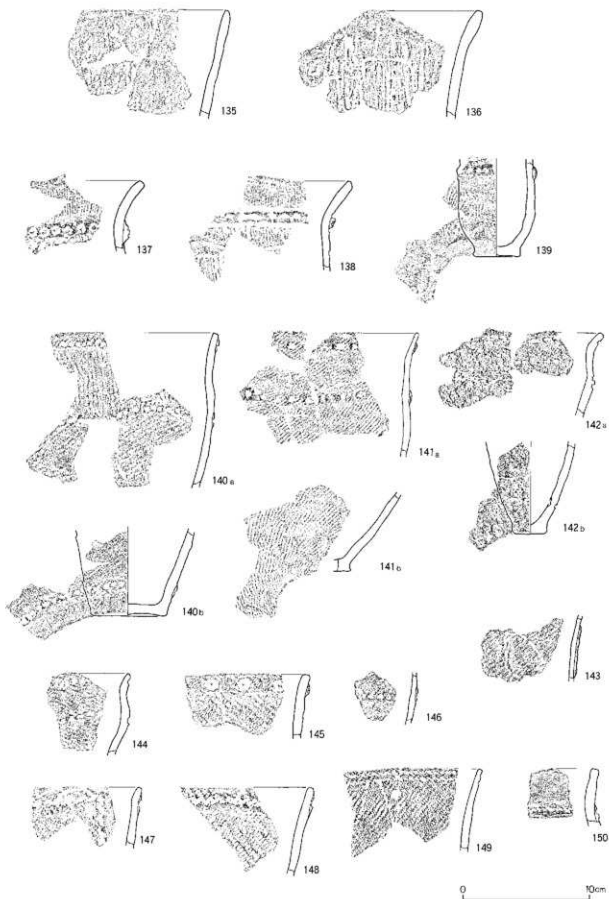
III群b類(図IV-19-135~148、IV-20 図版51~53)

調査区の北側に多く出土した。

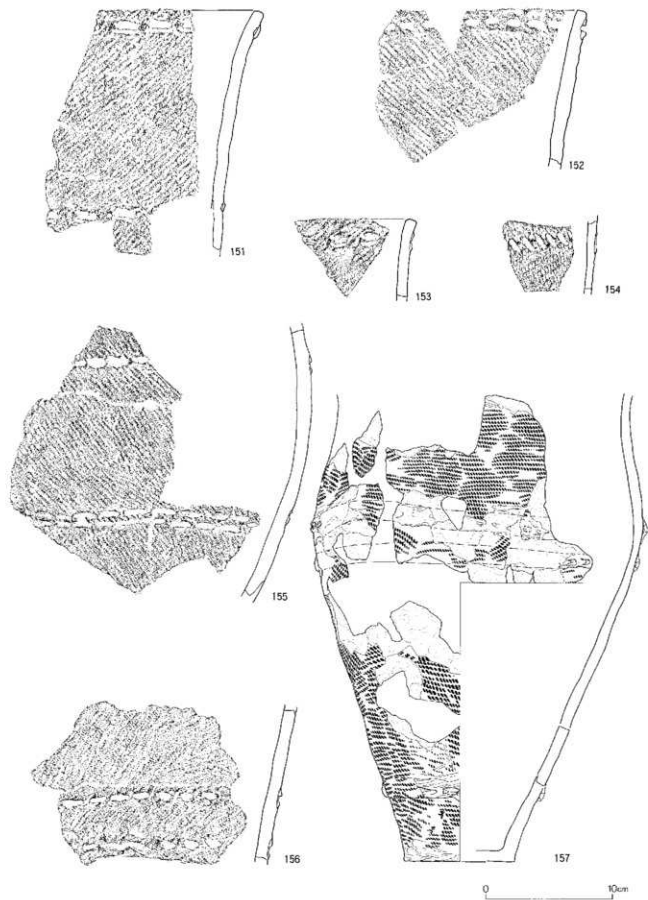
135は燃糸文が施されている。136は深鉢形土器の波頂部で、櫛歯状工具による条痕文が施されている。137、138は口縁が強く外反し、口縁と胴部の境に粘土帯による貼り付けが施されているもの。地文は櫛歯状工具による条痕が施文されている。137は貼付帯上に、竹管状の工具による刺突が斜めから加えられている。貼付帯の上下と胴部に沈線が施されている。138は貼付帯上に竹管状の工具により円形の刺突が加えられているもの。沈線が施されている。139は地文に燃糸文が施されているもの。貼付帯による貼り付けがあり、竹管状の工具による刺突が加えられている。135~139は大安在B式並行のものと考えられる。140は口縁と胴部、底部付近に貼り付けが施され、口縁から胴部にかけて縦に縄文が、胴部より底部にかけて斜行縄文が施されている。貼付帯上には棒状工具による刺突が加えられている。141は口縁と胴部の上位に貼付帯がめぐり、斜行縄文が施されている。口縁の貼付帯には棒状工具により押し引くように刺突が、胴部上位の貼付帯には垂直に刺突とボタン状の貼り付けが施されている。142は無文地に押し引きによる刺突が加えられている。143~146は縄文地に刺突が施されているもの。140~144はノダップII式に相当するものと考えられる。147、148は幅広の貼り付けを持ち、貼り付け上に縄線文が施されている。145、147、148は縄文時代後期初頭のものとも考えられる。151~157



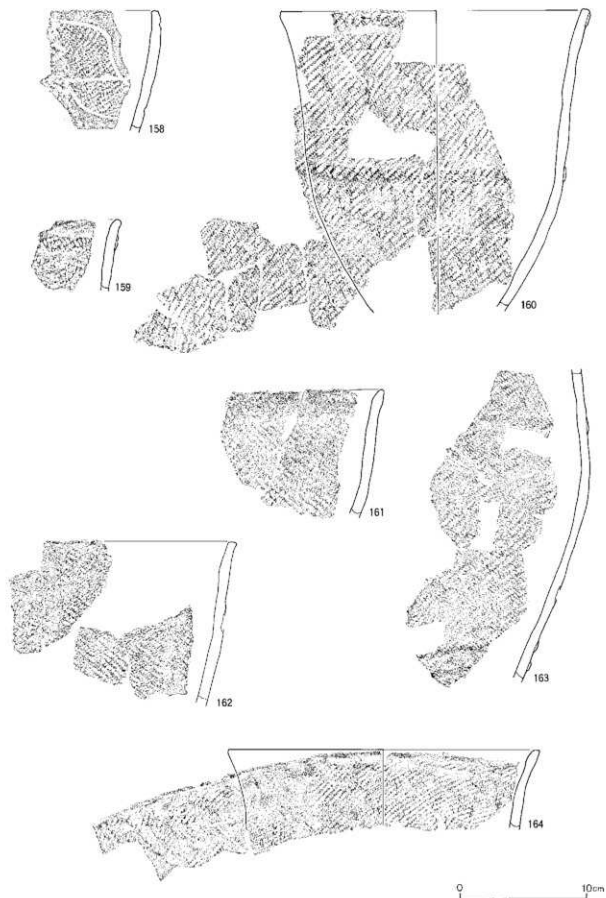
図IV-18 包含層出土の土器⑧



図IV-19 包含層出土の土器⑨



図IV-20 包含層出土の土器②



図IV-21 包含層出土の土器②

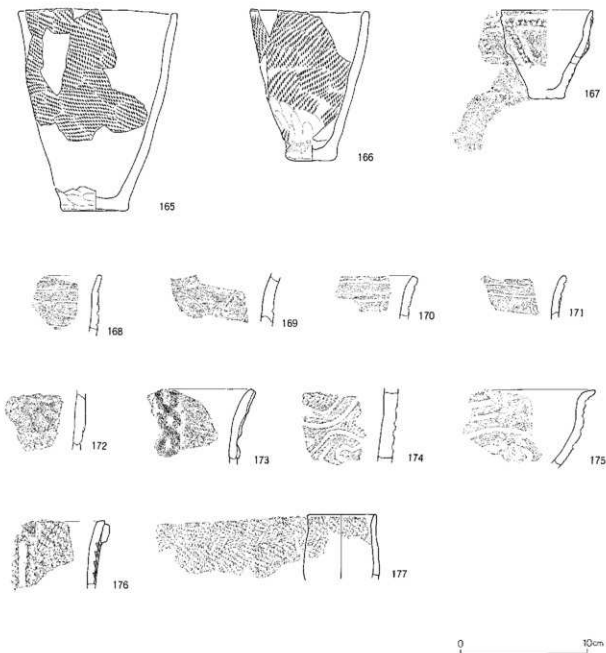
は貼付帯上に連続する短刻線文が施されているもの。157は張り出す胴部と底部付近に、縄文を施文後に貼付帯が付けられ、短刻線文が施されていたものであるが、その大部分が剥落している。

縄文時代後期（図IV-21～23）

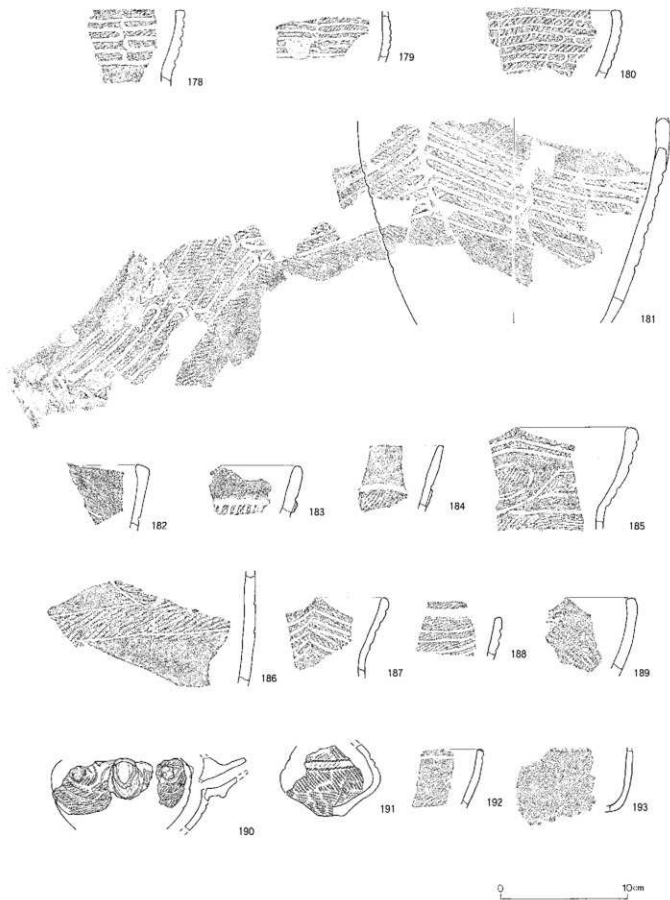
IV群 a 類（図IV-21、22 図版53～55）

IV群 a 類に分類したものは、III群 b 類と区別のつかない破片も本群に含めた。これらは出土状況に特に差は無く分けることができなかった。掲載した遺物は、III群 b 類に相当するものも含んだ。

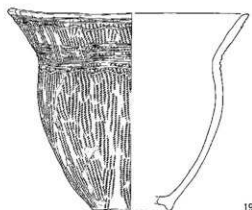
158は口唇部が内側に傾く。沈線で無文地と縄文とを区画している。159は口縁部に貼付帯による貼り付けが施されているもの。160、163は貼付帯を付けた後に縄文が施されている。160、163はIII群 b 類に遡るものと考えられる。161は結束の羽状縄文が施されている。164は平縁に小突起が付いていたも



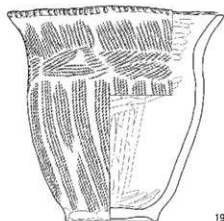
図IV-22 包含層出土の土器②



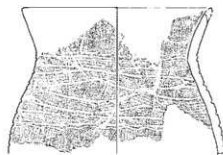
図IV-23 包含層出土の土器23



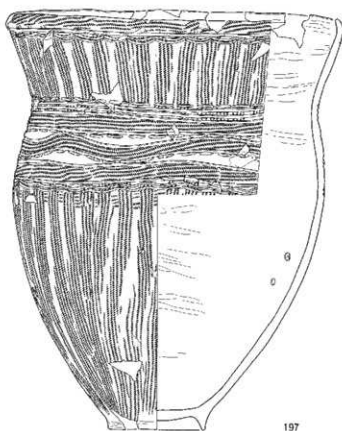
194



195



196



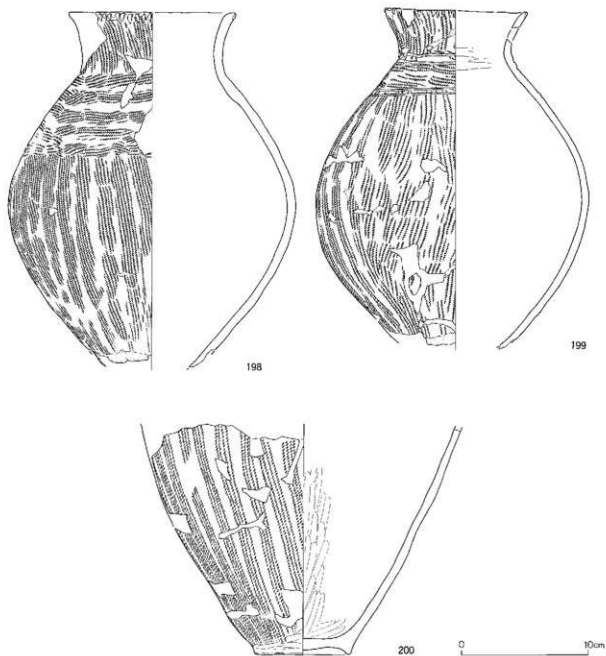
197

0 10cm

図IV-24 包含層出土の土器24

のであるが、破損している。165、166は小形で深鉢形のもの。斜行縄文が施されている。167は無文地に貼付帯が付けられ、貼付帯上と胴部に棒状工具により刺突が施されている。167は牛ケ沢(3)式相当ものものと考えられる。168～171は無文地に沈線が施されている。168は折り返し口縁部の破片。173は8の字状の貼り付けを持つ。168～173はトリサキ式に相当するもの。174は沈線により縄文と無文地を区画している。175は沈線により櫛歯状工具による条痕文と無文地を区画している。174、175は大津VII群に相当するもの。176は縄文地にボタン状の貼り付けとそこから垂下する沈線、沈線の両側には竹管状の工具により下からの刺突が加えられている。大木10式並行のものと思われる。177は小形のもの。
IV群b類 (図IV-23-178～186 図版55)

調査区北西側の森川4遺跡と接する付近で出土している。



図IV-25 包含層出土の土器②

178～181は口唇部の下に並行する沈線文が施されているもの。181は波状口縁の土器。183は貼付帯上に刻みが加えられている。184、186は沈線により無文地と縄文地を区画している。178～186は手箱式に相当するもの。

IV群c類 (図IV-23-187～191 図版55)

調査区の東側と西側に点在していた。

187、188は縄文地に沈線文が施されているもの。189は縄文のみもの。190は注口土器。縄文地に沈線文が施されている。注口の両側には貼り付けがある。191は縄文地に縄線文が施されている。IV群c類としたが、IV群の範疇にあるもとかと思われる。

縄文時代晩期

V群土器 (図IV-23-192、193 図版55)

調査区の西側に点在していた。

192は棒状工具による刻みが入る小波状のもの。口唇直下には沈線が施されている。193は小形のもの。沈線が施されており、そこから破損している。

続縄文時代

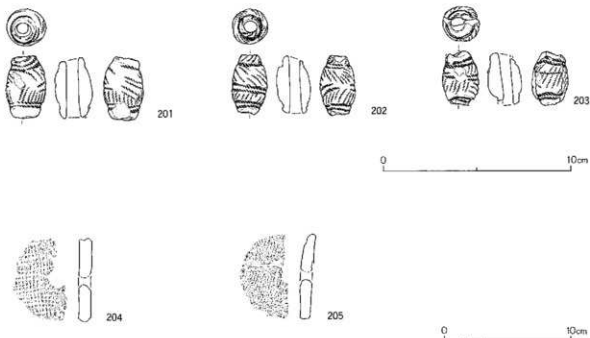
VI群土器 (図IV-24、25 図版34、56)

調査区の東側に多く出土した。ここでは続縄文時代の焼土、土坑が検出されている。

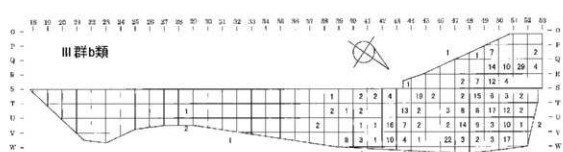
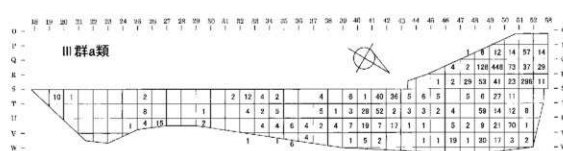
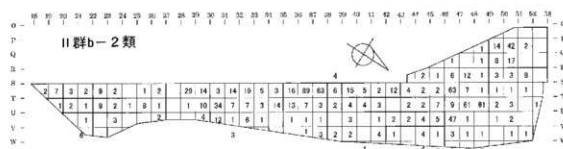
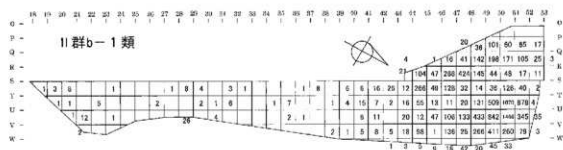
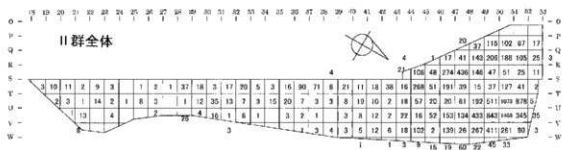
194～197は甕形のもの。194は胴部が張り出さない。口唇に棒状工具による刻みが加えられている。外反する口縁と胴部には縞縄文が、頸部には横方向に縄文が施されている。195～197は沈線文が施されているもの。198、199は壺形のもの。

土製品 (図IV-26 図版55)

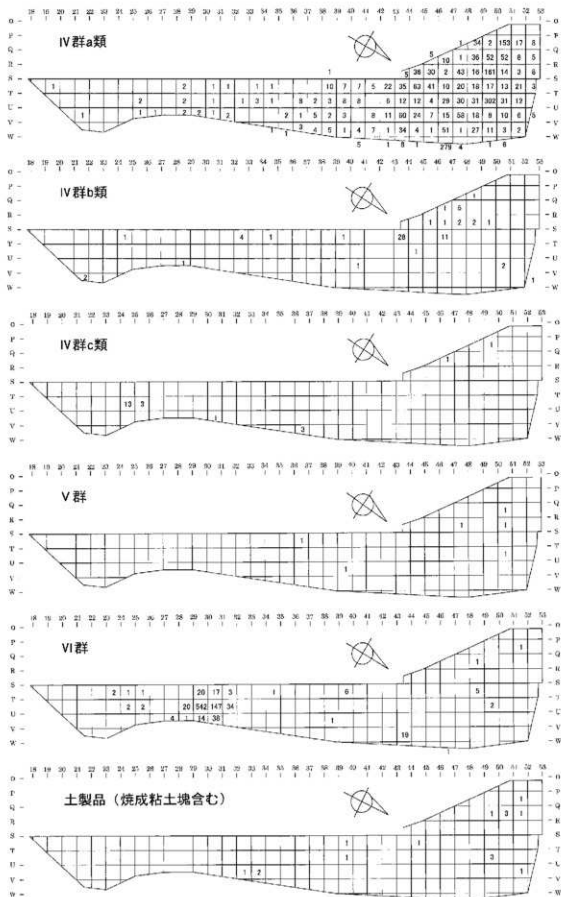
201～203は土製品。縦に孔があけられている。両端と中央に2条の縄線文と、その縄線文の間に斜めに縄線文が施されている。204、205は土器片再生円盤。204は単軸絡条体の回転文、205は多軸絡条体による回転文が施されている円筒土器下層d式の土器片を利用したもの。(袖岡)



図IV-26 包含層出土の土製品



図IV-27 包含層出土土器の分布(1)



図IV-28 包含層出土土器の分布②

2 石器

包含層の石器等は11,091点出土した。内訳は石鏃が111点、石槍またはナイフが25点、石錐が24点、つまみ付きナイフが74点、スクレイパーが242点、両面調整石器が17点、石斧が61点、たたき石が145点、すり石が373点、扁平打製石器60点、北海道式石冠49点、石鏟が1点、砥石が4点、石鋸が12点、台石・石皿が107点、U・Rフレイクが62点、ピエス・エス・キユが1点、石核が27点、加工痕礫が11点、フレイクが3,834点、礫が5,840点、石製品が9点である。その他、原石1点、高師小僧1点が出土している。これらは畑跡の攪乱によると考えられるⅢ層・Ⅳ層・畑跡で取り上げられた802点の遺物を含んでいる。さらにそれぞれの点数には破片も含んでおり、石斧の出土点数には多くの破片が含まれている。

石材は剥片石器類では頁岩が最も多く64%で次に脂肪光沢の象牙色の蛋白石が33%である。黒曜石は2%に留まり、他にメノウ、チャート、珪岩が使用されている。礫を除いた礫石器類は87%が安山岩を使用している。石斧は泥岩が多く、他に片岩、粘板岩なども使用されている。礫石器は他に砂岩、凝灰岩、流紋岩などが使用されている。

石器全体の分布傾向は北側の森川に面した舌状の張り出し部分に多く、検出された遺構の分布と一致する。調査範囲の中央からやや南側にも多く分布する地点がある。

本遺跡出土の石器の特徴としてスクレイパー・たたき石・すり石・扁平打製石器・台石等の礫石器が多い。住居跡が検出され、また、遺構の構築時期が円筒土器下層式期であることから遺跡の性格・時期の特徴を反映している。

石材では他の遺跡ではさほど使用されていない蛋白石を素材とした石鏃、スクレイパー・フレイク等が多く出土している。現在のところ産出地については不明であるが、遺跡の周辺で容易に入手できたものと推定される。周辺の河川の石器素材の礫について横山英介氏が精力的に調査・サンプリングを行っている。その調査結果の発表が待たれる。

各器種の出土分布図を示した(図Ⅳ-46~49)。なお、点数は、接合前の出土点数である。

石鏃(図Ⅳ-1-1~47)

1~47は三角形のもの(1~22)、木葉形や菱形のもの(25~29)、有茎のもの(30~47)に細分される。1~19は三角形の凹基のもので11・12は特に基部の挟りが深く逆刺は長く延びている。また、13~16は逆刺を意図的に作り出している。13は表面の中央部に黒褐色の物質が点状に付着している。15は被熱による剥落がみられ、左逆刺の破損はこのためである。17・18は尖頭部を再生しているもので、17の表面の中央部に黒褐色の物質が点状に付着している。19は尖頭部に打面が残っているもので、縦長剥片を素材に、打点側を尖頭部にし、三角形鏃を作出しようとしていたと考えられる。凹基は挟りの調整に主眼が置かれているように見受けられ、厚味を残している。20~22は三角形の平基のもの。20は被熱による剥落が著しい。22は基部に被熱による剥落がみられる。

23~28は木葉形のもの。23・24は平基気味で、中央部に張り出しがみられ五角形を呈する。25~28は凹基のもので、25の基部に被熱による剥落がみられる。26は未成品の可能性がある。29は菱形のもの。

30~47は有茎のものである。31~33は平基で基部の尖ったもの。32の尖頭部は薄く再調整されている。33は基部に黒褐色の物質が付着している。34~43は有茎凸基のもの。34は尖頭部と左側逆刺を再調整したもので刃部と茎部の長さがほぼ等しい。35~39は茎部の幅の広いもの。35・36の茎部下端は

逆刺状に突き出ている。38の中央部から茎部に暗褐色の物質が付着している。39は横剝片を素材に周縁加工で作りに出されている。40～43は有茎凸基で逆刺が丸みを帯び不明瞭なもの。41の尖頭部は再調整されている。44～47は有茎平基からやや凸基のもので、刃部が長く、側縁が内湾気味で、逆刺が明瞭なもの。44・45は茎部破損。

石槍またはナイフ (図IV-2-48～60)

48～60は有茎のもの(48～56)と、茎の明瞭でないもの(57～60)に細分される。48～51は側縁が非対称なものである。刃部再生の剝離が加えられた可能性がある。48は茎部欠損。49は一部に原石面が残っている。50は茎部裏面に暗褐色の物質が付着している。52の茎部は短く、右側は逆刺状に突き出し厚味がある。また、裏面は広範囲に黒褐色の物質が付着している。つまみ付きナイフの可能性もある。53～56は逆刺の明瞭なもの。53・54は側縁が非対称なもので、逆刺の形が左右で大きく異なる。刃部再生の剝離が加えられた可能性がある。53は尖頭部欠損。55は一部に原石面が残っている。56は茎の下端の両側に抉りがみられる。

57は中央部両側面に抉りがみられ刃部は逆刺のあるような調整を行っている。58は両側面の対称な位置に2カ所ずつ抉りが見られる。60は両面に原石面が残る、薄い素材を用いていることがわかる。また、尖頭部が欠損している。

石鎌 (図4-2-61～70)

61～70は不定形剝片の一端に粗い剝離を加え刺突部を作り出しているもの。棒状のものや棒状につまみ部のついたものは出土していない。61は上部まで周辺を調整しているが62～68は刃部のみ調整している。63は断面三角形の素材を用いている。64は裏面に原石面が残っている。69・70は両面に丁寧な調整が施されている。円基の石鎌の可能性もあるが厚味があることから石鎌とした。

つまみ付きナイフ (図IV-3-71～87)

71～85は縦形のもの、86・87は横形のものである。71～84は片面加工のつまみ付きナイフで、72～80・82・84は片面周縁加工のもの。71・84は片面側縁の背面に刃部作出のための調整が加えられたもの。72～77は両側縁に加えられた刃部作出のための調整によって下端が尖るものである。72は刃部下端の片側に剝離が加えられ石鎌の機能部が作出され、石鎌としての使用痕跡も認められる。78は下側が欠損している。79はつまみ部の幅が広い形態である。71・81～84は周縁加工のもの。81はつまみ部のみが作出されたもの。82～84は側縁に刃部が作出されたもので、82・83は両側縁に刃部を持つもので、83の正面右側縁は両面から刃部が作り出されている。85は両面加工で下端は尖頭状に作り出されている。86・87のつまみ部は両面加工で、刃部は背面からの周縁加工によって作出されている。

スクレイパー (図IV-3-5-88～126)

88・89は石べらと称されるもの。89は上部が欠損している。

90・91は縦長剝片の下端部に刃部をもつもので、90は原石面を一部に残している。

92・94～101・103～は縦長剝片の側縁に刃部をもつもの。縦長剝片の側縁に刃部をもつものうち、98・99・102は片面のほぼ全面に調整が加えられているもの、96・101・104は素材の形状を大きく変えることなく刃部を側縁に作出しているもの。103・105～107は側辺と下辺に刃部調整のみられるもの。92は原石面を一部に残している。下端の裏面に大きな剝離がみられる。94・95・97・99は両側縁部に

刃部調整が施されている。95は被熱による剥落が著しい。99は裏面にも調整が施されている。100・101は側面に刃部調整がみられる。102は下半部にツヤがある。104は表面、裏面、各々の左辺に刃部調整が交互になされている。101・104は下端部に原石面を残している。107の左辺のくびれは製作時のものである。

93は横長剥片の側面に刃部をもつもの。端部の裏面に刃部調整が施されている。刃部の中央から奥側にツヤがある。

108～113は側面に抉り入りがあり刃部とするもの。109はU49・V48出土の破片が接合した。110の図の左端は被熱のため暗茶褐色に変色している。

114～116はエンドスクレイパーで側縁から下は急角度に刃部調整をしている。

117～126は折割エンドスクレイパー。円を1/4にした扇形と二等辺三角形の端部に短い直線の刃部を持つものがある。これらは刃部調整後に折割ったもので、形態がパターン化していることから、破損によるものとは考えられない。117～121は扇形のもの、122～126は二等辺三角形のものである。

両面調整石器 (127～130)

127は上部が欠損している。茎部の張り出した石鏃の可能性もある。128・129は粗い調整が両面にみられ129は下左辺に原石面が残る。130は上下が被熱で割れ欠損し、V43とW42のⅢ層出土の破片が接合している。丁寧な調整から石槍の可能性もある。

石斧 (131～143)

131は石斧の破片を素材にした小型のもので、一端に擦りにより刃部が作り出されている。132～134・137～140は打ち欠きにより整形された後、磨かれたもの。132は片刃に加工されている。135・136は全面磨製と思われる破片で片刃に加工されている。137は刃部が破損しているが片刃である。138・139は被熱している。139はS47・50、T41・V42出土破片の4点が接合している。出土位置は20m以上離れている。143は擦り切り手法によるもので、折れ面にはたたき痕がみられる。

たたき石 (144～153)

144・145は断面三角の楕円状の礫を素材としたもので、144は下端にたたき痕がみられる。145は上下にたたき痕が認められる。上面と裏面に被熱による変色がみられる。146は扁平礫を素材としたもので上下両面にたたき痕がみられる。147～150は円礫を素材としたもの。151～153はくぼみ石で151・152は扁平な亜円礫を素材とし、153は棒状礫を素材としている。3者とも両面に敲打によるクボミがみられる。

すり石 (154～164)

すべて断面形が三角形の礫の稜を擦ったすり石である。154・162・163のすり面は幅が狭く、他は幅が広いもの。154は表面下側に酸化鉄が付着している。160は裏面に暗褐色物質が付着している。164の右側縁は焼けている。

扁平打製石器 (165～172)

165～167は下端に明瞭な打ち欠きを加えられていないもの。165～167は両端も打ち欠きが施されているもので、すり面の幅が広い。165のすり面に斜めに細長く角度が変わり稜線がみられる。これは表

裏を持ち替えて使用した際に付いた痕跡と考えられる。左端は焼けて変色している。167は中央部から上端にかけて焼けて変色している。168～172は下端に打ち欠きを加えられているものである。168・171は下辺のすり面の幅が狭い。169・170のすり面の幅は広い。172は周囲が打ち欠かれているが使用した痕跡は無い。

北海道式石冠 (173～182)

173は左側が欠損した後も使用されている。174は最も小型のもので高さ・厚さに比べ横幅が短い。175はR49・S50出土破片が接合した。破損後も右側(S50)は使用されている。176は両端が破損している。177は表面に黒色物質が付着している。179のすり面は縦断面が斜めになり端は丸まっている。180は被熱し下の右半分がやや黒く変色してヒビが入っている。181はP52・S49出土破片が接合した。破損後も右側(S49)は使用されている。182は右側が欠損しているが破損後も使用されている。

石錘 (183)

183は4辺に打ち欠きを加えた石錘である。2点が接合している。

砥石 (184～186)

184は研磨面が平滑で板状のもの。185・186は角柱状のもの。185は4面にすり痕がみられる。186は3面にすり痕があり、さらに溝状の細いすり痕が2面にみられる。

石鋸 (187～190)

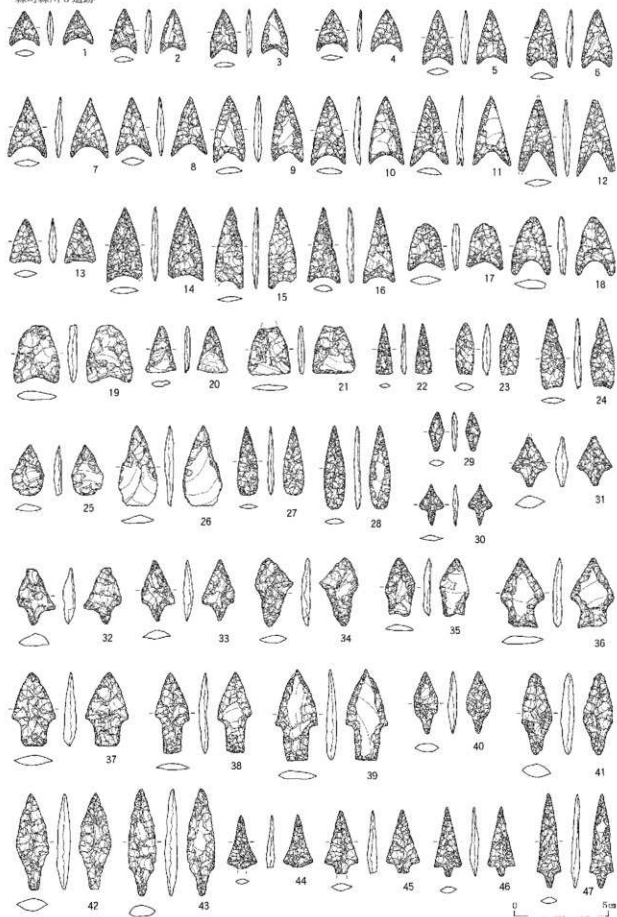
187は扁平に打ち剥した礫を素材に一辺に機能部として使用している。188～190は盤状礫を素材に一辺を機能部としている。188は上辺も打ち欠いて調整している。190は4点が接合し、図の左側に黒色の物質が付着している。188～190とH-2で出土した石鋸は同質な石材を使用している。同じ母岩から採取した可能性もある。

石皿 (191～194)

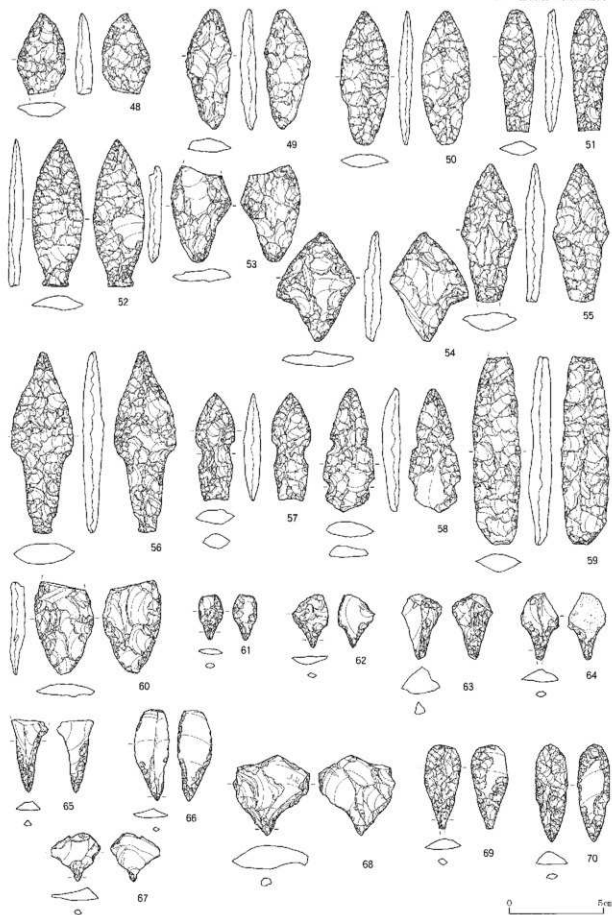
191・192・194は片面を使用し、192・194は大きくくぼむ使用痕がみられる。193は両面を使用したもの。U29・30の出土資料が11点が接合した。図の下半(U29)が細かく割れている。

石製品 (195～199)

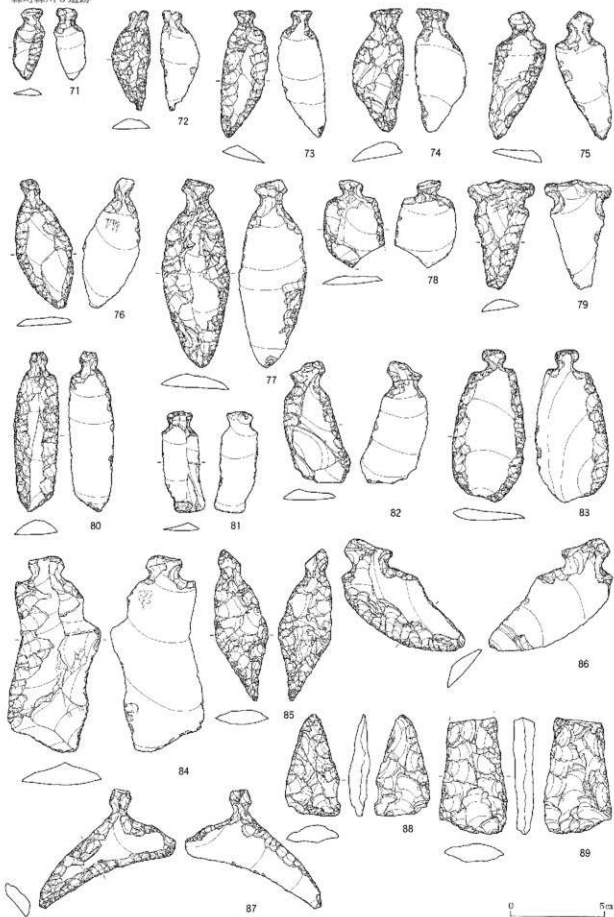
195は軽石の全周を擦って厚味のある楕円形の板に整形している。196・197は周辺や面を擦って整形し、刃部は作出されていないがミニチュア石斧状に作り出している。196の上部に暗褐色の物質が点状に付着している。197は極めて脆弱な素材を用いている。表面は被熱で黒く変色している。198・199は扁平礫の周囲を打ち欠いて木葉形に整形している。198の下辺から裏面下側はやや赤変している。使用によるものが被熱または埋まった条件によるかは判断できない。199は図の右が欠損している。



図IV-29 包含層出土の石器(1)

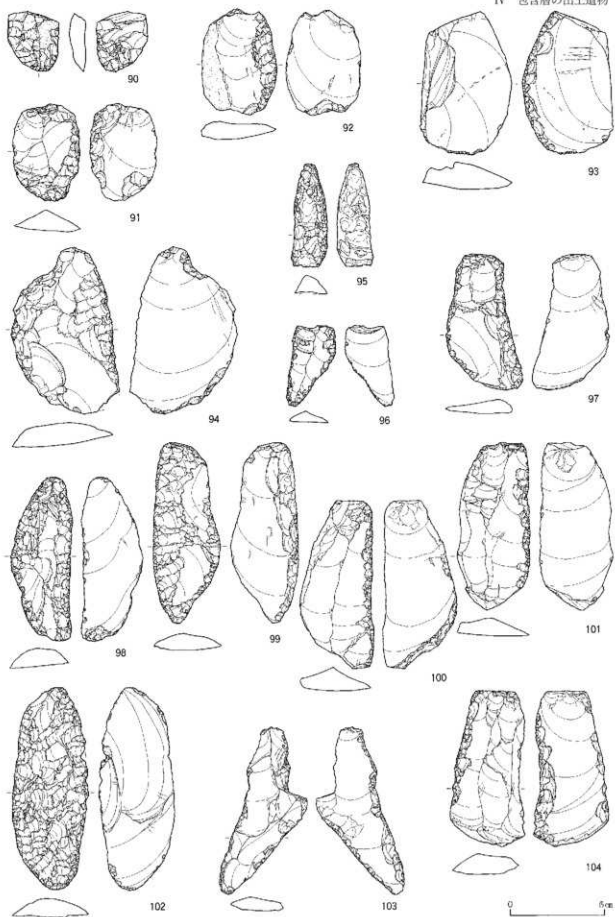


図IV-30 包含層出土の石器(2)

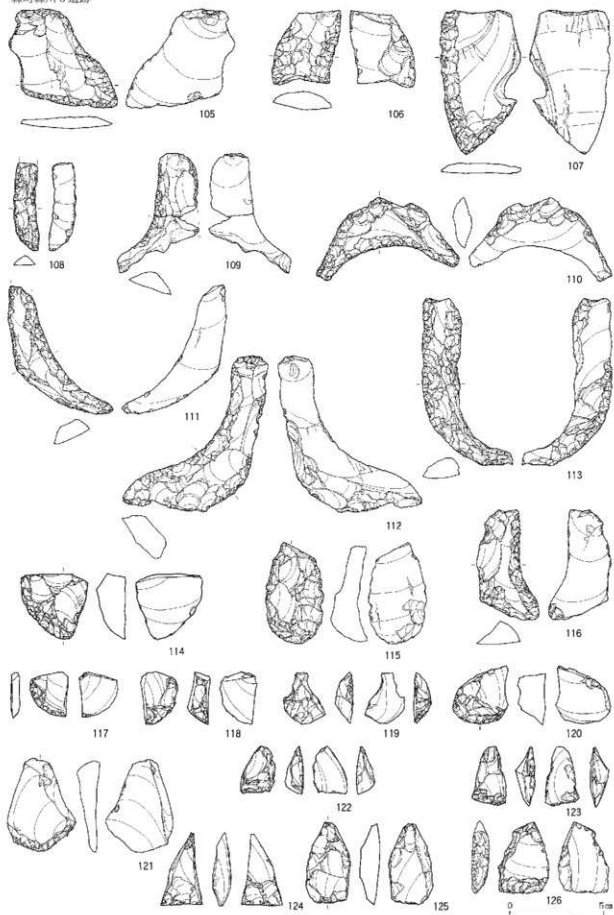


図IV-31 包含層出土の石器③

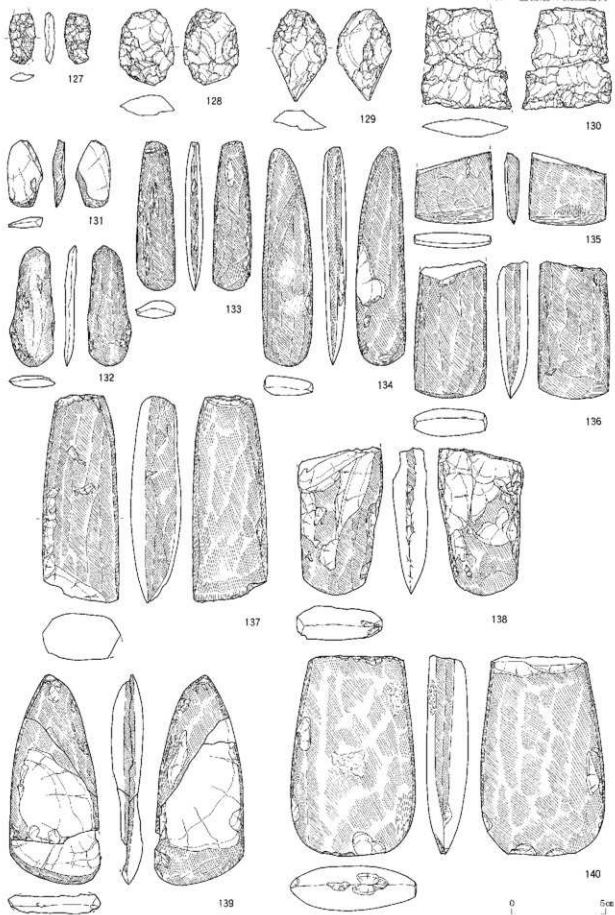
IV 包含層の出土遺物



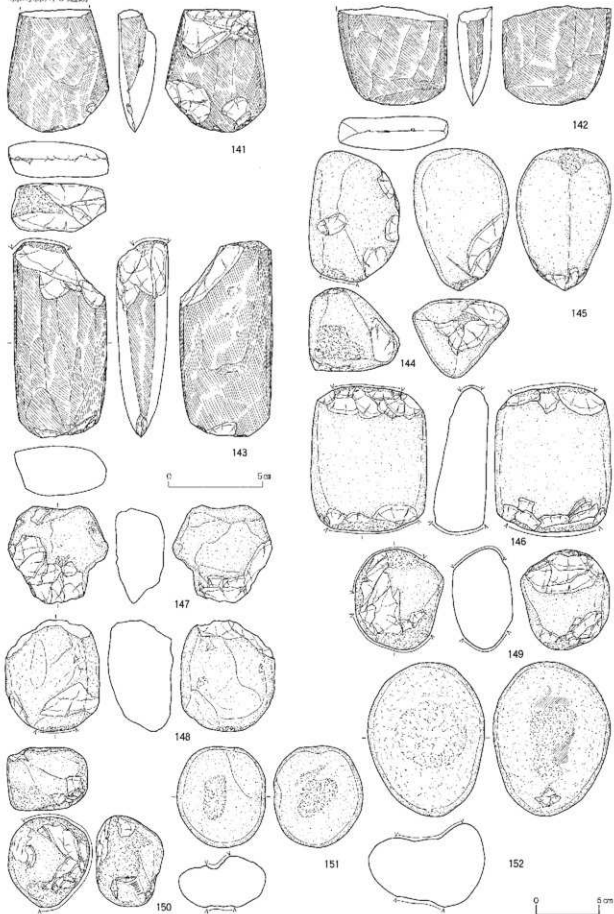
図IV-32 包含層出土の石器(4)



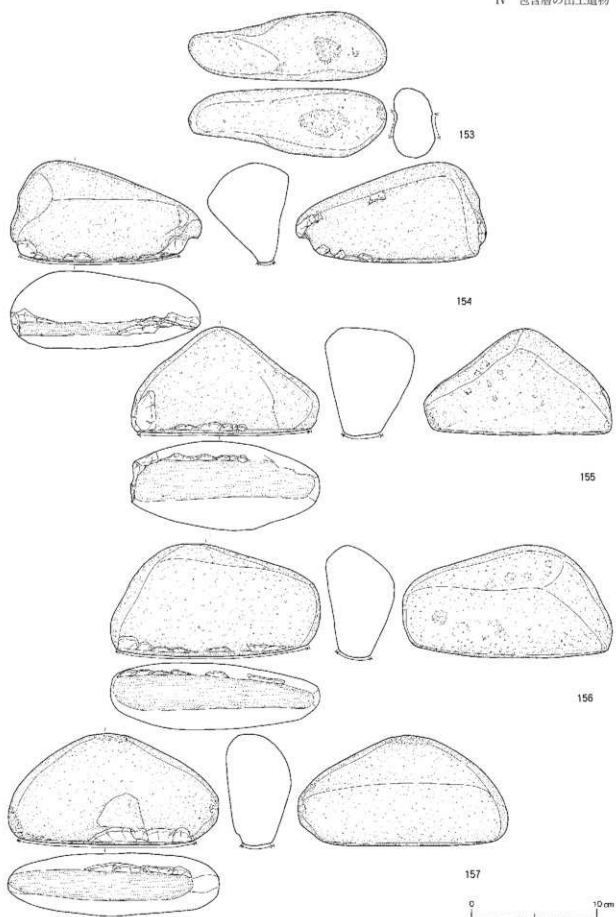
図IV-33 包含層出土の石器(5)



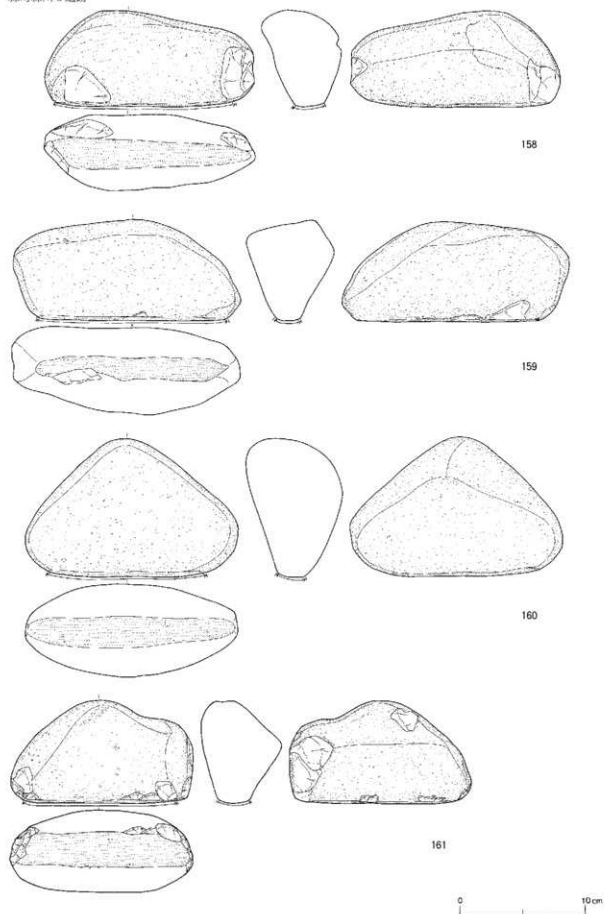
図IV-34 包含層出土の石器(6)



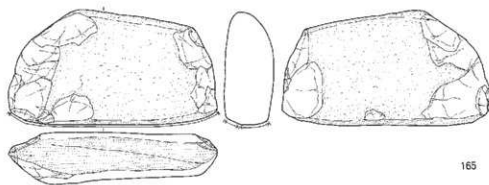
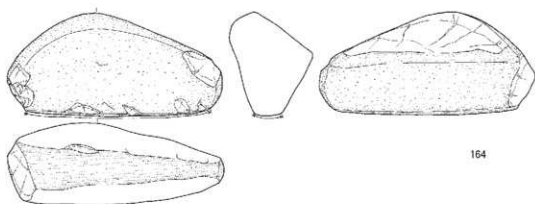
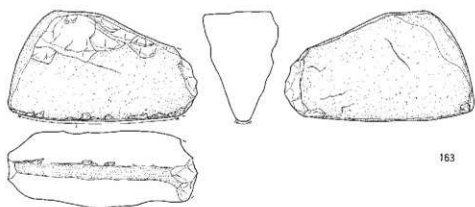
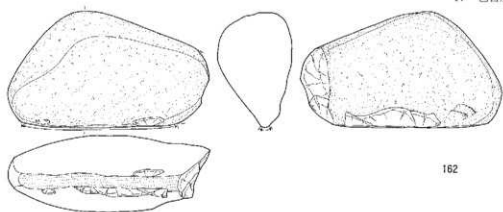
図IV-35 包含層出土の石器(7)



図IV-36 包含層出土の石器(8)

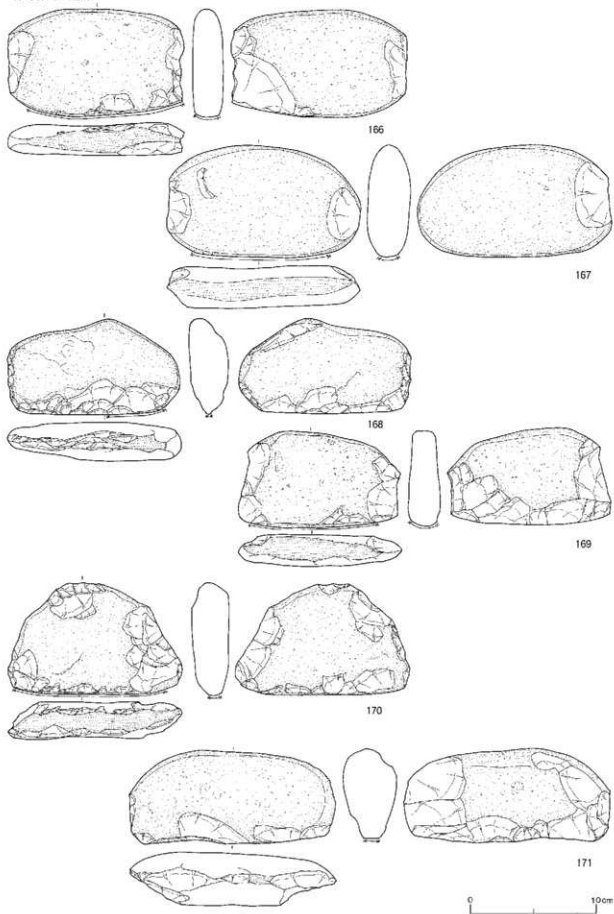


図IV-37 包含層出土の石器⑨

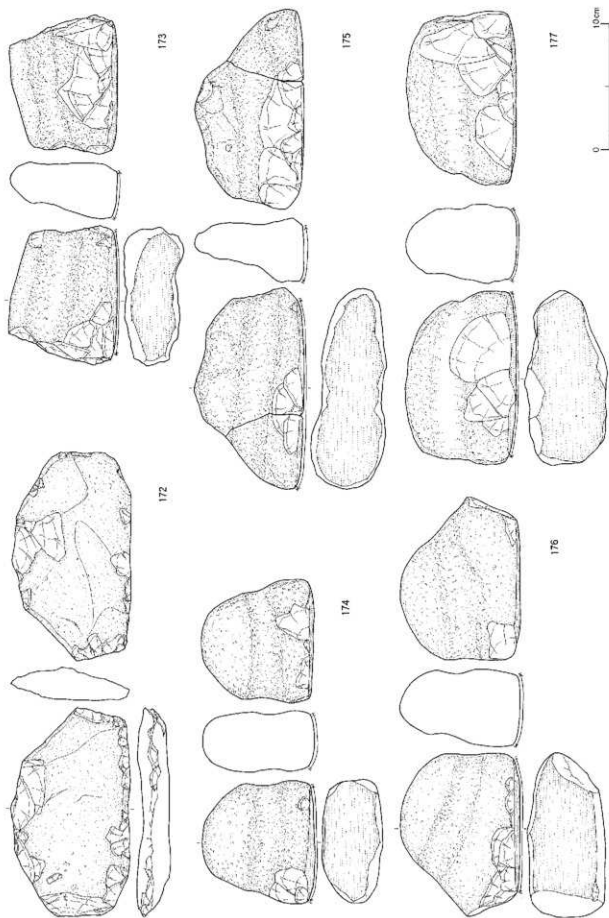


0 10cm

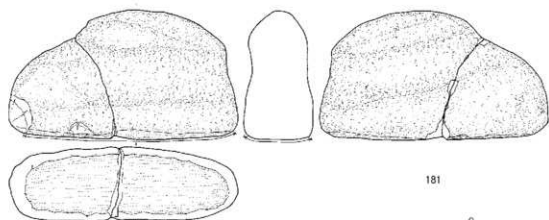
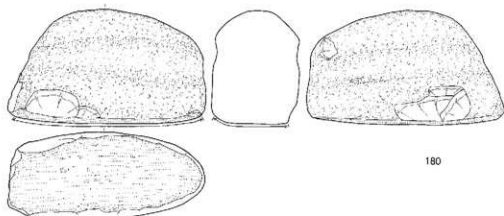
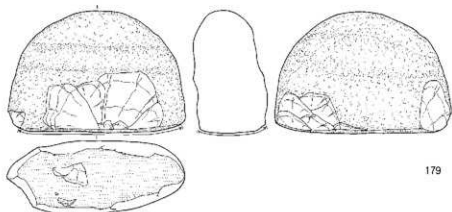
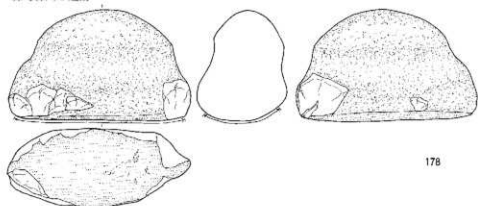
図IV-38 包含層出土の石器⑩



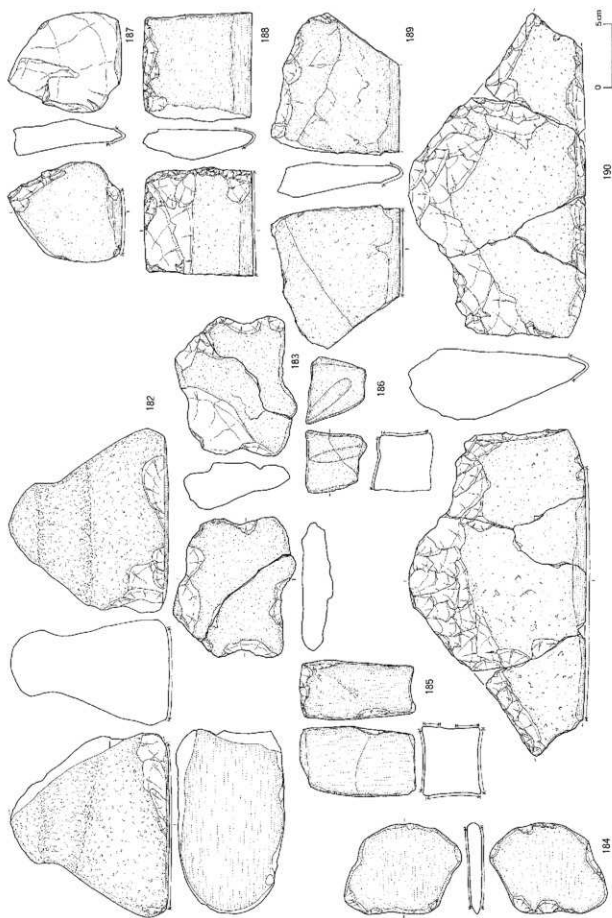
図IV-39 包含層出土の石器(1)



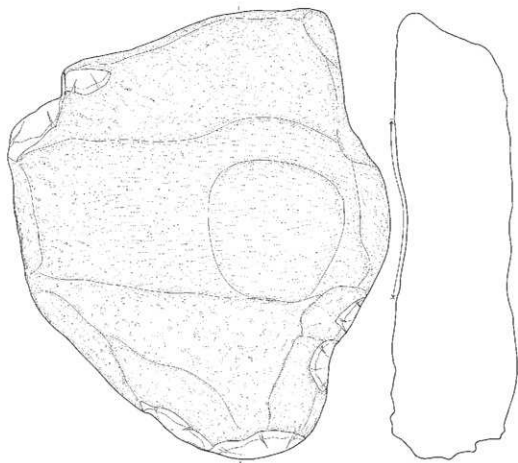
図IV-40 包含層出土の石器12



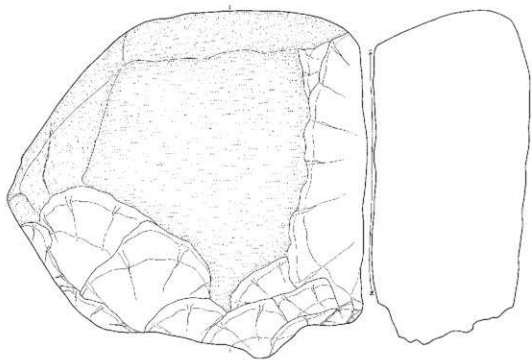
図Ⅳ-41 包含層出土の石器⑬



図IV-42 包含層出土の石器14

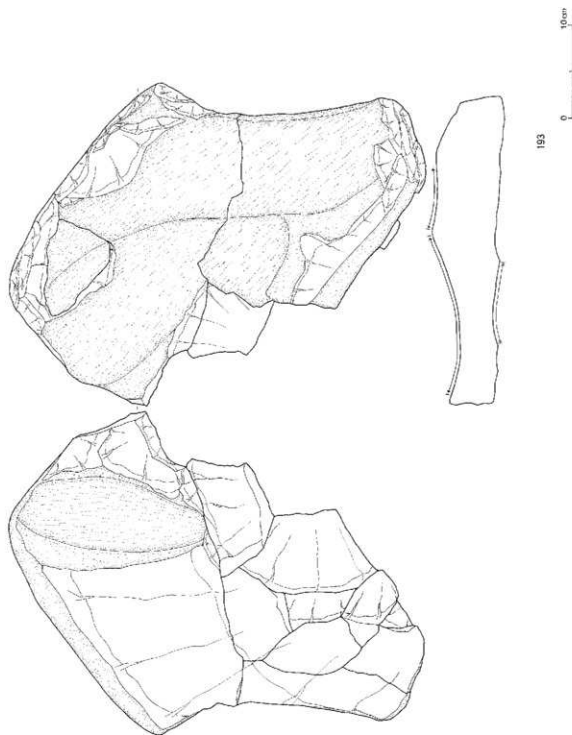


192

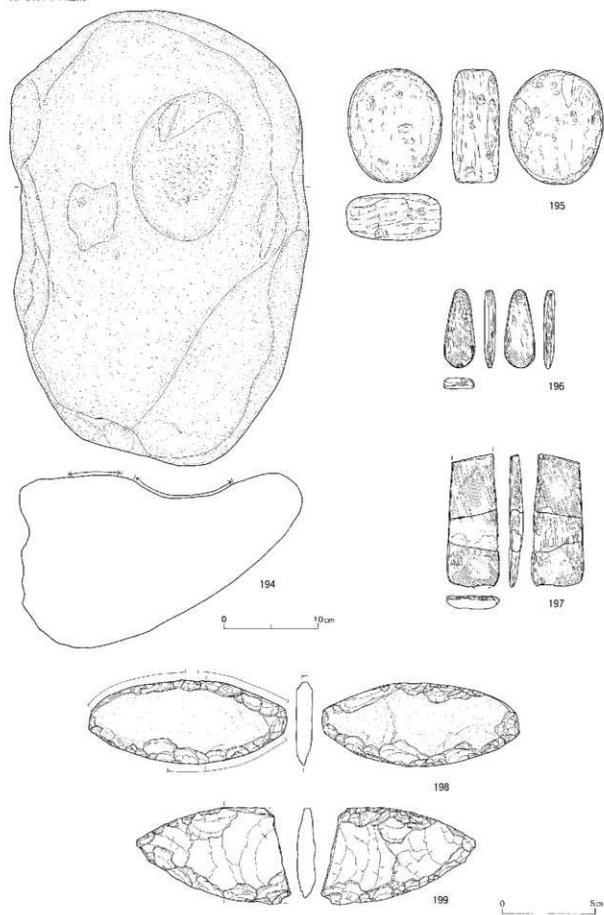


191

図IV-43 包含層出土の石器15

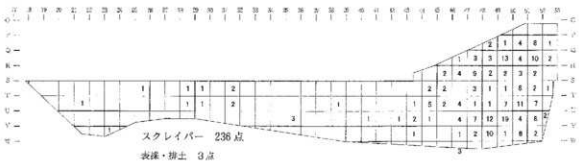
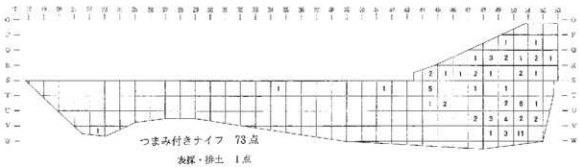
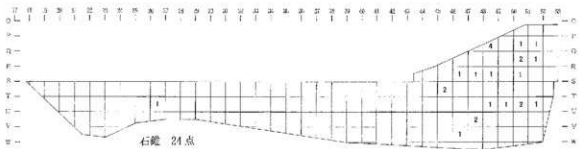
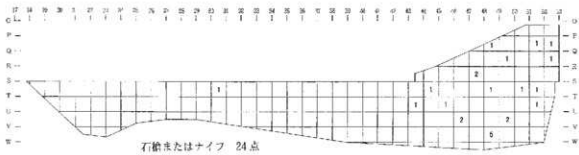
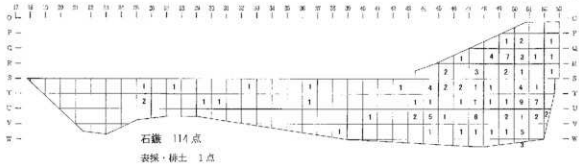


図IV-44 包含層出土の石器16

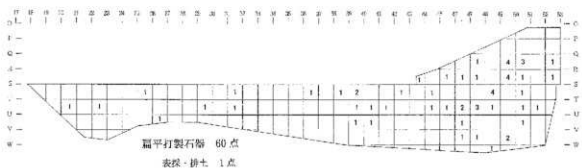
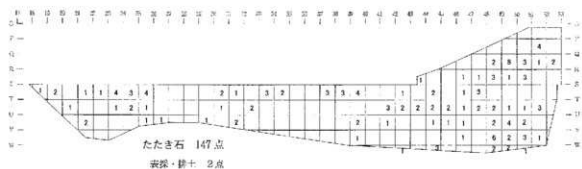
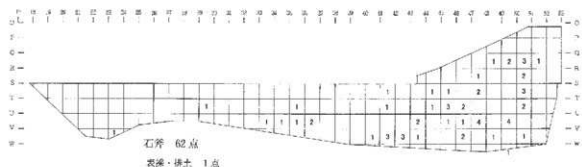
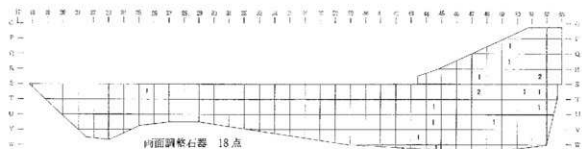


図IV-45 包含層出土の石器(7)

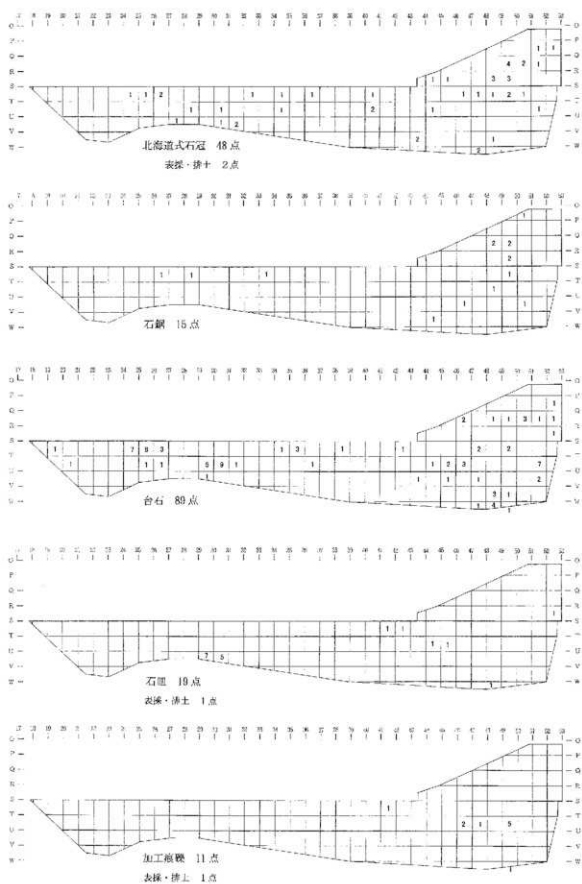
IV 包含層の出土遺物



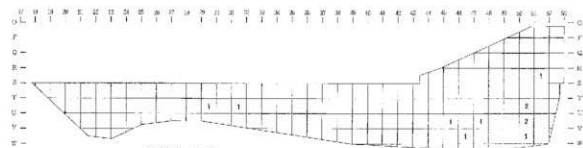
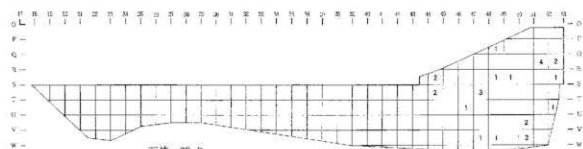
図IV-46 包含層出土石器の分布(1)



図IV-47 包含層出土石器の分布②



図IV-48 包含層出土石器の分布③



図IV-49 包含層出土石器の分布(4)

表1 遺構規模一覧

遺構名	位置	規 模 (単位 m)			平面形	長軸方向**	時 期	備 考
		長 軸*	短 軸	深 さ				
H-1	V, W-44, 45	3.90/3.10	3.26/2.56	0.78	扇形	N-9°W	縄文時代中期末～後期前葉	
H-2	T-49, 50	2.50/2.00	2.38/1.88	0.50	不整形	N-64°W	縄文時代前期	
H-3	Q, R-50	2.30/2.16	2.05/1.86	0.97	不整形	N-17°E	縄文時代前期	二段構成
H-4	P, Q-50	3.19/2.89	3.05/2.34	0.88	不整形	N-48°W	縄文時代前期	三段構成
H-5	R, S-50, 51	2.15/1.77	2.12/1.72	0.30	円形	N-16°E	縄文時代中期前半	
P-1	S, T-38	0.97/0.68	0.94/0.58	0.32	円形	N-9°E	縄文時代前期～中期前半	
P-2	V, W-37	0.76/0.64	—	0.50	(円形)	—	縄文時代後期前葉	
P-3	U-43, 44	1.79/1.49	1.65/1.34	0.46	円形	N-3°E	縄文時代前期～中期前半	
P-4	T-39	0.69/0.45	0.6/0.52	0.40	円形	N-14°E	縄文時代中期前半	
P-5	T-43	(0.73/0.42)	0.66/0.44	0.45	楕円形	N-60°E	縄文時代前期～後期前葉	
P-6	T-42	(0.68/0.61)	(0.73/0.56)	0.36	楕円形	N-34°W	縄文時代中期～後期前葉	
P-7	S-39, 40	0.69/0.60	0.65/0.57	0.53	円形	N-71°E	縄文時代中期前半	
P-8	S-39	0.69/0.57	0.54/0.48	0.40	楕円形	N-44°W	縄文時代前期	
P-9	S, T-39	0.93/0.65	0.86/0.60	0.53	円形	N-73°W	縄文時代前期～中期前半	
P-10	R, S-44	1.15/0.90	(0.40/0.30)	0.36	(楕円形)	N-5°E	縄文時代前期	
P-11	Q-51	1.10/0.75	0.97/0.70	0.54	円形	N-79°W	縄文時代前期～中期後期前葉	
P-12	T-48, 49	(0.92/0.78)	(0.78/0.63)	0.45	(楕円形)	N-84°W	縄文時代後期前葉	
P-13	U-50	1.01/0.77	0.88/0.64	0.46	円形	N-56°W	縄文時代前期	
P-14	S-47, 48	1.24/1.11	0.85/0.77	0.25	隅丸方形	N-25°E	縄文時代前期～後期前葉	
P-15	S-30	1.09/0.83	0.92/0.65	0.30	不整形	N-56°W	縄文時代	
P-16	P-31, 52	1.03/1.04	0.87/0.82	0.59	楕円形	N-89°E	縄文時代前期～中期前半	
P-17	Q, R-49	(0.85/0.69)	(0.55/0.44)	0.46	(楕円形)	N-1°W	縄文時代後期前葉	
P-18	R-49	(0.53/0.41)	(0.43/0.29)	0.41	円形	N-38°E	縄文時代後葉	
P-19	R-49	0.73/0.58	0.65/0.50	0.48	円形	N-74°W	縄文時代中期後葉	P-33より新
P-20	R-49	1.00/0.82	(0.78/0.60)	0.38	楕円形	N-83°E	縄文時代中期後葉	
P-21	R-49	0.71/0.56	0.58/0.42	0.29	楕円形	N-1°E	縄文時代中期後葉	P-22, 33より新
P-22	R-49	0.71/0.52	(0.47/0.34)	0.23	(円形)	N-4°W	縄文時代中期	P-21と重複
P-23	P-51	1.76/1.60	(1.14/1.08)	0.35	(—)	N-34°W	縄文時代前期～後期前葉	
P-24	R-50	1.05/0.54	0.96/0.57	0.38	円形	N-8°E	縄文時代後期前葉	
P-25	S-49	0.93/0.65	0.72/0.46	0.27	楕円形	N-38°W	縄文時代前期～後期	
P-26	T-51	1.23/0.88	1.10/0.76	0.66	円形	N-29°E	縄文時代前期	
P-27	T-48	0.63/0.45	0.56/0.39	0.28	円形	N-50°W	縄文時代前期	
P-28	T-48	0.57/0.34	0.54/0.37	0.29	円形	N-75°W	縄文時代前期～中期前半	
P-29	T, U-48	0.63/0.47	0.56/0.40	0.25	円形	N-18°W	縄文時代前期～中期前半	
P-30	T-46	0.83/0.71	0.69/0.58	0.36	楕円形	N-37°W	縄文時代前期～後期	
P-31	T-48	0.71/0.46	0.66/0.48	0.42	円形	N-10°W	縄文時代中期後半～後期前葉	P-36より新
P-32	T-48	0.70/0.62	0.63/0.48	0.30	楕円形	N-1°W	縄文時代後期前葉	P-36より新
P-33	R-49	0.78/—	—	0.35	(円形)	N-74°W	縄文時代前期～中期	P-19, 21と重複
P-34	T-50	0.70/0.56	0.68/0.48	0.20	円形	N-52°E	縄文時代前期～後期前葉	
P-35	R-51	0.64/0.36	(0.45/0.32)	0.36	楕円形	N-30°W	縄文時代中期前半	
P-36	T-48	1.24/0.99	1.22/0.86	0.40	円形	N-60°E	縄文時代中期前半	P-31, 32と重複
P-37	T-45	0.19/0.92	0.98/0.70	0.54	楕円形	N	縄文時代前期	二段構成
P-38	T-45	0.85/0.72	0.72/0.68	0.42	円形	N-68°W	縄文時代前期	
P-39	S-44, 45	0.51/0.32	0.48/0.34	0.41	円形	N-60°E	縄文時代前期～後期前葉	
P-40	T-46	0.94/0.70	0.70/0.40	0.26	楕円形	N-52°W	縄文時代前期～後期前葉	
P-41	P-50, 51	0.62/0.48	0.53/0.44	0.21	不整形	N-54°E	縄文時代前期～後期前葉	
P-42	U-46	0.81/0.31	0.79/0.56	0.36	不整形	N-1°W	縄文時代前期	SP-16より新
SP-1	U-43	0.18/0.05	0.15/0.04	0.23	円形	N-79°W	縄文時代中期～後期前葉	
SP-2	S-39	0.41/0.30	0.33/0.24	0.12	楕円形	N-62°W	縄文時代前期～後期前葉	
SP-3	S-39	0.42/0.30	0.37/0.30	0.18	円形	N-30°W	縄文時代前期～後期前葉	
SP-4	S-39	0.43/0.33	0.34/0.24	0.16	楕円形	N-63°W	縄文時代前期～後期前葉	
SP-5	S-39	0.50/0.39	0.47/0.34	0.12	円形	N-57°W	縄文時代前期～後期前葉	
SP-6	S, T-39	0.63/0.44	0.63/0.36	0.26	円形	N-83°W	縄文時代前期～後期前葉	
SP-7	T-39, 40	(0.70/0.51)	0.45/0.28	0.21	楕円形	N-36°W	縄文時代前期～後期前葉	
SP-8	R-51	0.54/0.32	(0.35/0.30)	0.40	—	N-82°W	—	
SP-9	Q-48	0.19/—	0.16/—	0.23	円形	—	縄文時代中期前半	
SP-10	S-44	0.54/0.28	0.52/0.25	0.16	円形	N-8°E	縄文時代前期～後期前葉	SP-11より新
SP-11	S-44	0.55/0.36	(0.45/0.33)	0.13	円形	N-80°W	縄文時代前期～後期前葉	SP-10と重複
SP-12	U-48	0.49/0.28	0.45/0.38	0.26	円形	N	—	
SP-13	T-46	0.49/0.38	0.45/0.38	0.18	円形	N-86°E	縄文時代前期～後期前葉	
SP-14	U, V-46	0.42/0.36	0.41/0.34	0.23	隅丸方形	N-14°E	縄文時代前期～後期前葉	
SP-15	Q-51	0.38/0.28	0.28/0.24	0.38	円形	N-58°W	縄文時代前期	
SP-16	U-46	(0.48/0.55)	0.52/0.43	0.32	楕円形	N-1°W	縄文時代前期	P-42と重複
F-1	U-44, 45	0.70	0.35	—	不整形	—	縄文時代	
F-2	U-25	0.55	0.39	0.09	不整形	N-16°W	縄文時代	燧石の塊
F-3	S-50	(1.25)	0.48	0.04	不整形	N-10°W	古世	燧石の塊
F-4	R-51	0.94	0.70	0.20	不整形	N-74°E	縄文時代中期前半	石皿のみ
F-5	R-46, 47	(0.96)	0.33	0.05	不整形	N-5°E	—	燧石の塊
F-6	S, T-29, 30	(2.2)	1.40	0.15	不整形	N-70°E	縄文時代	
F-7	R, S-41	1.40	1.30	0.08	不整形	—	古世	燧石の塊
S-1	T, U-46	2.22	0.68	—	不整形	—	縄文時代中期～後期前葉	石皿のみ?

*隅丸方形の遺構の長軸は□方向で計測した。すべての短軸は長軸と直交する部位で計測した。

**平面形が円形の遺構の長軸方向は参考程度に考えてもらいたい。

表2 遺構掲載土器一覧(1)

遺構	図面番号	掲載番号	復元・部分・破片			同一個体未整合破片			分期	復元個体(cm)			■日群b-1期					
			調査区	層位	遺物番号	整合点数	調査区	層位		遺物番号	点数	口徑	底径	器高	砂・石層	編年	文様	内面糸痕の有無
H-1	Ⅲ-4	1																
		2	層土	21	1				Ⅴ群a層									
		3	層土	6	1				Ⅴ群b-2層									
	Ⅲ-4	1a	1	層土	218	1			層土	184	2							
			2	層土	90	1	層土	3	56									
			3	層土	159	1	層土	41	2									
			4	層土	259	18	層土	59	21									
			5	層土	250	21	層土	31	4									
			6	層土	218	5	層土	53	4									
		1b	1	層土	190	24	層土	190	24									
			2	層土	184	2	層土	184	2									
			3	層土	141	1	層土	141	1									
			4	層土	144	1	層土	144	1	Ⅴ群a層		7.9	(26.4)					
			5	層土	160	1	層土	160	1									
			6	層土	180	2	層土	180	2									
H-2	Ⅲ-4	1	層土	112	1	Ⅴ-46	Ⅴ上	2	1									
		2	Ⅴ-47	Ⅴ上	2	1	Ⅴ-45	Ⅴ上	2	1								
		3	Ⅴ-50	Ⅴ上	3	1	Ⅴ-48	Ⅴ下	4	1	Ⅴ群a層							
		4	Ⅴ-50	Ⅴ上	11	1												
		5	Q-45	Ⅴ上	1													
	Ⅲ-4	2	1	層土	38	1	Ⅴ-50	Ⅴ下	2	1								
			2	層土	88	1	Ⅴ-50	Ⅴ上	9	4								
			3	層土	132	1	Ⅴ-50	Ⅴ下	12	1								
			4	Ⅴ-50	Ⅴ下	8	1											
			5	Ⅴ-50	Ⅴ下	2	3											
		3	1	Ⅴ-50	Ⅴ下	18	12											
			2	Ⅴ-50	Ⅴ下	29	2											
			3	Ⅴ-50	Ⅴ下	12	1											
			4	層土	21	1												
			5	層土	20	1												
H-3	Ⅲ-9	1	層土	73	1				Ⅴ群a層									
		2	層土	48	1				Ⅴ群a層									
		3	層土	1	2													
	Ⅲ-11	1	1	層土	2	1				Ⅴ群a層								
			2	層土	4	2												
			3	層土	5	1												
			4	層土	6	1												
			5	Q-50	Ⅴ下	21	1											
	Ⅲ-12	10	層土	81	1				日群b-1期				×	◎	視跡斜行縄文	なし		
		2	層土	73	1				土製品	3.5	1.9	1.7						
	P-10	Ⅲ-18	1	層土	1	2				日群b-1期				×	◎	縄文	なし	
			2	層土	1	1				日群b-1期				×	◎	視跡斜行縄文	なし	
	P-12	Ⅲ-19	1	層土	2	33	層土	3	33									
			2	層土	4	4	層土	4	8									
			3	Ⅴ-48	Ⅴ上	19	1	Ⅴ-48	Ⅴ上	4	3							
4			Ⅴ-48	Ⅴ下	6	1												
5			Ⅴ-48	Ⅴ下	11	1												
6			Ⅴ-48	Ⅴ下	20	1												
7			Ⅴ-48	Ⅴ下	25	4												
P-13	Ⅲ-20	1	Ⅴ-49	Ⅴ上	7	1												
		2	Ⅴ-49	Ⅴ上	9	1												
		3	層土	11	2	層土	11	6										
		4	瓦貼	29	1	瓦貼	22	1										
		5	瓦貼	30	1	瓦貼	34	4										
		6	瓦貼	31	1	U-50	Ⅴ下	22	1									
		7	Ⅴ-51	Ⅴ下	40	1	U-50	Ⅴ下	24	1								
		8	U-50	Ⅴ上	11	1												
		9	U-50	Ⅴ上	16	1												
		10	U-50	Ⅴ下	19	1												
		11	U-50	Ⅴ下	39	1												
		12	U-50	Ⅴ上	13	3												
		13	層土	7	1													
		14	U-50	Ⅴ上	2	1												
		15	U-50	Ⅴ上	16	5												
2	1	U-50	Ⅴ下	22	2													
	2	U-50	Ⅴ下	32	2													
	3	U-50	Ⅴ下	37	1													
	4	層土	8	1														
	5	層土	11	2														
	6	瓦貼	23	1														
	7	瓦貼	24	1														
	8	U-50	Ⅴ上	11	1													
3a	1	層土	1	1	層土	5	1											
	2	層土	21	1	層土	11	1											
	3	U-50	Ⅴ上	12	1	U-50	Ⅴ下	13	1									
	4	U-50	Ⅴ下	22	2	U-50	Ⅴ下	22	2									
		4b	1	層土	40	2	U-50	Ⅴ下	22	2								

表2 遺構掲載土器一覧(2)

遺構	図面番号	掲載系号	復元・原色・破片				同一個体未整合破片	分期	復元体例(cm)	※日群 b-1 期							
			調査区	層位	遺物番号	整合点数				調査区	層位	遺物番号	点数	口径	底径	高さ	砂・石障
P-13	Ⅱ	2a	U-50 V	1	1	V-50 V 上	15	日群 b-1 期				砂△	○	不整合本文	なし		
			V-50 V	9	1	V-50 V	13									1	
			V-50 V	9	1												
			V-50 割	5													
			U-50 V 下	22	1												
			U-50 V 下	24	2												
			U-50 V 下	40	2												
	Ⅲ	2b	断面	11	2	U-50 V 上	8	日群 b-1 期			極小~中心	○	不整合本文	なし			
			U-50 V 上	8	2	U-50 V 上	16								1		
			U-50 V 上	11	1	U-51 割	8								1		
			U-50 V 上	16	2												
			U-50 V 上	22	3												
			U-50 V 上	24	4												
			U-50 V 上	30	1												
P-13	Ⅳ	4c	U-50 V 上	8	2												
		4d	U-51 割	4	2												
		4e	U-51 割	3	2												
		4f	U-51 割	5	1												
	Ⅴ	5	断面	11	1	V-51 V 下	40	日群 b-1 期			極小~中心	○	後部斜行縄文	○			
			R-51 V 下	8	1	U-50 V 下	24								1		
			V-50 V 下	2	1												
			V-50 V 下	9	1												
		6	断面	11	4			日群 b-1 期			極小~中心	○	後部斜行縄文	なし			
			U-50 V 下	13	2												
			断面	11	2	U-50 V 下	24								1		
		7a	U-51 割	断面	9	2		日群 b-1 期				砂△	○	不整合本文	なし		
				U-51 V	13	2											
			U-50 V 下	17	1												
U-50 V 下	13		2														
7c	U-50 V 下	断面	13	2		日群 b-1 期				砂△	○	単部斜行縄文	なし				
		V-50 V	13	1													
	断面	11	3														
	断面	11	1	U-50 V 下	24									2			
10a	U-50 V 下	断面	22	1	U-50 V 下	33	日群 b-1 期										
		U-50 V 下	3	1	U-50 V 下	40								1			
	U-50 V 下	17	1														
	U-50 V 下	24	4														
10b	U-50 V 下	40	2														
	断面	2	2														
P-15	Ⅵ	1	断面	4	15		Ⅷ群		8.2	(21.7)							
			F-6	43	1												
			F-6	54	1												
			F-6	52	23												
			S-30 V	2	2												
S-30 V	4	2															
P-16	Ⅶ	1	断面	5	1		日群 b-1 期				極小~中心	○	後部斜行縄文	なし			
			P-52 V	3	1												
			断面	1	1												
P-17	Ⅷ	1	断面	1	3		Ⅷ群 a 期										
			断面	1	1												
P-19	Ⅸ	1	断面	1	31	断面	1	Ⅷ群 a 期									
			断面	4	3												
			S-48 V 下	5	2												
			S-48 V 下	10	4												
			S-49 V 下	3	1												
	R-47 V 下	16	1														
	R-49 V 下	1	2														
	Q-50 V 上	11	2														
	Ⅹ	2a	断面	1	4	断面	1	Ⅷ群 a 期									
			断面	4	3												
断面			1	24	S-44 V 下	9	2										
R-49 V 上			13	1	F-47 V 上	12	1										
R-49 V 上			26	2	R-49 V 上	12	1										
P-21	Ⅺ	1	断面	1	4		Ⅷ群 b 期										
			F-53	断面	1	1											
			断面	1	1												
			断面	2	1												
P-24	Ⅻ	2	断面	2	1		日群 b-1 期				砂△	○	単部斜行縄文	なし			
			断面	3	1												
			断面	4	2												
			断面	4	2												
P-26	Ⅼ	3	断面	1	1		日群 b-1 期				砂△	○	後部斜行縄文	なし			
			断面	1	1												
			断面	1	1												
			断面	5	1												
P-30	Ⅽ	1	断面	2	3	断面	2	日群 b-2 期									
			断面	1	3												
			断面	1	1												
			断面	8	6												
P-36	Ⅾ	1	断面	1	1		Ⅷ群 a 期		13.5	(33.5)							
			断面	1	1	F-48 V 下										16	1
			断面	1	1	F-48 V 下										23	1
			断面	2	1												
			断面	2	2												
			断面	2	5												
			断面	9	1												
			F-48 V 下	7	1												
			F-48 V 下	9	2												
			F-48 V 下	13	2												
			F-48 V 下	23	1												
			F-48 V 下	28	1												
P-37	Ⅿ	1	断面	1	3		Ⅷ群 a 期										
			断面	4	1												
			断面	5	1												
P-38	ⅰ	1	断面	4	2		日群 b-1 期				砂△	○	後部斜行縄文	なし			
			断面	1	1												
P-39	ⅱ	1	S-44	断面	4	2	Ⅷ群 a 期										
			断面	1	1												
P-42	ⅲ	1	断面	2	1		日群 b-1 期				極小~中心	○	不整合本文	なし			
			断面	1	1												

表2 遺構掲載土器一覧(3)

遺構	図面番号	表裏番号	復元・整合・破片			同一個体未整合破片			分 期	復元個体 (cm)			※日群 b-1 期													
			調査区	層位	遺物番号	整合番号	調査区	層位		遺物番号	点数	口径	底径	高さ	砂・石雑	織文	内面糸刻の有無									
SP-9	III-30	I	1a	Q-49 V	17	2	Q-48 V上	9	4	日群 b-1 期																
				Q-49 V	20	1	Q-48 V下	13	7																	
				Q-48 V下	23	1	Q-48 V下	23	1																	
			1b	層土下	1	4	Q-48 V下	26	3																	
							Q-49 部	2	2																	
							Q-49 部	2	2																	
			1c	層土下	1	6	Q-49 V	5	3																	
				Q-48 V下	9	3	Q-49 V	5	2																	
				Q-48 V下	21	2	Q-49 V	13	1																	
			SP-9	III-20	I		Q-48 V下	26	6								Q-49 V	17	1	日群 a 期						
							Q-49 V	3	2								Q-49 V	20	3							
							Q-49 V	5	1								Q-50 V上	11	1							
							Q-49 V	7	1								Q-50 V下	21	1							
Q-49 V	11	2					R-48 V	1	1																	
Q-49 V	13	2					R-48 V	3	1																	
Q-49 V	17	4					R-48 V	4	3																	
Q-49 V	20	12					R-49 V	9	2																	
R-49 V	9	1					R-50 V下	35	1																	
R-49 V	17	1																								
SP-11	III-20	I		層土	1	1	S-44 V上	4	6	日群 b 期																
				層土	2	1	S-44 V下	9	2																	
				S-44 V下	8	2	S-44 V下	8	3																	
							T-47 V上	2	1																	
							T-47 V下	6	1																	
							T-49 V下	28	1																	
							T-50 V下	11	1																	
							U-47 V下	9	1																	
F-4	III-41	I		R-51 W	4	2	R-51 V下	5	2	日群 a 期	41	15.1	49													
				R-51 V下	5	24	R-51 V下	6	2																	
				R-51 V	8	15	R-51 V下	9	1																	
				R-51 V下	9	3																				
F-6	III-42	I	F 6	4	1		10	1	日群	20.7	4.4	25.2														
				5	2	S-29 部	3	1																		
				6	1	T-29 部	1	9																		
				7	1	T-21 部	3	1																		
				11																						
				12	1																					
				17	1																					
				18																						
				24	6																					
				22	1																					
				23	1																					
				24	1																					
				25	1																					
				26	1																					
				27	2																					
				28	2																					
				30	1																					
				37	1																					
				45	1																					
				44	1																					
				S-29 V	6	5																				
				S-29 部	3	3																				
				T-29 部	1	44																				
T-29 部	6	21																								
T-29 V	19	2																								
層土	10	2																								
T-29 部	2	3																								
F-6	2	F 6	15	1	S-29 部	31	1	日群	20.5		(29.2)															
			31	1	S-29 部	1	3																			
			32	1	S-29 部	3	1																			
			33	2	S-30 V	4	1																			
			36	1	S-31 部	1	1																			
			38	1	T-28 部	1	1																			
			39	2	T-28 部	2	1																			
			35	1	T-28 V	4	4																			
			43	1	T-29 部	1	2																			
			S-29 部	1	7	T-29 部	6										3									
			S-29 部	3	1																					
			T-28 部	1	10																					
			T-28 部	2	2																					
			T-29 部	1	9																					
			T-29 部	2	1																					
			T-29 部	6	12																					
			T-30 V	9	1																					
U-29 部	7	1																								
U-30 部	1	1																								
層土	10	3																								
U-29 V	1	1																								

※日群 b-1 期について、粘土中に含まれている砂・細砂・細礫を肉眼観察により観察した。観察にあたっては、粘土中に散入されている具合が観察しやすい状態の折れ口や土面表面の磨耗が著しいところを選択した。

砂
石稜とは異なる粒子の細やかなものを砂とした。
6
大ききにより3段階に分け、含まれている量も4段階に分けた。
細砂
砂稜と同様、4段階の区分を用いた。
糸痕文
文様の明確、不明瞭を4段階に分けた。

○ 糸・穴文
◎ 肉まれる 明確
△ 少量肉まれる やや不明瞭
× なし

細砂の大きさによる区分

微小 1 mm 以下
小 1～2 mm
中 2～5 mm

表3 遺構掲載遺物一覧 (石器・鉄製品)

図版番号	掲載番号	遺構名	遺物番号	出土層位	遺物名	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
Ⅲ-4	4	H-1	27	覆土	石鏃	黒曜石	3.10 (1.60)	0.45	1.57	1.57	有茎 破損後も使用
Ⅲ-4	5	H-1	28	覆土	石鏃	黒曜石	3.75 2.38	0.75	4.95	4.95	
Ⅲ-4	6	H-1	49	床	両面調整石器	黒曜石	(2.00)	3.05	0.73	3.98	
Ⅲ-4	7	H-1	5	覆土	Rフレイク	頁岩	7.70	2.70	1.25	18.29	
Ⅲ-6	4	H-2	136	覆土	石鏃	頁岩	1.55	0.73	0.30	0.17	小型
Ⅲ-6	5	H-2	71	覆土	石鏃	頁岩	(3.10)	1.55	0.43	1.40	尖頭部破損
Ⅲ-6	6	H-2	34	覆土	スクレイパー	頁岩	3.60	5.50	1.00	15.11	
Ⅲ-7	7	H-2	97	覆土	石核	チャート	2.55	5.95	3.70	43.05	
Ⅲ-7	8	H-2	235	覆土	たたき石	安山岩	4.10	4.50	3.90	99.11	
Ⅲ-7	9	H-2	204	覆土	すり石	安山岩	5.30	9.10	2.65	140	
Ⅲ-7	10	H-2	180	覆土	扁平打製石器	安山岩	6.00 (8.20)	3.70	200		
Ⅲ-7	11	H-2	96	覆土	北海道式石冠	安山岩	13.20	13.50	8.40	1,950	
Ⅲ-7	12	H-2	235	覆土	石鏃	安山岩	2.80	6.80	1.40	21.85	
Ⅲ-7	13	H-2	172	覆土	台石	安山岩	30.50	14.80	5.40	2,980	
Ⅲ-9	3	H-3	43	覆土	スクレイパー	頁岩	(2.55)	(1.78)	0.68	1.90	
Ⅲ-9	4	H-3	70	覆土	すり石	安山岩	6.30	11.70	5.40	440	
Ⅲ-11	4	H-4	100	覆土	石鏃	頁岩	(2.85)	1.70	0.49	1.61	
Ⅲ-11	5	H-4	88	覆土	つまみ付きナイフ	頁岩	3.60 (4.55)	0.85	7.80	7.80	被熱破損
Ⅲ-11	6	H-4	99	覆土	スクレイパー	頁岩	3.30 (2.70)	0.80	4.90	4.90	
Ⅲ-11	7	H-4	37	覆土	スクレイパー	チャート	4.00	7.82	1.40	55.75	
Ⅲ-12	8	H-4	18	覆土	すり石	安山岩	7.70	8.40	4.80	330	
Ⅲ-12	9	H-4	113	覆土	すり石	安山岩	10.30	12.90	3.00	560	
Ⅲ-12	1	H-5	4	覆土	扁平打製石器	安山岩	9.35 (10.45)	3.40	330		
Ⅲ-12	2	H-5	3	覆土	北海道式石冠	安山岩	10.00 (8.05)	5.70	600		
Ⅲ-13	1	P-01	5	覆土	石皿	安山岩	47.20	29.70	18.25	37,000	
Ⅲ-13	2	P-01	4	覆土	石皿	安山岩	38.90	31.35	18.20	34,500	
Ⅲ-15	1	P-03	1	覆土	北海道式石冠	安山岩	11.30 (11.95)	7.35	1,430	1,430	
Ⅲ-15	2	P-03	5	覆土	石皿	安山岩	31.78	24.50	12.50	15,000	
Ⅲ-17	1	P-09	8	覆土	扁平打製石器	安山岩	7.60 (8.90)	2.00	150	150	
Ⅲ-17	2	P-09	4	覆土	扁平打製石器	安山岩	7.40	13.60	2.80	375	
Ⅲ-17	3	P-09	5	覆土	北海道式石冠	安山岩	(6.00)	(7.40)	5.95	280	
Ⅲ-17	4	P-09	1	覆土	台石	安山岩	33.90	16.30	12.30	11,000	
Ⅲ-17	5	P-09	2	覆土	石皿	安山岩	33.40	30.80	20.60	25,500	
Ⅲ-18	1	P-11	2	覆土	つまみ付きナイフ	蛋白石	(4.27)	(3.32)	0.90	8.58	
Ⅲ-19	2	P-12	5	覆土	Uフレイク	蛋白石	2.27	1.65	0.77	2.22	
Ⅲ-19	3	P-12	1	覆土	扁平打製石器	安山岩	6.70	12.70	1.90	195	破損
Ⅲ-19	4	P-12	2	覆土	扁平打製石器	安山岩	10.80 (13.00)	2.30	465	465	破損
Ⅲ-22	11	P-13	17	覆土	石鏃	蛋白石	2.20	1.70	0.40	0.88	
Ⅲ-22	12	P-13	14	覆土	スクレイパー	頁岩	6.79	3.72	0.97	15.60	
Ⅲ-22	13	P-13	28	壊底	たたき石	安山岩	8.40	5.85	3.50	190	被熱赤変・スス付着
Ⅲ-22	14	P-13	26	壊底	すり石	安山岩	6.20 (5.50)	5.25	165	165	
Ⅲ-23	1	P-14	1	覆土	フレイク・チップ	珪質頁岩	6.10	1.89	0.62	5.32	
Ⅲ-24	2	P-16	7	覆土	スクレイパー	頁岩	2.77	2.38	0.85	3.72	
Ⅲ-24	3	P-16	4	覆土	両面調整石器	頁岩	6.35	4.89	1.36	40.00	
Ⅲ-24	4	P-16	11	覆土	Uフレイク	頁岩	3.58	5.30	1.00	14.37	
Ⅲ-24	5	P-16	3	一	扁平打製石器	安山岩	7.30	11.30	1.20	118.13	被熱
Ⅲ-24	2	P-17	3	覆土	石鏃	頁岩	(2.63)	1.80	0.48	1.96	
Ⅲ-26	1	P-20	3	覆土	Uフレイク	頁岩	6.20 (4.70)	0.45	19.72	19.72	
Ⅲ-26	2	P-20	4	覆土	台石	安山岩	42.70	28.35	10.60	15,500	
Ⅲ-26	1	P-21	5	一	石鏃	メノウ	2.76	0.75	0.49	0.97	
Ⅲ-27	2	P-23	3	覆土	扁平打製石器	安山岩	10.45	14.90	2.70	560	未使用
Ⅲ-28	1	P-25	4	覆土	たたき石	安山岩	10.20	7.75	6.50	540	
Ⅲ-28	2	P-25	1・ 29 V上	覆土・ V上	北海道式石冠	安山岩	8.70	18.20	6.90	1,660	接合・スス付着
Ⅲ-29	5	P-26	2	覆土	つまみ付きナイフ	頁岩	(3.52)	3.60	0.70	4.89	
Ⅲ-33	2	P-38	2	覆土	すり石	安山岩	18.20	8.00	4.30	830	

森町森川3遺跡

図版番号	掲載番号	遺構名	遺物番号	出土層位	遺物名	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
Ⅲ-34	1	P-40	3	覆土	石皿	安山岩	36.40	33.55	17.85	31,500	
Ⅲ-35	1	P-41	2	覆土	すり石	安山岩	9.20	15.50	4.20	660	
Ⅲ-35	2	P-41	1	覆土	すり石	安山岩	8.30	15.40	6.60	930	
Ⅲ-36	60	SP-1	1	—	石弁	緑色泥岩	12.80	4.40	2.50	230	スス付着
Ⅲ-36	61	SP-1	2	—	石弁	緑色片岩	17.50	4.59	2.50	340	スス付着
Ⅲ-36	1	SP-16	1	—	スクレイパー	頁岩	3.55	4.12	1.64	21.02	縁が磨り減る
Ⅲ-44	58	S-1	4	—	台石	安山岩	20.85	20.95	7.10	4,000	
Ⅲ-44	59	S-1	5	—	台石	安山岩	29.30	26.90	11.90	12,000	
Ⅲ-43	57	F-6	56	—	台石	安山岩	27.65	34.10	10.10	16,000	

鉄製品

図版番号	掲載番号	遺構名	遺物番号	出土層位	遺物名	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
Ⅲ-45	1	U36	7	Ⅲ	釘	鉄	10.25	1.78	0.45	39.07	烟跡出土の鉄製品

表4 遺構出土遺物一覧(1)

H-1

層位/分層	Ⅱb-1	Ⅱb-2	Ⅱa	Ⅱa	石鏡	石鏡	燧石製道具	すり石	燧石製道具	石鏡	台石	石鏡	フレイク	礫	合計
覆土	6	1	3		2	1	1	3	1	1			23	8	56
床	2			8									12	1	23
不明															
合計	8	1	3	8	2	1	1	3	1	1			35	10	74

H-2

層位/分層	Ⅱb-1	Ⅱa	Ⅱb	Ⅱa	不明土器	石鏡	スランパー	すり石	燧石製道具	石鏡	台石	石鏡	フレイク	礫	合計
覆土	68	5	1	142	1	2	1	3	1	2	1	1	100	56	284
覆土下	247													6	253
合計	315	5	1	142	1	2	1	3	1	2	1	1	100	62	637

H-3

層位/分層	Ⅱb-1	Ⅱb-2	Ⅱa	Ⅱa	スランパー	すり石	台石	石鏡	フレイク	礫	合計
覆土	20	1	2	3	1	1	2	1	10	39	80

H-4

層位/分層	Ⅱb-1	Ⅱa	Ⅱa	土製品	不明土器	石鏡	燧石製道具	燧石製道具	すり石	加工物	燧石製道具	フレイク	礫	合計
覆土	26	1	28	1	2	1	1	3	1	2	1	1	36	116
合計														220

H-5

層位/分層	Ⅱb-1	Ⅱa	燧石製道具	燧石製道具	フレイク	礫	合計
覆土	2	1	1	2	2	6	14

P-1

層位/分層	石鏡	礫	合計
覆土	1	3	4

P-4

層位/分層	Ⅱa	礫	合計
不明	1	1	2

P-9

層位/分層	すり石	燧石製道具	燧石製道具	台石	石鏡	礫	合計
覆土	1	1	1	1	1	4	9

P-10

層位/分層	Ⅱb-1	すり石	台石	合計
覆土	8	1	1	9
不明	8	1	1	10
合計	8	1	1	10

P-12

層位/分層	Ⅱa	燧石製道具	燧石製道具	合計
覆土	23	2	1	28

P-13

層位/分層	Ⅱb-1	石鏡	スランパー	たつき石	すり石	石鏡	フレイク	礫	合計
覆土	104	1	1		1	1	5	10	123
礫底	13			1	1		2	2	17
合計	117	1	1	1	2	1	5	12	140

P-14

層位/分層	フレイク	礫	合計
覆土	1	1	2

P-3

層位/分層	燧石製道具	石鏡	フレイク	礫	合計
覆土	1	1	1	3	6

P-5

層位/分層	Ⅱa	合計
覆土	1	1

P-11

層位/分層	Ⅱa	燧石製道具	フレイク	合計
覆土	3	1	1	5

P-15

層位/分層	Ⅱb-1	Ⅱa	礫	合計
覆土	2	17	1	20

表4 遺構出土遺物一覽(2)

P-16

層位\分類	Hb-1	IIIa	スライバー	陶器破片	銅印破片	Uフレイク	フレイク	鏃	合計
覆土	1	1	1	1	1	1	2	6	14
壊底								1	1
合計	1	1	1	1	1	1	2	7	15

P-17

層位\分類	Hb-1	IIIa	石鏃	フレイク	合計
覆土	1	3	1	1	6

P-19

層位\分類	IIIa	IIIa	フレイク	鏃片	合計
覆土	17	165	1	5	188

P-21

層位\分類	Hb-1	IIIb	石鏃	鏃	合計
覆土	1	6	1	16	24

P-23

層位\分類	Hb-1	IIIa	銅印破片	鏃	合計
覆土	4	1	1	6	12

P-25

層位\分類	たたまき石	すり石	土師器破片	鏃片	合計
覆土	1	1	1	1	4

P-27

層位\分類	鏃片	合計
覆土	1	1

P-31

層位\分類	IIIa	合計
覆土	1	1

P-33

層位\分類	IIIa	IIIa	すり石片	鏃	炭化物	合計
覆土	1	1	1	5	25	33

P-36

層位\分類	Hb-1	Hb-2	IIIa	IIIa	鏃	合計
覆土	1	1	29	1	6	48
壊底					3	3
合計	1	1	42	1	6	51

P-38

層位\分類	Hb-1	IIIa	IIIa	すり石	合計
覆土	1	1	4	1	7

P-40

層位\分類	すり石	石皿	フレイク	合計
覆土	1	1	1	3

P-42

層位\分類	Hb-1	合計
覆土	3	3

SP-1

層位\分類	石鏃	合計
覆土	2	2

SP-9

層位\分類	IIIa	合計
覆土下	11	11

SP-12

層位\分類	Hb-1	鏃	合計
覆土	5	2	7

SP-15

層位\分類	鏃	合計
覆土	1	1

F-4

層位\分類	IIIa	台石	合計
覆土	92	7	99

S-1

層位\分類	台石	合計
不明	7	7

P-18

層位\分類	IIIa	鏃片	合計
覆土下	17	1	18

P-20

層位\分類	IIIa	台石	Uフレイク	フレイク	合計
覆土	1		1	1	3
壊底		1			1

P-22

層位\分類	鏃片	合計
覆土	1	1

P-24

層位\分類	Hb-1	IIIa	フレイク	鏃	合計
覆土	8	1	5	1	15

P-26

層位\分類	Hb-1	IIIb	土師器破片	フレイク	合計
覆土	12	1	1	1	15

P-30

層位\分類	Hb-1	Hb-2	フレイク	合計
覆土	3	3	1	7
覆土下			4	4
合計	3	3	5	11

P-32

層位\分類	Hb-1	IIIa	IIIa	フレイク	合計
覆土	2	2	2	1	7
覆土下				7	7
合計	2	2	2	8	14

P-37

層位\分類	Hb-1	IIIa	フレイク	合計
覆土	1	5	1	7

P-39

層位\分類	IIIa	合計
覆土	2	2

P-41

層位\分類	すり石	合計
覆土	2	2

SP-8

層位\分類	Hb-1	合計
覆土下	4	4

SP-11

層位\分類	IIIa	合計
覆土	2	2

SP-13

層位\分類	Hb-1	合計
覆土	1	1

SP-16

層位\分類	スライバー	フレイク	合計
覆土	1	2	3

F-6

層位\分類	IIIa	台石	フレイク	鏃	合計
覆土	89	1	24	3	117

表5 包含層掲載復元土器一覽(1)

図面番号	期前番号	復元・組合・破片				同一個体未組合破片		復元個体(cm)		分類	砂・石線	繊維	文様	内面糸痕の有無			
		調査区	期位	器物番号	組合占数	調査区	期位	器物番号	占数						口径	高さ	
N-1	1	U49	V上	2	1	U49	V上	2	2	21.2	10.2	21.1	目群b-1期	極小~中心	○	復原前行織文	○
		U49	V上	1	1	U49	V上	4	3								
		U49	V下	25	1	U49	V下	12	1								
		U49	V下	25	14	U49	V下	25	3								
		U49	V下	26	1	U49	V下	28	2								
N-1	2	T51	皿	1	1	T51	皿	2	1	22.3	-	27.7	目群b-1期	極小~中心	○	不整跡本文	×
		T51	皿	2	1	T51	皿	7	1								
		T51	皿	11	1	T51	皿	12	3								
		T51	皿	12	7	T51	V上	13	4								
		T51	V上	13	3	T51	V上	17	4								
		T51	V上	14	1	T51	V	23	1								
		T51	V	22	1	T51	V下	20	1								
		T51	V下	26	4	T51	V下	26	1								
		T51	V下	40	4	T51	V下	40	3								
						T50	V下	18	1								
N-1	3	Q48	V下	25	4	Q48	V上	11	1	23.0	-	18.11	目群b-1期	×	○	単筋前行織文	×
		Q49	V	2	2	Q49	V	25	2								
		Q49	V	7	1	Q49	V	3	2								
		Q49	V	11	1	Q49	V	4	1								
		Q49	V	16	4	Q49	V	6	1								
		Q49	V上	20	1	Q49	V	11	2								
						Q49	V	13	1								
						Q49	V	16	2								
						Q49	V	16	3								
						Q49	V	19	1								
N-2	4	U49	V上	7	5	U49	V下	5	1	-	10.7	18.0	目群b-1期	×	○	復原前行織文	×
		U49	V下	21	1	U49	V下	12	1								
		U50	V下	19	3	U49	V上	8	1								
		V49	V上	3	15	U49	V下	23	1								
		V49	V上	11	11	V49	V上	1	1								
		V49	V上	8	2	V49	V上	3	11								
		V49	V下	21	1	V49	V下	8	4								
		V49	V上	24	1	V49	V上	11	4								
						V49	V下	21	1								
						V49	V上	24	1								
N-2	5	T50	V上	2	1	T51	V上	14	1	13.9	5.1	14.2	目群b-1期	×	○	復原前行織文	×
		T50	V下	8	1	T51	V	22	1								
		T50	V下	12	1	T51	V下	40	2								
		T51	V	3	1												
		T51	V上	13	1												
N-2	6	T51	V上	14	2					19.5	-	19.1	目群b-1期	極小~中心	○	復原前行織文	×
		T51	V上	17	1												
		T51	V上	22	1												
		T51	V上	22	1												
		T50	V下	40	1	T51	V下	29	1								
N-2	7	T51	V下	36	2	T51	V	4	1	-	11.6	19.81	目群b-1期	×	○	復原前行織文	×
		T51	V下	31	29	T51	V下	26	1								
		T51	V下	40	2	T51	V下	27	4								
		U51	V下	12	2	T51	V下	21	4								
						T51	V下	40	2								
				U51	V下	12	1										
				T51	V上	4	1										
				T49	V	15	1										
				T51	皿	11	1										
				T51	皿	11	2										
				T51	皿	12	3										
				T51	V上	6	7										
				T51	V上	13	3										
				T51	V上	14	3										
				T51	V下	26	2										
				T51	V上	17	2										
				T51	V下	40	1										

*目群b-1期について、胎土に含まれている砂・繊維・繊維を肉眼観察により観察表にした。
 観察にあたっては、胎土に混入されている貝殻が観察しやすい土器の折れ口や土器表面の磨耗が著しいところを選択した。
 砂 石線とは異なる粒子の細やかなものを砂とした。
 繊維 大きさにより3段階に分け、含まれている量も4段階に分けた。
 繊維 砂線と同様、4段階の区分を用いた。
 糸痕文 文様の明確・不明瞭を4段階に分けた。
 ○ 多く含む 特不明瞭
 ○ 含まれる 明瞭
 △ 少量含まれる やや不明瞭
 × なし

繊維の大きさによる区分

極小 1mm以下
 小 1~2mm
 中 2~5mm

表 5 包含層揚載復元土器一覽(2)

図面番号	期前番号	復元・統合・破片			同一個体未統合破片			復元個体(cm)			分類		
		調査区	層位	遺物番号	整合点数	調査区	層位	遺物番号	点数	口径		高さ	器高
N-13	97	T48	V上	5						11.8	7.5	28.3	目群b-2期
		T48	V	2	6								
		T48	V下	4	1								
		T48	V下	7	4								
		T48	V下	10	40								
		T48	V下	20	1								
		T48	V下	20	1								
T48	V下	19	1										
T49	V	25	1										
N-15	112	S37	V	2	2	S37	V	2	1	33.9	-	45.9	目群a期
		S37	V	1	1	S39	V	6	1				
		S41	III	5	2	S40	III	4	1				
		S41	V下	4	1	S41	V	2	1				
		S41	V上	14	4	S41	V	7	1				
		S41	V	1	2	S41	III	8	2				
		T40	V	7	1	S41	V上	10	3				
		T40	V	5	3	S41	V上	13	1				
		T40	V	6	3	S41	V上	14	10				
		T41	V	2	1	T39	V	2	1				
		T41	III	4	1	T40	V	3	1				
		T41	V	6	9	T40	V	5	4				
		T41	III	3	3	T40	V	6	4				
		T41	V	5	1	T40	V	7	2				
U40	V	2	15	T41	III	4	1						
U40	III	3	6	T41	V	6	4						
U41	V	3	3	T43	V上	7	1						
U41	V	3	1	U40	V	2	2						
				U40	III	3	1						
N-17	123	Q47	V上	3	1	Q45	V下	12	1	19.4	8.3	25.0	目群a期
		Q47	V下	5	1	R45	V	4	2				
		Q48	III	1	2	T51	III	12	1				
		Q48	V上	3	4								
		Q48	V上	9	16								
		Q48	V下	12	3								
		Q48	V下	13	3								
		Q48	V	16	1								
		Q48	V下	17	4								
		Q49	V	3	3								
		Q49	V	4	1								
		Q49	V	7	1								
		Q49	V	13	2								
		Q49	V	20	1								
		R49	V下	3	1								
		R49	V	4	3								
R49	V	9	3										
R49	V下	24	2										
T50	V下	4	1										
N-20	157	W46	V	1	6	W46	V	1	15	8.7	36.9	N群a期	
		W46	V	3	15	W46	V	3	154				
		W46	V	7	28	W46	V	7	46				
N-22	165	U43	III	3	2					12.7	5.3	15.9	N群a期
		U43	V	1	9								
		U43	V	8	1								
		U43	V	9	2								
		V43	V	7	4								
V43	V	6	1										
V46	V	19	1										
N-22	166	W46	III	6	1	W46	V	12	2	9.5	4.1	12	N群a期
		W46	V	9	2								
		W46	V	12	2								
W46	V	13	1										
N-24	194	V43	V	1	17	V43	V	1	2	19.0	6.3	16.0	W群
		U30	III	1	4								
N-24	195	T29	V	6	30					17.0	7.2	17.0	W群
		T29	III	1	3	T29	III	2	5				
N-24	197	T29	III	2	114	T29	III	3	6	26.4	7.7	33.1	W群
		T29	III	3	34								
		T29	III	4	1								
		T29	III	6	2								
		T29	III	9	3								
T30	III	1	7										
T30	III	2	3										
N-25	198	T30	V	8	1					13.1	-	28.1	W群
		T30	V	9	1								
		U30	III	1	16								
		U30	V	3	1								
T30	III	5	45	T30	III	5	11						
T30	III	6	41	T30	III	6	21						
T31	III	3	1										
T31	III	4	1										
T31	III	1	1	T29	III	7	29						
N-25	200	T29	III	2	64	T29	III	3	29	-	7.6	18.2	W群
		T29	III	3	36								

表6 包含層掲載拓本土器一覽(1)

図記番号	復元・整合・破片				同一図様本整合破片				分類	砂・石律	顕露	文様	内面朱痕の有無	
	高取番号	調査区	層位	遺物番号	整合点数	調査区	層位	遺物番号						点数
N-3	8	U50	17	1					日群b-1期	×	○	襷形斜行縄文	×	
			V上	17	1									
N-3	9	U50	V上	37	2				日群b-1期	中○	○	襷形斜行縄文	×	
			V下	37	2									
N-3	10	T51	V上	14	2	T51	V下	34	1	日群b-1期	×	○	単形斜行縄文	×
			V下	41	1	T51	V下	40	1					
N-3	11	R48	V	6	1				日群b-1期	楕小へ中○	○	襷形斜行縄文	×	
			V上	11	1									
N-3	12	P50	V上	10	1	P50	V上	10	1					
			V上	18	2	P50	V下	13	1	日群b-1期	小○	○	単形斜行縄文	×
N-3	13	V48	V下	30	2				日群b-1期	×	○	単形斜行縄文	×	
			V上	12	1	T50	V下	2	1					
N-3	14a	U50	V下	22	1	T50	V下	20	1					
			V上	5	2	T51	V	22	1					
N-3	14c	U50	V上	16	1	U50	V上	5	1	日群b-1期	×	○	条痕文	○
			V下	39	1	U50	V下	40	2					
N-3	14d	U50	V下	24	2	不明		22	1					
			V下	8	1									
N-3	15	T50	V下	18	1	T50	V下	12	1	日群b-1期	×	○	条痕文	○
			S47	V下	4	1	S47	V下	2	1				
N-3	16a	V48	V	13	1	S47	V上	8	1	日群b-1期	楕小△	○	不整然本文	○
			V			U49	V上	8	1					
N-4	17	T51	V上	17	1	T51	V下	27	1	日群b-1期	楕小へ中○	○	襷形斜行縄文 単形斜行縄文	○
			V下	20	1	U51	V下	12	1					
N-4	18	T49	V	11	1	T49	V下	2	1					
			V	31	2	T49	V	8	1					
N-4	19	T51	V下	40	1				日群b-1期	小へ中○	○	襷形斜行縄文	○	
			V上	12	1				日群b-1期	楕小へ中○	○	襷形斜行縄文	○	
N-4	21	T51	V上	14	9	T51	V下	26	1	日群b-1期	楕小へ中○	○	襷形斜行縄文 単形斜行縄文	○
			V下	36	1									
N-5	22	U51	Ⅷ	8	2				日群b-1期	楕小△	○	襷形斜行縄文	○	
N-5	23a	U50	V上	13	1				日群b-1期	×	○	襷形斜行縄文	○	
			V下	24	1									
N-5	24a	U48	V下	7	3	U48	V下	7	2					
			V上	30	1	U48	V下	12	1	日群b-1期	×	○	襷形斜行縄文	○
N-5	24b	U48	V下	7	4	U48	V下	20	2					
			V上	20	1	U49	V下	28	1					
N-5	25	U47	V下	2	1	U47	V下	2	1					
			V下	5	2	U47	V下	5	2	日群b-1期	×	○	単形斜行縄文	○
N-5	26	U48	V上	10	3				日群b-1期	×	○	襷形斜行縄文	○	
			V下	11	1				日群b-1期	×	○	襷形斜行縄文	○	
N-5	28	U51	V	11	1				日群b-1期	×	○	襷形斜行縄文	○	
			V下	36	3	U50	V下	39	1	日群b-1期	×	○	襷形斜行縄文 口縁部に条痕文	○
N-5	29	U51	V下	40	1									
			V	12	1									
N-5	30	V50	V	2	1	V50	V	1	2	日群b-1期	砂・楕小△	○	襷形斜行縄文 口縁部に条痕文	○
			V	9	2									
N-6	31	T51	V上	17	1				日群b-1期	楕小へ中○	○	不整然本文	×	
			Ⅷ	8	2				日群b-1期	砂△	○	不整然本文	×	
N-6	32	U50	V上	13	1				日群b-1期	砂△	○	不整然本文	×	
			V下	36	2									
N-6	34	T50	V下	18	1	T50	V下	18	1	日群b-1期	砂△	○	不整然本文	×
			V下	39	1	T50	V下	20	1					
N-6	35	T47	V上	3	1				日群b-1期	砂△	○	不整然本文	×	
			V下	7	1									
N-6	36	T47	V下	17	1				日群b-1期	砂へ小△	○	不整然本文	×	
			V下	17	1									
N-6	37	U50	V上	16	1				日群b-1期	×	○	不整然本文	×	
			V上	13	1				日群b-1期	×	○	不整然本文	×	
N-6	38	T49	V	15	1	T49	V	15	4					
			V	17	1	T49	V	23	3	日群b-1期	楕小へ中○	○	襷形斜行縄文	×
N-6	39	T49	V	23	1									
			V	23	1									

表 6 包含層揚載拓本土器一覽(2)

図版番号	段次・層位・破片				同一図様本整合破片				分類	砂・石層	観測	文様	内面朱痕の有無	
	調査区	層位	遺物番号	接合点数	調査区	層位	遺物番号	点数						
N-6	40	T49	V	6	1	R45	V上	2	1	日群b-1期	砂△	○	襷部 結家跡行儀文	×
		S45	V上	2	1	R45	V上	2	3					
		S45	V上	6	3	R45	V上	3	1					
		S45	V下	9	1	R45	V下	4	3					
						R45	V下	8	2					
				S44	V上	6	4							
				S45	V上	6	5							
				R47	V上	3	2							
N-6	41	T50	V下	12	2					日群b-1期	砂・極小△	○	襷部 結家跡行儀文	△
		T50	V下	2	1									
N-6	42	U49	V上	6	1					日群b-1期	極小△	○	襷部・羽目羅文	×
N-7	43	T50	V下	18	1					日群b-1期	極小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
N-7	44	U48	V上	10	1					日群b-1期	極小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
N-7	45	P49	風筒	20	1					日群b-1期	極小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
N-7	47	U44	V	3	2	V46	V	3	2	日群b-1期	極小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
		U43	V	1	1	V46	V	5	8					
		U43	V	3	1	V46	V	14	2					
		U43	V	6	1	V46	V	22	2					
		U43	V	7	1									
		U45	V	5	1									
		V46	V	14	1									
		V46	V	22	1									
		V44	V	1	2	V43	V	2	1					
		V44	V	6	5	V44	V	1	11					
				V44	V	4	1							
				V44	V	6	18							
				V44	V	9	1							
				V44	V	11	1							
				V46	皿	2	1							
				V48	V下	9	1							
				V50	V	2	1							
				V50	V	7	1							
N-7	49	T50	V下	5	1					日群b-1期	極小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
		T50	V下	8	1									
		T50	V下	13	1									
		T50	V下	18	1									
N-7	50c	T50	V下	12	1	W50	V上	5	1	日群b-1期	×	○	襷部 結家跡行儀文	×
		U50	V下	22	1									
		T50	V下	5	5									
		T50	V下	8	3									
		T51	皿	12	4									
				T51	V下	40	1							
N-7	51	S49	V下	27	4	V49	V上	24	1	日群b-1期	小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
		V49	V上	3	1									
N-8	52	T50	V下	18	1					日群b-1期	極小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
		T50	V下	21	3									
N-8	53	V50	V	2	2					日群b-1期	極小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
		V50	V	9	1									
N-8	54	V41	V	6	3	P49	V上	15	1	日群b-1期	砂△	○	襷部 結家跡行儀文	×
		T50	V下	18	1	T50	V下	20	1					
N-8	55a	U50	V上	8	1	U50	V上	11	1	日群b-1期	×	○	襷部 結家跡行儀文	×
		T49	V	6	1	U50	V上	17	1					
		T49	V	15	1	U50	V下	25	1					
		U50	V上	16	1									
		U50	V上	17	1									
N-8	56	T50	V下	2	3					日群b-1期	砂・極小△	○	襷部 結家跡行儀文	×
		T50	V下	8	1									
		V49	V上	3	1	V49	V下	19	1					
N-9	58	V49	V上	11	2					日群b-1期	×	○	襷部 結家跡行儀文	×
		U49	V上	2	1	U49	V上	4	2					
		U49	V上	4	1	U49	V上	6	1					
		U49	V上	6	1	U49	V下	23	2					
		U49	V上	7	1	U49	V下	21	1					
		U49	V上	8	1	U49	V下	28	2					
		U49	V下	12	1									
		U48	V下	17	1									
		U49	V下	21	1									
		U49	V下	25	4									
U49	V下	28	4											
N-9	59a	U50	V下	40	2	T49	皿	7	1	日群b-1期	×	○	襷部 結家跡行儀文	×
		U50	V上	16	1	T50	V下	8	1					
		U50	V上	17	1	U49	V下	17	1					
						U49	V下	21	1					
						U50	V上	8	1					
						U50	V上	11	1					
						U50	V上	13	1					
				U50	V上	16	2							
				U50	V下	22	2							
N-9	60	T49	V	30	1	T49	V	30	2	日群b-1期	×	○	襷部 結家跡行儀文	×
		T50	V下	18	1	T50	V下	2	1					
N-9	61	R47	V下	22	1					日群b-1期	×	○	襷部 結家跡行儀文	×

表6 包含層揚載本土器一覽(3)

図版番号	段Ⅰ・段合・破片				同一個体未整合破片				分類	砂・石律	繊維	文様	内面朱塗の有無						
	図版番号	調査区	層位	遺物番号	段合点数	調査区	層位	遺物番号						点数					
N-10	62	F50	V-1	18					日群b-1期	砂△	○	無彫刻行線文	×						
	63	F50	V-1	30					日群b-1期	砂△	○	無彫刻行線文	×						
N-10	64	Q20	V-1	17					日群b-1期	砂△	○	無彫刻行線文	×						
	65	F51	V-1	12					日群b-1期	×	○	無彫刻行線文	×						
N-10	66	F51	V-1	13					日群b-1期	砂△	○	無彫刻行線文	×						
	67	F51	V-1	13					日群b-1期	×	○	無彫刻行線文	×						
N-10	68	F51	V-1	14					日群b-1期	小～中△	○	無彫刻行線文	×						
	69	S44	V-1	10					日群b-1期	砂△	○	無彫刻行線文	×						
N-10	70	R44	V-1	6					日群b-1期	×	○	無彫刻行線文	○						
	71	Q20	V-1	9	Q21	V上	11	1	日群b-1期	無小～中△	○	無彫刻行線文	×						
N-10	72	F50	V-1	8					日群b-1期	無小～中△	○	無彫刻行線文	×						
	73	F50	V-1	12					日群b-1期	×	○	無彫刻行線文	×						
N-10	74a	Q20	V-1	9	F23	層底	10	1	日群b-1期	×	○	無彫刻行線文	×						
	74b	Q20	V-1	9	Q25	V下	9	1											
	75a	R55	V	3	R56	V	3	2											
		R55	V	7	R55	V	5	2											
	75b	R55	V	6	R47	V下	13	2											
		R55	V	7	R47	V下	12	1											
	76	R47	V下	18	R47	V下	29	1											
		R47	V下	18															
	N-10	77	F50	V-1	30	F50	V下	21						1	日群b-1期	×	○	無彫刻行線文	×
		78a	U49	V-1	2	U49	V上	4						4					
U49			V-1	4	U49	V上	4	1											
78b		U49	V-1	6	U49	V下	6	6											
		U49	V-1	6	U49	V下	10	1											
78c		U49	V-1	21	V50	V	8	1											
		V49	V下	6															
78d		V49	V下	11															
		V49	V下	11															
78e		U48	V-1	30															
	U49	V-1	2																
N-11	79a	R49	V下	14	R49	V下	20	2	日群b-1期	砂○	○	縁状工具による多岐文	×						
	79b	R49	V下	26	4														
N-11	80a	F51	V-1	30	F51	V下	17	2	日群b-1期	無小～中△	○	無彫刻行線文 手摺縁文	×						
	80b	F51	V-1	8	F51	V下	40	5											
N-12	81a	F48	V-1	7	F48	V下	7	2	日群b-1期	無小～中△	○	無彫刻行線文 手摺縁文	×						
	81b	F48	V-1	10	F48	V下	7	1											
N-12	82	F50	V-1	24	F50	V下	17	2	日群b-1期	無小～中△	○	無彫刻行線文 手摺縁文	×						
	82	U50	V-1	15	U50	V下	18	1											
		U50	V-1	16	U50	V下	20	4											
	82	U50	V-1	26	U50	V下	13	1											
		U50	V-1	40	U50	V下	18	6											
	82	U50	V-1	43	U50	V下	17	2											
		U51	V-1	11	U50	V下	22	4											
	82	U51	V-1	8	U50	V下	24	1											
		U51	V-1	6	U50	V下	40	4											
	N-12	83	U46	V-1	4									日群b-1期	砂△	○	無彫刻行線文 手摺縁文	×	
83		U46	V-1	2															
N-12	84	U50	V-1	13	U51	皿	6	2	日群b-1期	小△	○	手摺縁文	×						
	84	U50	V-1	22															
N-12	85	U49	V-1	4	U49	V下	7	1	日群b-1期	小～中△	○	無彫刻行線文 手摺縁文	×						
	85	U49	V-1	7	U49	V下	25	1											
N-12	86	Q20	V-1	11	F31	V下	26	1	日群b-1期	無小～中△	○	手摺縁文	×						
	87	F50	V-1	10	R44	V下	6	1											
N-12	88a	F50	V-1	2	U49	V下	4	2	日群b-1期	無小～中△	○	無彫刻行線文 手摺縁文	×						
	88b	U49	V-1	1	U49	V下	11	1											
N-12	88c	U49	V-1	10	U49	V下	25	11	日群b-1期	×	○	無彫刻行線文 手摺縁文	×						
	88d	U49	V-1	26	U49	V下	28	1											

※ 日群b-1期について、胎土に含まれている砂・繊維・繊維を肉眼観察により観察表にした。

観察にあたっては、胎土に個人されている具合が観察しやすい土器の折れ口や土器表面の磨耗が著しいところを選択した。

砂 大ききより3段階に分け、含まれている量も4段階に分けた。

繊維 砂線と同様、4段階の区分を用いた。

文様の明瞭、不明瞭を4段階に分けた。

朱痕文

○ 多く含む

○ 含まれる

△ 少量含まれる

×

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

なし

表 6 包含層揚載拓本土器一覽(4)

回報序号	單元・整合・破片				同一個体未整合破片				分類		
	掲載番号	調査区	層位	遺物番号	整合点数	調査区	層位	遺物番号			
N-13	89	U45	V	6	1				日群b-2類		
	90	T45	V	3	1				日群b-2類		
N-13	91	S43	V上	5	1				日群b-2類		
N-13	92	Q50	V下	23	1				日群b-2類		
N-13	93	S39	V	4	1				日群b-2類		
N-13	94	T35	V	3	1	T40	V	2	1	日群b-2類	
N-13	95	V51	V	10	1	S46	V上	4	1	日群b-2類	
						U46	V上	12	1		
						V48	V下	7	1		
N-13	96	S19	V	2	1					日群b-2類	
N-13	98a	P49	風割	20	1	P49	皿	4	1	日群b-2類	
		P50	V上	14	1	P49	風割	20	6		
		P50	V上	16	1	P50	V中	4	1		
		P50	V下	26	2	P50	V上	14	2		
		Q50	V下	8	1	P50	V上	18	1		
	98b	P49	風割	20	2	P50	V下	26	3		
		P50	V上	14	2	Q50	V下	8	1		
		P50	V下	26	2	Q50	V下	9	1		
		R38	V	2	2	U45	V	2	1		
		U45	V	3	1	U46	V上	12	6		
N-13	99a	U45	V	6	1	U46	皿	8	1	日群b-2類	
	99b	U46	V上	12	2						
	99c	U46	V上	12	2						
	99d	U46	V下	1	2						
N-14	100	S28	V	3	1					日群b-2類	
	101	S29	V	3	1					日群b-2類	
N-14	102	S42	V下	8	1					日群b-2類	
N-14	103	T23	V上	3	1					日群b-2類	
N-14	104	T35	V	3	1					日群b-2類	
N-14	105	V21	V	3	1					日群b-2類	
N-14	106	S42	V上	11	2					日群b-2類	
N-14	107	P50	V中	7	1					日群b-2類	
		T30	皿	4	1	T29	皿	7	2		
		T30	V	9	2	T30	V	9	1		
		T30	皿	11	4	T30	皿	11	7		
		U30	V	6	3	T31	皿	3	1		
	108	S46	V上	4	1	U30	V	6	1		
		T46	V上	1	1	T22	皿	1	1		
		T46	V下	2	4	T46	V上	1	1		
		T46	V上	11	1	T46	V下	3	1		
		V46	V	6	1	U23	V	2	1		
N-14	108a	W47	V	7	1	U20	V	4	1	日群b-2類	
		W47	V	7	2	U42	V	8	1		
		V48	V下	10	1	U49	V上	6	1		
						V44	V	4	1		
						V44	V	10	1		
	108b					V48	V上	3	1		
						V48	V下	10	2		
						W47	V	3	2		
						W47	V	7	2		
N-14	109	T21	V	1	1					日群b-2類	
N-14	110	S28	V	4	1					日群b-2類	
	V30	V	8	1							
N-14	111	R47	V上	12	2	R46	V	3	1	日群b-2類	
		R47	V下	18	1	R47	V上	123	2		
		R47	V下	22	1	R47	V下	21	2		
		R50	皿	3	1	R47	V下	22	2		
		R51	V下	7	1	R50	V下	11	1		
N-15	113					R51	V下	8	1	日群a類	
						R51	V下	9	1		
						R51	V下	7	1		
						R51	V下	5	2		
						R51	V下	8	2		
	114						R51	V下	8		12
							R51	V下	9		28
							S42	V下	2		3
							S42	皿	3		3
							S42	V上	5		10
N-16	114a					T41	V	5	9	日群a類	
						S41	V	3	1		
						S42	皿	3	4		
						S42	V上	5	2		
						T41	V	5	2		

表6 包含層掲載拓本土器一覽(5)

図例番号	單元・整合・破片				同一體未整合破片				分類	
	掲載番号	調査区	層位	遺物番号	整合点数	調査区	層位	遺物番号		点数
N-14	114b	R51	V下	1						群a類
		R51	V下	8	12					
		R51	V下	9	12					
N-16	115	P02	V下	5	1					群a類
		Q51	V上	5	1	R51	V下	8	2	
N-16	116	Q51	V上	8	1					群a類
		Q51	V上	10	1					
		R51	V下	5	4					
		U49	V上	5	1	V48	V下	8	22	
N-16	117	V48	V下	8	3	W49	V下	3	1	群a類
		V49	V上	26	1					
N-17	118	Q48	V上	3	1	S48	V上	5	1	群a類
		Q48	V上	9	2	S48	V上	7	1	
		S48	V上	5	1	S48	V下	9	1	
N-17	119	V50	V上	14	1	U50	V上	6	1	群a類
						U50	V上	14	1	
N-17	120	Q48	V上	9	2					群a類
		Q50	V上	13	1	Q50	V上	12	1	
		Q50	V下	21	1					
N-17	121b	Q50	V下	9	1					群a類
		R52	風割	8	1					
N-17	122	S19	V	1	2					群a類
		S19	V	4	1					
N-17	124	Q51	V上	10	10	Q49	V	20	1	群a類
		Q51	V上	13	1	Q50	V上	17	4	
		R55	V上	12	1	Q50	V下	22	1	
						Q51	V上	10	8	
						R51	V下	5	1	
						R51	V下	6	4	
						R51	V下	8	2	
						R52	V上	12	5	
						S32	V上	3	1	
						S49	V下	7	1	
						U47	V下	8	2	
N-17	125	V35	V	1	1	V35	V	1	1	群a類
		V35	V	3	1	V36	V	6	1	
N-18	126	礫土		15	15	礫土		15	2	群a類
		T48	V下	9	1					
		V51	風	8	1					
		T40	V	7	1					
		S33	V上	2	1					
		S34	V下	2	1					
		U33	V	1	1					
		T34	V	5	1					
		Q49	V	5	1					
		Q49	V	7	1					
		Q50	V上	13	4					
		Q50	V上	17	2					
		R51	V下	11	1					
N-19	135	U50	V上	7	2	S49	V下	3	1	群b類
		U50	V上	9	2	T48	V上	8	1	
						U50	V上	7	1	
						U50	V下	34	2	
						U51	風	5	1	
N-19	136	Q49	V	3	1	Q50	V上	11	2	群b類
		Q49	V	5	2					
		Q50	V上	11	1					
		Q50	V下	16	1					
N-19	137	R48	V下	3	2	R49	V上	13	1	群b類
		Q49	V	8	4	Q49	V	4	1	
		Q49	V	14	1	Q49	V	8	4	
N-19	138	Q50	V上	19	1	Q49	V	14	1	群b類
						Q51	V上	13	1	
						Q52	風	2	1	
N-19	139	Q50	V下	13	1					群b類
		Q50	V下	23	1					
		R50	V上	12	1					

表 6 包含層揚載拓本土器一覽(6)

回類番号	單元・組合・破片				同一個体未組合破片				分類	
	調査区	層位	遺物番号	組合点数	調査区	層位	遺物番号	点数		
N-10	140a	R59	V上	12	2	V40	V	19	1	群b類
		T48	V	23	1	V49	V下	28	2	
		U48	V下	15	1	W66	H	6	1	
		V49	V上	11	1	W66	V	12	1	
		V49	V上	13	1					
	140b	S48	V上	5	1					
		T47	V上	22	1					
		T49	V	9	1					
		T50	V上	11	1					
N-10	141a	Q51	V	3	1	P49	V上	18	1	群b類
		Q51	V上	6	2	Q51	V上	13	9	
		Q51	V上	13	2	Q51	V上	6	8	
	141b	Q52	皿	1	1	Q51	皿	1	1	
		Q51	皿	1	1	Q52	皿	2	1	
		Q51	V上	6	1	T38	V	4	2	
N-10	142a	U42	V	1	3	T42	V	1	1	群b類
		V43	V	10	1	U42	V	1	4	
	142b	U43	V	1	3	U42	V	2	1	
						U43	V	1	8	
						U42	皿	5	1	
						U43	V	8	2	
						U44	V	3	1	
						U47	V上	4	2	
						V43	V	10	1	
						T43	V	2	1	
N-10	143	T46	V上	2	1	R43	V	1	1	群b類
		W47	V	4	1	S40	V上	6	1	
						S41	V上	12	1	
						S42	V下	1	2	
						S45	V上	8	2	
N-10	144	S42	V上	6	1				群b類	
N-10	145	S42	V下	9	1				群b類	
N-10	145	T51	V上	16	2	V44	V	2	1	群b類
N-10	146	W43	V	2	1				群b類	
N-10	147	U37	V	3	1				群b類	
N-10	147	U37	V	4	1				群b類	
N-10	148	R49	V上	13	2				群b類	
N-10	149	W46	V	1	1				群b類	
N-10	149	W46	V	12	1				群b類	
N-10	150	T49	V	5	1				群b類	
N-20	151	T40	V	2	1	P52	V下	1	1	群b類
		U42	V	2	3	R45	V上	3	1	
		V39	皿	1	1	R48	V	3	1	
		V39	V	5	2	R52	V上	3	1	
		V40	皿	1	2	U40	V	2	1	
		V41	V	7	1	U42	V	1	1	
						U44	V	3	1	
						U49	V上	3	1	
						V39	V	3	1	
						V40	皿	1	2	
						V43	V	5	1	
						V44	V	9	1	
						V46	V	8	1	
						V46	V	12	1	
						V46	V	31	3	
						W40	皿	3	3	
						W43	V	2	1	
N-20	152	S48	V上	5	3	S48	V上	3	1	群b類
		T48	V	4	1	S48	V上	5	1	
		T48	V下	26	1	S48	V上	8	2	
						T47	V上	2	3	
						T48	V	4	1	
						T48	V下	25	1	
						U39	V	7	3	
						U43	V	1	1	
						U49	V下	22	1	
						V46	V	18	1	
						V47	V上	6	1	
				V49	V上	4	1			
				W39	V下	3	1			

表6 包含層掲載拓本土器一覽(7)

図類番号	單元・整合・破片			同一體未整合破片				分類			
	図類番号	調査区	層位	遺物番号	整合点数	調査区	層位		遺物番号	点数	
N-20	153	V46	V		12				群b組		
N-20	154	S38	V		2				群b組		
N-20	155	V46	V	22	5	S49	V下	12	1	群b組	
N-20		V46	V	28	1						
N-20	156	T48	V下	14	1					群b組	
N-20		T48	V下	25	1						
N-21	158	R47	V下	19	2	R47	V	14	1	群a組	
N-21	159	T49	V		12	1	R47	V下	16	1	群a組
N-21		S44	V上	4	7	S44	V上	4	2		
N-21	160	S44	V下	8	2	S45	V上	14	3	群a組	
N-21		S45	V上	14	4						
N-21		T45	V		1						
N-21	161	T49	V	16	1					群a組	
N-21		T49	V	28	1						
N-21	162	S42	V上	12	1					群a組	
N-21		S44	V下	8	1						
N-21		S49	V上	3	2						
N-21	163	T51	皿	12	2	T50	V下	23	1	群a組	
N-21		V48	V下	9	7	V48	V下	9	2		
N-21		S51	皿	2	2	S48	V上	5	1		
N-21		S51	V	6	1	V48	V下	9	2		
N-21	164	V35	V	2	1					群a組	
N-21		V28	皿	3	2						
N-21		T51	V下	26	1						
N-22	167	R45	V上	2	1	R45	V上	3	3	群a組	
N-22		R45	V下	7	1						
N-22		R45	V下	8	1						
N-22	168	R44	V	4	1					群a組	
N-22	169	S43	V上	2	1					群a組	
N-22	170	R45	V上	2	1					群a組	
N-22	171	S46	V上	4	1					群a組	
N-22	172	S44	皿	12	1					群a組	
N-22	173	S46	V上	6	1					群a組	
N-22	174	S45	V下	15	1					群a組	
N-22	175	S46	皿	1	2					群a組	
N-22	176	T48	V	4	1					群a組	
N-22		T48	V下	2	1	U48	V下	4	2		
N-22	177	U48	V下	4	3					群a組	
N-22		U48	V下	9	2						
N-22	178	P48	V下	19	1					群b組	
N-22		Q46	V上	2	1						
N-22	179	Q46	V上	2	1					群b組	
N-22		Q46	V上	5	1						
N-22	180	V43	V	3	2					群b組	
N-22		S43	V上	6	21	S43	V上	6	6		
N-22		S43	V上	7	1						
N-22	181	T43	V上	2	1					群b組	
N-22		T43	V上	6	1						
N-22		黄土		29	1						
N-22	182	U40	V	1	1					群b組	
N-22	183	S39	V	6	1					群b組	
N-22	184	S24	磁	1	1					群b組	
N-22	185	U50	V下	21	1					群b組	
N-22	186	U50	V上	15	1					群b組	
N-22		V32	V	2	1						
N-22	187	U30	皿	2	1					群c組	
N-22	188	S41	V	4	1					群c組	
N-22	189	R49	V	6	1					群c組	
N-22		T24	V	3	1	T24	皿	2	1		
N-22	190a	T24	皿	4	1	T24	V	2	2	群c組	
N-22		T25	皿	1	1	T24	皿	4	1		
N-22	190b	T25	皿	1	1	T25	皿	4	1		
N-22	191	U48	V上	12	1					群c組	
N-22		U48	V上	25	1						
N-22	192	T50	V下	6	1	R50	皿	4	1	V群	
N-22		Q50	皿	2	1	S36	V	3	1		
N-22	193	Q45	V	2	1	U30	皿	3	1	V群	
N-22		T29	皿	1	1						
N-22		T29	皿	5	2						
N-22		T29	皿	9	10						
N-22		T29									
N-22		T30	皿	1	4						
N-22		T30	皿	2	1						
N-22		T30	V	9	1					V群	
N-22		T30	V	10	1						
N-22		T30			5						
N-22		U29	皿	1	1						
N-22		U30	皿	1	1						
土製品						長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)		分類	
N-26	301	Q50	V下	24	1	3.3	2.1	2.0		土製品	
N-26	302	Q50	V下	25	1	3.2	1.8	1.9		土製品	
N-26	303	Q50	V上	26	1	2.9	1.9	1.8		土製品	
N-26	304	U32	V	1	1					土製品	
N-26	304	U33	V	2	1					土製品	
N-26	305	T39	V	2	2					土製品	

表7 包含層掘載石器一覽

図版番号	掲載番号	位置	遺物番号	出土層位	遺物名	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
N-29	1	T-50	86	V下	石鏃	頁岩	1.80	1.58	0.30	0.54	
N-29	2	V-48	31	V上	石鏃	蛋白石	2.30	1.37	0.30	0.80	
N-29	3	T-50	70	V下	石鏃	蛋白石	2.45	1.41	0.27	0.86	
N-29	4	V-50	35	V上	石鏃	頁岩	2.22	1.68	0.28	0.69	
N-29	5	U-51	57	V下	石鏃	頁岩	2.90	1.60	0.40	1.15	
N-29	6	S-32	2	V上	石鏃	頁岩	3.10	1.60	0.32	1.32	
N-29	7	S-45	8	V上	石鏃	頁岩	3.15	2.05	0.40	1.56	
N-29	8	Q-50	61	V下	石鏃	蛋白石	3.05	1.90	0.40	1.27	
N-29	9	R-45	18	V下	石鏃	頁岩	3.50	1.65	0.40	2.03	
N-29	10	S-44	38	V上	石鏃	頁岩	3.60	1.80	0.30	1.67	
N-29	11	U-51	35	V	石鏃	蛋白石	3.69	2.05	0.34	1.50	
N-29	12	S-50	20	V上	石鏃	蛋白石	(4.02)	(2.03)	0.39	1.65	
N-29	13	T-50	40	V下	石鏃	蛋白石	2.34	1.68	0.39	1.18	
N-29	14	P-52	4	V上	石鏃	黒曜石	3.90	(1.85)	0.38	2.17	
N-29	15	U-49	111	V上	石鏃	頁岩	4.31	(1.53)	0.32	(1.77)	被熱のよる剥落あり
N-29	16	S-50	50	V下	石鏃	蛋白石	4.00	1.70	0.35	1.46	
N-29	17	T-49	20	V	石鏃	頁岩	2.46	(1.97)	0.46	1.88	尖頭部再生
N-29	18	S-44	40	V下	石鏃	頁岩	3.05	2.08	0.45	2.21	
N-29	19	U-50	88	V下	石鏃	頁岩	(3.04)	2.45	0.52	3.68	尖頭部再生未了
N-29	20	T-51	18	Ⅲ	石鏃	頁岩	(2.47)	1.62	0.31	(0.88)	被熱のよる剥落あり
N-29	21	U-47	34	V下	石鏃	頁岩	(2.52)	2.21	0.30	(1.27)	尖頭部欠損
N-29	22	R-47	2	Ⅲ	石鏃	頁岩	2.65	0.80	0.26	0.47	被熱のよる剥落あり
N-29	23	Q-51	25	V下	石鏃	頁岩	2.70	1.00	0.40	1.14	
N-29	24	U-52	8	V	石鏃	頁岩	3.73	1.32	0.35	1.50	
N-29	25	T-36	1	Ⅲ	石鏃	頁岩	2.70	1.71	0.44	1.63	被熱のよる剥落あり
N-29	26	V-50	56	V上	石鏃	頁岩	4.26	2.10	0.48	2.96	
N-29	27	U-47	17	V下	石鏃	頁岩	3.63	1.14	0.30	1.07	
N-29	28	U-45	8	V	石鏃	頁岩	4.41	1.13	0.30	1.42	
N-29	29	U-47	41	V下	石鏃	蛋白石	2.05	0.76	0.30	0.43	
N-29	30	P-50	8	V中	石鏃	珪質頁岩	2.20	1.25	0.25	0.40	
N-29	31	U-44	20	V	石鏃	蛋白石	(2.65)	1.85	0.64	1.80	
N-29	32	U-44	24	V	石鏃	珪質頁岩	3.00	2.05	0.65	1.80	
N-29	33	Q-46	5	V下	石鏃	頁岩	3.20	1.75	0.50	1.87	基部アスファルト付着
N-29	34	T-48	16	V下	石鏃	黒曜石	(3.60)	2.01	0.48	2.50	右辺再生
N-29	35	R-52	3	V上	石鏃	頁岩	3.00	1.50	0.30	1.67	
N-29	36	S-44	41	V下	石鏃	頁岩	3.65	2.30	0.40	3.60	
N-29	37	S-44	39	V上	石鏃	頁岩	3.90	2.30	0.60	4.33	
N-29	38	R-45	17	V下	石鏃	頁岩	4.25	1.80	0.50	2.62	
N-29	39	W-50	9	V上	石鏃	頁岩	(4.80)	2.17	0.53	4.91	
N-29	40	Q-52	13	Ⅲ	石鏃	頁岩	3.30	1.25	0.45	1.58	
N-29	41	S-51	33	V下	石鏃	頁岩	4.30	1.60	0.73	3.77	
N-29	42	Q-49	49	V	石鏃	頁岩	5.08	1.75	0.70	4.57	
N-29	43	S-50	49	V下	石鏃	頁岩	5.65	1.50	0.65	4.74	
N-29	44	S-27	2	畑	石鏃	黒曜石	(2.80)	1.55	0.45	0.93	
N-29	45	S-50	18	V上	石鏃	頁岩	3.35	1.75	0.50	1.92	
N-29	46	T-29	4	Ⅲ	石鏃	頁岩	3.66	1.47	0.47	1.41	
N-29	47	V-46	15	Ⅲ	石鏃	頁岩	4.96	1.28	0.43	1.79	
N-30	48	V-48	39	V上	石槍	黒曜石	(4.27)	2.54	0.92	8.36	基部欠損
N-30	49	V-48	28	V上	石槍	黒曜石	6.29	2.41	0.85	11.22	原石面が残る
N-30	50	U-46	37	V上	石槍	頁岩	7.06	2.59	0.64	11.18	
N-30	51	Q-49	73	V	石槍	頁岩	6.44	6.45	1.99	9.92	
N-30	52	T-51	35	V上	石槍	頁岩	7.77	2.70	0.78	11.75	

森町森川3遺跡

図版番号	掲載番号	位置	遺物番号	出土層位	遺物名	材質	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
W-30	53	V-48	36	V上	石楨	黒曜石	(5.12)	3.18	0.68	9.11	
W-30	54	R-47	46	V上	石楨	黒曜石	5.78	4.08	0.87	14.06	
W-30	55	S-50	21	V上	石楨	黒曜石	(7.30)	2.94	0.96	16.15	原石面が残る
W-30	56	U-46	38	V上	石楨	頁岩	9.60	3.27	1.13	27.26	
W-30	57	U-49	109	V上	石楨	頁岩	5.70	2.09	0.89	9.19	
W-30	58	U-49	108	V上	石楨	頁岩	6.54	2.70	0.87	8.01	
W-30	59	T-45	19	V	石楨	頁岩	(9.86)	2.50	1.14	29.65	
W-30	60	V-48	38	V上	石楨	頁岩	(4.92)	3.12	0.65	9.38	尖頭部欠損
W-30	61	U-47	38	V下	石鏃	頁岩	2.35	1.20	0.30	0.91	
W-30	62	T-26	10	V上	石鏃	メノウ	2.82	(1.93)	0.40	1.75	
W-30	63	T-48	5	V	石鏃	頁岩	3.33	1.64	1.49	5.54	
W-30	64	R-48	40	V下	石鏃	ガラス質安山岩	3.53	1.97	0.67	3.41	
W-30	65	U-47	36	V下	石鏃	頁岩	3.75	1.87	0.56	3.03	
W-30	66	S-45	17	V下	石鏃	頁岩	4.74	1.83	0.48	4.07	
W-30	67	P-51	39	V下	石鏃	頁岩	2.55	2.58	0.73	2.99	
W-30	68	T-49	67	V	石鏃	頁岩	4.09	4.00	1.28	20.26	
W-30	69	Q-50	51	V上	石鏃	頁岩	(4.38)	1.89	0.67	4.55	
W-30	70	R-46	24	V	石鏃	頁岩	5.06	1.70	0.69	5.56	
W-31	71	V-50	39	V上	つまみ付きナイフ	頁岩	3.74	1.65	0.44	2.07	
W-31	72	T-50	71	V下	つまみ付きナイフ	頁岩	5.26	2.04	0.91	6.43	
W-31	73	Q-47	9	V下	つまみ付きナイフ	珪質頁岩	6.65	2.60	1.10	9.84	
W-31	74	V-49	32	V上	つまみ付きナイフ	頁岩	6.43	2.87	1.18	13.69	
W-31	75	T-51	62	V下	つまみ付きナイフ	頁岩	6.72	3.00	0.74	10.76	左辺は石質軟く峻摩滅
W-31	76	V-50	65	V上	つまみ付きナイフ	頁岩	6.88	3.10	0.71	9.38	
W-31	77	V-50	63	V上	つまみ付きナイフ	蛋白石	9.95	3.58	1.29	29.55	つまみの縁に艶あり
W-31	78	S-44	21	Ⅲ	つまみ付きナイフ	頁岩	4.61	3.22	0.91	8.46	下端部欠損
W-31	79	R-46	30	V下	つまみ付きナイフ	頁岩	5.76	3.48	0.82	10.99	
W-31	80	Q-52	8	V下	つまみ付きナイフ	頁岩	8.38	2.36	0.98	17.50	
W-31	81	U-51	52	V上	つまみ付きナイフ	頁岩	5.36	2.30	0.68	5.87	
W-31	82	V-50	66	V上	つまみ付きナイフ	頁岩	6.53	3.60	0.55	12.65	
W-31	83	Q-49	26	Ⅲ	つまみ付きナイフ	頁岩	8.07	3.86	0.94	21.10	左下から打ち刺し
W-31	84	V-50	36	V上	つまみ付きナイフ	頁岩	10.41	4.85	1.20	43.54	タール付着
W-31	85	R-50	44	V下	つまみ付きナイフ	頁岩	7.97	2.90	0.84	15.76	
W-31	86	U-50	99	V下	つまみ付きナイフ	頁岩	6.00	6.55	0.96	22.04	
W-31	87	T-50	80	V下	つまみ付きナイフ	頁岩	6.30	7.20	0.85	17.06	
W-31	88	V-49	17	V下	スクレイパー	頁岩	5.41	3.94	1.02	11.65	
W-31	89	V-43	2	V	スクレイパー	頁岩	(6.15)	3.60	1.07	24.16	
W-32	90	T-38	8	V	スクレイパー	黒曜石	3.13	2.72	0.95	7.79	
W-32	91	T-50	72	V下	スクレイパー	頁岩	5.13	3.55	1.15	11.04	
W-32	92	S-47	28	V上	スクレイパー	頁岩	5.65	3.95	0.98	28.26	
W-32	93	Q-50	25	V上	スクレイパー	頁岩	7.60	4.80	1.45	57.20	刃部周辺に艶あり
W-32	94	Q-49	54	V	スクレイパー	頁岩	8.80	5.75	1.25	62.09	
W-32	95	S-25	7	畑	スクレイパー	頁岩	5.50	1.97	0.95	8.26	被熱のよる剥落多い
W-32	96	P-50	10	V中	スクレイパー	頁岩	4.30	2.60	0.60	6.04	
W-32	97	U-47	24	V上	スクレイパー	頁岩	7.20	4.10	0.75	21.80	
W-32	98	U-48	1	V下	スクレイパー	頁岩	8.65	3.30	1.00	29.62	
W-32	99	V-48	29	V上	スクレイパー	頁岩	9.55	3.60	0.90	32.19	
W-32	100	S-50	39	V下	スクレイパー	頁岩	8.90	3.95	1.25	44.85	
W-32	101	Q-51	27	V下	スクレイパー	頁岩	8.90	3.85	0.90	41.11	
W-32	102	T-46	28	V下	スクレイパー	頁岩	10.75	4.05	1.00	45.78	下半部に艶あり
W-32	103	T-43	14	V上	スクレイパー	頁岩	8.90	4.65	0.75	18.39	
W-32	104	U-46	23	畑	スクレイパー	頁岩	8.30	4.00	1.10	52.45	
W-33	105	Q-51	24	V下	スクレイパー	頁岩	5.25	5.70	0.65	18.93	

図版番号	掲載番号	位置	遺物番号	出土層位	遺物名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
N-33	106	V-51	22	V下	スクレイパー	頁岩	3.74	3.66	1.34	15.63	
N-33	107	T-49	33	V	スクレイパー	頁岩	7.60	4.28	0.50	26.06	右辺の袈れは製作時
N-33	108	Q-49	50	V	スクレイパー	頁岩	4.65	1.40	0.50	4.01	
N-33	109	V-48・U-49	42・101	V上	スクレイパー	蛋白石	6.35	4.30	0.85	13.17	内湾 接合
N-33	110	U-52	2	V	スクレイパー	頁岩	4.45	7.51	1.63	19.00	内湾 左辺部続け
N-33	111	V-50	33	V上	スクレイパー	頁岩	6.80	5.55	0.85	16.88	内湾
N-33	112	U-51	38	V	スクレイパー	頁岩	8.25	7.50	1.30	45.32	内湾
N-33	113	Q-52	31	V下	スクレイパー	頁岩	8.90	4.80	1.05	21.51	内湾
N-33	114	T-44	22	V下	スクレイパー	頁岩	3.45	3.49	1.66	19.70	
N-33	115	U-43	10	V	スクレイパー	蛋白石	5.35	3.13	2.07	24.87	握指状
N-33	116	P-50	13	V上	スクレイパー	頁岩	5.85	3.30	1.20	22.69	
N-33	117	R-50	42	V上	スクレイパー	頁岩	2.35	2.10	0.56	3.37	破損?
N-33	118	V-47	12	V下	スクレイパー	頁岩	2.85	1.96	1.13	6.50	
N-33	119	V-51	24	V下	スクレイパー	蛋白石	2.68	2.17	1.03	4.74	
N-33	120	S-51	19	V上	スクレイパー	頁岩	3.08	2.79	1.60	13.32	
N-33	121	S-50	28	V上	スクレイパー	頁岩	4.95	3.58	1.24	15.84	エンドスクレイパー
N-33	122	T-50	67	V下	スクレイパー	蛋白石	2.48	1.90	0.79	4.45	
N-33	123	Q-47	10	V下	スクレイパー	頁岩	3.10	1.81	0.99	5.22	
N-33	124	T-44	21	V下	スクレイパー	頁岩	3.80	2.09	0.97	7.76	
N-33	125	U-48	34	V上	スクレイパー	頁岩	4.29	2.40	1.08	14.04	
N-33	126	V-48	27	V上	スクレイパー	頁岩	3.70	(2.58)	0.92	11.32	
N-34	127	R-47	56	V下	両面調整石器	頁岩	(2.70)	1.40	0.55	2.02	被熱による剥落あり
N-34	128	R-51	2	N	両面調整石器	頁岩	3.96	2.90	1.15	12.44	
N-34	129	S-47	27	V上	両面調整石器	黒曜石	4.84	2.89	1.12	11.58	原石面が残る
N-34	130	V-43・W-42	4・4	III	両面調整石器	黒曜石	(5.43)	4.75	0.99	28.75	接合 被熱による割れ
N-34	131	T-29	11	III	石斧	緑色泥岩	3.55	1.85	0.65	5.43	片刃・破片から再生
N-34	132	U-33	5	V	石斧	片岩	6.35	2.40	0.60	10.74	
N-34	133	V-41	7	V	石斧	片岩	7.90	2.00	0.95	26.22	片刃
N-34	134	V-46	19	V	石斧	片岩	11.55	2.70	1.25	60.39	片刃
N-34	135	T-44	1	V	石斧	泥岩	(3.85)	4.10	0.80	22.15	片刃
N-34	136	R-47	20	V下	石斧	片岩	(7.30)	3.80	1.60	83.35	片刃
N-34	137	U-36	4	V	石斧	泥岩	11.00	4.00	2.60	200	片刃
N-34	138	S-45	5	V上	石斧	片岩	(7.80)	4.50	1.80	97.46	基部破損
N-34	139	S-47・S-50・T-41・V-42	24・23・3・6	V	石斧	泥岩	11.10	(4.80)	(1.70)	(94.50)	接合
N-34	140	Q-48	27	V下	石斧	凝灰岩	10.60	6.60	2.30	290	
N-35	141	U-49	42	V上	石斧	緑色泥岩	(6.50)	5.35	2.00	94.57	基部破損
N-35	142	Q-50	30	V下	石斧	緑色泥岩	(5.25)	5.80	1.90	92.08	基部破損
N-35	143	T-45	15	V	石斧	緑色泥岩	10.40	2.70	4.90	245	基部敲打痕
N-35	144	Q-49	35	V	たたく石	安山岩	10.35	7.10	7.60	630	
N-35	145	T-23	3	V	たたく石	安山岩	11.20	7.50	6.20	550	
N-35	146	S-21	2	V	たたく石	安山岩	11.45	9.10	4.20	640	両端に敲打痕
N-35	147	V-39	3	V	たたく石	流紋岩	8.70	7.90	3.90	280	
N-35	148	U-39	5	V	たたく石	花崗岩	8.80	7.40	5.15	430	
N-35	149	P-51	23	V下	たたく石	流紋岩	7.95	7.00	4.80	400	周囲に敲打痕
N-35	150	P-51	30	V上	たたく石	流紋岩	7.10	6.40	5.00	380	周囲に敲打痕
N-35	151	T-32	4	V	たたく石	安山岩	8.00	7.00	4.10	250	
N-35	152	S-38	3	V	たたく石	安山岩	12.20	9.20	6.65	770	
N-36	153	S-24	7	V	たたく石	安山岩	15.60	5.50	3.30	400	
N-36	154	Q-52	30	V下	すり石	安山岩	8.00	15.00	6.40	830	

森町森川3遺跡

図版番号	掲載番号	位置	遺物番号	出土層位	遺物名	材質	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
N-36	155	U-43	2	V	ナリ石	安山岩	8.45	14.80	7.00	970	
N-36	156	U-49	84	V下	ナリ石	安山岩	9.00	16.50	5.50	955	
N-36	157	V-49	10	V上	ナリ石	安山岩	8.80	16.50	5.15	1,000	
N-37	158	T-50	6	V下	ナリ石	安山岩	7.50	16.50	6.30	1,030	
N-37	159	U-49	122	V上	ナリ石	安山岩	9.00	17.90	6.90	1,170	
N-37	160	Q-50	76	V下	ナリ石	安山岩	10.90	16.70	7.50	1,550	
N-37	161	T-50	25	V上	ナリ石	安山岩	8.10	14.40	6.50	945	
N-38	162	R-51	25	V下	ナリ石	安山岩	9.20	15.90	6.10	1,030	
N-38	163	R-50	32	V下	ナリ石	花崗斑岩	8.75	14.85	6.10	945	
N-38	164	U-49	35	V上	ナリ石	安山岩	8.20	17.00	6.50	1,000	右端被熱変色
N-38	165	S-51	2	III	ナリ石	安山岩	9.10	16.50	4.20	960	両端に打ち欠き
N-39	166	Q-49	66	V	扁平打製石器	安山岩	8.50	13.75	2.50	510	両端に打ち欠き
N-39	167	P-51	50	V下	扁平打製石器	安山岩	8.85	15.20	3.50	780	両端に打ち欠き
N-39	168	T-46	10	V下	扁平打製石器	安山岩	7.50	13.60	3.10	435	
N-39	169	W-48	5	V下	扁平打製石器	安山岩	7.70	12.90	2.60	390	
N-39	170	Q-52	21	V下	扁平打製石器	安山岩	8.80	13.75	3.00	465	
N-39	171	T-22	6	IV	扁平打製石器	安山岩	7.45	16.30	4.20	625	
N-40	172	R-45	11	V下	扁平打製石器	安山岩	9.45	16.40	2.60	490	未使用
N-40	173	T-40	8	V	北海道式石冠	安山岩	8.60	11.00	4.80	560	
N-40	174	U-30	12	V	北海道式石冠	安山岩	8.90	9.70	4.90	690	
N-40	175	R-49・S-50	4・42	V上	北海道式石冠	安山岩	8.70	15.90	5.90	830	接合
N-40	176	S-49	14	V下	北海道式石冠	安山岩	9.50	12.90	6.10	1,030	
N-40	177	P-51	1	V上	北海道式石冠	安山岩	8.70	13.75	6.25	1,080	
N-41	178	V-43	12	V	北海道式石冠	安山岩	8.80	14.30	7.10	1,090	
N-41	179	Q-51	20	V上	北海道式石冠	安山岩	9.60	14.00	5.90	1,100	
N-41	180	Q-50	18	V下	北海道式石冠	安山岩	9.00	15.60	6.90	1,460	ヒビが入り変色・タール付着
N-41	181	P-52・S-49	17・14	V下	北海道式石冠	安山岩	10.20	18.00	5.80	1,450	接合
N-42	182	Q-49	57	V	北海道式石冠	安山岩	12.55	14.50	8.50	1,925	
N-42	183	V-44	13	V	石鏃	安山岩	9.65	11.20	3.70	350	
N-42	184	V-49	39	V上	砥石	砂岩	7.10	9.25	1.10	81.47	
N-42	185	S-49	31	V下	砥石	砂岩	9.20	5.50	4.75	390	角柱状
N-42	186	S-41	17	V下	砥石	砂岩	4.80	5.00	5.30	150	角錐
N-42	187	S-26	6	V	石鏃	砂岩	9.00	7.90	2.80	170	
N-42	188	V-44	14	V	石鏃	安山岩	8.60	8.60	2.40	280	
N-42	189	T-48	38	V	石鏃	安山岩	10.20	11.30	2.70	325	
N-42	190	O-50・Q-48・Q-49・R-49	79・8・70・5	V上	石鏃	安山岩	14.00	25.70	5.60	1,840	接合
N-43	191	S-41	22	V上	石皿	安山岩	38.00	36.75	16.75	30,000	
N-43	192	T-45	22	V上	石皿	安山岩	40.65	47.45	13.30	37,500	
N-44	193	U-29・U-30	3・9	III	石皿	安山岩	34.10	43.90	7.65	11,500	接合
N-45	194	U-30	10	III	石皿	安山岩	48.00	31.65	18.15	31,500	
N-45	195	T-29	16	VI	石製品	軽石	6.01	4.88	2.48	38.35	全面擦痕
N-45	196	U-47	40	V下	石製品	凝灰岩	4.10	1.60	0.56	3.12	上部に茶褐色物質付着
N-45	197	R-51・T-50・U-50	26・84・95	V下	石製品	珪藻岩	6.97	2.76	0.64	8.97	3点接合 石弁状
N-45	198	V-46	5	V	石製品	凝灰岩	10.48	4.40	0.85	49.75	焼け
N-45	199	V-50	1	V	石製品	凝灰岩	8.35	5.07	1.01	29.75	

V 自然科学的手法による分析

1 放射性炭素年代測定

地球科学研究所

報告内容の説明

- 14C age (y BP)** : 14C年代 "measured radiocarbon age"
試料の 14C/12C 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。
半減期はリビーの5568年を用いた。
- 補正14C age (y BP)** : 補正14C年代 "conventional radiocarbon age"
試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り
14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。
試料の13C値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。
暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。
- δ13C (permil)** : 試料の測定14C/12C比を補正するための13C/12C比。
この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)で表現する。
- $$\delta 13C (\text{‰}) = \frac{(13C/12C)_{\text{[試料]}} - (13C/12C)_{\text{[標準]}}}{(13C/12C)_{\text{[標準]}}} \times 1000$$
- ここで、13C/12C[標準] = 0.0112372である。

- 暦年代** : 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C濃度の変動に対する補正により、暦年代を算出する。具体的には年代既知の樹木年輪の14Cの測定、サンゴのU-Th年代と14C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。最新のデータベース("INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3))により約19000yBPまでの換算が可能となった。*

*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

"The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317-322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."

測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他 : 試料の前処理、調製などの情報

前処理 acid-alkali-acid : 酸-アルカリ-酸洗浄
acid washes : 酸洗浄
acid etch : 酸によるエッチング
none : 未処理

調製・その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理
Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出
Cellulose Extraction : 木材のセルロース抽出
Extended Counting : Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 BETA ANALYTIC INC.
4985 SW 74 Court, Miami, FL, U.S.A 33155

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	δ 13C(permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 174530	1680 ± 40	-26.0	1660 ± 40
試料名 (21736) MK3-1			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 174531	2060 ± 40	-24.8	2060 ± 40
試料名 (21737) MK3-2			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 174532	2390 ± 40	-22.5	2430 ± 40
試料名 (21738) MK3-3			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 174533	990 ± 40	-25.8	980 ± 40
試料名 (21739) MK3-4			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			
Beta- 174534	610 ± 40	-24.5	620 ± 40
試料名 (21740) MK3-5			
測定方法、期間 AMS-Standard			
試料種、前処理など charred material acid/alkali/acid			

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic AcidのC14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

試料一覧表

試料番号	種 類	サンプル採取位置	備 考
MK3-1	炭化材	F-1	統縄文時代の焼土
MK3-2	炭化物	F-6	統縄文時代の焼土フローテーションサンプル
MK3-3	炭化物	S32 烟跡	烟跡フローテーションサンプル
MK3-4	炭化物	S47 烟跡	烟跡フローテーションサンプル
MK3-5	炭化物	T43 烟跡	烟跡フローテーションサンプル

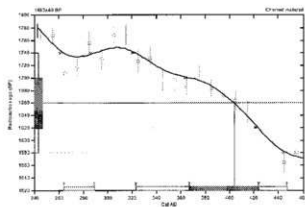
CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Materials: C13/C12=24.8 lab. no. 1)

Laboratory number: Beta-174530

Conventional radiocarbon age: 1660±60 BP
2 Sigma calibrated result: Cal AD 246 to 290 (Cal BP 1670 to 1660) and
Cal AD 320 to 450 (Cal BP 1620 to 1590)
(95% probability)

Intercept date

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 400 (Cal BP 1559)
1 Sigma calibrated result: Cal AD 370 to 420 (Cal BP 1590 to 1530)
(68% probability)

References:

Deininger and

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., Rea, D., & Rea, D. (2018). Radiocarbon 4000. *pdf file*

RICE (13) Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al. (2018). Radiocarbon 4000. *pdf file*

Methodology

A Statistical Approach to Calibrating C14 Dates

Taylor, P. J., & St. Pierre, J. L. (1997). Radiocarbon 3700. *pdf file*

Beta Analytic Inc.

4850 E. 74th Street, Miami, Florida 33151, U.S.A. Tel: (305) 407-5747 Fax: (305) 407-9601 E-Mail: info@betaanalytic.com

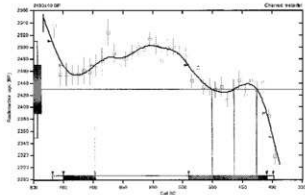
CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Materials: C13/C12=22.5 lab. no. 1)

Laboratory number: Beta-174531

Conventional radiocarbon age: 2430±60 BP
1 Sigma calibrated result: Cal BC 770 to 800 (Cal BP 2720 to 2350)
(68% probability)

Intercept date

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 790 (Cal BP 2450) and
Cal BC 660 (Cal BP 2450) and
Cal BC 430 (Cal BP 2790)1 Sigma calibrated result: Cal BC 750 to 700 (Cal BP 2700 to 2670) and
Cal BC 440 to 410 (Cal BP 2490 to 2360)

References:

Deininger and

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., Rea, D., & Rea, D. (2018). Radiocarbon 4000. *pdf file*

RICE (13) Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al. (2018). Radiocarbon 4000. *pdf file*

Methodology

A Statistical Approach to Calibrating C14 Dates

Taylor, P. J., & St. Pierre, J. L. (1997). Radiocarbon 3700. *pdf file*

Beta Analytic Inc.

4850 E. 74th Street, Miami, Florida 33151, U.S.A. Tel: (305) 407-5747 Fax: (305) 407-9601 E-Mail: info@betaanalytic.com

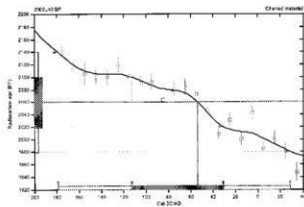
CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Materials: C13/C12=24.8 lab. no. 1)

Laboratory number: Beta-174531

Conventional radiocarbon age: 2660±60 BP
2 Sigma calibrated result: Cal BC 180 to Cal AD 30 (Cal BP 2630 to 1920)
(95% probability)

Intercept date

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal BC 50 (Cal BP 2600)
1 Sigma calibrated result: Cal BC 110 to 30 (Cal BP 2600 to 1940)
(68% probability)

References:

Deininger and

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., Rea, D., & Rea, D. (2018). Radiocarbon 4000. *pdf file*

RICE (13) Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al. (2018). Radiocarbon 4000. *pdf file*

Methodology

A Statistical Approach to Calibrating C14 Dates

Taylor, P. J., & St. Pierre, J. L. (1997). Radiocarbon 3700. *pdf file*

Beta Analytic Inc.

4850 E. 74th Street, Miami, Florida 33151, U.S.A. Tel: (305) 407-5747 Fax: (305) 407-9601 E-Mail: info@betaanalytic.com

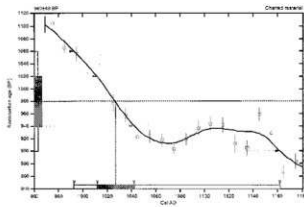
CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Materials: C13/C12=25.8 lab. no. 1)

Laboratory number: Beta-174531

Conventional radiocarbon age: 990±60 BP
2 Sigma calibrated result: Cal AD 990 to 1160 (Cal BP 940 to 790)
(95% probability)

Intercept date

Intercept of radiocarbon age
with calibration curve: Cal AD 1030 (Cal BP 920)
1 Sigma calibrated result: Cal AD 1010 to 1040 (Cal BP 940 to 910)
(68% probability)

References:

Deininger and

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., Rea, D., & Rea, D. (2018). Radiocarbon 4000. *pdf file*

RICE (13) Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al. (2018). Radiocarbon 4000. *pdf file*

Methodology

A Statistical Approach to Calibrating C14 Dates

Taylor, P. J., & St. Pierre, J. L. (1997). Radiocarbon 3700. *pdf file*

Beta Analytic Inc.

4850 E. 74th Street, Miami, Florida 33151, U.S.A. Tel: (305) 407-5747 Fax: (305) 407-9601 E-Mail: info@betaanalytic.com

CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Version: 1.13(12-27-03, wp2-3))

Laboratory number: Beta-174334

Conventional radiocarbon age: 428±14 BP

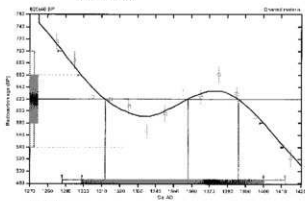
2 Sigma calibrated result: Cal AD 1290 to 1410 (Cal BP 660 to 580)
(95% probability)

Intercept date:

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve: Cal AD 1310 (Cal BP 640) and
Cal AD 1360 (Cal BP 590) and
Cal AD 1390 (Cal BP 560)

1 Sigma calibrated result: Cal AD 1305 to 1400 (Cal BP 636 to 556)
(68% probability)



References:

Stuiver and

Reimer (2003)

AMS data bank

Stuiver, M., and Reimer, P. (2003) Radiocarbon 49(3), 103-108.

INTCAL03 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et al. (2003) Radiocarbon 45(3), 311-316.

Mathews

A Bayesian approach to Calibrating C14 Dates

Mathews, J. S., Fagan, J. C. (2001) Radiocarbon 43(4), 617-627.

Beta Analytic Inc.

4910 BP 14 Court, Missis, Florida 32701 USA (772) 449-1571 Fax: (772) 449-1565 Web: www.betacarb.com

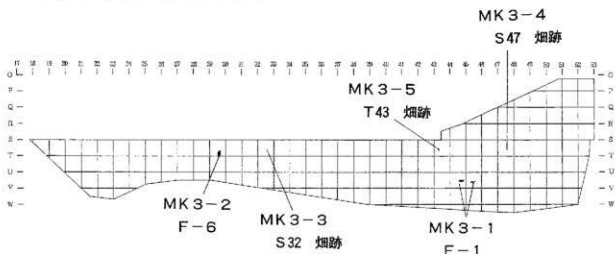


図 V-1 炭化物サンプル採取位置

2 畑遺構の土壌理化学性

(徳国立科学博物館 須永薫子)

1. はじめに

これまで農耕地遺構研究は、水田跡を中心に行われており、畑遺構の発掘事例は少なく、水田跡で検討されているような生産性など総合的な研究は行われていないのが現状である。これは、稀な例として作物の痕跡が出土することはあるが、通常は栽培作物が限定される例が少ないこと、栽培方法が明瞭ではないこと、そして畑遺構の検出例が少ないことなどが背景にあると考えられる。しかしながら、水田とは異なり、畑では水管理のみならず養分の補充が必須であることや湛水の影響が少ないことが予想されることから、遺構土壌には埋没当時の痕跡をとどめている可能性がある。著者のこれまでの研究から群馬県で発掘された1783年の浅間山噴火に伴い埋没した畑遺構の土壌理化学性に埋没以前の畑利用による影響と考えられる特徴を確認することができた(須永ら、2003)。しかしながら、土壌の理化学性には、人為のみならず母材や気候による影響があるため、様々な気候および堆積環境下の埋没畑遺構土壌にて研究を行うことは、畑遺構の研究において重要な意義があると考えられる。

本報告は、森川3遺跡において駒ヶ岳d火山灰(以下Ko-dと称す)層の下位層で検出された筋状の遺構に関して調査分析した結果を報告するものである。これらの筋状遺構は、その形状から畑として利用されていた可能性が高いと考えられる(以下筋状遺構を畑遺構と称することとする)。そこで、畑遺構の土壌理化学性に埋没以前の畑利用による影響が確認できるか否かを検討することを第一の目的とし、さらに畑遺構の特徴、特に肥料成分に関連する土壌化学性の特徴を明らかにすることを第二の目的として次の検討をおこなった。

以下に採取地点および分析に供した土壌試料を示し、分析方法および分析結果を報告する。

2. 供試土壌(採取地に関して)

採取はT19区から採取した。畑遺構の筋状の形状は、基本層序のIV層にあたる白頭山苦小牧火山灰(以下B-Tmと称す)層の攪乱によって確認できた。そこで、Ko-d直下の層位の形状および断面観察を行い、約120cmの断面を形成し地点1とした。断面形態の特徴から約30cm毎に分割し連続して試料採取を行った。なお、極薄い層やブロック状に堆積した層位が確認できたが、農耕地として利用する場合はある程度の層厚が必要と考えられることから、約4cm以上の層厚を有する層位から採取した。図1に採取した層位の概略図および各層位の特徴を示した。以下、比較を容易にするため、Ko-d直下層を第一層、その下層をそれぞれ第二層、第三層と称することとする。

森川3遺跡では、耕作痕と考えられる攪乱跡が確認できた(地点2)。この地点を耕作痕として採取した。なお、調査後に採取したため、これらの層位はKo-d直下の層位ではないが、特徴的な部位であることから同様の分析を行った。

採取を行った時点において、森川3遺跡ではKo-d下の層位に筋状遺構が広範囲に確認されたため畑利用がなされなかったと考えられる地点を選定することができなかった。そこで、隣接した上台1遺跡の畑遺構が検出されなかった地点において同様の層位の土壌を採取し、これを人為的影響のほとんどない、ほぼ自然状態で堆積した土壌(対照地)として比較をおこなった。また、森川3遺跡の周辺に位置する上台2遺跡において、同様の層位から畑遺構が検出された。そこで上台2遺跡からも同様に土壌試料を採取した。上台1遺跡は、森川3遺跡と上台2遺跡の間に位置する遺跡である。

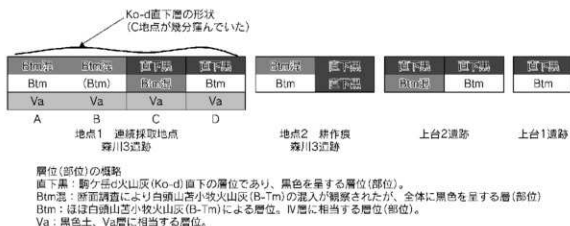


図1 採取地点の層位概略

3. 分析方法

(1) 土壌物理性

土壌物理性の分析では、土壌が硬いかやわらかいか、どの程度詰まっているかを検討した。現代の土壌の研究により、畑利用された土壌では、森林等の自然環境下で堆積した土壌と異なり、次第に硬く詰まる傾向が知られている。同様に、これまでの研究から同一の埋没遺跡で、埋没畑遺構の土壌と畑以外と考えられる地点の土壌(森林下を想定)を比較したところ、畑遺構土壌により硬く、詰まった状態であることを示す傾向が確認できた。そこで、土壌硬度を現地にて、山中式土壌硬度計を用いて測定した。

(2) 土壌化学性

土壌の基本的な性質としてpH(H₂O、KCl)、陽イオン交換容量(以下CECと称する)、リン酸吸収係数、土壌有機物量として全炭素量および全窒素量を測定した。これらの分析項目は土壌の母材等に影響を受けると考えられている。埋没以前の畑利用に伴い変化する傾向が強いと考えられる分析項目である可給態リン酸量および易分解性有機物量について分析を行った。

易分解性有機物量以外の分析は、土壌環境分析法(1997)の方法を用いた。易分解性有機物量は、須永ら(2003)による方法を用いた。

(3) 土壌構造

ブロック状に土壌試料を採取し、樹脂に包埋後、薄片試料を作成し、土壌微細形態学的観察を行うことによって、土壌の微細な部位の変化を確認できる。これまでの現代の表土に関する研究から耕地利用に伴う土壌構造の変化が報告されている(荒川・東、1995・Blank and Fosberg, 1989)。そこで、畑遺構と対照地の土壌構造を観察し、畑利用に伴う土壌構造の変化を検討した。また、地点2にて確認できた耕作痕についても同様の観察を行った。なお、微細形態観察試料は、平山(1992)に準じて作成した。

4. 結果および考察

(1) 土壌物理性

硬度の平均値を図2に示した。

森川3遺跡地点1の連続採取地点のKo-d直下の層位と上台1遺跡(対照地)のKo-d直下の層位の結果を比較すると、いくぶん森川3遺跡の畑遺構で締まった傾向が確認できた。一方、耕作痕が確

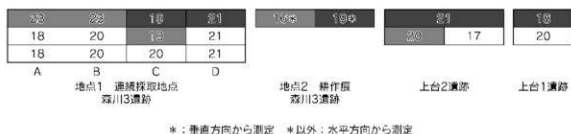


図2 Ko-d直下層およびその下層の土壌硬度 (mm)

認できた地点に関しては、第一層 (Ko-d直下層) は調査時に排除されたと考えられることから、第二層に相当すると考えられる。第二層として各地点を比較すると、第一層 (Ko-d直下層) のような明瞭な傾向は認められなかった。

畑利用された土壌では、森林等の自然環境下で堆積した土壌と異なり、次第に硬く詰まる傾向がある。こうした傾向は、埋没した畑遺構においても観察できる場合がある。しかしながら上台1および2遺跡、森川3遺跡の畑遺構及び対照地の結果では、幾分その傾向を示す結果がえられたが、明瞭な傾向は確認できなかった。以上のことから、これらの層位の畑利用の痕跡を明瞭に確認する方法として土壌硬度の測定のみでは不十分であることがわかった。そこで、土壌構造を直接観察した結果を(3)土壌構造に示す。

(2) 土壌化学性

pH (H₂O, KCl) を図3に、リン酸吸収係数を図4に、全炭素・全窒素量および陽イオン交換容量 (以下CECと称する) を図5に、可給態リン酸量および易分解性有機物量を図6に示した。

pH (H₂O)の結果には、各地点間で変化は少なく、ほぼ5.5前後を示した。森川3遺跡の地点や層位による変化は少なかった (図3)。森川3遺跡と上台1遺跡 (対照地) では、ほぼ同程度の値を示した。また、塩化カリウムを用いたpHでは比較的母材に影響をうけると考えられているが、これらの値も森川3遺跡および上台1遺跡 (対照地) ではほぼ同程度の値を示した。土壌化学性は、母材の影響強くうけるが、森川3遺跡地点1・2および対照地の比較は妥当だと考えられる。一方、上台2遺跡では、pH (H₂O, KCl) ともに高い傾向を示したことから母材等の履歴が多少異なることが考えられるが、その差がpHで0.5程度と少ないことから以下の比較に用いた。

リン酸吸収係数 (図4) は土壌が植物に必要な要素であるリンを吸着してしまい植物が利用できない状態にしてしまう能力である。ほぼ全地点で15を超える高い値を示した。このことから、埋没当時と現在で同様の値であるかどうかはさらに議論が必要ではあるが、畑利用を永年続けていく過程で、リンの投入が少なければ、容易にリン欠乏症におちいる可能性の高い土壌であると考えられる。また、リン酸吸収係数は粘土含量や粘土の質、有機物等により変化することから、母材の性質としても比較することができる。森川3遺跡では、上台1および2遺跡よりも幾分高い値を示したことから、母材に何らかの違いがあることが考えられるが、本報告では15以上の高い傾向であることを考慮し、以下の比較を行った。

陽イオン交換容量 (CEC)、土壌有機物量として全炭素量および全窒素量はほぼ同様の傾向をしめした (図5)。このことからCECは粘土や有機物量による影響をうけるが、森川3遺跡および上台1・2遺跡の各地点では、有機物量による影響を強く受けて決定されていることがわかった。一般に畑利用に伴い、供給よりも採取が多くなることや耕うん等好気的環境下となることによって、土壌有機物

量が減少することが知られている。著者のこれまでの研究において、埋没農耕地遺構においても同様の傾向が認められることがわかっている。しかしながら、森川3遺跡および上台2遺跡ともに畑遺構で上台1遺跡（対照地）に比べ高い傾向を示した。対照地が確れていることから、比較はわずかしいながら、何らかの作用による可能性は否定できない。なお、CECは農耕地利用においては養分を保持する容量である。

これまでの研究から、易分解性有機物量、可給態リン酸量は埋没当時の土地利用による影響を受けやすい分析項目であると考えられた。前述したように全炭素量・全窒素量については、畑遺構である森川3遺跡の地点1・2とも上台1遺跡（対照地）に比べ高い傾向を示した。しかしながら、易分解性有機物量については、上台1遺跡（対照地）で高く、畑遺構で低い傾向を示した。一方、易分解性有機物量は畑遺構が低く対照地が高い傾向を示した。これは、群馬県でおこなった研究と同様の傾向であり、畑利用によって易分解性有機物量が減少し、その傾向が埋没後も確認できた可能性が高いと考えられる。

また、可給態リン酸量については、森川3遺跡の地点1で上台1遺跡（対照地）に比べ高い傾向を示したが、森川3遺跡地点2および上台2遺跡では対照地に比べ低い結果になった。なお、上台2遺跡に関しては、これ以外の畑遺構で採取した試料についても同様に対照地に比べ低い傾向を示したが、群馬県の1783年に埋没した浅間A軽石下の畑遺構と対照地では、畑遺構が比較的高い値を示したが、森川3遺跡地点2および上台2遺跡の結果はこれとは異なる傾向であった。可給態リン酸量に関しては埋没環境や当時の農業技術の違い、埋没した季節など様々な影響が考えられることからより詳細な検討が必要な課題である。

これまでの研究から易分解性有機物量を可給態リン酸量で割った値（N/Pと称する）が畑遺構で低く、対照地が高い傾向を示す指標となる可能性を検討してきた。森川3遺跡に関しても同様にN/Pを求めたところ、畑遺構で低く、対照地が高い傾向が確認できた。地域全体で閾値となる値が確認できれば、畑遺構と対照地の判別の一助になる可能性がある。

(3) 土壌構造

第一層（Ko-d直下層）から第二層にかけての土壌構造的特徴的部位を図7に示した。それぞれの

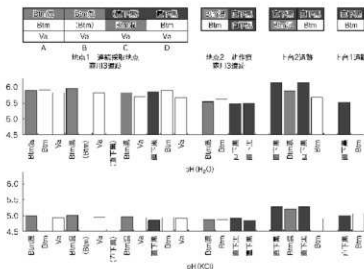


図3 Ko-d直下層およびその下層のpH (H₂O, KCl)

図の幅は3cmである。図は、森川3遺跡畑遺構(B-Tm多)、同(B-Tm少)、上台1遺跡(対照地)の3サンプルは断面を垂直にスライスした状態を示している。森川3遺跡地点2(耕作痕)の図は土壌を水平にスライスした状態を示している。白い部分は孔隙を示している。

対照地では孔隙が複雑につながった混合パッキング孔隙が多いが、森川3遺跡の畑遺構では、B-Tmの混入割合の違いにかかわらずバグ孔隙やチャネル孔隙が多かった。これまでの研究と同様の傾向であり、畑利用に伴う構造の変化と考えられた。なおこれは上台2遺跡においても確認できた傾向である。また、森川3遺跡地点2で確認された耕作痕の部位では、とくにチャネル孔隙の発達ที่ 明瞭であり、畑利用に伴う傾向と考えられた。

以上のことから、土壌構造は畑利用に伴う変化による影響を受けやすくかつ埋没後も保存されやすい性質であると考えられ、今回検討した遺構に関しては、森川3遺跡等を含む時代の畑遺構の観察方法として有効な分析方法であると考えられた。

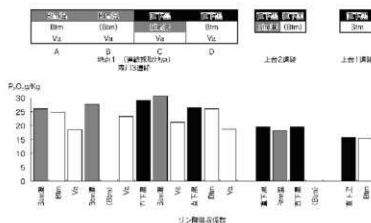


図4 Ko-d直下層およびその下層のリン酸吸収係数

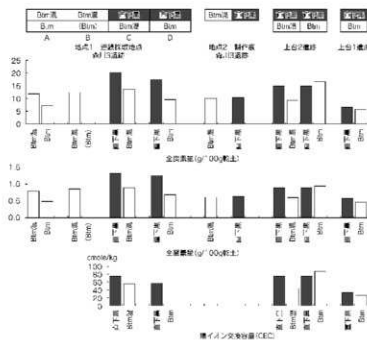


図5 Ko-d直下層およびその下層の全炭素量・全窒素量・陽イオン交換容量

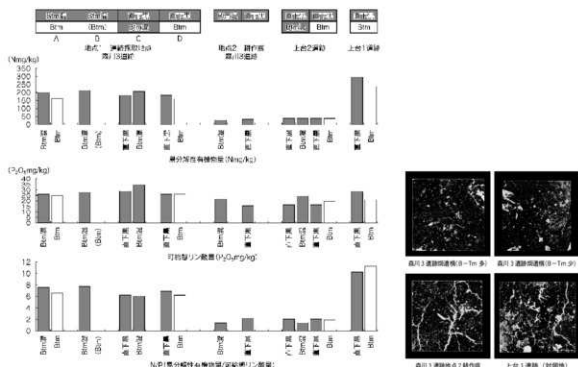


図6 Ko-d直下層およびその下層の易分解性有機物量

5. まとめ

畑遺構の土壌理化学的に埋没以前の畑利用による影響が確認できるか否かを検討した所、易分解性有機物量、易分解性有機物量を可給態リン酸量で除した値(N/P)、土壌構造において埋没以前の畑利用による影響と考えられる特徴が認められた。肥料成分に関連する可能性の高い可給態リン酸量については森川3遺跡の一部畑遺構において対照地に比べ高い傾向を示したが、むしろ低い地点も認められた。このことからリンの投入が少ないなど、畑利用に伴い植物の吸収等により土壤中から減少した状態であったとも考えられる。しかしながら、埋没した季節や当時の農業技術などと総合的に検討することが今後必要な課題である。

6. 謝辞

財団法人北海道埋蔵文化財センターの熊谷仁志氏、谷島由貴氏には、貴重な遺跡調査に参加させていただき、多大な御助力を頂きました。心より御礼申し上げます。また、上野2遺跡、上野1遺跡、森川3遺跡の関係者の方々に御礼申し上げます。分析にあたっては、(財)国立科学博物館 平山良治主任研究官には、機器を使用させていただくとともに、様々な御助言をいただきました。

引用文献

- Blank, R. R. and Fosberg, M. A. 1989. Cultivated and adjacent virgin soils in northcentral South Dakota: II. Mineralogical and micromorphological comparisons. *Soil Sci. Soc. Am J.*, 53: 1484-1490.
- 土壌環境分析法編集委員会編 1997. 土壌環境分析法, pp.1-427, 博友社, 東京.
- 平山良治 1992. 土壌薄片による土壌三相分布の測定の試み, 土壌の物理性, 64: 21-26.
- 須永薫子・坂上寛一・関 俊明 2003. 浅間山噴火(1783年)に伴う泥流により埋没した畑遺構土壌の理化学的特徴, ベドロジスト, 47巻, 14-27.

VI まとめ

1 畑跡について

畑跡について今回の調査で判明したことをふまえ若干の考察を加えたい。

これまで北海道内で検出された畑跡は16遺跡を数え、横山英介氏（2005）によって集成されている。このうち森町では4遺跡ある。森町で検出例の多い理由は駒ヶ岳の噴火による火山灰に厚く覆われていることや白頭山苦小牧火山灰（B-Tm）が黒色土上位にみられる好条件による。特に1640年噴火のKo-dは遺構の保護や年代推定の上で重要な要因である。B-Tmは本遺跡の畑跡のように黒色土中の遺構検出に明確な手掛かりを与え、さらに年代推定の有力な手掛かりを与えてくれる。

畑跡の概略

- B-Tmを切って耕されKo-dに覆われていることから、中世後半から江戸時代初頭1640年以前である。
- 土層断面からほぼ全面（2,200m²の内990m²で検出）に畑跡があったと推定される。
- 耕された長さは最大10m以上あること。
- 一定の方向に20条程度まで平行して耕している。
- 等高線に直交して耕している部分が多いが重複して等高線と並行するものや傾斜と無関係な方向に耕しているものがある。
- 耕した痕の間隔は中心から中心で0.5～1.2mまでであるが1～1.2mの間が多い。
- 耕した方向が重複して異なるものに時期差が認められる。
- 耕した方向や断面・平面形から一時期の畑の広さ（一筆）を割り出すことが出来そうなこと。
- 溝下底の段差や前後に波打つ凹凸、平面形が「バラの枝の棘」の様になり鋤・鋤などの農具で耕したと推定される条と幅の広いU字状で太い条の二種類があること。
- 耕した痕のほとんどはⅢ・Ⅳ・Ⅴ層の混合土が充填されている。混合された土はⅣ層B-Tmが角のあるブロック状で認められる。
- 北側の河岸段丘崖に近いところでは幅の広いU字状で太い「溝」が検出されている。
- 北側及び平成16年度調査範囲で畑のうねりが認められるが畝の盛り上げは認められない。
- 平成14年度・平成16年度の調査範囲境界の土層断面や平成15年度の範囲確認調査の結果から東側・西側・南側にさらに拡がる事が判った。
- 耕作された時期は中世後半から江戸時代初頭と捉えられるが、平成16年度出土のキセルの雁首から江戸時代初頭頃と考えられる。

耕作方法

次に畑跡を方向によって分けることで区画（一筆）の規模が推定できるのではないかと考え図VI-1・2を示した。一枚の畑の区画（一筆）は条の長さや途切れている場合、条数の少ないところなどまだ検討する余地があるがほぼ規模は表れていると考えている。以下の区画は重複する部分があることから時期差がある。

- 75～85 E A・B・Cの3枚の畑が想定され、15～20mの長方形の畑と考えられる。
- 60～70 E Dは18×30mの長方形の畑、E・Fは13×18mの長方形の畑、Gは5m角、Hは7m角の畑と考えられる。Hは条が疎らである。

- ・ 5～25 E Jは14×16mの畑、Kは11×14mの畑、I・L・Mは条の方向に長い長方形で11～13m×5～9mの畑、Nは短い3条がある。I、J、Lは条が疎らである。
- ・ 5～30 W Oは16×22mの疎らな条の畑である。
- ・ 40～55 W Pは19m角で条が疎らである。
- ・ 65～75 W Q・Sは14～17mで条が疎らである。R・Tは条の方向に長い長方形で20×10m、30m×15mの畑となる。
- ・ 80～90 W Uは25×40mで中央部に条が検出されていない。Vは3×5mの小さな畑。Wは条の方向に長い長方形で31×20mで条が疎らである。

これらの畑の分割は条の途切れるところもあり、さらに分割され時期差のあった可能性も残されている。細長い範囲内での区画検討であるため、列の少ないものや条の短いものを区画したものも含まれている。

北側のS・T・K・L・Mは浅い溝状でその上に自然堆積したⅢ層がほぼ均一な厚さでみられ、Kordを除去した段階で耕した列が認められた。

畑の種類

畑には「常畑」と「焼畑」の二種類がある。「常畑」は耕した後、畝と溝を作り肥料を播き畝に作物の種や苗を植えていく方法と、「焼畑」といわれる森林や原野を伐採して、焼き払い耕地にする最も簡単な開墾方法である。

焼畑の場合は火入れ後、直に播種したり、種を播く穴や溝を作りそこに種を播き土を被せる場合や、列状に土を起し、その土を間に盛り上げて畝を作り畝に種を播く場合がある。

本遺跡の畑跡が畝と畝間が明瞭に認められないこと、耕作土に炭化物が多量に混入していることから「焼畑」が行われていたと推定される。

「焼畑」は火入れによって「焼土効果」というアンモニア態のチッソやカリの量が2～2.5倍に増え、水に溶けやすい養分になる。また、雑草が根絶される。しかし、数年過ぎると雑草が繁茂して耕作地は狭まる。土中の栄養分を十分利用しきる前に畑を放棄することになる。畑の区画（一筆）が連作で土壌に栄養が無くなるか、雑草に覆われると他の場所に移り畑にしていたと考えられる。

日本各地の山間地で戦後まで焼畑が残っていた。現在も東北、北陸、九州などで残っている。佐々木(1971)、「岩手の雑穀—北部北上山地にコメ以前の文化を探る」(1989)、「経米の焼き畑(あらかき)」(1984)に詳しい。

- ・ 北陸白神山では火入れの翌日から棒などで穴を開け種を植える。雑草は除去する。
- ・ 秋田県北部から北上山地で行われる「アラキ型」焼畑では、火入れ後、溝状に土を掘り左右に振り分けて畝を作る。常畑に転換しやすい耕作。
- ・ アイヌの場合は集落からはなれた場所に草を刈り棒で穴を開けて種を播いていたようである。

一般的に畝と畝間は傾斜畑では土壌保全上から等高線と並行して作られる。本遺跡と上土2遺跡で発掘された畝は等高線と直行するものが多い。土の流失がある場合は耕した柔らかい条が挟れることになるが、しかし、水の流れた溝は検出されていない。

「棘のあるバラの枝」状の耕作痕から能登 健氏(群馬県埋蔵文化財調査事業団)により耕した農具が「鎌」の可能性が指摘されている。北側の溝のある部分以外は畝で並行した筋状に耕した後、条に種を蒔いていたと考えられる。この場合は耕した条が若干盛り上がる程度であったと推定される。この耕した時に溢れた土と盛り上がった条の土が流れ出し条の列の間に薄く堆積している部分が残っていたものと考えられる。このことは、図Ⅲ-49・50から確認される。

北側の溝列の部分や平成16年度調査範囲で畑の畝状のうねりがみられる部分では一段高い部分に播種されていたものと思われ、一部で栽培痕かと考えられる痕跡が点状に列をなす部分もある。

北海道内遺跡の畑跡

畑跡は森川3遺跡の他に北海道内で15遺跡が検出されている。遺跡名は上磯町館野遺跡、七飯町桜町遺跡・桜町2遺跡・桜町7遺跡、森町鳥崎遺跡・森川5遺跡・上台2遺跡、八雲町栄浜2遺跡・栄浜3遺跡、虹田町高砂遺跡、伊達市ボンマ遺跡、オヤコツ遺跡、千歳市キウス5遺跡、別海町野付通行屋跡遺跡、稚内市声間川右岸2遺跡である。これらの遺跡は火山灰に覆われ、それが契機となって検出されていることが多い。

- ・館野遺跡、桜町遺跡、桜町2遺跡、桜町7遺跡、鳥崎遺跡、森川3遺跡、森川5遺跡、上台2遺跡、栄浜2遺跡、栄浜3遺跡は「駒ヶ岳 d (Ko-d) 1640年」に覆われ、「白頭山苦小牧火山灰 (B-Tm) 約1,000年前」を切った畑跡が検出されている。
- ・高砂貝塚は「有珠 b (Us-b) 1663年」に覆われた畑跡が検出されている。
- ・ボンマ遺跡は「駒ヶ岳 d (Ko-d) 1640年」に覆われた畑跡と「有珠 b (Us-b) 1663年」火山灰に覆われた畑跡が検出されている。
- ・キウス5遺跡は樽前山が1739年に噴火したときの「樽前 a (Ta-a) 火山灰」に覆われている。
- ・声間川右岸2遺跡は砂丘砂で覆われた畑跡の畝上に作物を植えたと考えられる穴が確認されている。声間川右岸2遺跡からクジラ骨製のキテ、中柄、寛永通宝、煙管、和釘等が出土したことから18～19世紀のアイヌ民族が耕作したと考えられている。

ほとんどの畑跡で畝と畝間が認められる。ただし、森川3遺跡は北側及び平成16年度調査範囲で畝状のうねりが認められるが土の盛り上げは認められない。

森町内では鳥崎遺跡、森川3遺跡、森川5遺跡、上台2遺跡の4遺跡が発見されている。鳥崎遺跡の畑跡は近年になって調査報告書の「人工によると見られる溝の跡10条」との記載から1640年噴火の駒ヶ岳 d 以前の畝跡の畝間状遺構と確認（青野・小島1999）されている。

栽培作物は検出例が少なくまだ不明な部分が多い。集落から検出されたものや文献から類推することも今まで行われている。そうした中で、上台2遺跡から「アワ」の炭化種子が検出され、ボンマ遺跡から「ヒエ」・「キビ」・「シソ」の炭化種子が、高砂遺跡から「アブラナ科」・「イネ科」の花粉が検出されている。

また、ボンマ遺跡、桜町遺跡、桜町7遺跡の畑の土中から犬、鼠、人などに寄生する「棘口吸虫」の卵が見つかっている。これは畑に人糞などを利用した肥料を畑に施していた「常畑」であったと思われる。

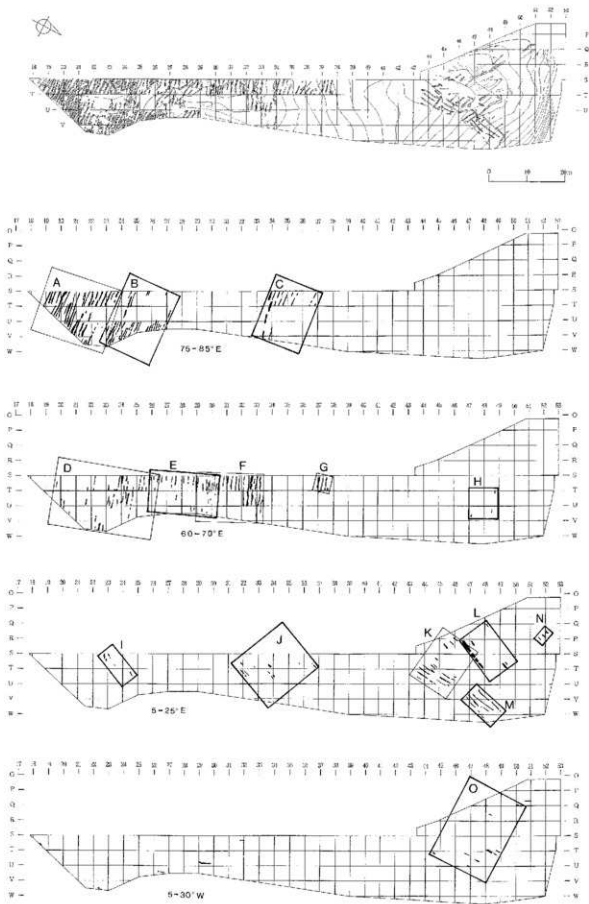
中世から江戸時代初頭に畑跡や農作物の種子や花粉、鋤先・鋤先・鎌などの農耕具が出土している。作物種子はコメ・アワ・ヒエ・キビ・モロコシ・小豆・アサ・オオムギ・ソバ・シソなど土壌から出土している。

文献資料から

畑跡の時代に関連する文献資料は少ないようである。ここに挙げたものは主に森町史の記載である。今回検出された畑跡より後世の18世紀末から19世紀にかけての紀行文などに畑の広さや作物などが記されるようになる。時代背景や栽培作物等を後世の文献から拾い出す。

寛永12年(1635)には亀田方面まで「和人地」化された(「東在」の成立)。「松前志」巻之二では津軽海峡東側より太平洋側に面したところは東蝦夷地とされていた。森町の位置は東蝦夷地に含まれる。

『津軽一統志』巻十はシャクシャインの乱(寛文9年(1669)～同12年)に関連して



図VI-1 畑跡の規模(1)

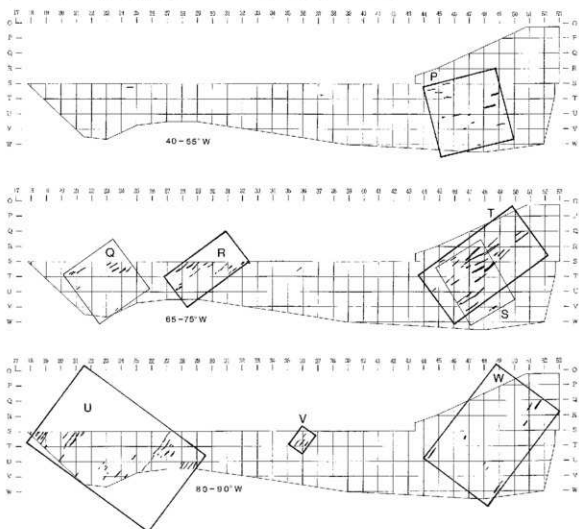
- 「一、おさつへ 狄おとなアイツライ持分 家二、三軒 (中略)
 一、もり 小川有
 一、とち崎 狄おとなアイツライ持分 家四、五軒
 一、かやへ から家四、五軒
 一、おとさつへ 川有 狄おとなアイツライ持分」

このように森町付近は東蝦夷地とされアイヌの支配地域「アイツライ」持分であることが判る。

『松前年々記』は享保4年(1719)～寛保元年(1741)に書かれた記録で噴火の被害を記している。

「七百餘死同時内浦嶺焼前内浦ヨリ松前上ノ國夷地迄焼灰降クラヤミ同十四日ヨリ十五日迄辰ノ時少宛晴レ十五日十六日迄少々宛降右ノ降灰松前ニテ見候……夷ノ國ニテハ津波前殊ノ外山鳴無程津浪打毛虫ナドモ降ル」と、寛永17年(1640)の駒ヶ岳の噴火では、「クルミ坂岩屑なだれ」に伴い内浦湾から太平洋沿岸に津波が起き、七百余の死者を出し、昆布取りの磯舟百余艘が巻きこまれている。内浦湾の沿岸ではすでに昆布漁等、漁業によって人が多く集まり住んでいることが知れる。また、和人地外であっても津波の記録が松前藩に伝えられる状態になっていたことも知ることができる。

農耕について触れている江戸時代の記録を若干上げる。この中で、誰(アイヌ又は和人、両者共)が、どこで、どの様に農耕を行っていたのかを知る手掛かりになる。



図VI-2 畑跡の規模(2)

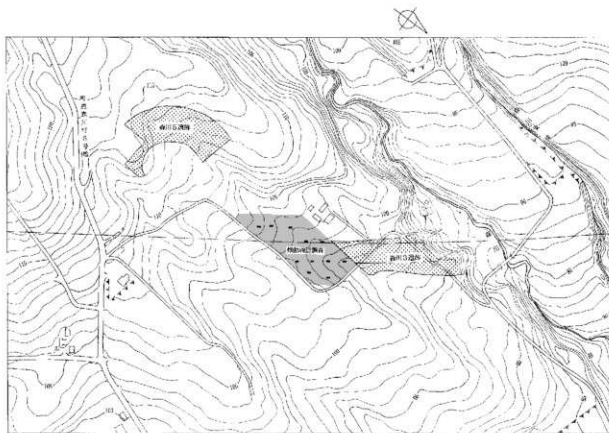
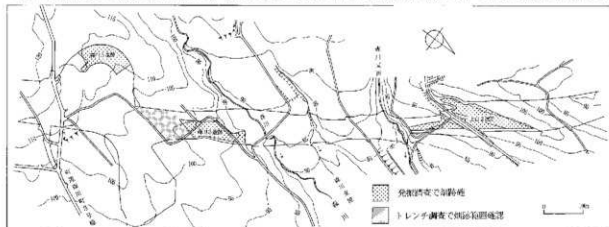
菅江真澄「えぞのでぶり」寛政3年(1791)の中で作物についての記載である。

「砂原に麻正、豆圃、胡瓜畑、さきげ畑」

松浦武四郎「蝦夷日誌」弘化2年(1845)は畑仕事について、

「小商人三、三軒。農作人、旅籠屋、漁者のみ也。」

「村の左右には畑多し、皆野菜を作る。また、見るに此頃漸々畑に麦の蒔跡を見足る故に百姓に聞きたれば此辺麦には甚よろし。然れ共八月彼岸か又は二月雪消の時尙々此頃刈入る事也。然し昆布漁を仕舞て蒔入る故、甚仕事の都合になると語られたり。ここに其手入を聞きしに、蒔しより蒔迄少しも手を入れること無し聞侍りき。我邦の麦の手入を話したれば大に驚たり」と粗放な農業形態を示



図VI-3 周辺の地形と畑跡

している。

松浦武四郎『廻浦日記』安政3年(1856)は畑と作物を挙げています。

「人家文化三寅年貳十三軒有。当年は四十六軒に及ぶと。人別三百二十九人有と。其内七十才の者六、七人有よし。……(略)

扱此村より直に爪先上がり坂に上がる。

扱また是より浜続き、左の方へ行時は畑道平地にして宜し。大根・稗・粟・豆・隠元豆・小豆・麦・茄子・牛蒡・にんじん・馬鈴芋を作る。」

南部藩士長沢盛至「東蝦夷地海岸図台帳」安政2年(1855)は和人とアイヌ各々の収穫量まで触れ、

「森 村入口より村外迄十一丁、家数三十貳軒、人数百八十一人、蝦夷屋十八軒そぞ磯舟六艘あり、村中稲荷社有、小川あり、馬四十式疋の内駒六疋有。寅年出産物鱒三千八百八十束、丑年出産物夏いわしの鮪百四十本、秋味千本、鮮甘束、和人作り取納の出ものは、そば三十五俵、粟三十俵、大豆十五俵、小豆二俵位也。そその作る所は粟十八俵、そば十五俵位也。」と作物は雑穀や野菜、根菜類などが記されている。

上記に記された畑作についての記載は、江戸時代後半でありシャクシャインの乱の後、交易品の鉄製品がアイヌ文化から減少し農耕具にも影響が出るのではないかと考えられ、農耕が衰退した時期もあったと考えられる。また、「漁業の妨げになる」と農耕が禁止されていた時期もあり、アイヌは隠れて粗放農業を集落外の林間などで行っていたようである。

まとめに代えて

畝を立てる畑であることや寄生虫が検出されたことから、ボンマ遺跡、桜町遺跡、桜町7遺跡では常畑の可能性が考えられる。栽培した作物は「アワ」・「ヒエ」・「キビ」・「シソ」・「アブラナ科」・「イネ科」が畑跡から出土し、アイヌ集落跡などからコメ・アワ・ヒエ・キビ・モロコシ・小豆・アサ・オオムギ・ソバ・シソが出土している。

焼き畑にも畝を作る場合と作らない場合があり、森川3遺跡は畝を作らない畑作法が行われていたと考えられる。

畑作技術の上で、畝立てをした遺跡のように「アラキ形」の焼畑と結びつける場合は東北・北陸地方の畑作技術の移転を想定しなければならず、和人の移住もしくは和人の影響を強く受ける。畝を作らない畑に比べ畝立てする畑は技術的に新しいか、または、労力をより多く費やせる環境にあったのではないだろうか。

畑跡が検出された近隣の森川5遺跡と上台2遺跡との位置関係と地形は図VI-1に示した。本年度報告範囲と森川5遺跡の間は250m、畑跡確認調査範囲との間は100mの距離である。横山氏(2005)が指摘しているように森川3遺跡と森川5遺跡の間に畑跡が続くことは想像に難くない。上台2遺跡との間は最短450mあり、間に森川の氾濫原と上台1遺跡を乗せる台地を挟む。現在の森町市街は図の下方東側1.5km先にあり、海岸までの距離は2.5kmある。森川3遺跡の畑が使われていた当時の集落は、現在の市街地の中の海岸線に近い部分と考えられる。

森川3遺跡の畑が営まれていた時期には和人とアイヌともに森町周辺に住んでいたようで、誰が畑を営んだのか、まだ不明である。集落から離れていることからアイヌの可能性がやや強い。

調査中から横山英介氏、山田悟郎氏(北海道開拓記念館)、能登 健氏(群馬県民族歴史博物館)、小島敦子氏(群馬県埋蔵文化財調査事業団)、青野友哉氏(伊達市教育委員会)、丸山直美氏(財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター)に助言・教示を受けたことに感謝します。(谷島由貴)

2 石器

1) 森川3遺跡のすり石について (図W-4)

ここで扱うすり石は所謂「断面三角形のすり石」である。「断面三角形のすり石」については、形態・使用痕は位置について規則性があることはその特徴的な形状からよく知られている。形態的特徴は以下のようにまとめられる。

：形態は断面三角形の角柱状である。

：すり面の位置については断面三角形の稜部分に認められ、すり面は1ヵ所のものが多いが2～3ヵ所に認められるものもある。

「断面三角形のすり石」は森川3遺跡から多量に出土した。実測にあたりすべての資料を手に持ち「握り易く、使い勝手が良い」位置を探った。その結果、握り部の位置は、両端部のうち断面形が小さい側で、その握り方は「親指は側面の平坦部に、人差し指は上辺部に、中指から小指は張り出し部分に添えて握る」となった。

実測図は、すり面を下に、水平に置いた。握り部の端部断面形が小さい側を右側（正面右端部）に、最大幅が偏る端部側を左側（正面左端部）にして実測した。正面は、親指を添える部分となり、断面の右側を右側縁、左側を左側縁と呼称した。すり面は、左側をすり面左端部、右側をすり面右端部と呼称した。

この方法で実測した結果、形態・すり面の位置等について規則的な特徴が認められたので述べる。

(1) 森川3遺跡出土のすり石の特徴

森川3遺跡から破片を含み372点の断面三角形のすり石が出土した。完形品は108点で、すべてすり面が1ヵ所のものである。これらは形態から3つに分けられる。

1類：(図V-161) 厚みのある筧状で、端部付近の断面形の最大幅が端部左側に偏るもの。

66点出土全体の61%を占める。すり面・端部の剝離からa類～d類に細分される。

a類：すり面・端部に剝離が認められないもの31点(29%)、b類：すり面に剝離が認められるもの29点(27%)、c類：端部に両面からの剝離が認められるもの4点(4%)、d類：すり面・端部のいずれにも剝離が認められるもの2点(2%)。

2類：(図V-155) 厚みのある筧状で、最大幅が中央にあり正面が三角形を呈すもの。

29点出土全体の27%を占める。

a類：10点(9%)、b類：17点(16%)、c類：1点(1%)、d類：1点(1%)。

3類：(図V-158) 三角ないし矩形の柱状のもの。13点出土全体の12%を占める。

a類：4点(4%)、b類：7点(6%)、c類：2点(2%)で、d類は出土しなかった。

a類は43点(40%)、b類は53点(49%)、c類は7点(6%)、d類は3点(3%)である。

① 形態的な特徴・すり面とその位置の特徴

形態的な特徴・すり面とその位置は以下のようにまとめられる。

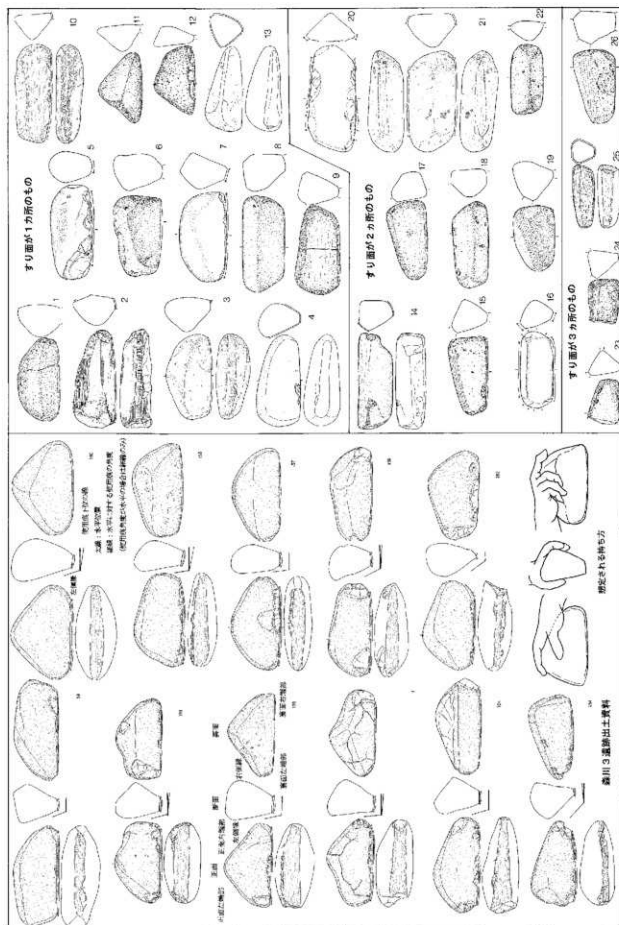
(形態的な特徴)

：厚みのある筧状のものが多い(1・2類)。

：断面形は、三角形・半円形・三角形の一端を切ったような矩形のものがある。

：両端部を除き周縁に加工が施されたものがない。

：正面は、素材中の最も広い平坦面になるものがほとんどである。



図VI-4 断面三角形のすり石

- ：長い「鋭角をなす稜」が1ヵ所のものがほとんどである。
- ：端部に両面からの剝離が施されているものは10点（c・d類の合計：9%）で少ない。（使用痕とその位置）
- ：すり面は「鋭角をなす稜」に認められ、2つ「鋭角をなす稜」をもつものは「より鋭角」な稜に認められる。
- ：すり面に剝離があるものは56点（b・d類の合計：52%）で、半数以上に認められる。しかし、すり面の剝離が、整形時のものなのか、機能部作り出しの際のものなのか、また、使用時の敲打によるものなのか判断が困難なものが多い。
- ：すり面の位置は三角形の辺・半円形のものには弦部分、台形状のものは底辺で、いずれも最長の辺に多い。
- ：すり面は幅8～30mmで、幅の狭いものには明瞭な剝離が認められるものが多い。
- ：すり面の最大幅は、中心軸から正面左端部側に偏る傾向が認められる。

② 実測図の規則性

実測図位置の統一から以下の規則性を見出すことができた。

- ：正面が素材中の最も広い平坦面になるものがほとんどで、右側縁（裏面）が張り出す。
- ：すり面の位置は三角形の辺・半円形のものには弦部分、台形状のものは底辺で、いずれも最長の辺に多い傾向がある。
- ：すり面右側縁側に傾斜するものが多い。
- ：すり面の最大幅は、中心軸～左端部側に集中する傾向が認められる。

森川3遺跡のすり石には周縁の加工がほとんど認められず、素材選択段階の形状をそのまま残しており、素材の選択は「完成された石器の獲得であった」と考えることができる。このことから選択された素材の形態は、使用方法・使用目的を強く反映していると考えられる。そして、すり面の位置は使用方法を示し、使用方法は「握り部の位置」「持ち方」が大きく反映しているものと思われる。

今回、「持ち易さ」という作業仮説をもとに「握り部の位置」「持ち方」を想定し実測を行った。その結果、平坦面の位置・断面形状・最大幅の位置等に規則性を見出すことができたことは素材の選択の段階で「持ち方」・「使用面」の位置が想定され、それに基づいて一定の規則性で使用された事によって、これらの規則性が生じたものと考えられる。そして、その「持ち方」は、先述したように「握り部」の位置は、両端部のうち断面形が小さい側で、その「握り方」は「親指は側面の平坦部に、人差し指は上辺部に、中指から小指は張り出し部分に添えて握った」と考えることができそうである。

（2）他遺跡のすり石

断面三角形のすり石が出土している遺跡には、早期後半の白老町虎杖浜3遺跡・長万部町富野1遺跡、前期前半の千歳市キウス5遺B地区・函館市石倉貝塚、中期前半の函館市石川1遺跡等がある。これらの遺跡から出土したすり石の特徴は次のようにまとめられる。

（すり面が1ヵ所のもの）

形態：厚みのある筒状のものが多く、柱状のものもある。

：周縁・端部に剝離が施されているものは少ない。

断面形：三角形・半円形・矩形のものがある。

すり面の位置：すり面は「鋭角をなす稜」に認められ、2つ鋭角の稜をもつものについては「より鋭角」な稜にすり面が認められる。

：すり面に剝離があるものが認められる。

：すり面の位置は三角形の一辺・半円形のものには弦部分、台形状のものは底辺で、いずれも最長の一辺に多い。

：すり面の最大幅は、断面形が大きい端部側に偏る傾向が認められる。

(すり面が2ヵ所のもの)

形態：断面形が三角形・矩形の柱状で両端断面形の大きさの差異が比較的小さいもの

：2つ以上ほぼ平坦な稜をもつもの

断面形：正三角形、2つの鋭角を持った二等辺三角形・半円形・矩形ないし台形のものが多い。

すり面の位置：断面形が正三角形のもの、断面形が二等辺三角形・半円形・矩形ないし台形のもの
は「より鋭角」な2つの稜に認められる。これらのうち断面形が二等辺三角形ものも多く、
その鋭角をなす2辺の稜にすり面が認められる。

(すり面が3ヵ所のもの)

形態：柱状で両端断面形の大きさの差異が比較的小さいもの。また、三角錐状のもの

断面形：正三角形・二等辺三角形で、いずれの稜部分も鋭角である。

すり面の位置：すり面はすべての稜にある。

他遺跡の「すり石」の特徴は以上のようにまとめられる。

：形態は、すり面1ヵ所のものは厚みのある筧状のもの、2・3ヵ所のものは柱状のものが多い。

：すり面1ヵ所のものは、鋭角な稜を1ヵ所しかないもの、2ヵ所以上の鋭角な稜をもつものが認められる。前者が多く、後者はより鋭角な稜にすり面が認められている。

：すり面2ヵ所のものは2ヵ所以上の鋭角な稜にもつ素材が選択され、断面形が二等辺三角形で、二辺が鋭角をなすものが多い。

：すり面が3面のものは断面形が正三角形の柱状ものが多い。

：すり面の最大幅は、断面形が大きい端部側に偏る傾向が認められる。

このようにすり面の数によって素材の選択が異なり、その選択には規則性が窺え、すり面の位置にも「より鋭角な稜」を使用するという規則性が窺えることから、素材の選択段階で「どの稜」をすり面として「何面」使うか考慮された素材選択のように考えられる。この傾向は、森川3遺跡でも認められており、「すり面が1ヵ所のもの」のすり面の最大幅の位置についても同様な傾向を見い出すことができる。

(3) 森川3遺跡のすり石は「何故、1ヵ所のすり面のものだけなのか」

森川3遺跡のすり石の中には、2つの鋭角の稜をもち、2ヵ所のすり面をもつすり石と共通した特徴をもつものもある。しかしながら、1つの稜しか使用していない。先述したように森川3遺跡の「素材選択の段階」で選択される素材は、厚みのある筧状のもので、「鋭角の稜」が1ヵ所しかないものが多い。最大幅は中心軸より正面左端部に偏り、両端付近の断面形の大きさの差異が比較的大きく、全体の形状から「握り難い」ものも多く、「持ち替え」に適さないものが多い。また、握りやすいものでも得られる稜の長さが短く、すり面が小形化し、非効率的になる。

以上のことから森川3遺跡のすり石は、「持ち替え」を考慮した素材選択でなく、「1ヵ所のすり面」

を使用するために選択されたものと考えられる。

また、森川3遺跡では複数のすり面をもつものはないが、森川3遺跡や他遺跡出土のすり石をみるとすり面は「より鋭角な稜」に認められ、鋭角な稜を作り出すために剝離を加えているものもあった。しかし、その反面、すり面の幅が30mmを測る幅広のものもある。これはあたかも作業開始当初は「鋭角な稜」が必要で、一連の作業の中で幅広のすり面でも可能な作業内容(用途)に変化したことを示すものと考えられる。作業内容(用途)は不明であるが、複数のすり面をもつものは、最も鋭い稜を最初に使用し、そして、「持ち替え」を行いながら順次、鋭い稜から使用した可能性を指摘できる。

図Ⅳ-4-1.9.11.12.17.24(函館市石川1遺跡：中期円筒土器上層式)、2.3.10.21(長万部町富野1遺跡：早期東銅路Ⅱ式)、4.13.14.25(函館市石倉貝塚：早期後半～前期中半)、5.7.16.20(千歳市キウス5遺跡B地区：前期前半縄文式)、6.8.15.18.19.22.23.26(白老町虎杖浜3遺跡：早期後半：虎杖浜3式)

2) 北海道式石冠(図Ⅵ-5)

北海道式石冠の実測にあたり、実際に北海道式石冠をもち「握りがしっくり」した「もち易さ」の傾向を探ってみた。その結果、急角度側の端部を掌の部分にあて、緩やかな角度側の端部を指先側にして握ると「しっくりした握り」になることがわかった。このことから急角度側の端部を右側(正面右端部：握り部)に、緩やかな角度側の端部を左側(正面左端部)とし、これを実測図の正面として実測した。この結果、幾つかの規則性が得られ、特徴は次のようにまとめられる。

- 1 溝が水平のもの最大高はほぼ中央にあるものが多い。
- 2 断面両側縁の溝上端部は、頂上部から2～3cmの部分に集中するものが多い。
- 3 溝が斜位のもの最大高は中央ないしやや正面右端部側にあるものが多い。
- 4 最大高は8.5～10.5cmのものが多い。
- 5 断面左側縁は右側に倒れ、断面右側縁は垂直ないし右側に倒れ、全体も右側に倒れ気味である。
- 6 すり面は、両側縁の溝上端部を結んだ線を水平にした場合、断面右側縁の湾曲が強い。
- 7 すり面の最大幅は、剝離で不明なものも多いが、中央からすり面左端部側にあり、すり面右端部側は尖り気味になる。
- 8 溝の位置は、正面右端部が低く、正面左端部が高くなるものが多く認められた。溝上端は、斜位の頂部に沿って頂部から3cm程の位置にある。
- 9 溝が斜位のもの正面右端部が垂直気味に立ち上がる。

これらの特徴は、北海道式石冠の「形態」・「持ち方」・「使用方法」の規格性・規則性を示していると考えられ、1～2は「形態」な規格性・規則性を、3～8は「使用方法」と「使用結果」によって生じた規則性を示すものと思われる。

今回の溝がほぼ水平のものや溝が斜位のものが出土している。溝の上端部を水平にした場合いずれも溝上端の位置は頂部から3cm程の位置に認められ、溝の位置に規則性が認められる。そして斜位の溝も、頂部から3cm程の位置にある。したがって、斜位のものも本来は、水平であったと考えることができる。斜位のもの、握り部側と想定される正面右端部側が使用によるすり減り方が顕著で、正面右端部の溝の位置が低くなり、結果的に溝が斜位になったものであろう。

このように考えた場合、3の最大高の偏りは、正面右端部側の減り方が顕著のため中央にあった

最大高が中央から正面右端部側に移動したことから生じたものと考えられることができる。

7については、当初同様な幅であったすり面が正面右端部側の減り方が顕著のため、正面右端部が素材の断面形が大きい中央から断面形が小さい端部側に移動することによって生じたものと考えられる。8の溝の斜位化も同様で、顕著な右端部側のすり減り方に起因する。また、9についても正面右端部側の減り方が顕著なため素材側縁中央の緩やかな湾曲部分から湾曲の大きい部分に移動することによって生じたものと推測できる。

以上のように、握り部を正面右端部に想定することによって森川3遺跡の北海道石冠の特徴のうち幾つかについて説明できる。このことから森川3遺跡の北海道石冠の「持ち方」は「急角度側の端部を掌の部分にあて、緩やかな角度側の端部を指先側にして握る」とした想定通りのように思える。

そして、最大高が8.5～10.5cmに集中する点については、使用の限界を示している様に思える。想定した「持ち方」によって正面右端部のすり減り方が顕著で、手と石皿が接触する事態が生じることに起因すると考えられる。

今回、森川3遺跡の北海道式石冠の特徴について検討してみた。北海道式石冠について多くの研究者によって論じられている。「持ち方」の解明は、使用痕・加工痕の位置等の規則性について明確にすることができる用途・使用方法を考える上で大きな役割を果たすものと考えられる。したがって、これらを考える上で、今後、実測方法の統一が必要と思われる。

今回、得られた森川3遺跡の特徴と他遺跡出土資料との比較・検討を詳細にすることが出来なかった。これについては稿を改めてするつもりである。

(熊谷)

引用・参考文献

- 青野友哉・小島朋夏 1999「北海道における近世焼畑の解釈について」『郷土と科学』No.112
- 秋葉 實 1997『植物名一覽』北海道出版企画センター
- 阿部千春 1993「北海道南部における初期の円筒土器とその周辺」考古学ジャーナル6月号、No.362
- 石本省三 1982「森川A遺跡」北海道南茅部町教育委員会
- 岩手県立博物館 1989「岩手の雑穀—北部北上山地にコマ以前の文化を探る」
- 上野秀一 1978「白老町虎杖浜2遺跡」白老町教育委員会
- 小笠原雅行 2000「円筒下層A式といわれる白座式について—現状とその問題点の把握—」村越潔先生古稀記念論文集
- 奥山 潤 1971「茂屋下岱式土器群」秋田県立鳳鳴高等学校社会部考古学班
- 大沼忠春 1981「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌』第66巻第4号
- 大沼忠春 1984「道南の縄文前期土器群の編年について」『北海道考古学』第20輯
- 大沼忠春 1986「道南の縄文前期土器群の編年についてII」『北海道考古学』第22輯
- 大沼忠春 1977「元和」乙部町教育委員会
- 大沼忠春 1981「道央部の前期縄文土器の編年について」『北海道考古学』17輯
- 大沼忠春 1993「北海道東部の円筒土器文化」考古学ジャーナル6月号、No.362
- 熊野喜蔵 八木光則 1974「茅部郡森町A遺跡出土の前期縄文土器」『北海道考古学』10 北海道考古学会北海道教育評論社
- 久保泰他 1983「白坂」松前町教育委員会
- 小島朋夏 1999「北海道式石冠の分布とその意味」『北海道考古学』第35輯
- 鬼玉作左衛門 大場利夫 1954「函館市春日町出土の遺物について」『北方文化研究報告』第9輯
- 後藤秀一 1989「縄文時代の石器研究の基礎作業」『考古学叢書II』芹沢長介先生還暦記念論文集刊行会
- 佐々木高明 1971「稲作以前」NHKブックス147
- 佐藤達夫ほか 1965「深澤田遺跡発掘調査概報」『中里町史』
- 白崎高保 1941「青森県中里出土の條痕土器」『古代文化』第12巻 第7号
- 須永薫子・坂上寛一・関 俊明 2003「浅間山噴火（1783年）に伴う泥流により埋没した畑遺構土壌の理化学的特徴」ペドロジスト 第47巻 第1号
- 名久井文明 1971「青森県芦野遺跡の土器群について」『考古学雑誌』第43巻第1号
- 能登 健・中村直美・菊池高広 2000「十和田A火山灰による災害と復旧」『紀要』IX 86岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 羽賀憲二 1983「北海道式石冠」『縄文文化の研究』7 雄山閣
- 林 謙作 1984「縄文文化前半期」『北海道考古学』第20輯
- 松浦武四郎・秋葉 實 1999「校訂 蝦夷日誌 全」北海道出版企画センター
- 三宅徹也 1974「円筒土器」『縄文文化の研究』3
- 三宅徹也 1986「円筒下層式様式」『縄文土器大観』
- 武藤康弘 1991「東北地方北部の縄文前期土器群の編年学的研究II—円筒下層A式直前の土器をめぐって—」『考古学雑誌』第76巻第3号
- 村越 潔 1984 増補「円筒土器文化」雄山閣考古学選書10
- 山口裕人・川瀬真琴 2003「雑穀の自然史」北海道大学図書刊行会
- 山田秀三 1984「北海道の地名」北海道新聞社
- 山田悟郎 1999「中世および近世アイヌ文化期遺跡から出土した作物」『北海道開拓記念館研究紀要』第27号
- 山田悟郎 2000「アイヌ文化期の農耕について」『北の文化交流史研究事業』研究報告
- 山本 正 1996「近世蝦夷地農作物年表」北海道大学図書刊行会
- 山本 正 1998「近世蝦夷地農作物地名別集成」北海道大学図書刊行会
- 横山英介 2003「北海道における焼畑跡」『物質文化』第75号
- 横山英介 2005「焼畑の考古学」『海と考古学』海史研究会考古学論集刊行会
- 南北北海道考古学情報交換会編 1995「円筒土器下層式図録集」
- 南北北海道考古学情報交換会編 1996「円筒土器下層式図録集II」
- 山内先生没後25年記念論集刊行会編 1996「画竜点睛」
- 海峡土器編年研究会 2003「第1回 東北・北海道の十腰内I式再検討」
- 秋田県教育委員会「池内遺跡 遺物・資料編」秋田県文化財報告書第282集

- 青森県埋蔵文化財調査センター 2002『畑内遺跡Ⅷ』青森県埋蔵文化財調査報告書第326集
 虻田町教育委員会 1998『高砂遺跡』虻田町文化財調査報告書第5集
 階上町教育委員会 1989『白鹿遺跡 野場遺跡3』
 軽米町教育委員会 1984『釜木の焼き畑(あらかし)』
 木古内町教育委員会 1999『釜谷遺跡』
 磐手県埋蔵文化財センター 1998『大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書—第6次～第8次』磐手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集
- 伊達市教育委員会 1993『伊達市有珠オヤコツ遺跡・ボンマ遺跡』
 伊達市教育委員会 1999『ボンマ遺跡』
 戸井町教育委員会 2001『高屋敷川1遺跡』
 戸井町教育委員会 1990『浜町A遺跡』
 戸井町教育委員会 1991『浜町A遺跡Ⅱ』
 戸井町教育委員会 1993『戸井貝塚Ⅱ』
 戸井町教育委員会 1994『戸井貝塚Ⅳ』
 七飯町教育委員会 1999『桜町遺跡・上藤城3遺跡調査概要報告書』
 七飯町教育委員会 1999『桜町6遺跡・桜町7遺跡発掘調査報告書』
 七飯町教育委員会 2000『桜町2遺跡』
 松前町教育委員会 1974『松前町大津遺跡発掘調査報告書』
 南茅部町埋蔵文化財調査団 1992『八木B遺跡』
 南茅部町埋蔵文化財調査団 1993『八木A遺跡 ハマナス野遺跡』
 南茅部町埋蔵文化財調査団 1997『八木A遺跡Ⅲ 八木C遺跡』
 南北海道考古学情報交換会 2004『森川5遺跡』資料
 森町 1980『森町史』
 森町教育委員会 1975『鳥崎遺跡』
 森町教育委員会 2003『鷲ノ木4遺跡』
 森町教育委員会 2004『森川2遺跡』
 森町教育委員会 2004『栗ヶ丘1遺跡』
 八雲町教育委員会 2004『栄浜2・3遺跡』
 稚内市教育委員会 2001『声間川右岸1・2遺跡』
- 北海道埋蔵文化財センター 1987『木古内町 建川2・新道4遺跡』北埋調報43
 北海道埋蔵文化財センター 1988『木古内町 新道4遺跡』北埋調報52
 北海道埋蔵文化財センター 2000『長万部町 花岡2遺跡・花岡3遺跡』北埋調報139
 北海道埋蔵文化財センター 2001『白老町 虎杖浜2遺跡』北埋調報158
 北海道埋蔵文化財センター 2002『白老町 虎杖浜2遺跡(2)』北埋調報172
 北海道埋蔵文化財センター 2004『森町 濁川左岸遺跡—A地区—』北埋調報208
 北海道埋蔵文化財センター 2005『森町 上台2遺跡』北埋調報216
 北海道埋蔵文化財センター 2005『森町 森川4遺跡』北埋調報218
 北海道埋蔵文化財センター 2003『館野遺跡』『キウス5遺跡』『調査年報16』

報 告 書 抄 録

ふりがな	もりまもりかわおさんいせき							
書名	森町森川3遺跡							
巻次								
シリーズ名	財団法人 北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第222集							
編著者名	谷島由貴・中山昭大・袖岡淳子・熊谷仁志							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地-1 TEL011-386-3231							
発行年月日	西暦2005年7月29日							
所取遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
森川3遺跡	北海道茅部郡 森町字森川町 3 1 7- 1 8 ほか	01345	B-15-26	42 5 6	140 34 14	20030716 ～ 200031025 20040506 ～ 200041024	2,200 60	高速道路 北海道縦 貫自動車 道(七飯 ～長万 部)建設 工事に伴 う事前調 査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
森川3遺跡	集落	縄文時代前期 中期 後期 近世	竪穴状遺構 土坑 小土坑 焼土 集石 烟跡	5軒 42基 16カ所 7カ所 1カ所	縄文土器15080点 円筒土器下層式 円筒土器上層式 見晴町式 恵山式 土製品 17点 焼成粘土塊 9点 石器 5862点 石鏃・石錐・つま み付きナイフ・ス クレイバー・石器 未製品・Rフレイ ク・Uフレイク・ 石核・フレイク・ 原石・石斧・たた き石・すり石・砥 石・石皿・台石・ 加工痕のある鏃・ 礫剥片・礫 石製品 11点 鉄製品 1点	江戸時代初頭の烟跡 土製品 石製品		

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第222集

森町 森川3遺跡

—北海道縦貫自動車道（七飯～長万部）埋蔵文化財発掘調査報告書—

発行 平成17年7月29日
編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 江別市西野観685番地1
TEL 011(386)3231
印刷 株式会社アイワード
〒060-0033 札幌市中央区北3条東5丁目5番91号
TEL 011-241-9341



図III-49 畑跡確認面の土壌(1)



図III-50 知跡補認面の土塚(2)